講義概要

正課科目

シラバスは2024年1月28日時点の情報です。
最新情報は、エクステンション・センターHPにて
随時更新いたします。
URL：https://www.andrew.ac.jp/extension-center/kouza/06.html

講　義　名　称	曜　時
アジア文化研究 - アジアの海域世界を歩く A　＜春＞	**月 1**

【教員名称】
鈴木　隆史

【講義概要】
海域世界とは「人々の暮らしや文化の様々な核的部分が何よりも海によって規定されると認められる地域圏」(小野林太郎、2011) と定義される。数万の島々からなる東南アジアの海域世界 (フィリピン、インドネシアなどの島嶼国家) に暮らす人々は、漁撈、採集、製塩、交易、造船、農耕、海賊などを生業として生きてきた。これらの海域を中国人、インド人、アラブ人、マレー人などの商人たちがべっ甲、沈香、蜜蝋、白檀、丁子、ナツメグ、胡椒、真珠などを求めて訪れた。交易は人やモノだけでなく、宗教や言語などの文化も伝えた。大航海時代から 300 年以上もの間、西欧諸国による植民地支配、日本軍による占領・統治を経て独立する。ヒトやモノが自由に行き来した海域世界は国家や国境によって分断されたが、人々は今も海と深く関わりを持ち生きている。本講義では、1) アジアの海域世界がどのように形作られてきたのかを歴史的に捉え、2) その海域世界に生きる人々の現在を漁撈・採集を行う航海民、海産物商人など具体的な生業とその特徴について学び、3) グローバリゼーションが進展する今、海域世界がどのような変化にさらされ、人々の暮らしはどのように変わろうとしているのか、さらに 4) アジアの海域世界に生きる人々の暮らしと私たちの暮らしのつながりについても具体的なモノを通じて学び、考える。

【学習目標】
アジアの海域世界とはどのような世界なのか？そこに生きる人びと (海に生きる人びと) の多様な暮らしについて学ぶと同時に、海を通じてヒトとモノが移動し、結びつき、ダイナミックな世界を作っていることを知る。そこには国境や海境を自由に越えて行き来する海の民が暮らしてきた。海に生きる彼らの暮らしから国家や国境を相対化することができるようになる

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション
　　アジアの海域世界とはどのような世界か？地図を広げてみよう。
　　海が島々を分けている。深い海は島と島を隔てている？
　　海洋考古学の発見。ヒトはどのようにして海を渡って島々に移り住んだのか？
　　人類の移動手段 (舟) の発達と漁撈 (釣針)・化石 (骨) から
第 2 回：海に生きる人びと　1)
　　漂海民バジャウ人の暮らし　映像で観る　家船から水上家屋へ
第 3 回：海に生きる人びと　2)
　　ブギス・マカッサル人　交易・航海に生きる　島々を結ぶ、移動・分散・定住
　　大型帆船ピニシの造船と航海技術　アボリジニとマカッサーン
　　航海民だけでなく開拓民としての性格を持つブギス人
第 4 回：海域世界を結ぶ交易品　1)
　　特殊海産物 (ナマコ、フカヒレ、ベッコウ、ツバメの巣など) を求めた漁撈・採集・集荷・運搬を担う人びと
　　華人商人の誕生と中国 (清) 宮廷食文化
第 5 回：海域世界を結ぶ交易品　2)
　　アジアの海域世界と中華、インド、アラブ、ヨーロッパをつなぐモノとヒト
　　鄭和の大航海　アラブ人の交易 (ダウ船)　バスコ・ダ・ガマの大航海
　　香料の発見 (コショウ、クローブ、ナツメグ、白檀) と独占をめぐる争い
第 6 回：海域世界を越える人と文化
　　仏教、ヒンドゥー教、イスラム教、キリスト教の伝播と受容　王と商人の役割
　　ボロブドゥール、プランバナン、ブサキ寺院など
第 7 回：海域世界を支配する人びと
　　港市国家と交易の発展とオランダ、イギリス、ポルトガル、スペインの台頭と支配
　　点の支配から面の支配へ　王国から植民地支配　変貌する海域世界
第 8 回：海から大地の支配へ　植民地支配と海域世界
　　プランテーション経営　ゴム、コーヒー、茶、サトウキビ、ヤシ (コプラ)
　　プランテーション労働者はどこから？　中国人苦力　ジャワ人
第 9 回：海に生きる人びと　3)
　　海峡漁業の誕生と発展　バガンシアピアピと華人漁民・華人商人
　　塩と魚と交易
　　マングローブの森に誕生した華人漁民集落
第10回：海に生きる人びと　4)
　　イワシ漁業の村　網漁業の発展と市場の発達　バリ海峡に回遊してくるレムル
　　マドゥラ人の漁民たち　東ジャワ、ムンチャール
第11回：海に生きる人びと　5)
　　沿岸から沖合へ　サメを求めて
　　西ジャワ、インドラマユの延縄漁民たち　山に登ったサメ肉、海を渡ったフカヒレ
第12回：海に生きる人びと　6)
　　サンゴ礁に生きる海人たち　ビアク島 (スピオリ島) ソウェク
　　塩魚と鍛冶職人
第13回：海に生きる人びと　7)
　　海の掟を守る人びと　伝統的資源管理の仕組み「サシ」
　　マルク海、ハルク島ハルク村　海と森と川を守る人びと
第14回：海に生きる人びと　8)
　　マッコウクジラと銛一本で挑む
　　インドネシア、レンバタ島ラマレラ村
第15回：海域世界の多様性と海に生きる人びと　国境って何だろう？

【事前および事後学習の指示】
授業前に M-port にアップした資料などに目を通しておくこと

【テキスト】

【参考文献】

鶴見良行著『ナマコの眼』筑摩書房 1990 年、ISBN4-480-85522-X 同『街道の社会史』1987 年朝日新聞社、ISBN4-02-259430-6
鶴見良行・村井吉敬編著『道のアジア史』同文館 1991 年、ISBN4-495-85581-6
村井吉敬著『サシとアジアと海域世界』コモンズ、1998 年、ISBN4-906640-10-9
北窓時男著『熱帯アジアの海を歩く』成山堂書店 2001 年、ISBN4-00-415074-4
秋道智彌著『海人の世界』同文館 1998 年、ISBN4-495-86291-X
小野林太郎著『海域世界の地域研究』京都大学学術出版会、2011 年、ISBN978-4-87698-995-9
小島曠太郎著『クジラと生きる』中公新書、1999 年

【コメント】
出席は毎回の授業のレポート提出による。評価は毎回の提出課題 (レポート) と最終レポートによって評価する。

【留意事項】

講義名称	曜時
アジア文化研究 - 韓国・朝鮮文化 A　＜春＞	火 4

【教員名称】
青野　正明

【講義概要】
近年、日本と韓国との交流が様ざまな分野で盛んになってきた。その一方で、現代にまで続く歴史的な問題が原因で政治的には安定しない状態がまだ続いている。そこで、この授業では日本の地から現代韓国を知り理解することを目指して、時事問題に重点を置きながら歴史や政治、社会の分野に焦点を絞って概説していく。
具体的には、歴史・地理・社会制度などの諸項目について、パワーポイントを用いて視聴覚資料を多用しながら学んでいく。また、終盤では北朝鮮事情や在日コリアンについて学び、日本社会におけるナショナリズム問題を考察することで締めくくる。

【学習目標】
日常生活では正確な情報を得ることが難しいため、ネット情報に誤りが多いことはわかっていても、ついついそれらに頼ってしまう人が多いと思われる。そこで、この講義では日韓関係についての客観的な情報をベースに、韓国の置かれた状況を文化的な視点から理解していく。その過程で日韓関係を多面的に見つめ直すことにより、各回で学ぶ基本的な知識を修得する。そして、多文化共生について自分の考えをもち、ナショナリズムを突出させないで、それを克服することを目標とする。

【講義計画】
第 1 回：講義の流れや成績評価等の説明、韓国・北朝鮮についての概説
第 2 回：歴史 1(ナショナリズム教育の問題、渡来人と仏教文化の伝来)
第 3 回：歴史 2(秀吉の侵略、家康以降の友好関係)
第 4 回：歴史 3(日本による植民地支配、南北分断後の政権)
第 5 回：地理 1(ソウル：王朝時代の面影)
第 6 回：地理 2(ソウル：植民地期の残影)
第 7 回：地理 3(映画「共同警備区域ＪＳＡ」と南北分断)
第 8 回：植民地期の日本人 1(白衣と白磁、朝鮮民族美術館と柳宗悦、浅川巧)
第 9 回：植民地期の日本人 2(青磁、文化財の流出問題と保存の努力、浅川伯教)
第10回：社会制度 1(姓と本貫、創氏改名)
第11回：社会制度 2(社会的な差別、伝統的な結婚)
第12回：日韓での大衆文化受け入れ (韓流ブーム・K-POP 人気までの道のり)
第13回：北朝鮮事情 (支配体制など、ドラマ「愛の不時着」も少し参考にして)
第14回：在日コリアン 1(在日とは？：民族教育、映画「パッチギ！」)
第15回：在日コリアン 2(日本人とは？：アイデンティティをもつこと)

【事前および事後学習の指示】
たとえば、歴史 1・2・3 のように連続する分野は、それぞれのつながりに留意して、その分野を総体的に理解する。また、事前学習では各回のテーマについて図書館やインターネット (適切なサイトを選ぶ) で調べておき、事後学習では各回の授業資料をよく読み、掲載された関連サイトや資料にも目を通しておくこと。

【テキスト】

【参考文献】
配布プリント
金両基監修『読んで旅する世界の歴史と文化・韓国』新潮社
他にも必要に応じて授業で紹介する。

【コメント】
「その他」は毎回の課題テストと受講態度の評価である。
また、授業に出席することは当然であるため、出席が 70%以下の者は成績評価の対象外とする。

【留意事項】

講義名称	曜時
アジア文化史 A　＜春＞	月 2

【教員名称】
辻　高広

【講義概要】
本講義では中国を中心とした東アジア諸国にかかわる様々な文化的事象をとりあげ、その歴史的背景について学びながら、東アジア世界における歴史的なつながりについて理解する。
なお、本講義では中国の歴史について、高校世界史レベルの知識を有することを前提とする。高校時代の教科書を残している者はそれに目を通しておくこと。
なお、この授業では M-Port や各種情報検索ツールを積極的に使用し、レジュメなどは M-Port を通じて pdf で配布する予定であり、受講時には PC やタブレット端末などの持参を推奨する。

【学習目標】
現代をとりまく様々な文化的事象が長期にわたる歴史的背景をもって形成され、東アジア世界に伝播していったことを理解することができる。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス
第 2 回：中国史概説 1―古代～中世
第 3 回：中国史概説 2―近世～近現代
第 4 回：漢字の歴史 1―漢字の誕生
第 5 回：漢字の歴史 2―漢字の成立
第 6 回：漢字の歴史 3―漢字の伝播
第 7 回：漢字の歴史 4―漢字の変容
第 8 回：漢字の歴史 5―漢字の現在
第 9 回：女性の歴史 1―神話のなかの女性
第10回：女性の歴史 2―漢代の女性
第11回：女性の歴史 3―唐代の女性
第12回：女性の歴史 4―宋代の女性
第13回：女性の歴史 5―明清代の女性
第14回：女性の歴史 6―チャイナドレスと近代女性
第15回：まとめ―東アジア世界のつながり

【事前および事後学習の指示】
授業前には指示する時代について、高校教科書および参考文献に目を通し、その時代背景について基礎的な知識を身につけておくこと。授業後には講義内容について確認し、理解不足の点があれば質問すること。

【テキスト】

【参考文献】
尾形勇・岸本美緒編『新版世界各国史 3 中国史』山川出版社、1998 年
講談社『中国の歴史』シリーズ (全 12 巻)、2004 年～ 2005 年

【コメント】
期末には論述を中心とした試験を、学期中に複数回のレポートを課す。出席は回数ではなく、授業への参加や理解度に応じて加点するものである。

【留意事項】
本講義はアジア文化史 B とあわせて受講することが望ましい。

講　義　名　称	曜　時
アジア文化史 B　＜春＞	**水 2**

【教員名称】
辻　高広

【講義概要】
本講義では中国を中心とした東アジア諸国にかかわる様々な文化的事象をとりあげ、その歴史的背景について学びながら、東アジア世界における歴史的なつながりについて理解する。
なお、本講義では中国の歴史について、高校世界史レベルの知識を有することを前提とする。高校時代の教科書を残している者はそれに目を通しておくこと。
なお、この授業では M-Port や各種情報検索ツールを積極的に使用し、レジュメなどは M-Port を通じて pdf で配布する予定であり、受講時には PC やタブレット端末などの持参を推奨する。

【学習目標】
現代をとりまく様々な文化的事象が長期にわたる歴史的背景をもって形成され、東アジア世界に伝播していったことを理解することができる。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス
第 2 回：中国史概説 1―古代～中世
第 3 回：中国史概説 2―近世～近現代
第 4 回：日中交流の歴史 1―日中交流のはじまり
第 5 回：日中交流の歴史 2―遣隋使
第 6 回：日中交流の歴史 3―遣唐使
第 7 回：日中交流の歴史 4―倭寇
第 8 回：日中交流の歴史 5―居留地と雑居地
第 9 回：神になった人々 1―歴史のなかの関羽
第10回：神になった人々 2―世界に広がる関帝廟
第11回：神になった人々 3―歴史のなかの楊貴妃
第12回：神になった人々 4―楊貴妃渡来伝説
第13回：食の歴史 1―主食の歴史
第14回：食の歴史 2―食卓の歴史
第15回：まとめ―東アジア世界のつながり

【事前および事後学習の指示】
授業前には指示する時代について、高校教科書および参考文献に目を通し、その時代背景について基礎的な知識を身につけておくこと。授業後には講義内容について確認し、理解不足の点があれば質問すること。

【テキスト】

【参考文献】
尾形勇・岸本美緒編『新版世界各国史 3 中国史』山川出版社、1998 年
講談社『中国の歴史』シリーズ (全 12 巻)、2004 年～ 2005 年

【コメント】
期末には論述を中心とした試験を、学期中に複数回のレポートを課す。出席は回数ではなく、授業への参加や理解度に応じて加点するものである。

【留意事項】
本講義はアジア文化史 A とあわせて履修することが望ましい

講　義　名　称	曜　時
イギリス文化研究 - ヴィクトリア朝ロンドンの世界 A ＜春＞	**火 3**

【教員名称】
日下　隆平

【講義概要】
「イギリス文化研究 A」では 19 世紀ビクトリア朝ロンドンを中心に扱う。ビクトリア朝とは 1837 年から 1901 年までを指し日本で言うと幕末から明治後期のころである。ビクトリア朝中期はイギリス史上最も繁栄した時期として知られる。世界に先駆けて起きた産業革命と海洋進出によって、ヴィクトリア朝時代の大英帝国は「七つの海に日の没することなし」といわれるほど世界中に植民地を築くに至った。その力はパックス・ブリタニカといわれるほどであった。繁栄する消費社会の富と文化を生み出す一方で、産業化の弊害ともいえる劣悪な都市環境、貧富の格差、環境汚染など「光と影」を併せ持つ社会で、社会の中心的な担い手は台頭するミドルクラスであった。この頃の特徴を簡単に言うなら、過去へのノスタルジーと近代化の力が正反対の方向に反撥し合う時代であった。講義では時代背景についての知識を学んだうえで、イーストエンドも含め「どのような人々が、どのような生活を送ったのか」を思い描けるような内容を取り上げていきたい。その方法として時代とそれを特徴づける出来事を織り交ぜ、19 世紀イギリスの社会背景と文化の諸相をみていく。

【学習目標】
現代イギリス社会の基礎がどのように 19 世紀に形成されたかを知ることが最終目標とする。社会システムだけでなく、当時の新聞記事、絵画などをもとに、19 世紀のロンドンの街並み、芸術、娯楽と大衆文化、時代思潮を学んでいく。また、イギリスは明治に新国家建設にあたって、政治体制など新政府が範とした国家だけに、自国社会の理解の一助にもなるものと考えられる。
毎回授業はスライドによる説明を行った後、後半はそのテーマに関する英文資料を講読していく。

【講義計画】
第 1 回：導入ー授業の全体の概要説明と成績評価などについて
第 2 回：ビクトリア朝までのイギリスー 1
ノ　　ルマン人の征服と英語
第 3 回：ヘンリ 8 世と宗教改革ー 2
英国国教会の成立
第 4 回：産業革命ー 3
イギリス人の中世観はどう変わったか。
ルネッサンスと 19 世紀　ー　暗黒の時代かユートピアか
第 5 回：ビクトリア時代の社会
ヴィクトリア女王とその時代
「戴冠式の社会背景」「チャーチスト運動」「クリスマスツリー」「白のウエディングドレスの流行」「アルバート公」「ロンドン万国博覧会」「クリスタル・パレス」
「二大政党制」「インド皇帝」
第 6 回：'Amazing Grace' と奴隷商人そして三角貿易
第 7 回：William Blake の「煙突掃除の少年」からみる児童の労働
第 8 回：対照的な二人の宰相ーベンジャミン・ディズレーリとグラッドストーンからヴィクトリア朝を考える
第 9 回：East End の世界ーロンドンのスラムと移民
1　ユグノー教徒の移民
2　アイルランドからの移民
第10回：3　ユダヤ民族の移民
第11回：ギュスターヴ・ドレが版画に描いたロンドン
第12回：ビクトリア中期ー繁栄するロンドン
水晶宮で開催された大英国博覧会 (1851)
Thomas Cook の貢献
第13回：ガラス建築対石造建築
第14回：Beatrix Potter と湖水地方ー『ピーターラビットの物語』(35 カ国語で翻訳) はどのようにして誕生したか。
ビアトリクス・ポターとナショナル・トラスト運動
第15回：万国博覧会 (1862) を見た日本人たち
まとめと小レポート
最終授業時間で課題についての小レポート作成。(配布した資料を持込可)

【事前および事後学習の指示】
事前に毎回、M-Port に資料を掲載しておくので、読んでおくこと。
事前学習：M-Port の資料をダウンロードして読んでおく。　1 時間
事後学習：授業の復習。資料の不明な部分をまとめておく。　1 時間

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
「その他」とは、出席状況や平常点をさす。

【留意事項】

講義名称	曜時
英語学概論 A　01 ＜春＞	**水 3**

【教員名称】
平川　裕己

【講義概要】
英語はヒトの言語一般に共通する普遍的特徴を内包すると同時に、他の言語にはない個別的特徴をもちます。この講義では、英語という個別言語の実例 (データ) を言語学的な観点から記述・分析し、英語とはどのような言語なのかを明らかにします。そのうえで、英語について得られた知見を手掛かりに、ヒトの言語が本質的に備えている普遍的な原理を探ります。授業で取り扱うデータは英語のものが中心ですが、必要に応じて日本語のデータとの対照も行います。英語学概論 A では、ことばの意味や機能に関わる分野に焦点を当て、ことばの実例を原理的・体系的に分析します。

【学習目標】
英語という言語はどのような特徴をもつのか、ヒトの言語はどのような仕組みを備えているのか、原理的・体系的な理解を得る。英語学の研究方法に関する基本的な知識を習得し、より専門的な研究につなげていくための基礎を固める。理論や分析手法に関わる基礎概念の正確な把握に加え、ことばの実例 (データ) を自分自身で精緻に分析できるようになる。

【講義計画】
第 1 回：授業概要・導入
第 2 回：言語学と英語学
第 3 回：意味論 (1)　概論：ことばの意味とは
第 4 回：意味論 (2)　語句の意味
第 5 回：意味論 (3)　文の意味
第 6 回：意味論 (4)　比喩表現
第 7 回：語用論 (1)　概論：ことばとコンテクスト
第 8 回：語用論 (2)　発話行為
第 9 回：語用論 (3)　ポライトネス
第10回：語用論 (4)　話者の意図と推論
第11回：談話分析 (1)　概論：ことば・行為・社会
第12回：談話分析 (2)　会話分析
第13回：談話分析 (3)　レトリック
第14回：談話分析 (4)　批判的談話分析
第15回：言語研究の広がり

【事前および事後学習の指示】
各回の授業後には必ず復習すること。授業内容の十分な理解には、各自の努力が不可欠です。特に、授業で学んだ概念や方法を用いてことばのデータを自分自身で分析できるかどうか、必ず確認してください。
復習によって毎回の授業内容の理解を確かなものにしておくことが、次回の授業の事前学習となります。また、各回に進む予定の範囲について、事前に配布資料を読んでおくこと。
また、授業で取り上げた現象が日常言語や専攻する言語で実際にどのように表れているか、日ごろから観察するようにしてください。

【テキスト】

【参考文献】
大津由紀雄 . 2009.『はじめて学ぶ言語学』ミネルヴァ書房 .
加藤重広 . 2019.『言語学講義：その起源と未来』筑摩書房 .
川添愛 . 2021.『ふだん使いの言語学：「ことばの基礎力」を鍛えるヒント』新潮社 .
窪薗晴夫編 . 2019.『よくわかる言語学』ミネルヴァ書房 .
斎藤純男 . 2010.『言語学入門』三省堂 .
佐久間淳一 . 2013.『本当にわかる言語学：フシギなくらい見えてくる！』日本実業出版社 .
滝浦真人 . 2018.『新しい言語学：心理と社会から見る人間の学』放送大学教育振興会 .
中島平三編 . 2009.『言語学の領域 (I)』朝倉書店 .
中島平三編 . 2009.『言語学の領域 (II)』朝倉書店 .
中島平三 . 2011.『ファンダメンタル英語学 改訂版』ひつじ書房 .
長谷川瑞穂編 . 2014.『はじめての英語学』研究社 .
平賀正子 . 2016.『ベーシック新しい英語学概論』ひつじ書房 .
三原健一・髙見健一編 . 2013.『日英対照 英語学の基礎』くろしお出版 .

【コメント】
この科目は教育職員養成課程 (教職課程) の英語科必修科目でもあるため、成績は厳しく評価します。安易な気持ちや不真面目な態度では一切合格できません。
講義は配布資料をもとに行います。この授業では抽象的で難解な概念を数多く扱いますから、能動的な取り組みと事前・事後学習が必須です。毎回の授業内で課題を出すため、欠席すると単位取得に大きく影響します。また、課題やレポートの事後提出は一切認めません。成績評価は、授業課題を 70%、レポートを 30%とします。授業への出席は単位認定の前提ですから、3 回以上の欠席ないし課題の未提出がある受講生は、成績評価の対象外とします。
教室では座席を指定し、私語をする受講生は即座に退室してもらい欠席扱いとします。授業資料を持参していない、居眠りをしている、ノートを取っていない学生も同様です。また、著作権上の問題が生じる可能性があるため、授業内で提示するスライドの撮影は全面的に禁止します。撮影が認められた学生は欠席扱いとします。

【留意事項】
初回の授業で概要を説明します。受講を希望する学生は必ず出席してください。合理的事由が認められる場合を除き、「聞いていなかった」という申し出は一切受け付けません。

講義名称	曜時
英語の意味 A　＜春＞	**木 3**

【教員名称】
平川　裕己

【講義概要】
この講義では、ことばにはどのような意味があるのか、ことばの意味はどういう仕組みで成立・変化・拡張・連関するのかについて、主に英語を対象として言語学的な観点から学びます。ことばの意味は、その表現の対象だけでなく、人間の認識の在り方、他の表現との関係、さらには人間が置かれた物理的・社会的・文化的な環境に根ざしています。また、ことばの意味は固定的なものではなく、拡張や変化が起こることもあります。英語の意味 A では、主として語彙に焦点を当て、ことばの意味の諸側面を原理的・体系的に分析・考察します。

【学習目標】
ことばの意味にはどのような側面があるのか、ことばにはどういう仕組みで意味が備わっているのか、原理的・体系的な理解を得る。理論的な概念を正確に把握することに加え、ことばの実例 (データ) を自分自身で精緻に分析できるようになる。

【講義計画】
第 1 回：授業概要・導入
第 2 回：意味とは何か (1)　「意味」の意味
第 3 回：意味とは何か (2)　辞書記述と指示対象
第 4 回：意味とは何か (3)　概念としての意味
第 5 回：語彙の意味 (1)　意味素性分析
第 6 回：語彙の意味 (2)　類義・対義・包摂
第 7 回：語彙の意味 (3)　多義
第 8 回：語彙の意味 (4)　内部構造と外部構造
第 9 回：語彙の意味 (5)　百科事典的知識
第10回：可算と不可算
第11回：時制と相
第12回：法と助動詞
第13回：意味の日英対照
第14回：意味論と語用論
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
各回の授業後には必ず復習すること。授業内容の十分な理解には、各自の努力が不可欠です。特に、授業で学んだ概念や方法を用いてことばのデータを自分自身で分析できるかどうか、必ず確認してください。
復習によって毎回の授業内容の理解を確かなものにしておくことが、次回の授業の事前学習となります。また、各回に進む予定の範囲について、事前に配布資料を読んでおくこと。

【テキスト】

【参考文献】
必要に応じて授業内で紹介します。

【コメント】
講義・課題は配布資料をもとに行います。この授業では抽象的で難解な概念を数多く扱いますから、能動的な取り組みと事前・事後学習が必須です。毎回の授業内で課題を出すため、欠席すると単位取得に大きく影響します。また、課題やレポートの事後提出は一切認めません。成績評価は、授業課題を 70%、レポートを 30%とします。授業への出席は単位認定の前提ですから、3 回以上の欠席ないし課題の未提出がある受講生は、成績評価の対象外とします。
教室では座席を指定し、私語をする受講生は即座に退室してもらい欠席扱いとします。授業資料を持参していない、居眠りをしている、ノートを取っていない学生も同様です。また、著作権上の問題が生じる可能性があるため、授業内で提示するスライドの撮影は全面的に禁止します。撮影が認められた学生は欠席扱いとします。

【留意事項】
初回の授業で概要を説明します。受講を希望する学生は必ず出席してください。合理的事由が認められる場合を除き、「聞いていなかった」という申し出は一切受け付けません。

講　義　名　称	曜　時
英文簿記会計　＜春＞	**木 2**

【教員名称】
小澤　義昭

【講義概要】
「グローバルビジネスに役立つ知識を身につけよう！」
ビジネス活動の国際化により、英文による簿記･会計の理解が重要となってきています。英文簿記会計といっても、単に財務諸表の日本語表記を英語表記に置き換えるだけではなく、国際的な会計基準と日本の会計基準との差異についての理解も必要となります。本講義では、国際的な会計スキルの前提となる英文簿記の基礎を学習します。日商簿記の 3 級の知識さえあれば、誰でも理解ができます。演習もふんだんに交えて、英語があまり得意でない人でもわかりやすい授業としたいと考えています。

【学習目標】
本講義は、国際会計検定試験 (BATIC) に焦点を合わせ、受講生諸君の国際ビジネス能力の向上に寄与することを目的として開講しておりましたが、当該試験は昨年度で終了しました。ただ、その内容は、企業社会において十分に役に立つものです。そこで、その内容を学習していくこととします。

【講義計画】
第 1 回：講義内容説明／会計と簿記の基本概念 (Basic Concepts of Accounting and Bookkeeping)
第 2 回：取引と仕訳 (資産等の購入、仕入関係)(Transactions and Journal Entries)
第 3 回：取引と仕訳 (販売取引及びその他)(Transactions and Journal Entries)
第 4 回：仕訳帳と元帳 (Journals and Ledgers)
第 5 回：試算表 (Trial Balance) と今までの復習
第 6 回：決算修正仕訳 (経過勘定項目)(Adjusting Entries(1))
第 7 回：決算修正仕訳 (減価償却、その他)(Adjusting Entries(2))
第 8 回：棚卸資産と売上原価の会計処理 (Accounting for Inventory and Cost of Goods Sold)
第 9 回：締切仕訳 (Closing Entries)
第10回：財務諸表 (Financial Statements)
第11回：一般に公正妥当と認められた会計原則 (Generally Accepted Accounting Principles)
第12回：財務諸表分析 (Financial Statement Analysis)
第13回：内部統制と現金管理 (Internal Control and Cash Control)
第14回：資産と負債の会計処理 (Accounting for Assets and Liabilities)
第15回：総まとめ及び期末テスト

【事前および事後学習の指示】
予習までは必要ありませんが、前回の講義内容を復習して授業に出席してください。事後学習として合計 30 時間は必要です。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
最低限、授業 (対面が原則) に出席し、6 回の簡単な課題 (小テスト) を提出することが必要です。4 回以上課題の提出がなかった場合には、成績評価の対象外とします。「その他」の評価は、その課題の点数を意味しています。残りの 50% は、対面の場合最終回に実施する期末テスト、対面で実施できなかった場合には、レポートを提出していただくことになり、それに基づき評価します。

【留意事項】
公認会計士として、35 年間、ニューヨーク、東京他において、国際業務に従事してきた教員が、その経験及び国際会計の知識に基づいて英文簿記会計の基本知識について解説を行う

講　義　名　称	曜　時
会計史　＜春＞	**水 2**

【教員名称】
中村　恒彦

【講義概要】
会計史は、会計と会計学の発展からその原理を歴史的に学びます。会計の起源は、簿記が成立する 15 世紀以前と古く、18 世紀以降には株式会社に関連する会計が発展し、20 世紀以降には資本市場に関連する会計が発展しました。こうした一連の歴史的流れから会計の原理に広く学びます。会計がどのように現在までになりたってきたかを通じて、知識を深めます。結果としての会計の原理原則を覚えるのではなく、原因としての当時の背景に目を向けてもらえるとよいと思います。その意味では、「会計」というよりも「経営」の数字のことを学習するつもりで受講するとよいでしょう。

【学習目標】
この授業の到達目標は、会計問題と歴史的な背景を関連付けることにより、会計技術・記帳方法・会計技法に対する深い知識を醸成することです。たとえば減価償却と取替法と減損などのように技術的にはよく似ているにもかかわらず、会計処理が異なるものがあります。こうした違いは、歴史的な経緯を踏まえれば容易に理解することができます。

【講義計画】
第 1 回：アカデミックスキルについて
　　アカデミックなエッセイを作成する
第 2 回：会計のイメージ、会計はなぜ「ダルい」のか ???
第 3 回：制度会計と企業会計原則
第 4 回：費用の期間配分
第 5 回：収益の期間配分
第 6 回：複式簿記と起源
第 7 回：資産・負債の認識・測定
第 8 回：中間総括と会計ダイナミズム
第 9 回：商品会計
第10回：減価償却、減損
第11回：引当金、準備金、積立金
第12回：資本会計
第13回：経営分析と歴史
第14回：管理会計と歴史
第15回：最終総括と個別論点

【事前および事後学習の指示】
財務諸表論や簿記関連科目や監査論と重複する部分が多いので、関連科目を履修することを勧める。さらに、歴史を勉強する際には、世界史や地理の知識があると楽しく講義を受講できる。

【テキスト】
会計のヒストリー 野口昌良ほか編著編著
978-4502336713 中央経済社
はじめて出会う会計学 第三版 川本 淳 , 野口 昌良 , 勝尾 裕子 , 山田 純平 , 荒田 映子
978-4-641-22197-0 有斐閣アルマ

【参考文献】

【コメント】
成績評価は以下のとおりの方法で主に行う予定にしています。本講義では①および②で主に評価する。
①レポート課題
②期末試験
講義を欠席することのフォローは一切行いません。詳しい評価方法については、初回の講義で説明します。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
外国史　01 ＜通期＞	**火 2**

【教員名称】
村上　司樹

【講義概要】
この授業ではイギリス、フランス、ドイツ、イタリア、スペインなどの国々から成るヨーロッパ (正確には西ヨーロッパ) の歴史を講義します。なお、歴史を学ぶことは、過去をただ暗記することではありません。そんなつまらない一夜漬けの課題ではなく、現在を深く知り、未来を見通すための知恵を磨くことだと思います。遠い昔を分かろうとすることで、自分たちが生きている今についても、だんだんよく分かるようになる。つまり一種の異文化理解です (異文化の理解は自文化の理解につながる)。だから必要なのは、暗記力ではなく、知らないうちは否定から入らない態度。自分たちと異なる未知なるもの (ふつう「異常」に見える) を否定したくなる感情に、理性でブレーキをかけて自分を変えていくことです。受講生の皆さんには、単位が取れるよう頑張ってほしいですが、合わせて単位以上の何かも手に入れてほしいと思います。

【学習目標】
イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、スペインなど、西ヨーロッパ諸国の歴史をグローバルな視野で説明できるようになる。歴史的視野をもって現在を見、未来を考えられるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身に着ける。

【講義計画】
第 1 回：「歴史を学ぶにあたって」　歴史は異文化理解／ 手で食べる文化は劣っている？／ 知らないうちは否定から入るな
第 2 回：「 01　歴史を学ぶにあたって」　恋愛結婚が主流になったのは最近 200 年間のこと／ 赤ん坊と幼い子の半数が死ぬ日常／ 女性にとっての出産と男性にとっての戦争
第 3 回：「 01　歴史を学ぶにあたって」　さらに社会的圧力 (嘲笑や非難) がかかる／ 親心が「なかった」のではなく「形が違っていた」／ 就活や通勤がない日常
第 4 回：「 01　歴史を学ぶにあたって」「優しい父母」というだけでは務まらなかった／ 家庭が職場だから結婚は仕事／ 恋愛結婚させるのは「残忍な親」という考え方
第 5 回：「 01　歴史を学ぶにあたって」　童話「長靴をはいた猫」から読み取れる男性の苦難／ 構造的に生み出される男尊女卑の状況／ それでも、一言で片づけられる人生などない
第 6 回：「 01　歴史を学ぶにあたって」　27 世紀の学生が 21 世紀の歴史を学んだら…／ 具体性と論理性は手間暇と思いやりの問題／ 古来のマジカルナンバー 3
第 7 回：「 02　3 つの源流」　3 つの要素が 1 つに融合してヨーロッパになった／ 例えば洋食 (ヨーロッパ的食文化) ／ ローマ帝国がもたらしたパンとワイン
第 8 回：「 02　3 つの源流」　ゲルマン人が広めた肉とビール／ キリスト教が両者を取り持った／ フランス料理が美味しい理由
第 9 回：「 03　ローマの遺産」　ヨーロッパにとって、古代ローマは「偉大さ」の代名詞／ 都市ローマの異名は「永遠の都」
第10回：「 03　ローマの遺産」　ロンドンもパリもウィーンもバルセロナもローマ都市　／ ローマの文字が西欧に文化的一体感を与える／ 独裁も、使いようによっては便利な、政治的道具の 1 つにすぎない
第11回：「 03　ローマの遺産」　どんな王よりも強くて危うい、ローマ皇帝と言う地位／ わが町をローマになぞらえる／ 民主国家がローマを引き合いに出す
第12回：「 03　ローマの遺産」　独裁国家もローマにあやかろうとする／ 伝統は、受け継ぐ側に主体性がある／ ローマだけがヨーロッパをつくったのではない
第13回：「 04　ゲルマン人」　偉大な文明の模範ローマ、素朴な文化の源ゲルマン人／ 例えば洋服 (ヨーロッパ的服飾文化) ／ 洋服の原点はステップの遊牧民
第14回：「 04　ゲルマン人」　イギリスもフランスもゲルマン人が建てた国／ ヨーロッパの王侯貴族はゲルマン人英雄の名を受け継ぐ／ 王侯貴族はゲルマンの戦士的文化も受け継いでいる
第15回：「 04　ゲルマン人」　ローマ帝国はゲルマン人によって滅ぼされたのではない／ ローマは移民・難民問題を抱えて自滅した／ 遠くの他者には寛容でいられるが目の前に迫られると
第16回：「 05　キリスト教」キリスト教 (または教会) がローマとゲルマンを仲立ちした／ 都市と書物 (または文字) の宗教キリスト教／ 教会聖職者の食文化が魚料理や卵料理を発展させた
第17回：「 05　キリスト教」キリスト教が洋服に残したローマの伝統／ 欧米の個人名は大半がキリスト教系／ 日曜日を節目とする 1 週間、クリスマスを節目とする 1 年間
第18回：「 05　キリスト教」ゴールがある歴史と言う思想／ 政教分離と教会離れが進んだ近現代においてもなお／ 本来は中東生まれの宗教
第19回：「 06　遠くて近い西欧と日本」　現在は共に先進国グループ／ あまり接点がなかった前近代／ 急速に接近した近現代
第20回：「 07　古代」　場所としては存在していたしルーツもあったけれど／ 先進文明・原初的な民・世界宗教
第21回：「 07　古代」　先進文明・原初的な民・世界宗教／ ユーラシア大陸の片すみで
第22回：「 08　中世」　無理した背伸びから等身大の歩みへ／ 国家の分裂は地方の自立
第23回：「 08　中世」　侵略と留学で海外にアクセスする／ 信仰が咀嚼されて定着する
第24回：「 09　近世」　グローバル化が始まって日欧が出会う／ 地方分権と中央集権のシーソーゲーム
第25回：「 09　近世」　宗教戦争から世俗化へ／ 武人領主が宮廷官吏に
第26回：「 10　近代」　市民革命、産業革命、植民地支配／ 国民意識の形成
第27回：「 10　近代」　かがやきとうぬぼれ／ 世界大戦と共に終わる
第28回：「 11　現代」　帝国を失って冷戦体制下に組み込まれる／ 平和と豊かさと民主主義
第29回：「 11　現代」　統合への長い道と一国で続ける歩み
第30回：「 12　まとめ」　外国史を学ぶことは日本史を見つめ直すこと

【事前および事後学習の指示】
事前学習として、前回までのプリントの読み直しと次回分の先読み (1 時間)。事後学習として、授業内容の読み返しとレスポンス・ペーパーの作成 (1 時間)。

【テキスト】

【参考文献】
フレデリック・ドリューシュ (木村尚三朗監修・花上克己訳)『ヨーロッパの歴史　欧州共通教科書』東京書籍、1988 年。
服部良久・南川高志・山辺規子『大学で学ぶ西洋史［古代・中世］』ミネルヴァ書房、2006 年。
小山哲・山田史郎・杉本淑彦・上垣豊編著　『大学で学ぶ西洋史［近現代］』ミネルヴァ書房、2011 年。

【コメント】
毎回の授業後にレスポンス・ペーパーを提出してもらいます。が、強制ではありません。つまりこのレスポンス・ペーパーを、「毎回だるい課題を押しつけられるピンチだ」と捉えて嫌そうな顔をするか、「毎回こつこつ点数を取れるチャンスだ」と捉えて目を輝かせるか、すべてはあなた次第。大学の授業と言うのは、良くも悪くも「大人の学び」、自分次第なものだ (「自由」とも「自己責任」とも言える) と思います。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
外国史　02 ＜通期＞	**木 1**

【教員名称】
鈴木　康文

【講義概要】
古代から第二次世界大戦後までのヨーロッパとアメリカの歴史を概観します。
講義は政治史を軸とした構成ですが、各時代の文化にも触れます。

【学習目標】
古代から現代までの欧米各国における政治・文化の歴史を学び理解する。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス
第 2 回：古代ギリシア①―アテナイ・スパルタ
第 3 回：古代ギリシア②―マケドニア、文化
第 4 回：古代ローマ①―王政・共和政
第 5 回：古代ローマ②―元首政・帝政、文化
第 6 回：フランク王国、ビザンツ帝国
第 7 回：十字軍、商業の発展、中世都市の成立
第 8 回：中世における英仏独伊の動向、中世文化
第 9 回：大航海時代
第10回：ルネサンス、宗教改革
第11回：近世ヨーロッパ諸国の抗争、主権国家体制
第12回：イギリス革命
第13回：プロイセンとオーストリア、17 ～ 18 世紀の文化
第14回：産業革命
第15回：アメリカ独立戦争
第16回：フランス革命
第17回：ナポレオンの登場
第18回：ウィーン体制
第19回：19 世紀後半のヨーロッパ①―英仏伊の動向
第20回：19 世紀後半のヨーロッパ②―独露の動向
第21回：アメリカ南北戦争
第22回：19 世紀の文化
第23回：帝国主義①―英仏独の動向
第24回：帝国主義②―米露の動向
第25回：第 1 次世界大戦
第26回：ヴェルサイユ体制
第27回：世界恐慌、ファシズム
第28回：第 2 次世界大戦
第29回：戦後のヨーロッパ
第30回：米ソの冷戦

【事前および事後学習の指示】
事前学習：授業資料に目を通しておいてください。
事後学習：授業資料を使って復習してください。

【テキスト】

【参考文献】
木村靖二ほか『詳説世界史 B』(山川出版社)。授業はこれに準拠します。

【コメント】
毎回の課題 (小テスト)：100%
※課題の詳細については第 1 回のガイダンスで説明します。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
会社法 A　＜春＞	**木 1**

【教員名称】
大川　済植

【講義概要】
2005(平成 17) 年に、会社の組織・運営・管理を規律するまとまった単行法として、会社法典 (以下、「会社法」という) が制定されました (2006(平成 18) 年 5 月施行)。
株式会社 (以下、「会社」と略称する) は、複数の者が出資をする共同企業の一形態であります。現代の取引社会のコア的な存在として日本の経済やグローバル経済における市民生活を支える会社は、会社法上のルールに従ってビジネス活動を行う必要があります。なぜなら、会社の経営をめぐるステークホルダーである株主 (＝会社のオーナー)、経営者 (＝代表取締役社長などの経営陣)、債権者 (＝企業取引の相手方)、および会社の分業システムを支える授業員の利益を公正に調整し、取引社会の安全を図ることこそが経済社会の発展に資すると思われるからです。
「会社法 A」のねらいは、主として (1) 会社の法的性質、(2) 会社の機関設計構造および機関相互間の関係 (会社設立の事案を中心素材に「公開会社」と「非公開会社」における特徴および相違点を踏まえたうえで、会社法上の機関設計の多様化などについて学ぶ)、(3) 株主総会、(4) 会社の経営に関する法律関係 (取締役等の権限、取締役会の権限など) に関する基本的事項を可能な限り「図表化」することによって、受講生に会社の事業に関する実務を規律する会社法の総体的なイメージを掴んでいただけるよう、解りやすく講述することにあります。
そこで、本講義では、受講生の会社法に対する体系的理解を一歩深めるべく、各単元の内容を講述するにあたっては、まずは会社のビジネス活動に係る各種の法制度を概観し、具体的な事案に対する裁判例の見解および学説の見解については、①法制度論、②法規範論、③法解釈論の観点から順次にアプローチしながら講述するよう、心がけたいと思います。

【学習目標】
司法試験・公認会計士などの最難関国家資格試験の必須科目である会社法は、とっつきにくい法律科目である、という声をよく耳にします。しかし、会社法は、株式会社の事業活動に関する法律として位置づけられる重要な実践的学問 (＝会社のビジネスやマネジメントに係る実務に関する学問) であるといえます。
したがって、本講義では、株式会社の事業活動に係る実務を規律する会社法制度や法規について、受講生に総体的なイメージを掴んでいただけるよう、分かりやすく図説することを本講義のねらいとします。

【講義計画】
第 1 回：会社とは何か？
→会社の法的性質について、分析したうえで、重要な論点として法人格否認の法理について検討する。
第 2 回：会社の機関設計構造および機関相互間の関係①
→「会社設立」に対する事案を中心素材に「公開会社」と「非公開会社」の定義およびそれぞれの特徴および相違点を踏まえたうえで、会社法上の機関設計の多様化などについて概説する。
第 3 回：会社の機関設計構造および機関相互間の関係②
→「会社設立」に対する事案を中心素材に「公開会社」と「非公開会社」の定義およびそれぞれの特徴および相違点を踏まえたうえで、会社法上の機関設計の多様化などについて概説する。
第 4 回：株主総会①
→会社の機関分化の特質および株主総会の形骸化の現象を踏まえたうえで、株主総会の権限一般について検討する。
第 5 回：株主総会②
→総会権限の具体的な例として、㋐株主の提案権、㋑議決権行使、㋒その例外的事項として代理人による議決権行使について検討する。
第 6 回：株主総会③
→総会権限の具体的な例として総会の議事、および総会決議の種類と決議の取消し・不存在・無効の法的効力種類について検討する。
第 7 回：株主総会④
→総会権限の具体的な例として㋐総会の議事、㋑総会決議の種類と決議の取消し・不存在・無効の法的効力種類について検討する。
第 8 回：会社経営に関する法律関係①
→取締役・執行役 (以下、「取締役等」という) の権限、員数・資格・選任・任期・終任、解任について検討する。
第 9 回：会社経営に関する法律関係②
→取締役・執行役 (以下、「取締役等」という) の権限、員数・資格・選任・任期・終任、解任について検討する。
第10回：会社経営に関する法律関係③
→代表取締役等の意義および選定・解職、権限、表見代表取締役の責任について検討する。
第11回：会社経営に関する法律関係④
→代表取締役等の意義および選定・解職、権限、表見代表取締役の責任について検討する。
第12回：会社経営に関する法律関係⑤
→取締役の競業避止義務、利益相反取引規制、取締役の報酬についての法的諸問題点について検討する。
第13回：会社経営に関する法律関係⑥
→取締役の競業避止義務、利益相反取引規制、取締役の報酬についての法的諸問題点について検討する。
第14回：会社経営に関する法律関係⑦
→取締役の競業避止義務、利益相反取引規制、取締役の報酬についての法的諸問題点について検討する。
第15回：会社法 A 講義に関する「期末理解力小テスト」を実施する

【事前および事後学習の指示】
限られた授業時間内において、「会社法 A」のすべて内容を網羅的に詳説するのは、物理的に可能なことではありません。そこで、①授業で講述すべき内容と、②受講生のみなさんの自学自修に期待し委ねるべき内容とに振り分けることによって、授業の効率化を図りたいと思います。
したがって、本講義では、受講生自らが、事前学習をする際にテキスト等を読むだけで理解でき、または理解しやすい内容もしくは説明しなくてもよい内容については、省略することとします。その代わりに、本講義では、主として「会社法 A」の基本的事項として検討すべき内容に焦点を合わせて授業を進行すると同時に、受講生自らが問題意識をもって具体的に考えることができる授業を行います。
この点、受講生のみなさんには、「会社法 A」の主要内容から選別した重要論点を中心に進める授業内容を理解するべく、必ずテキスト・予習(復習)用レジュメ・復習資料(オンデマンド形式の録音ファイル)・参考文献などを使い、授業で詳説しない内容または取り扱っていない内容についても幅広く学習していただきたいと思います。

【テキスト】
プリンシプル会社法 編著(高橋英治)著者(大川済植ほか)
978-4-335-35837-1 弘文堂
ポケット六法　令和 6 年版 編集代表(佐伯仁志、大村敦志)
978-4-641-00924-0 有斐閣

【参考文献】
龍田節、前田雅弘『会社法大要〔第 3 版〕』(有斐閣、2022 年)

【コメント】
会社法 A の成績評価は、①授業への参加度(配点：30 点)、②春学期期末理解力小テスト(配点：20 点)、③レポート課題提出(配点：50 点)の内容をもって決します。成績評価の方法については、3 回目の対面授業で説明します。

【留意事項】

講義名称	曜時
科学技術史　＜通期＞	**水 2**

【教員名称】
本間　栄男

【講義概要】
西洋科学技術史の流れを概観する。その際、西洋科学技術の出発点としての古代ギリシャ、近代科学の考え方が生まれたルネサンス近代初頭、現代の科学の直接の起源である 19 世紀、及び現代科学の特徴を際立たせる 20 世紀前半の科学を流れに沿って考察する。

【学習目標】
世界の市民として必要な教養として科学の発展の大筋を理解し、現代文明の基盤を理解する素養を持つことが基本的な目標である。そのためには、時代ごとの科学の特徴と、著名な科学者の事績を把握しておくことが必要である。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス
第 2 回：科学という言葉の歴史
第 3 回：古代 (1) ピュタゴラス
第 4 回：古代 (2) アリストテレス
第 5 回：古代 (3) 古代ギリシャの医術
第 6 回：古代 (4) 古代アレクサンドリアの科学技術
第 7 回：中世イスラム圏とヨーロッパの科学
第 8 回：近世 (1) ルネサンスの三大発明 (1) 羅針盤と印刷
第 9 回：近世 (2) ルネサンスの三大発明 (2) 火薬
第10回：近世 (3) 絵画芸術
第11回：近世 (4) 天文学の革命 (1) コペルニクス
第12回：近世 (5) 天文学の革命 (2) ティコとケプラー
第13回：17 世紀 (1) ガリレオ (1) 機械学と運動学
第14回：17 世紀 (2) ガリレオ (2) 望遠鏡と宗教裁判
第15回：17 世紀 (3) 科学革命論
第16回：17 世紀 (4) ニュートン
第17回：18 世紀 (1) 啓蒙思想と博物学
第18回：18 世紀 (2) 江戸時代の日本の科学技術
第19回：19 世紀 (1)19 世紀の医学
第20回：19 世紀 (2) 医療技術
第21回：19 世紀 (3) ファラデー
第22回：19 世紀 (4) ダーウィン (1) 博物学者ダーウィン
第23回：19 世紀 (5) ダーウィン (2) 進化論
第24回：19 世紀 (6) ノーベルとノーベル賞
第25回：20 世紀 (1) アインシュタイン (1) 特殊相対性理論
第26回：20 世紀 (2) アインシュタイン (2) 一般相対性理論
第27回：20 世紀 (3) 寺田寅彦
第28回：20 世紀 (4) マリー・キュリー
第29回：まとめ
第30回：テストと解説

【事前および事後学習の指示】
科学的な話題に敏感であるように、ネットニュースや新聞での科学記事に注目すること。
講義に使用したパワーポイント画像は講義後に M-Port に提示されるので、復習に利用すること。

【テキスト】

【参考文献】
全体を通じての参考図書は、橋本毅彦『図説科学史入門』(ちくま新書 2016)。
各回にその回の話題についての参考図書を提示する。

【コメント】
合否判定は、複数回行われる小テストで決定される。
状況に応じてテストの形態は変化する可能性があるので、M-Port で確認すること。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
科学思想史　＜春集＞	**月 4/ 木 3**

【教員名称】
本間　栄男

【講義概要】
西欧近代を成功させ、今日の我々の文化にも重大な影響を与えているが、まだ充分に理解し、使用されているとは言いがたい「科学的な考え方」を歴史的実例を挙げて解説する。

【学習目標】
個々の科学に関する事実を暗記するのではなく、「科学的な考え方」を身につけることを目標とする。そのために、「科学的な考え方」とは何かを充分に理解し、それを応用して自ら問題を解くことができるようになることが目的である。

【講義計画】
第 1 回：イントロダクション
第 2 回：科学と神話
第 3 回：文字と思想
第 4 回：デカルトと方法
第 5 回：仮説演繹法概説 (1) 歴史的概観
第 6 回：仮説演繹法概説 (2) 実例
第 7 回：原理 (1) はじまり
第 8 回：原理 (2) 原理の性質
第 9 回：命題
第10回：定義
第11回：演繹推論
第12回：数学の公理系
第13回：懐疑 (1) 古代懐疑論
第14回：懐疑 (2) 近代懐疑論
第15回：コペルニクス革命
第16回：進化論革命
第17回：仮説
第18回：帰納推論
第19回：観察
第20回：アナロジー (1) アナロジーの意味
第21回：アナロジー (2) アナロジーの応用
第22回：組み合わせ
第23回：セレンディピティ
第24回：実験
第25回：検証
第26回：仮説実験演繹法 (1) 概論
第27回：仮説実験演繹法 (2) 具体例
第28回：革命
第29回：科学的な考え方と日常的な考え方
第30回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
科学的なものの考え方に鋭敏になるために、TV の科学番組などを積極的に視聴する。
講義で使用するスライド等は事前あるいは事後に M-Port に掲示するので、予習復習に利用すること。

【テキスト】

【参考文献】
伊勢田哲治『科学哲学の源流をたどる』ミネルヴァ書房　2018 年
金森修・井山弘幸『現代科学論』新曜社　2000 年
内井惣七　『科学哲学入門』世界思想社　1995 年

【コメント】
学期末の試験のみで成績を決めます。
試験の形式については、状況次第で変化するので、M-Port を確認してください。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
学科特殊講義 - 幕末の文化交流史　＜春＞	**火 2**

【教員名称】
日下　隆平

【講義概要】
この講義では西洋と日本との文化交流史を学んでいく。鎖国時代より、日本から漂流民に加えてヨーロッパへ使節団や留学生が派遣された。「博覧会」で彼らの見てきたものは何だったか。一方、19 世紀半ばよりペリー提督はじめ海外から使節が送られてきた。彼らの目的、日本の庶民は彼らに何を感じたのだろうか。幕末以降は多数の留学生が派遣され、産業技術に加えて文化面でも多大な影響を受け帰国した留学生は明治期の近代国家建設に貢献してきた。その中には海外渡航の禁止期間にイギリスに派遣された有力藩からの密航者もいた。また、明治政府に雇われ日本の文明開化に貢献した「お雇い外国人」も多い。例えば「君が代」の作曲者フェントン、建築家のコンドルなど多くの技術者、作家の小泉八雲などもいる。その一方で、文化面では、「パリ万国博覧会」以来、日本の美術はヨーロッパの工芸品や絵画に影響を与え「ジャポニスム」と言われた。現代では、さまざまな分野で西と東という構図は消えつつある。この講義では幕末期以降から明治維新までの東西の交流史を学ぶ。

【学習目標】
交流史を学ぶことは双方の文化理解に繋がる。19 世紀後半以降の西側社会と日本の交流史を学ぶことで日本の近代を知ることを学習目標とする。授業方針は前半は PPT による説明、後半では英文資料を読んでいく。すべて英語の資料に基づいて学んでいく。

【講義計画】
第 1 回：導入
1．講義の導入にあたり、授業の運営方針と成績評価についての説明。
2．講義全体の概要
天正遣欧使節団ー　近年発見された「伊東マンショの肖像画」の記事から
慶長遣欧使節 (17 世紀) 支倉常長、そして幕末期に至るまでの東西文化交流史の概略の説明
第 2 回：難破船で漂流した庶民の交流
Joseph Heco
ジョン・万次郎の帰国
『広八日記』から
第 3 回：リズリー一座 (Risley Troupes) についてー　最初のパスポートを得たのは「軽業師」だった。
パスポート第 1 号となる
第 4 回：ペリー提督の日本印象記『日本遠征記』からみた日本
瓦版に描かれたペリーや狂歌ー　庶民のペリー像
ペリーの日本観
第 5 回：密航イギリス留学生
密航した薩摩留学生ー　後にカリフォルニアのワイン王　長澤鼎の生涯をみる
第 6 回：『イラストレーティッド・ロンドン・ニューズ』『タイム』などに描かれた日本と日本人
・福沢諭吉のみたイギリス
・1863 年　生麦事件 (Richardson Incident) を New York Times の報道からみる。
・Anglo-Satuma War(薩英戦争) についての海外新聞報道 (Times から)
第 7 回：1867 年　「パリ万国博覧会」ー　渋沢栄一とサン・シモン主義
ブラックモンと浮世絵
ジャポニズムー日本の茶屋と芸妓
第 8 回：パリ万国博覧会ー浮世絵　2
イギリスのジャポニズムー　Anglo-Japanese Furniture
第 9 回：日本最初の移民団
明治 2 年 戊辰戦争に敗れ、会津からカリフォルニアへ渡った日本最初の「移民」ー　Wakamatu Colony(カリフォルニア) について、現地の日系新聞「羅府新報」の記事から読んでいく。
第10回：岩倉使節団 (1871-73) のみたヨーロッパ
「ウィーン万国博覧会」
第11回：明治のお雇い外国人たち
銀座煉瓦街を設計したウォートリス (Waters)
鹿鳴館を設計したジョサイア・コンドルー　その師弟辰野吾の設計した「東京駅」ー「ストリート建築事務所」へ留学
ジョン・フェントンの「君が代」
第12回：ラフカディオ・ハーン (小泉八雲) のみた日本と再話
「雪女」を例にみる
第13回：イギリスで知られた日本人
・博物学で『ネイチャー』に掲載された南方熊楠 (1867-1941)
・ロンドンの霧を描いた画家　牧野義男『霧のロンドン』
第14回：イギリス文学と日本
最初に英語による詩集を発行したヨネ・野口と世界的な彫刻家となった息子のイサム野口について
最初のモダンダンサー伊藤道郎は能「錦木」をノーベル賞作家にどのように教えたのか。
第15回：まとめ
小レポート作成 (授業配付資料を持ち込み可)

【事前および事後学習の指示】
事前学習　1 時間　　事後学習 2 時間
事後学習　M-Port 配付資料を読んでおく　2 時間

【テキスト】

【参考文献】
授業でトピックごとに指示。

【コメント】
小レポート (授業配付資料を持ち込み可) を最後の授業中に課題についてまとめ提出。(ただし、授業内容の趣旨に沿わぬレポートは無効。)
成績評価の「その他　30%」とは出席・授業態度等を指す。

【留意事項】

講義名称	曜時
学科特殊講義 - 宮崎アニメの世界Ⅰ　01 ＜春集＞	水 3/ 水 4

【教員名称】 英語による
取屋　淳子

【講義概要】
"Anime" (Japanese Animation) has become popular worldwide in recent years, and Miyazaki Hayao ranks among the most interesting and acclaimed directors because of the originality of his works.
This course will look at a number of Miyazaki's movies, including "My Neighbor Totoro" "Princess Mononoke," and "Spirited Away," from various angles. In addition to Miyazaki's works, other Japanese animated movies will also be taken up. The history of Japanese animation will also be surveyed, and a comparison will be attempted with animated movies outside Japan including those of the Disney company which are the most widely known.

【学習目標】
By focusing on a specific theme and work each time, the lectures will undertake a detailed study of Miyazaki Anime.
The course will not only examine the contents of the various works, but will also take up such topics as the historical background to the movies, the critical evaluation they received and the reaction of audiences worldwide.
Movies examined will include:
○ Miyazaki's Works: "Nausica of the Valley of the Wind", "My Neighbor Totoro", "Princess Mononoke", "Spirited Away", etc…
○ Other Anime Productions: "Haku-ja den", "Akira", "GHOST IN THE SHELL" etc.

【講義計画】
第 1 回：Introduction of the lectures
第 2 回：Introduction of the lectures
第 3 回：Starting point of Miyazaki Hayao ①
第 4 回：Starting point of Miyazaki Hayao ①
第 5 回：Starting point of Miyazaki Hayao ②
第 6 回：Starting point of Miyazaki Hayao ②
第 7 回：History of Japanese Anime ①
第 8 回：History of Japanese Anime ①
第 9 回：History of Japanese Anime ②
第10回：History of Japanese Anime ②
第11回：History of Japanese Anime ③
第12回：History of Japanese Anime ③
第13回：Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe ①
第14回：Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe ①
第15回：Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe ②
第16回：Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe ②
第17回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ①
第18回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ①
第19回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ②
第20回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ②
第21回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ③
第22回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ③
第23回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ④
第24回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ④
第25回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ⑤
第26回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ⑤
第27回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ⑥
第28回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ⑥
第29回：Review
第30回：Review

【事前および事後学習の指示】
詳細は講義中に指示するが、キーワードなど、自分なりの理解が深まるよう努力すること。

【テキスト】
There will be no textbook. Readings will be introduced during the course.

【参考文献】
Hayao Miyazaki：Starting Point 1979 ～ 1996　(2014)

【コメント】
Reaction paper and Term paper(in English).

【留意事項】
授業は英語で行われます。コメント表 (毎回の課題)、期末レポート、すべて英語で書いてもらいます。

社会人の方へ (聴講に際して)
この科目は英語での授業ではありますが、【英語を学ぶ】ものではなく、あくまでも日本文化であるアニメを客観的に分析して、英語でどう説明されているのか、などを学ぶのが目的です。
また、対面授業の場合は、アニメ (オリジナル音声・英語字幕) を視聴する時間が多いです。ご了承いただける方のみご受講ください。

講義名称	曜時
環境問題概論 [2]　＜春＞	土 5

【教員名称】 遠隔授業 (オンデマンド型)
巖　圭介

【講義概要】
気候変動、リサイクル、化学物質・・・、環境問題はすでに身近にあり、多くの人が漠然とした不安を持ちながら、しかし具体的に行動を起こすことなく毎日を送っている。私たちの生活の何がどのように問題なのか、多くの情報があふれかえる現在、信頼できる基礎知識を身につけ、それをもとに論理的に思考してこれからの自分の行動を決めていかねばならない。この講義では、世界の市民としてこれからの時代に責任をもって生きていくうえで必須と思われる、主要な環境問題に関する基礎知識を身につけてもらう。
なお、この講義は完全オンデマンド形式で行う。毎週公開される講義動画を視聴した上で、その都度出題される小テストや小課題等を期限までに回答し、また不定期に課される課題も期限内に提出することが求められる。質問や感想、リクエスト等には M-Port 上で随時回答する他、授業動画内でも取り上げていくことでできるだけ双方向性を確保していきます。

【学習目標】
主要な環境問題 (気候変動、エネルギー問題、大気汚染、ゴミ問題、人工化学物質汚染、食糧問題) について、起きている問題の内容とその原因を説明できるようになる。

【講義計画】
第 1 回：イントロダクション：持続不可能な地球
第 2 回：気候変動 1：現状と原因
第 3 回：気候変動 2：国際取り組み
第 4 回：気候変動 3：エネルギー問題
第 5 回：大気汚染と酸性雨
第 6 回：ゴミ問題 1：基本の枠組みと現状
第 7 回：ゴミ問題 2：産業廃棄物
第 8 回：ゴミ問題 3：リサイクル
第 9 回：化学物質汚染 1：負の遺産
第10回：化学物質汚染 2：ダイオキシン
第11回：水質汚染
第12回：生態系の破壊
第13回：食糧問題
第14回：気候変動 4：私たちの生活と気候変動
第15回：まとめ：地球の限界と持続可能性

【事前および事後学習の指示】
動画視聴の退屈を軽減するため穴埋め資料 (Word ファイル) を用意するので、授業前にダウンロードしておき空欄を埋めながら視聴してもらい、随時疑問に思うことなどノートをとり、授業後に復習すること。期末のテストでは全範囲にわたる出題をするので、資料を完成させ整理しておくことが大切である。日常目にする環境関連のニュースなどをチェックし、常に情報をとりいれるとともに授業内容との関連などについて考え、必要に応じて質問や情報提供をしてほしい。

【テキスト】

【参考文献】
環境省編『令和 5 年版 環境・循環型社会・生物多様性白書』(Web 版)、東京商工会議所『ECO 検定公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター 2023、遠山益『人間環境学』裳華房 2001、安井至『市民のための環境学入門』丸善ライブラリー 1998、他、適宜紹介する。

【コメント】
受講確認を兼ねた小テストや小課題を毎回 M-Port 機能を使って課す (提出期限は基本的に翌週の授業まで)。さらに期末には全範囲について理解度確認テストを行うので、毎回配布される資料の空欄をすべて埋めて整理しておくことを勧める。また気候変動とゴミ問題については簡単なまとめ課題を課す。
双方向性を確保するため、情報提供を歓迎する。内容によってボーナスポイントを付与する。

【留意事項】
農水省の研究所で勤務経験のある教員が、その経験を活かして、温暖化や化学物質、水資源と、食糧問題を含む社会の持続可能性について講義する。
この講義では現状の問題を紹介するにとどまるが、解決策などについては姉妹科目である「サステイナビリティ論」を続けて受講することをお勧めします。

社会人の方へ (聴講に際して)
本科目は完全オンデマンド型での開講となります。リアルタイムでのやりとり、対面での受講はできませんので予めご了承ください。

講　義　名　称	曜　時
観光英語 A　＜春＞	**金 2**

【教員名称】
平田　和彦

【講義概要】
日本政府観光局 (JNTO) によると、日本を訪れる外国人旅行者の数は年1000 万人を超えている。このような社会情勢をふまえ、私たちは自国の文化・歴史などを習得し、それらを英語で紹介できるようにならなければならない。この授業では専門のテキストを使用し、これらに対しての造詣を深めていく。

【学習目標】
英語の学習を通し、日本の文化・歴史を国際社会にアピールできるようなることを目指す。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション＆ Chapter 1 Japan's Top Three Castles(1)
第 2 回：Chapter 1 Japan's Top Three Castles(2)
第 3 回：Chapter 1 Japan's Top Three Castles(3)
第 4 回：Chapter 2 Japan's Top Three Festivals(1)
第 5 回：Chapter 2 Japan's Top Three Festivals(2)
第 6 回：Chapter 2 Japan's Top Three Festivals(3)
第 7 回：Chapter 3 Japan's Top Three Mountains(1)
第 8 回：Chapter 3 Japan's Top Three Mountains(2)
第 9 回：Chapter 3 Japan's Top Three Mountains(3)
第10回：Chapter 4 Japan's Top Three Oldest Hot Springs(1)
第11回：Chapter 4 Japan's Top Three Oldest Hot Springs(2)
第12回：Chapter 4 Japan's Top Three Oldest Hot Springs(3)
第13回：Chapter 5 Japan's Top Three Gardens(1)
第14回：Chapter 5 Japan's Top Three Gardens(2)
第15回：Chapter 5 Japan's Top Three Gardens(3) ＆まとめ

【事前および事後学習の指示】
必ず予習し、設問に答えておくこと。

【テキスト】
Touring Japan in English
Toshiyuki Sakabe
978-4-523-17788-3 NAN'UN-DO

【参考文献】
授業時に適宜紹介する。

【コメント】
「その他」…授業最終回のまとめ課題。

【留意事項】
社会人の方へ (聴講に際して)
授業中は学生への対応が第一優先となりますので、ご質問や発言等はご遠慮ください。
学生の知識と能力を高めることが授業の第一目的であることを、ご理解ご了承いただける方のみ聴講をお願いいたします。
なお、ご質問等は授業前後の空き時間にお伺いします。

講　義　名　称	曜　時
観光ビジネスの理論と実践 I　＜春＞	**木 2**

【教員名称】
福田　晴仁

【講義概要】
本講義では、まず観光とはどのような行為を指すのか、その定義を説明します。次に講義の前半では、観光ビジネスは第 3 次産業に分類されるサービス業の一形態であることを説明したうえで、第 3 次産業およびサービス業について講義します。そして講義の後半では、観光ビジネスの種類、特質について説明するとともに、代表的な観光ビジネスである旅行業についても取り上げます。なお、視聴覚教材についても講義中に随時利用する予定です。

【学習目標】
・観光の定義と特質を理解する。
・観光ビジネスは第 3 次産業に分類されるサービス業の一形態であることを理解する。
・旅行業の今後の課題を考えることができるようになる。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：観光の定義
第 3 回：観光略史
第 4 回：サービス業の一形態としての観光ビジネス 1―サービス業の定義
第 5 回：サービス業の一形態としての観光ビジネス 2―サービス業の性質
第 6 回：サービス業の一形態としての観光ビジネス 3―第 3 次産業の拡大 (1)
第 7 回：サービス業の一形態としての観光ビジネス 4―第 3 次産業の拡大 (2)
第 8 回：これまでの復習と中間試験
第 9 回：観光ビジネスの種類
第10回：観光の性質 1―経済理論からのアプローチ
第11回：観光の性質 2―事業運営上の特質
第12回：旅行業 1―定義と区分
第13回：旅行業 2―旅行業の発展
第14回：旅行業 3―近年の動向
第15回：授業のまとめと期末試験

【事前および事後学習の指示】
(事前学習) 講義中に指示した参考書、インターネット・新聞・雑誌等の観光分野に関する記事を熟読し、内容を理解した上で授業に臨むこと。受講生がこれを行なっていることを前提に授業を進めます。
(事後学習) 講義終了後は、試験に備えて講義で学んだ内容を復習すること。

【テキスト】

【参考文献】
北川宗忠 編著 [2009]『現代の観光事業』ミネルヴァ書房。
谷口知司 編著 [2010]『観光ビジネス論』ミネルヴァ書房。
木谷直俊 [2013]『観光ビジネスの基礎』創成社。
高橋一夫・柏木千春 編著 [2016]『1 からの観光事業論』碩学舎。
中村忠司・王静 編著 [2019]『新・観光学入門』晃洋書房。
その他講義中に随時指示します。

【コメント】
試験は中間試験 50 点、期末試験 50 点とします。

【留意事項】

講義名称	曜時
管理会計 A　＜春＞	**金 2**

【教員名称】
山田　伊知郎

【講義概要】
会計学を用いる目的によって分類すると、組織外部への報告を目的とする財務会計と、組織内部での利用を目的とする管理会計に分けることができる。組織内部で会計を利用しようとする管理会計は、経営戦略や業務計画の立案・実行に関する意思決定に深く関係するシステムである。さらに、組織構成員に組織の目標などを何がどの程度求められるのかを明らかにすることによって、人を動かす影響システムとして働く。
授業では、管理会計に関する基本的な考え方と基礎知識を提供する。その後、いくつかのテーマに沿ってケースを取り上げ、より具体的なイメージがわくような工夫をする。

【学習目標】
組織の中に存在する仕組み・システムがどのように成り立っているのかを具体的に理解する。また、仕組み・システムが作られた時の状況に依存し、環境の変化に応じて再構築を必要とされることを理解することを目的とする。
管理会計の基礎知識を獲得すると同時に、受講生自身が興味を持ったいくつかのトピックスについて、深く理解し、自分の言葉で人に説明できるようになることを達成目標とする。

【講義計画】
第 1 回：管理会計とは (イントロダクション)　会計全体を概括したうえで、管理会計の位置づけを明確にする。管理会計と競争力の関係を説明する。
第 2 回：組織の管理会計 (1) 組織図と機能
第 3 回：組織の管理会計 (2) コストセンターとプロフィットセンター
第 4 回：予算管理 (1) 予算の編成
第 5 回：予算管理 (2) 予算の弊害
第 6 回：伝統的コストマネジメント
第 7 回：伝統的コストマネジメントの問題点の整理
第 8 回：直接原価計算
第 9 回：CVP 分析
第10回：設備投資の意思決定 (1) 経済性分析
第11回：設備投資の意思決定 (2) 差額原価収益性分析
第12回：マネジメントコントロールシステム (1) 企業価値を高める
第13回：マネジメントコントロールシステム (2) 指標によるコントロール
第14回：業績管理
第15回：戦略利益の評価、まとめ

【事前および事後学習の指示】
授業の開始前に、テキストを一読しておくことをお勧めします。

【テキスト】
日経文庫　管理会計入門第 2 版 加登豊
978-4-532-11369-8C1234 日本経済新聞社

【参考文献】
谷武幸著 (2011)『エッセンシャル管理会計　第 2 版』、中央経済社

【コメント】
M-Port を通じて課題を提示します。課題の可否により、成績評価を行います。
講義中における質問は歓迎します。理解を深めるために有用であった質問を行った学生には加点を行います。

【留意事項】
医薬品企業の経営企画部・開発部経営管理部に所属し、予算管理・経理部門を経験・担当した教員が講義を行う。
コストマネジメントなどの授業中、計算原理を説明した後、簡単な例を用いて計算方法を確認します。電卓などを持参してください。

講義名称	曜時
教育学概論　01 ＜春＞	**月 5**

【教員名称】
谷塚　巌

【講義概要】
教育は誰でも経験しており、誰でも教育について語ることができる。しかし、あらためて「教育とは何か？」と問われると、答えに窮してしまう。この講義では、「教育とは何か？」という問いを念頭に置きつつ、教育理念を歴史的・思想的に考察する。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変遷してきたのかを考えていく。

【学習目標】
①教育の基本概念を歴史的・思想的に理解する。
②教育史に関する基本的知識を身につけ、それと教育理念との関係を理解する。
③さまざまな教育思想を理解し、それと教育理念との関係を理解する。
④教育の現状と課題とを理解し、あるべき教育について考えることができる。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：教育の基礎理論①：教育とは何か
第 3 回：教育の基礎理論②：教育の意義
第 4 回：教育の基礎理論③：教育の目的
第 5 回：教育の基礎理論④：子ども観の変遷
第 6 回：教育の基礎理論⑤：近代学校の誕生
第 7 回：教育の基礎理論⑥：教師像の類型
第 8 回：教育の基礎理論⑦：家庭と教育
第 9 回：近代の教育思想①：実学主義の教育思想
第10回：近代の教育思想②：啓蒙主義の教育思想
第11回：近代の教育思想③：市民社会の教育
第12回：現代の教育理論①：デューイの教育思想
第13回：現代の教育理論②：20 世紀の教育理論
第14回：現在の教育課題：生涯学習の思想
第15回：まとめ (今後の教育を考える)

【事前および事後学習の指示】
事前学習：授業内で指示された文献の所定の箇所を講読する。
事後学習：授業資料をよく読む。

【テキスト】
哲学する教育原理 伊藤潔志
978-4909378118 教育情報出版

【参考文献】
参考文献についは授業内で適宜紹介する。

【コメント】
「レポート」70%と、「授業課題」30%で評価する。
いずれも、M-Port を通して提出する。
＊詳細は授業内で説明する。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
教育社会学 A　＜春＞	**木 1**

【教員名称】
山内　乾史

【講義概要】
本授業は、教育の世界で起きる諸問題を社会学的視点から捉えていく方法について検討することを目的とします。教育は自己完結的な閉じたシステムではなく、政治・経済他の社会システムと密接な関わりを持つシステムであり、それ故に教育の世界だけを見つめるのではなく、巨視的な分析方法が必要とされます。本授業では、欧米との比較 (特にアメリカ合衆国とイギリス) を通じて、また明治維新以降の流れを歴史的に振り返ることを通じて、現代日本の教育に起きる諸問題を解説していきます。また、発展途上国の教育問題もアジア、特にインドを中心にしてお話しします。

【学習目標】
教育を社会学的にとらえるとはどういうことなのかというものの考え方を習得することを本講義は目標とします。そのために、さまざまな諸外国の教育を取り上げ、比較することによって、日本社会の普遍性と特殊性について考えることを講義の中心にしています。講義は多人数になることが予想されますし、海外の教育について語る機会が多いため、映像による資料提示が多くなることと思います。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション
「教育社会学」とは何を論じる授業か
第 2 回：豊かさを目指して―高度経済成長と受験競争の大衆化、過熱化―
第 3 回：高学歴はなぜ尊重されたのか―教育投資論、スクリーニング仮説、統計的差別理論―
第 4 回：エリート教育と才能教育
第 5 回：日本の教育経費―授業料・奨学金政策―
第 6 回：高学歴者過剰問題について考える
第 7 回：大学と学生文化の変遷
第 8 回：アメリカ合衆国の教育と社会の関係 (その 1)―スプートニクショックと公民権運動―
第 9 回：アメリカ合衆国の教育と社会の関係 (その 2)―ヘッド・スタート・プロジェクトと多文化教育―
第10回：アメリカ合衆国の教育と社会の関係 (その 3)―ビル・クリントン政権下のチャータースクール―
第11回：アメリカ合衆国の教育と社会の関係 (その 4)―ジョージ・ブッシュ政権下のチャータースクール―
第12回：道徳教育の課題
第13回：校則問題について
第14回：いじめ問題について
第15回：まとめと「『到達度・理解度』の確認」

【事前および事後学習の指示】
事前学習：授業時に配布する資料に、テキスト中の該当箇所と参考文献を毎回挙げてあるので、目を通しておいてください。
事後学習：毎回の授業時に課題を 3 ～ 5 題掲げます。それを各自テキストと参考書を使って自習しておくようにしてほしいと思います。

【テキスト】
「学校教育と社会」ノートー教育社会学への誘い―(第三版) 山内乾史
9784762029325 学文社
必ず用意すること

【参考文献】
原清治・山内乾史編 (2019)『教育社会学 (新しい教職教育講座　教職教育編③)』ミネルヴァ書房
山内乾史 (2020)『「大学教育と社会」ノート―高等教育論への誘い―』学文社

【コメント】
試験については、第 15 回授業時に行う「『到達度・理解度』の確認」をもって代えます。「『到達度・理解度』の確認」は教科書のみ持ち込み可 (書き込み可) にする予定です。必ず用意してください。「その他」は授業終了時に課すミニッツ・ペーパーの提出回数と内容に応じて評価します。

【留意事項】
毎回、A 4(あるいはA 3) で表裏 (あるいは片面のみ) にプリントした資料 1 枚を配付します。それに参考文献などをあげてありますので、確認しておいてください。欠席した回のプリントはメールで請求されれば必ず添付でお送りします。
また教材としてビデオを多用します。ほぼ毎回見ていただきます。視力に問題がある方は教室前方に、あるいはモニターが見えやすい位置にお座りください。

講　義　名　称	曜　時
教育心理学　01 ＜春＞	**木 5**

【教員名称】
小松　佐穂子

【講義概要】
教育心理学の主要テーマである幼児、児童および生徒の心身の発達と学習の過程について、はじめに、発達に関する教育心理学理論や研究成果を概観する。次に、学習に関する理論や研究成果を概観し、各発達段階の心理的特性に対応した主体的学習を支える指導上の基礎理念について、学校教育との関連に基づき論じる。そのうえで、教師に求められる深い見識とそこから導き出される適切な教育的指導および支援の在り方とはどのようなものかを考察する。

【学習目標】
【テーマ】
幼児・児童・生徒の心身の発達および学習の過程
【授業の到達目標】
(1) 幼児・児童・生徒の心身の発達過程の様相と特徴について、発達概念・発達段階・発達過程等の教育心理学理論やその研究成果を学んで基礎的知識を習得し、定型発達および障害に関する具体的な内容を理解している。
(2) 幼児・児童・生徒の学習過程の様相と特徴について、学習概念・動機づけ・授業形態・学習指導・教育評価等の教育心理学理論やその研究成果を学んで基礎的知識を習得し、各発達段階の心理的特性に対応した主体的学習を支える指導上の基礎理念を理解している。

【講義計画】
第 1 回：教育心理学の授業を始める前に (授業の概要・課題・到達目標)
第 2 回：発達の基礎概念
第 3 回：発達段階理論
第 4 回：乳幼児期における心身の発達
第 5 回：児童期・思春期における心身の発達
第 6 回：青年期における心身の発達
第 7 回：適応と障害の理解
第 8 回：学習の基礎理論
第 9 回：学習と記憶
第10回：学習の動機づけと学習意欲
第11回：授業形態と学習指導
第12回：学級集団の理解
第13回：教育評価の方法
第14回：教室の内外での「主体的・対話的で深い学び」
第15回：まとめ (幼児・児童・生徒の心身発達の過程およびその特性に応じた学習指導の在り方)

【事前および事後学習の指示】
・授業情報 (授業課題、レポート課題など) は、M-Port を通じて提供する。授業の前後にそれらの情報を確認し、課題提出および予習・復習・発展学習のために役立てること。

【テキスト】
テキストは使わないが、スライド (パワーポイント)、インターネット、DVD 教材、印刷物などを通じて授業に必要な資料を提供する。

【参考文献】
・鎌原雅彦・竹綱誠一郎 (著)　『やさしい教育心理学』(第 5 版) 有斐閣
・子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司 (著)　『教育心理学』(第 3 版) 有斐閣
・多鹿秀継 (著)　『教育心理学 (第 2 版)―より充実した学びのために』サイエンス社
・文部科学省　『中学校学習指導要領』(2017 年 3 月告示)
・文部科学省　『高等学校学習指導要領』(2018 年 3 月告示)

【コメント】
①授業ごとにその内容に関するコメントの提出を求め (M-Port を通じウェブ提出)、主体的・積極的な授業への参加の程度を評価する (20%)。
②加えて、学期の中間点でレポート課題を指示し、M-Port を通じファイル提出を求める (40%)。
③および、学期末にレポート課題を指示し、M-Port を通じファイル提出を求める (40%)。
④それらの結果に基づき、修得した知識および論理的な思考力・表現力について総合的に評価を行う。

【留意事項】
・この授業は、教職課程の必修科目の一つとして開講されている。教員養成に特化された専門的なテーマが扱われ到達目標も高く設定されているため、日常的な学習努力とその積み重ねを必要とする。安易な気持ちで履修登録を行わないよう留意すること。
・課外活動として、スクールサポーター、学校ボランティアなどがある。教育現場でのさまざまな体験を通して、授業で修得した知識を実践的に確認することができるので、機会を見つけ積極的に参加してほしい。

講　義　名　称	曜　時
金融論Ⅰ　＜春＞	**木３**

【教員名称】
井田　大輔

【講義概要】
金融論Ⅰでは、金融の基礎について学びます。具体的に、貨幣や金利の役割について学んだ後に、金融機関の役割について考えます。これらの諸概念を理解することで、現実の金融問題への理解を促します。また、今後の金融の役割に関しても議論を展開します。

【学習目標】
金融現象を理解するための基礎的な観点に立ち、現実の金融の動きを自身で理解する力を獲得し、向上させることを目標とします。

【講義計画】
第１回：イントロダクション（講義内容の説明、成績評価などのガイダンス）
第２回：金融とは
第３回：貨幣の役割
第４回：金利の役割
第５回：金融取引にまつわる諸問題
第６回：金融機関の役割①：銀行
第７回：金融機関の役割②：証券、保険
第８回：金融市場
第９回：様々な金融商品
第10回：ポートフォリオ理論入門①：平均分散アプローチ
第11回：ポートフォリオ理論入門②：効率的フロンティア
第12回：デリバティブ入門
第13回：中央銀行の役割
第14回：国際金融入門
第15回：まとめと今後の展望について

【事前および事後学習の指示】
詳細は講義中に指示するが、理解を深めるための予習・復習に努めること。

【テキスト】
教科書は使用しません。資料を配布する予定です。

【参考文献】
内田浩史『金融』有斐閣
鎌田康一郎『金融論』新世社
小林照義『金融政策』中央経済社
福田慎一『金融論』有斐閣
家森信善『金融論』中央経済社

【コメント】
５回の小レポート（小テスト）50% と期末レポート 50% の計 100% で成績を総合的に評価します。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
経営学Ａ　01 ＜春＞	**木３**

【教員名称】
小嶌　正稔

【講義概要】
企業社会を理解するために不可欠な基礎的な知識・情報・スキルを身につけるための、経営学の初学者向けの講義です。まず現代の企業活動を、経営学を通して理解した上で、企業社会の中でどのようにキャリアを作り上げていくのかを考えていきます。小嶌の経営学Ｂ（秋）とセットで受講すると学習効果が高まります。

【学習目標】
1. 経営学に関する基礎的な用語と理論を理解し説明できる。
2. 具体的な企業の活動を経営学の用語や理論を使って説明できる。
3. 経営学の基礎用語や理論を企業の事例を使って説明できる。

【講義計画】
第１回：講義の進め方（事前学習の進め方、講義への参加の仕方、講義の流れ・進め方）を説明します。
第２回：企業経営の全体像
①経営学の研究対象とは、②企業の目的、③経営資源とは、④企業活動について、⑤付加価値と利益の違い
第３回：企業の全体像
①組織のマネジメントとは、②経営学とは何か、③ステークホルダー、④コアコンピタンス、⑤コーポレートガバナンス
第４回：経営学とは何か
①アーネストダルコーのビジネスモデルから経営学の役割を考える
第５回：会社と企業 (1)
①会社の誕生（世界編）、②近代的株式会社、③機関投資家の登場と役割
第６回：会社と企業 (2)
①法人と個人、②なぜ機関が必要なのか、③株主と株式、④株主構成の変化を見てみよう（トヨタ自動車の株主構成の変遷を調べてみる）
第７回：企業のインプット (1)
①資金調達の手段、②証券会社と証券市場、③銀行グループと企業グループ
第８回：前半の理解度テストと講義のまとめ（用語の整理）
第９回：企業のインプット (2)
①資本政策、②上場と上場基準、③投資家（銀行）、④ベンチャーキャピタル、⑤エンジェル
第10回：企業のアウトプット (1)
①戦略とは何か、②戦略のレベルと視点、③富士フィルムを題材に考えてみよう（ケース）
第11回：企業のアウトプット (2)
①組織は戦略に従う（チャンドラー）、②戦略は組織に従う（アンソフ）、③バーナードの組織要素
第12回：企業と市場環境
①環境分析の位置づけ、②マクロ環境分析、③市場環境分析、④競争環境分析とポジショニング、⑤ SWOT 分析
第13回：企業と消費者
①消費者の理解、②知覚リスク、③購買者特性
第14回：競争戦略のマネジメント
①競争戦略とは、②ソフトバンクのケースで考えてみよう、③差別化とは何か、④競争相手はだれか（市場範囲と競争分析）⑤コストコの強みはどこから来るのか（ケース）
第15回：後半の理解度テストと講義のまとめ

【事前および事後学習の指示】
事前学習　レジュメをダウンロードし、参考文献などで指定された箇所を読み、重要な用語を事前学習すること。この学習には、毎回２時間×15 回＝ 30 時間を必要とする。また事後学習として、講義で説明された内容を確認、理解すること。この学習には、毎回２時間× 15 回＝ 30 時間を必要とする。

【テキスト】
経営学広義のレジュメ 小嶌正稔

【参考文献】
加護野忠男，吉村典久（著）『一からの経営学』中央経済社
入門・初学者向け参考書
伊丹敬之、加護野 忠男（著）『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社
興味を持った学生が項目ごとに自習できます。

【コメント】
試験はすべて講義の内容的な区切りの最後に行う「理解度テスト」(M-Port のテスト機能）の得点率の平均で行います。
進行状況によりますが、５～７回行います。
成績は得点率の平均が素点となります。講義に積極的に参加し、発言や質問をしたものには、発言点を追加します。発言点は、該当する講義の理解度に加算します。
毎回レジュメを配布します。テキストは使用しません。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
経営学 A　02 ＜春＞	**月 1**

【教員名称】
齋藤　巡友

【講義概要】
経営学とは、企業経営に係る現象を解き明かすための学問である。経営学が生み出した知識や理論は、企業経営に直接的に関与する人にとって不可欠なだけでなく、企業と個人の関わりが強い現代においては殆ど全ての人にとって有用なものとなるであろう。本講義では、経営学を初めて学ぶ人を主な対象として、全体像がつかめるように経営学における重要な概念や理論を説明していく。その際、適宜事例をとりあげて説明することによって、それらの概念や理論が現実の企業経営を読み解くうえでどのように利用できるのかを実感してもらう。

【学習目標】
本講義の学習目標は以下の通りである。
1．経営学がどのような学問であるかを理解する
2．経営学の基礎的な知識・概念を自分の言葉で説明できるようになる。
3．新聞・雑誌で報道される企業経営に関するニュースを経営学の理論を用いて自分なりに解釈できるようになる。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション：授業内容や授業方針、成績評価について
第 2 回：経営学とは
第 3 回：企業の定義とその特徴
第 4 回：株式会社について
第 5 回：経営戦略 1：企業戦略と事業戦略
第 6 回：経営戦略 2：環境・資源分析
第 7 回：経営戦略 3：競争戦略 (基本戦略)
第 8 回：経営戦略 4：競争戦略 (市場地位別の戦略)
第 9 回：経営戦略 5：多角化戦略
第10回：経営組織 1：組織の設計
第11回：経営組織 2：組織の形態
第12回：経営組織 3：組織文化
第13回：経営組織 4：組織学習
第14回：経営組織 5：モチベーションとリーダーシップ
第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
事前学習としてテキストの該当箇所を読んでくること (該当箇所は講義時に指定する)。事後学習においては、講義で扱った概念や理論の復習を行うとともに、それらの概念や理論を用いて解釈することができる事例を自分で探してみること。

【テキスト】
ケースに学ぶ経営学〔第 3 版〕東北大学経営学グループ
978-4-641-18448-0 有斐閣

【参考文献】
適宜指示する。

【コメント】
①到達目標に対応する試験を期末に実施する。試験では、経営学の基礎的な知識や概念の理解度を確認するための問題を短答式・記述式を組み合わせた形式で出題する。成績評価における点数配分は 70%
②授業内容の理解度を確認するための小課題・小テストを授業期間中に複数回出題する。点数配分は 30%
※なお、講義に対して積極的に参加 (講義中に発言するなど) している学生には別途加点する。

【留意事項】
第 1 回の授業時に受講するうえで重要な情報 (授業運営の方針、成績評価等) を説明するため、初回授業への参加を本講義の履修の前提とする。やむを得ない事情により出席できない場合や遅刻する場合は必ず事前に担当教員に連絡すること。
※第 1 回目の授業に無断で欠席または遅刻した場合、本講義の履修を認めない可能性もある。
本講義は経営学 B02 の講義内容の前半部分に相当するものである。担当教員が異なるクラス (講義名称の末尾の数字が異なる) の「経営学 B」とは内容に連続性がない場合があるので、履修の際は十分に注意すること。

講　義　名　称	曜　時
経営学 A　04 ＜春＞	**火 3**

【教員名称】
三輪　卓己

【講義概要】
経営学は企業などに代表される組織のマネジメントについて考える学問である。市場において競合企業と戦い、利益を得るためのマネジメントだけでなく、組織活動を通じて社会に貢献し、そこで働く (関与する) 人の幸福を追求するマネジメントを考えることが大きな特徴である。現代社会ではほとんどの人が何らかの組織活動に参加しており、そこにおいて生活の基盤を築いている人も多い。経営学はそれらすべての人たちに有益な学問であるし、これからの社会を考えるうえでも重要な学問だと言える。
この講義では特に経営戦略とそのための組織づくりや組織変革に焦点を当てた議論を行う。

【学習目標】
1. 経営学に関する基礎的な用語と理論を理解し説明できる。
2. 具体的な企業の活動を経営学の用語や理論を使って説明できる。
3. 経営学の基礎用語や理論を企業の事例を使って説明できる。

【講義計画】
第 1 回：企業組織とマネジメント
企業組織の活動の概要を学んだうえで、どのような経営資源が必要になるのか、またその資源を活かすためにどのようなマネジメントが必要になるのかを解説する。
第 2 回：経営戦略の内容とその意義
経営戦略の概略を学んだうえで、戦略に関わる二つの考え方 (ポジショニングと資源ベースビュー) を比較し、それぞれの意義を考察する。
第 3 回：企業戦略
全社的な経営戦略について学ぶ。企業がどのような事業領域 (ドメイン) を定め、市場や社会と関わるのかが主なテーマとなる。
第 4 回：事業 (競争戦略) 戦略
企業が取り組む各事業において、競合他社とどう戦うかについて、コストリーダーシップ、差別化、集中などの戦略類型をあげながら解説する。
第 5 回：経営戦略のケーススタディ
実際の経営戦略の企業事例を見て、それをこれまで学んだ理論を使って考察する。
第 6 回：組織構造
経営目標や経営戦略を実現するための組織づくりについて、組織デザインの基本的考え方や、職能別組織や事業部制等の代表的な組織の形を見ることを通して学ぶ。
第 7 回：作業組織
具体的に業務を執行するための作業組織について、その基本的な考え方と、日本独特と言われている組織特性について学ぶ。
第 8 回：職務設計
組織の中で各個人が担当する職務の設計を通して、生産性やモチベーションを向上させるための理論について解説する。
第 9 回：企業活動の国際化
企業活動が国際的になるプロセスや、国際化した場合に現れる企業の課題や日本企業の問題点について解説する。
第10回：グローバル経営のケーススタディ
実際のグローバルの企業事例を見て、それをこれまで学んだ理論を使って考察する。
第11回：新製品開発とイノベーション
企業の持続的成長のために必要な新製品開発やイノベーションについて、各業界の特徴やそれを支えるマネジメントについて学ぶ。
第12回：経営理念と組織文化
経営理念、ならびに企業で働く人たちに共有された思考様式 (文化) にはどのようなものがあり、どんな意義があるのかを学ぶ。
第13回：組織学習と知識創造
個人ではなく組織で学ぶということ、また組織的に新しい知識を創り出すことについて、そのプロセスや経営上の意義を考察する。
第14回：イノベーションのケーススタディ
実際のイノベーションの企業事例を見て、それをこれまで学んだ理論を使って考察する。
第15回：まとめ
全体を振り返り、ポイントの整理と今後に向けての展望を行う。

【事前および事後学習の指示】
第 1 回～第 5 回
(事前学習) テキスト第 1 章、第 2 章、第 4 章を読んで疑問点等をまとめておくこと
(事後学習) 配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
第 6 回～第 10 回
(事前学習) テキスト第 5 章～第 7 章、第 14 章を読んで疑問点等をまとめておくこと
(事後学習) 配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
第 11 回～第 15 回
(事前学習) 講義の中で示す資料を見て疑問点等をまとめておくこと
(事後学習) 配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること

【テキスト】
経験から学ぶ経営学入門　第 2 版 上林憲雄・奥林康司・團泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林明　978-4641184435 有斐閣ブックス

【参考文献】

【コメント】
最終レポートとケーススタディでの発表を中心に評価する。それに授業中での発言や質問、ならびに授業後の質問メール等による加点を行う。

【留意事項】
企業の人事スタッフ、ならびに組織人事の経営コンサルタントの実務経験を授業に反映させる。

社会人の方へ (聴講に関して)
予習用の動画を事前に見ていただきますので、PC 等が必要になります。

講義名称	曜時
経営学史Ａ　＜春＞	**金２**

【教員名称】
野田　俊範

【講義概要】
経営学は、ドイツとアメリカにおいて 20 世紀初頭に成立した若い学問であり、これら両国および日本において、今日までめざましい発展を遂げてきた。日本における経営学は、ドイツ経営学を骨とし、アメリカ経営学を肉として発展してきたと言われるが、特に学問としての経営学の体系や方法論などの点で、ドイツ経営学によって多大の影響を受けてきたのである。
本講義では、そのドイツ経営経済学の生成・展開の歴史を概観し、主要な理論傾向について概説するとともに、今後の発展の方向について考えることとしたい。経営経済学の歴史を学ぶことを通じて、今日世界の経営学で主流をなしているアメリカ流の経営管理学とは違う、経営学の今ひとつの可能性を知ってほしい。

【学習目標】
1. ドイツ経営経済学の生成・展開の歴史を学ぶ。
2. ドイツ経営経済学の今後の発展の方向について考える。
3. 学説と、その学説の歴史的・社会的背景との関連に注目する。

【講義計画】
第１回：はじめに
　　－経営学史研究の意義と課題
第２回：私経済学の成立 (1)
　　－ドイツ帝国の成立と経済の発展
第３回：私経済学の成立 (2)
　　－商科大学設立運動
第４回：私経済学の成立 (3)
　　－私経済学の樹立と私経済学論争
第５回：私経済学の成立 (4)
　　－私経済学の成立
第６回：経営経済学の確立 (1)
　　－ヴァイマール共和国の成立と経営経済学
第７回：経営経済学の確立 (2)
　　－経営民主主義と経営経済学
第８回：経営経済学の確立 (3)
　　－産業合理化と経営経済学
第９回：経営経済学の展開 (1)
　　－西ドイツ経済体制の展開
第10回：経営経済学の展開 (2)
　　－社会的市場経済と経営経済学
第11回：転換期の経営経済学 (1)
　　－社会的市場経済の動揺
第12回：転換期の経営経済学 (2)
　　－経営経済学の多様化
第13回：現代の経営経済学 (1)
　　－現代ドイツにおける経済的・社会的状況
第14回：現代の経営経済学 (2)
　　－経営経済学の新たな展開
第15回：おわりに

【事前および事後学習の指示】
適宜指示する。

【テキスト】

【参考文献】
若尾祐司／井上茂子編著『近代ドイツの歴史』ミネルヴァ書房、2005 年。
海道ノブチカ／深山明編著『ドイツ経営学の基調』中央経済社、1994 年。
その他、必要に応じて適宜指示する。

【コメント】
成績評価は、対面で実施する試験により行う。
最終試験を、授業最終回または授業期間終了後の授業予備日のいずれかに 1 回実施する。これとは別に、授業中に予告なしで (抜き打ちで) 小テストを 1 回ないし 2 回実施する。
成績評価の比重は、最終試験 90%、小テスト 10%とする。
ただし、何らかの理由により試験を対面で実施することが困難な場合は、試験に代えて課題レポートを課し、これによって成績評価を行う。詳細については、授業中に告知する。

【留意事項】

講義名称	曜時
経営史Ａ　＜春＞	**月２**

【教員名称】
小嶌　正稔

【講義概要】
経営史は、企業の経営の仕方がどのように発展し変わってきたかを扱っています。その経営の仕方の視点は、個別企業を分析する視点、企業家的 (企業家活動的) 視点、企業のスタートアップ (誕生)・事業の創造、産業の形成などの視点があり、地域を日本やアメリカに限定するもの、地域間比較するなどさまざまです。この講義では、多様な視点から、現在の企業と企業社会が作られてきた過程を史的に考察することで、現在の企業社会の仕組みを理解することを目的にします。
講義は個別企業のケースとそれを題材にした学習テーマから構成されます。企業の経営や時代を理解するため、関連した映像資料などによって、過去の経営状況や経営環境を理解した上で、講義では考えながら企業の経営について学びます。

【学習目標】
1. 企業の経営上の課題を、時代背景とともに説明できる。
2. 企業家活動の源泉について、具体的な企業家を例に説明できる。
3. ビジネスシステムの発展について具体的な事例によって説明できる。
4. 企業文化、経営理念を具体的な事例によって説明できる。
5. 産業の成立と法規制の関係について、具体的な事例によって簡潔に説明できる。

【講義計画】
第１回：講義のガイダンス
　　講義の内容、課題への取り組み方を含めた講義への参加の仕方について説明します。
第２回：小林一三と都市型ビジネスの成立 (小林一三)
第３回：都市型事業の展開と経営の多角化 (阪急電鉄)
　　①範囲の経済と成長の経済、②生活の洋風化
第４回：戦後の消費社会と市場形成
　　①市場と消費者の変化、②経済成長と消費革命
第５回：大衆消費社会の出現と家電ブーム
　　①大型化・高級化の時代、②余暇時代、③個性化・多様化の時代、④消費と市場変化、⑤商品開発の連鎖、⑥余暇時代の市場変化
第６回：衆消費社会と松下幸之助の経営理念
　　① 3 つの家電メーカー、②松下幸之助の経営哲学
第７回：松下電器産業 (創業から家電ブームまで)　松下電器の経営発展
第８回：ナショナルショップ－流通系列化と系列小売店の機能
　　①連盟店制度の創設、②正価販売、③熱海会議の位置づけと役割、④ナショナル共栄会、
　　⑤ナショナルショップ店会、⑥主要家電メーカーの系列化
第９回：松下電器産業の組織変革 (組織の革新と再生)
　　①事業部制の採用と経営者育成、②組織論の適応
第10回：革新的企業家 ―町工場からの事業展開－　(ソニー)
　　①井深大の経営哲学、②革新的企業家活動の主体的条件
第11回：革新的企業家 ―町工場からの事業展開－　(ソニー)(2) 盛田昭夫と経営発展
第12回：ソニーの経営理念から経営理念の本質を学ぶ
　　①企業理念とは、②なぜビジョンが必要なのか、③創業期のビジョン、④転換期のビジョン、⑤東京通信工業株式会社設立趣旨書を詳読する
第13回：ナショナルショップ－流通系列化と系列小売店の機能 (3)
　　⑤ナショナルショップ店会、⑥主要家電メーカーの系列化
第14回：革新的企業家としての本田宗一郎　②本田の商品開発
第15回：講義の理解度の確認とまとめ (経営史から学んだこと)

【事前および事後学習の指示】
事前学習　レジュメをダウンロードし、参考文献などで指定された箇所を読み、重要な用語を事前学習すること。この学習には、毎回 2 時間× 15 回＝ 30 時間を必要とする。また事後学習として、講義で説明された内容を確認、理解すること。この学習には、毎回 2 時間× 15 回＝ 30 時間を必要とする。

【テキスト】
経営史講義のレジュメ 小嶌正稔

【参考文献】
1 からの経営史 宮本 又郎 (編集), 岡部 桂史 (編集), 平野 恭平 (編集) 中央経済社
ディッキー『フランチャイジング－米国における発展過程－』河野、小嶌訳、まほろば書房、1992 年
川辺信雄『新版　セブンイレブンの経営史』有斐閣、2003 年
宇田川勝・生島淳『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣、2011 年
宮本又郎・岡部桂史・平野恭平『1 からの経営史』碩学舎、中央経済社、2014 年

【コメント】
試験はすべて講義の内容的な区切りの最後に行う「理解度テスト」(M-Port のテスト機能) の得点率の平均で行います。
進行状況によりますが、6 ～ 7 回行います。
成績は得点率が素点となります。講義に積極的に参加し、発言や質問をしたものには、発言点を追加します。発言点は、その回の講義の該当試験に加算します。
毎回レジュメを配布します。テキストは使用しません。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
経営分析 [21 ～]　＜春＞	**木 3**

【教員名称】
小澤　義昭

【講義概要】
「企業の見方を教えます。　実践経営分析の力を身につける。」
経営分析は、対象となった企業の財務諸表だけでなく、同業他社との比較、数期間の推移の分析を通して、企業がどれだけ「稼いでいるか」と言う収益性、「資金がどれだけ継続的に回転しているのか」を示す安全性、「この企業の将来はどうか」を示す成長性及び「この会社の付加価値等に問題はないか」を示す生産性を総合的に把握する手段を学ぶものです。この講義を通して、このような分析能力をつけていただき、社会に出た時に直接役に立つ知識を身につけていただきたいと考えています。

【学習目標】
この講義の目的は、経営分析の一般的な手法を身につけ、企業の価値を数値的な面から評価できる能力を身につけていただくことにあります。経営分析入門を受講頂いた上で、授業を真面目に聞いて一緒に勉強していただければその力はつくと信じています。

【講義計画】
第 1 回：経営分析の目的と考え方及び手法の概要
(経営管理に役立てるため、投資判断のために必要な情報を会社の数値から分析する基礎の基礎を学びます。)
第 2 回：貸借対照表の見方 (資産の部)
第 3 回：貸借対照表の見方 (負債・資本の部)
第 4 回：損益計算書の見方 (営業損益の部)
第 5 回：損益計算書の見方 (その他) 及びキャッシュ・フロー計算書の見方
第 6 回：安全性の分析 (貸借対照表の分析)
(資金の状況から支払能力をみて、会社の倒産からの安全性を学習します。)
第 7 回：安全性の分析 (それ以外の安全性の分析)
(資金の状況から支払能力をみて、会社の倒産からの安全性を学習します。)
第 8 回：収益性の分析 (利益に関する分析)
(企業の利益をあげる力を見ようとするのが、収益性の分析です。これを基礎から学習します。)
第 9 回：収益性の分析 (利益以外の分析)
(企業の利益をあげる力を見ようとするのが、収益性の分析です。これを基礎から学習します。)
第10回：生産性の分析 (付加価値分析)
(生産能率の良しあしを生産性といいます。これを基礎から学習します。)
第11回：生産性の分析 (付加価値分析以外)
(生産能率の良しあしを生産性といいます。これを基礎から学習します。)
第12回：成長性の分析 (利益の関わる分析)
(企業が発展する力を判断するのが成長性です。これを基礎から学習します。)
第13回：成長性の分析 (利益以外の分析)
(企業が発展する力を判断するのが成長性です。これを基礎から学習します。)
第14回：総合分析
(企業の総合力を分析します。)
第15回：総まとめ及び期末テスト

【事前および事後学習の指示】
予習の必要はありませんが、授業の後に復習をしていただければと考えています。事後学習として合計 30 時間は必要です。

【テキスト】
レジュメを作成してお渡しする予定です。

【参考文献】
財務諸表分析 (第 8 版)　桜井 久勝著　中央経済社

【コメント】
対面で授業が行える場合には、授業中に小テスト (課題) を 4 回実施する予定です。これが「その他」の 50％です。残りの 50％は、第 15 回に実施する期末テスト (対面で行える場合) もしくは、レポート (対面で行えない場合) です。

【留意事項】
公認会計士として 35 年間、会計監査、企業の財務諸表分析、会計コンサルティングに従事してきた教員が、その経験を活かして、経営分析の概要について解説・講義を行う。

講　義　名　称	曜　時
経営倫理論　＜春＞	**水 3**

【教員名称】
谷口　照三

【講義概要】
本講義では、「企業が事業を経営する出来事」を巡る倫理問題の浮上およびその研究・実践動向を踏まえ、経営倫理 (Management Ethics) の具現化が「Sustainability、Triple Bottom Line 及び SDGs(Sustainable Development Goals) 等を文脈とした CSR(Corporate Social Responsibility) 経営」であることを、明らかにする。
「経営倫理」という言葉は、Business Ethics の訳として、「企業倫理」と共に使用されてきた。Business を「企業」と「経営」に訳するのは、奇妙かもしれない。それは、Business の意味とその解釈における曖昧さに由来している。この言葉は、最も広義には「企業が事業を経営する」という出来事の総体を意味すると考えられるが、その解釈は大きく分けると、企業 (enterprise 資本結合体であり、法律によって経済主体として認められている法人) に重点を置く場合と、経営 (management 資本を基礎に事業を効果的に運営していく活動システム) に焦点を合わせる場合がある。名称はどうであれ、実際には後者に焦点が当てられ、経営という活動システムに関する倫理が問題にされている。その様な意味で、この講義では、Business Ethics を「経営倫理」(Management Ethics) と捉え、その理論的、実践的動向についての概要を取り上げる。
現実の「経営という活動システム」は、多様な動態的な関係構造、つまり組織的な営みのシステムであり、またその活動の実質は事業活動であるが故に、経営倫理の理論的探究や実践的展開に関しては、「組織」と「事業」に関する、あるいはその出来事を巡る倫理への目配りを要する。また、Business には「事業」(財やサービスを提供するという仕事) の意味もあり、Business Ethics を「事業倫理」として捉えることも必要である。その場合、事業は科学技術の応用であるが故に「技術倫理」にも係わることに注意を要する。さらに、「企業が事業を経営する」という出来事は、組織的なそれであり、経営倫理は「組織倫理」(Organization Ethics) も射程内に入る。より正確には、経営倫理の内実は事業倫理や技術倫理等を内包する組織倫理であり、それは「新しい事業経営の在り方」、つまり CSR 経営の具現化ないし探究への契機となる。CSR 経営は、この様な意味での経営倫理の具現化である、と言ってよい。CSR は、「企業の社会的責任」と訳されるが、「会社の社会的応答可能性」と訳すべきと考える。また、最近は「SDGs 経営」と言う言葉が流行化しているが、「SDGs 等を文脈とする CSR 経営」と表現する方が正しい。本講義では、この様な発展過程に関する理論的解釈と、これらに関する新聞記事等を批判的に対比し、CSR 経営の可能性と課題を洞察する。その為にも、出来るだけ事前に、講義に関連する現実的な話題を取り扱った新聞記事等の資料を配布する予定である。受講生には、それらが講義とテキストで展開している理論的探究とどの様に関連しているかに留意し、講義で学んだことを基礎に資料等をクリティカルに (真剣に、深く) 思考・分析し、文章化することを要請する。これらは、経営学部のディプロマ・ポリシーの 1 から 4 に対応している。

【学習目標】
この講義の達成目標は、以下の三点である。 第一点は、歴史的社会的背景を文脈として、経営倫理および CSR の研究と実践の歴史的動向を的確に把握し、経営倫理の CSR 経営との関連性を明晰に説明することが出来る。 第二点は、経営倫理と CSR 経営に関する報道記事や事例等を批判的に分析することが出来る。そこには、この様な分析をもたらした「自己の立場」を明示し、自らも他者からも建設的な批判を得る為に「批判可能性」を拓くことが必要となる。この点は、自己とは異なる立場、見方、意見の存在に気づくことであり、「他者への配慮」を要する。それは、道徳、倫理の最も普遍的で、根本的な事柄である。かかる性質と強さは、道徳的想像力と言えよう。それは基本的には生活や仕事上での実践から培われてくる。皆さんが自分の生活の場において、学んだことに基づいてこの「他者への配慮」を実践し、そして再びこのことを学びに生かすべく授業に臨むならば、皆さんの論理的思考と道徳的創造力を伴った意思決定能力を涵養し得るであろう。これが第三の達成目標である。

【講義計画】
第 1 回：＊＜　＞内はテキスト対応部分；第 2 回目以降同様
経営倫理論の意味と意義　＜序論＞
第 2 回：人間生活と社会の生成・発展及び問題点
― 経営学及び経営倫理論を学ぶための視界と視座 ―　＜第 1 部第 1 章＞
第 3 回：新たなる社会への「生命の技巧」としての Sustainability、Triple Bottom Line、SDGs ― 新たなる経営の解釈・実践枠組みの基盤的理念 ―
＜序論、第 3 部第 11 章第 1 節、2 節＞
第 4 回：経営学の対象である「企業が事業を経営する出来事」とその歴史的転回への展望　＜序論、第 2 部第 6 章＞
第 5 回：責任概念の再吟味と再構築 ― 経営倫理を語る視座① ―　＜第 1 部第 3 章＞
第 6 回：倫理と道徳概念の区別と関連 ― 経営倫理を語る視座② ―　＜第 1 部第 4 章＞
第 7 回：倫理学と企業を巡る倫理問題 ― 第経営倫理を語る理論的基盤① ―　＜第 2 部第 5 章＞
第 8 回：協働の創造と経営に関する理論的探究 ― 経営倫理を語る理論的基盤② ―　＜第 2 部第 7 章＞
第 9 回：「企業の社会的責任」(Corporate Social Responsibility; CSR) 論再訪と CSR の体系的解釈枠組み ― 経営倫理を語る理論的基盤③ ―　＜第 2 部第 8 章＞
第10回：CSR 経営への戦略的要因としての組織倫理　＜第 3 部第 11 章第 3 節、第 1 部第 2 章＞
第11回：経営者の道徳的創造性と組織倫理 ― 個人としての応答可能性の拓きへの焦点化 ―　＜第 3 部第 9 章＞
第12回：組織倫理と組織道徳創造のダイナミズム ― 応答可能性の動態的組織化への焦点化 ―　＜第 3 部第 10 章＞
第13回：組織倫理の構成内容と議論の射程　＜第 3 部第 12 章＞
第14回：組織の道徳的創造性を核とした CSR 経営と未来社会への展望
＜結論＞
第15回：試験と総括

【事前および事後学習の指示】
事前学習として以下の点を求める。①講義テーマに対応するテキストの該当部分、及び適宜配布する新聞記事などの講義資料を読み、重要な概念・言葉を摘出し、それらの関連性についてメモを取ること。②その上で質問事項を作成すること。
事後学習として以下の点を求める。③前期の①のメモの再確認、つまり訂正や新たな気づき等を加筆すること。④②の再確認、つまり質問事項が解消できたかどうか、また新たな質問があるかないかの確認をし、必要であればそれらを新たにメモすること。

【テキスト】
『組織倫理論の可能性－経営の理論的・実践的解釈枠組み探究の新たなる地平－』谷口照三
ISBN978-4-86692-220-1 大学教育出版　2022 年 9 月刊行

【参考文献】
①チェスター・I・バーナード著、山本安次郎・田杉　競・飯野春樹訳『新訳　経営者の役割』ダイヤモンド社、1968 年。
②細川　孝、齋藤　敦編著『現代の企業と社会－働く前に知っておきたいこと－』中央経済社、2021 年。
③井上　泉著『企業不祥事とビジネス倫理－ ESG、SDGs の基礎としてのビジネス倫理－』文眞堂、2021 年。

【コメント】
その他は、毎回配布し回収する「記名式で数分程度の時間でコメント等を書く」ミニッツ・ペーパーが対象となる。これには主体的な学びの契機となるようにとの意図を込めており、出席点ではない。ただし、平常点として、コメントなどの内容を評価の対象とする。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
経済開発論Ⅰ　＜春＞	**月 4**

【教員名称】　**遠隔授業 (同時双方向型)**
望月　和彦

【講義概要】
現在の開発途上国はかつて「後進国」と呼ばれていた。これは先進国に対比する呼び名であったわけだが、失礼な名称であることから開発途上国と呼ばれるようになった。30 ～ 40 年前は開発途上国とは言いながらほとんど発展していないような国がたくさんあった。ところが今日、経済発展は多くの国で見られるようになっており、開発途上諸国はまさに開発途上にある。本講では経済発展の要因について理論モデルではなく歴史的経験に基づいて考えていく。最後に最近の経済発展の潮流についても触れていきたい。
受講者は事前に M-Port にアップされる「受講の手引き」を見ておいて下さい。

【学習目標】
本学の教育の目標である「世界の市民の養成」に則り、経済発展の事例を広く探究することを通して世界の市民にふさわしい知識と判断力を涵養する。

【講義計画】
第 1 回：導入　経済発展の目的
第 2 回：経済発展の要因　お金
第 3 回：経済発展の要因　資本 (物的資本、社会的資本)
第 4 回：経済発展の要因　資本 (人的資本、技術)
第 5 回：経済発展の要因　経済体制　社会主義
第 6 回：経済発展の要因　経済体制　資本主義
第 7 回：資本主義のもつ本質的問題
第 8 回：経済発展のためには何が必要なのか　制度的考察に向けて
第 9 回：経済発展に必要な経済制度
第10回：経済発展の要因　政治体制
第11回：経済発展の要因　統治能力 (ガバナンス)
第12回：20 世紀アジアの経済発展
第13回：デジタル経済化と経済発展
第14回：日本社会の課題
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
事前学習：テキストおよび講義資料を使っての予習
事後学習：講義のノートまたは講義要約を使っての復習、課題の完成

【テキスト】
テキスト経済開発論Ⅰ 2023 年度版 望月和彦
kindle 版　3 月頃に出版予定

【参考文献】

【コメント】
成績評価は学期中に 2 回実施する小テスト兼課題と授業中に提出してもらうコメント・質問の内容によって行う。課題は授業の内容を理解しているかどうかを問うものである。
ただし成績評価の仕方は受講者数によって変更されることがあり得る。受講者数が確定したあとに評価方法について説明を行う。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
経済学 A　01 ＜春＞	**月 3**

【教員名称】
木村　佳弘

【講義概要】
この講義は、ミクロ経済学の基本を学ぶ入門的な講義です。
経済学的なものの考え方は、社会に出る前から、あらゆる局面で役立ちます。

【学習目標】
この講義に積極的に参加することを通じて
①ミクロ経済学で必要とされる基本的な数学的知識を身に付けることができる。
②ミクロ経済学の基礎理論を使い、特定の市場の動向を説明する能力を得ることができる。
③ミクロ経済学の理論を深く学ぶための基礎能力を得ることができる。

【講義計画】
第 1 回：経済学を学ぶ前に
（ミクロ経済学とマクロ経済学）
第 2 回：ミクロ経済学の考え方
第 3 回：個人の選択を考える
第 4 回：需要曲線と供給曲線
第 5 回：市場均衡と効率性
第 6 回：完全競争市場への政府介入と死荷重の発生　①価格規制
第 7 回：完全競争市場への政府介入と死荷重の発生　②参入規制
第 8 回：市場の失敗と政府の役割
第 9 回：独占
第10回：外部性
第11回：公共財
第12回：情報の非対称
第13回：取引費用
第14回：ゲーム理論と制度設計
第15回：試験とまとめ

【事前および事後学習の指示】
事前：M-Port および teams にアップロードされる資料から予習をしておくと良いでしょう。
事後：当日に出題された理解確認問題を正確に理解しておいて下さい。
数学を極力使わずに講義をしますが、最低限は出てきてしまいます。
利用する数学は、主に代数、一次関数（中学レベル）のみですが、一部で微分方程式（高校 1 年生程度）があります。
数学にアレルギーがある方には残念ながらお勧めできません。
この講義は PC スキル (google form への入力、動画閲覧環境、teams への加入・資料閲覧）を前提とします。
PC が苦手な方、PC 環境が整っていない方は他の講義の受講を御勧めします。

【テキスト】
ミクロ経済学の第一歩 安藤 至大
978-4641150058 有斐閣

【参考文献】

【コメント】
＜制度上＞
その他　100%
＜実務運用上＞
講義時試験　30%
講義内課題　65%
講義への積極的参加等　5%
学習目標の①、②、③を正確に理解できているかに関し、理解確認課題を課します。具体的には、講義時試験 (30%)、講義時課題（講義内小試験＋毎回の講義内課題 65%）、講義への積極的参加 (5%) の三つで評価します。
講義時試験は最終講義時に実施するもので、講義時試験内容は、①に関しては計算問題の形式で出題し、②、③に関しては穴埋め式および論述式問題を出題します。論述式問題は論理構成が理解できているか、論理一貫性は確保されているか、日本語の妥当性等を問います。
講義内課題は、毎回の講義課題が理解できているかを確認するものであり、主に①、②について短問で確認しますが、③について論述式で問うこともあります。
講義への積極的な参加等 (5 点) は、講義に対し、講義受講者の理解を促進するような質問があった場合などについて加点を行うものです。具体的な基準例は第 1 回～第 3 回講義中にお示しします。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
経済学 A　02 ＜春＞	**火 4**

【教員名称】
田代　昌孝

【講義概要】
経済のグローバル化が進むことで、財やサービスの流れが活発になり、市場が非常に複雑になってきた。それに伴う形で、経済不況による失業や物価の変動など様々な問題が家計や政府の行動に影響を与えている。財政健全化や社会保障財源の確保等、世の中にある様々な問題に対して、政府が対応しきれなくなってきた。この講義ではミクロ経済学的な観点から、今日議論されている様々な経済現象がなぜ生じているのかを学ぶ。

【学習目標】
この講義に積極的に参加することを通じて
①ミクロ経済学で必要とされる基本的な数学的知識を身に付けることができる。
②ミクロ経済学の基礎理論を使い、特定の市場の動向を説明する能力を得ることができる。
③ミクロ経済学の理論を深く学ぶための基礎能力を得ることができる。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス
ミクロ経済学とはどのような学問であるのか。
成績評価について。
レジュメやテキストについての説明。
講義を受けるうえでの注意事項。
第 2 回：経済学の学びについて（日本経済の現状と課題）
第 3 回：消費者行動①（無差別曲線の導出）
第 4 回：消費者行動②（予算線と最適消費）
第 5 回：消費者行動③（所得効果と代替効果―上級財のケース）
第 6 回：消費者行動④（所得効果と代替効果―中級財のケース）
第 7 回：消費者行動⑤（所得効果と代替効果―下級財のケース）
第 8 回：生産者行動①（生産関数について）
第 9 回：生産者行動②（総費用、平均費用、限界費用について）
第10回：生産者行動③（企業の利潤最大化―最適条件について）
第11回：生産者行動④（企業の利潤最大化―操業中止点について）
第12回：生産者行動⑤（企業の利潤最大化―損益分岐点について）
第13回：市場メカニズム（市場均衡とその変化）
第14回：課税と超過負担①（個別消費税と輸入関税）
第15回：課税と超過負担②（課税の効率性と公平性）

【事前および事後学習の指示】
講義テーマに該当する教科書の部分を熟読するようにして下さい。
前回講義の復習を必ず行ってから、講義を受けるようにして下さい。

【テキスト】
ミクロ経済学の力 神取道宏
9784535557567 日本評論社

【参考文献】
西村和雄著『ミクロ経済学　第 2 版』岩波書店、2001 年
(ISBN4000266942)

【コメント】
【成績評価について】
M-Port による課題提出が 30%、学期末に出されるレポート課題が 70%。
レポートは設問を 5 問出題したうえで、全問正解を S とし、それ以降、1 問不正解するごとに成績評価をワンランク下げる。

【留意事項】
予習より復習を中心に勉強して下さい。
講義で分からない部分は必ず質問するようにして下さい。

講義名称	曜時
経済学 B　02 ＜春＞	金 2

【教員名称】
田代　昌孝

【講義概要】
経済のグローバル化が進むことで、財やサービスの流れが活発になり、市場が非常に複雑になってきた。それに伴う形で、経済不況による失業や物価の変動など様々な問題が家計や政府の行動に影響を与えている。財政健全化や社会保障財源の確保等、世の中にある様々な問題に対して、政府が対応しきれなくなってきた。この講義ではマクロ経済学的な観点から、今日議論されている様々な経済現象がなぜ生じているのかを学ぶ。

【学習目標】
この講義に積極的に参加することを通じて
①マクロ経済学で必要とされる基本的な数学的知識を身に付けることができる。
②マクロ経済学の基礎理論を使い、一国経済の現状を理解する能力の基礎を得ることができる。
③国際経済の現実的諸関係について理解する能力を得ることができる。
④マクロ経済学の理論を深く学ぶための基礎能力を得ることができる。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス
マクロ経済学とはどのような学問であるのか。
成績評価について。
レジュメやテキストについての説明。
講義を受けるうえでの注意事項。
第 2 回：国民所得の決定①（三面等価の原則）
第 3 回：国民所得の決定②（ケインズ型消費関数）
第 4 回：国民所得の決定③（完全雇用について）
第 5 回：国民所得の決定④（乗数効果について）
第 6 回：投資と経済 (IS 曲線の導出）
第 7 回：金融の仕組み (LM 曲線の導出）
第 8 回：財政・金融政策の効果 (IS-LM 分析）
第 9 回：総需要曲線 (AD 曲線）の導出（財市場と貨幣市場のみの議論）
第10回：総供給曲線 (AS 曲線）の導出（労働市場の追加）
第11回：AD・AS 分析（物価の決定）
第12回：失業とインフレーション（フィリップス曲線）
第13回：国際経済（為替レートの決定）
第14回：マンデル・フレミングモデル①（固定相場制下での財政・金融政策）
第15回：マンデル・フレミングモデル②（変動相場制下での財政・金融政策）

【事前および事後学習の指示】
講義テーマに該当する教科書の部分を熟読するようにして下さい。特に、第 10 回から 12 回までは配布資料を事前に熟練しておいてください。
前回講義の復習を必ず行ってから、講義を受けるようにして下さい。

【テキスト】
入門マクロ経済学第 6 版 中谷巌、下井直毅、塚田裕昭　日本評論社

【参考文献】

【コメント】
【成績評価について】
M-Port による課題提出が 30%、学期末に出されるレポート課題が 70%。
レポートは設問を 5 問出題したうえで、全問正解を S とし、それ以降、1 問不正解するごとに成績評価をワンランク下げる。

【留意事項】
予習より復習を中心に勉強して下さい。
講義で分からない部分は必ず質問するようにして下さい。

講義名称	曜時
経済学史 I ［2］ ＜春＞	木 4

【教員名称】
北田　了介

【講義概要】
授業は講義形式でおこない、毎回終了前に出席確認を行う。
本講義は、17 世紀以降の経済学説（重商主義、古典派経済学、マルクスの経済学、近代経済学）とその時代背景ををたどることで、現在の経済理論や経済問題を相対化するための視点を手に入れることを目指す。

【学習目標】
経済学説の歴史をとおして「経済」の基本的な考え方を学ぶと同時に、社会がいかなる知の形式から成立しているかをさぐっていく。

【講義計画】
第 1 回：イントロダクション
経済学および経済学史を学ぶことの意義
第 2 回：重商主義 (1)
アジア貿易とヨーロッパの「重商主義」
第 3 回：重商主義 (2)
重商主義の政策論争
第 4 回：ジョン・ロックの経済思想 (1)
17 世紀のイングランドと二つの革命
第 5 回：ジョン・ロックの経済思想 (2)
社会の構成と私的所有権
第 6 回：17 世紀イングランドの利子率引き下げ論争
第 7 回：ヒュームの経済思想 (1)
経済発展論とインダストリ
第 8 回：ヒュームの経済思想 (2)
貨幣・貿易論
第 9 回：スチュアートの経済思想 (1)
人口論と「近代社会」
第10回：スチュアートの経済思想 (2)
貨幣・価格論
第11回：ケネーの経済思想 (1)
17-18 世紀のフランスとフィジオクラシー（重農主義）の原理
第12回：ケネーの経済思想 (2)
「経済表」で示される流通過程と剰余生産
第13回：重商主義・重農主義からアダム・スミスへ
限界とその後への影響
第14回：アダム・スミス思想の概略的説明
道徳哲学から経済学へ
第15回：春学期のまとめ

【事前および事後学習の指示】
講義に際しては事前学習および事後学習が必要である。事前学習（授業ごとに 2 時間）では教科書を熟読するとともに、授業内で指示された参考文献に目を通しておくこと。事後学習（授業ごとに 2 時間）では教科書内に示されている章末問題について、正確な解答を作成することが望まれる。

【テキスト】
教養としての経済思想 北田了介（編著）
978-4-86065-119-0 萌書房

【参考文献】
講義時間内で随時紹介する。

【コメント】
春学期は定期試験での評価は行いません。授業ごとに提出してもらうレポートの積算によって評価を行います（第 1 回目 2 点、それ以降の 14 回は各 7 点満点で採点）。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
経済学特講 - 行動公共政策入門　＜春＞	**木 2**

【教員名称】
米田　紘康

【講義概要】
この講義では行動経済学や認知科学などがどのように政策に活用されているのかを学習します。
人間は常に些細なことから重要なことまで意思決定 (判断) の連続に晒 (さら) されています。
しかも私たちはコンピューターのように賢くもなくまた意志が弱いので、いつも正しい意思決定をしているとは限りません。
だからと言ってずっと悩み続けることはありませんし、いつも間違っているわけではありません。
行動・意思決定にはクセやパターンがあるということです。このクセ・パターンを研究する分野が行動経済学です。
本講義では、人間のクセや行動パターンを逆に利用して、行動を変容させて仕事、健康、公共政策に活かした事例や方法を学びます。

【学習目標】
主目標：受講生が、ミクロ経済学や行動経済学を中心とする基本的な意思決定について理解する。
副目標：受講生が行動経済学や認知科学の知識を生かして、新たな問題や政策を考えることができる。
受講生は以下の 3 能力を身につけることができます。
・複雑に絡みあった経済・社会事象の仕組みを理解し、問題点を発見できる能力 (理解力)
・客観的な分析を基礎にして経済・社会事象を論理的に考察できる能力 (展開力)
・自らが体得した知見を自分の言葉で外部に対して発信できる能力 (発信力)

【講義計画】
第 1 回：はじめに
第 2 回：公共政策に行動経済学を導入する目的
第 3 回：行動経済学のための経済学
第 4 回：行動経済学の基礎知識 (1)
第 5 回：行動経済学の基礎知識 (2)
第 6 回：行動経済学の基礎知識 (3)
第 7 回：ナッジとは
第 8 回：日常に溶け込む行動経済学
第 9 回：仕事に溶け込む行動経済学
第10回：研究事例：働き方
第11回：研究事例：仕事
第12回：研究事例：医療・健康
第13回：研究事例：日本での公共政策活用
第14回：研究事例：海外での公共政策活用
第15回：これまでのポイントのまとめ

【事前および事後学習の指示】
事前学習として 30 時間 (2h × 15 回)、事後学習として 30 時間 (2h × 15 回) を求めます。
具体的には授業後に次回のテーマを発表しますので、各自予習してください。
また授業終了後には、講義のポイントを復習するようにしてください。

【テキスト】
授業内でレジュメを配布予定

【参考文献】
大竹文雄、「行動経済学の使い方 」、岩波書店
経済協力開発機構 (著、編集)、「世界の行動インサイト――公共ナッジが導く政策実践」、明石書店

【コメント】
レポート 60% とは：事前に発表した課題についてレポートを提出してもらいます。
その他 40%とは：講義中にアンケートやリアクションペーパーを求めることがあります。

【留意事項】
履修条件はありませんが、以下のキーワードを含む講義を履修しているとより理解しやすいです。
ミクロ経済学、ゲーム理論、実験経済学、行動経済学

講　義　名　称	曜　時
経済学特講 - 社会経済学入門　＜春＞	**月 1**

【教員名称】
大澤　健

【講義概要】
経済学の入門となる講義を行います。経済学部に入ったとはいっても、多くの方はこれまで意識して経済について知ったり、考えたりしてきたわけではないかもしれません。そこで、まずは現在の経済現象を知ることから始めてみましょう。この講義では、私たちの身の回りで起こっている経済の現状についてビデオを見ていただいて、それをもとに経済についての理解を深めていきます。専門知識を覚えるのではなく、自分で考えながら経済について学んでいきます。

【学習目標】
現実の経済の動きについての関心を養う。経済ニュースや経済に関する情報について理解できる基礎的な知識を習得する。自分で積極的に経済について学ぼうとする気持ちをはぐくむ。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス　講義の進め方、レポートの書き方などについての説明。
第 2 回：テーマ 1．公害・環境問題　ビデオ視聴
第 3 回：テーマ 1．公害・環境問題　講義
第 4 回：テーマ 2．市場経済の仕組みと特徴　ビデオ視聴
第 5 回：テーマ 2．市場経済の仕組みと特徴　講義
第 6 回：テーマ 3．労働問題－市場経済における働く人の姿－　ビデオ視聴
第 7 回：テーマ 3．労働問題－市場経済における働く人の姿－　講義
第 8 回：テーマ 4．資本主義社会と政府の役割　ビデオ視聴
第 9 回：テーマ 4．資本主義社会と政府の役割　講義
第10回：テーマ 5．グローバリゼーションと 21 世紀の資本主義 (上)　ビデオ視聴
第11回：テーマ 5．グローバリゼーションと 21 世紀の資本主義 (上)　講義
第12回：テーマ 6．グローバリゼーションと 21 世紀の資本主義 (下)　ビデオ視聴
第13回：テーマ 6．グローバリゼーションと 21 世紀の資本主義 (下)　講義
第14回：テーマ 7．資本主義の行方　ビデオ視聴
第15回：テーマ 7．資本主義の行方　講義

【事前および事後学習の指示】
上記の通り、2 回に 1 回レポート課題がありますので、事前・事後学習に講義時間と同程度の時間 (半期で 15 時間程度) が必要です。

【テキスト】

【参考文献】
テキスト、参考文献は用いませんが、みなさんの今後の勉強に役立ちそうな本の情報を適宜講義で提供します。

【コメント】
2 回に 1 回程度のレポート課題があります。レポートの書き方については、講義で説明します。それほど難しいものではありませんし、書いているうちに慣れてきます。このレポートで成績を評価しますが、最後に逆転可能な試験風レポートも課します。いずれにしても、レポートをまめに出しておくことをお勧めします。

【留意事項】

講義名称	曜時
経済学特講 -Python で学ぶ経済データ分析入門 ＜春＞	木 1

【教員名称】
井田　大輔

【講義概要】
本講義は、Python を用いて経済分析のためのデータサイエンスの基礎を学ぶことを目的としています。具体的には、経済データの見方・使い方からはじまり、Python の基本的な使い方を身に着けて、実際に学生自身で基本的な実証分析ができるようになることを目指します。データ分析やレポート (丁寧な文章) を書くことの楽しさと大切さを学びます。

【学習目標】
本講義の学習 (到達) 目標は下記のとおりです。
1) 経済データの基本的な見方・使い方を身に着ける
2)Python の基本的な使い方を身に着ける
3) 基本的な回帰分析ができるようになる
4) 実証分析のレポートの書き方を身に着ける
※この授業は BYOD を想定しています。基本的に、「毎回教室にノート PC を持参する」ことを推奨する科目となっている点にご留意ください

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス (授業の内容、成績評価、Google colaboratory の使い方など)
第 2 回：経済理論とデータ分析：理論分析と実証分析
第 3 回：Python 入門①：基本演算、制御文の基礎など
第 4 回：Python 入門②：Pandas と matplotlib 入門
第 5 回：Python によるデータ分析①：基本統計量、散布図など
第 6 回：Python によるデータ分析②：確率の基礎、様々な分布
第 7 回：Python によるデータ分析③：推定・検定入門
第 8 回：Python によるデータ分析④：回帰分析入門
第 9 回：(実践)Python による回帰分析 (消費関数の推定を例に)：①データ取得から加工まで
第10回：(実践)Python による回帰分析 (消費関数の推定を例に)：②回帰分析とその解釈
第11回：(実践)Python による回帰分析 (消費関数の推定を例に)：③モデルの拡張 (重回帰分析)
第12回：(実践)Python による回帰分析 (消費関数の推定を例に)：④モデルの拡張 (ダミー変数)
第13回：(実践)Python による回帰分析 (その他のモデルの推定)：フィリップス曲線など
第14回：経済分析のレポートの書き方 (実践)
第15回：まとめ・今後の学習に向けて

【事前および事後学習の指示】
前提知識は求めませんが、実証分析を使って卒業論文を書くことを意識した学生さんの受講を想定します。受講にあたっては、ミクロ・マクロ経済学、および、統計学の基礎知識があれば理解がより深まると思います。Python を授業では用いますが、しっかりと予習・復習に努めてください。また、Excel なども必要に応じて利用します。授業中にも解説しますが、苦手な人は初歩の Excel の使い方は事前に学習しておいてください。なお、この授業でのデータ分析は基本的な部分になりますので、さらにステップアップしたい学生さんは下記のキーワードにあるような科目を引き続き履修してください。

【重要】この講義では、私が定義にするレポートの作成ルールに従ってレポートを作成していただきます。レポートの書き方ルールに従って提出されたレポートのみが成績評価の対象ということです。ですので、レポートの書き方のルールが守れないとあらかじめ思う学生さんは受講しないほうが良いと思います。また、Python コードはぜひ自身で何度も実行してください。実際に成功と失敗を経験することで成長していくはずです。

【テキスト】
使用しません。講義資料を配布します。

【参考文献】
河口洋行『文系のための統計学入門―データサイエンスの基礎』日本評論社
鹿野繁樹『新しい計量経済学』日本評論社
中室牧子・津川友介『「原因と結果」の経済学―データから真実を見抜く思考法』ダイヤモンド社
中妻照雄『Python による計量経済学入門』朝倉書店
原泰史『Python による経済・経営分析のためのデータサイエンス分析の基礎から因果推論まで』東京図書
森巧尚『Python2 年生データ分析の仕組み』SHOEISYA
山本勲『実証分析のための計量経済学』中央経済社
山本拓・竹内明香『入門計量経済学―Excel による実証分析へのガイド』

【コメント】
小テスト 3 回 (合計 30 点) と学期末のレポート (70 点) を総合的に評価します。

【留意事項】

講義名称	曜時
経済学のための数学入門［2］ ＜春＞	月 2

【教員名称】
藤間　真

【講義概要】
この講義は、経済学を勉強するのに、数学が苦手で不安に思っている、あるいは、実際に困っている諸君を対象にしています。具体的には、次のような諸君です。
(1) 経済学を始める前に、不安な数学を必要な範囲で勉強しておきたいという諸君
(2) 経済学の勉強を始めたが、数学が苦手なのでよくわからないという諸君
(3) 経済学の大部分は理解できたのだが、計算の部分がわからないという諸君
(4) 面倒な計算練習抜きで経済数学を理解したいという諸君
講義は、指定した教科書を解説して進める予定です。その際、面倒な計算をできるだけ PC にやらせるやり方も説明します。
きちんと予習し、きちんと出席し、きちんとノートを取り、きちんと練習問題に取り組めば、苦手な諸君も、必要最低限の数学的能力が身につくはずです。
ただし、高校までの数学とは違う切り口で進めますから、大学入試までの勉強法とは違う勉強法が必要になります。
なお、受講生の状況を踏まえて、進度調整を行うので、講義計画通りに講義が進まないことがあり得ます。

【学習目標】
この講義では、経済学を本格的に学ぼうとすると必要となる数学の基礎知識を、マスターしてもらうことを目標としています。
また、そのために有用な web 上のソフトウェアになれることも目標としています。

【講義計画】
第 1 回：第一回はオリエンテーションと基礎知識の確認を行います。
履修する予定の人、履修するか迷っている人は、出席することを強く推薦します。
第 2 回：数と集合
第 3 回：指数・対数
第 4 回：関数・グラフ
第 5 回：経済学への関数・グラフの応用
第 6 回：数列の応用
第 7 回：中間まとめ
第 8 回：微分入門
第 9 回：微分の計算法
第10回：指数・対数関数の微分
第11回：微分法の応用
第12回：微分の計算演習
第13回：経済学における微分の用法
第14回：偏微分法入門
第15回：総まとめ

【事前および事後学習の指示】
次回の扱う部分を、講義ごとに指示し、また M-Port で公表する予定です。
事前に教科書の該当する部分に目を通し疑問点をまとめてください。
講義計画執筆時 (2024 年 1 月) の予定では、講義前日までに提出された質問については、講義中に扱うような形を取る予定です。

【テキスト】
高校数学からはじめるやさしい経済数学テキスト 鈴木孝弘
978-4-274-21652-7 オーム社

【参考文献】
適宜指示します。

【コメント】
問題演習 (複数回で実施する予定です) の結果と、学期末課題の結果を総合的に評価します。
詳細は第一回で示します。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
経済原論　01 ＜通期＞	**月 2**

【教員名称】
大澤　健

【講義概要】
私たちが暮しているのは「市場経済」あるいは「資本主義」と言われる社会です。現在、この「市場経済」「資本主義社会」が世界を覆い尽くそうとしています。それをグローバリゼーションといいます。この講義では、世界に広がろうとしている「市場」や「資本」の基本的な性質を説明しながら、われわれの社会の基本的な仕組みをより深く学ぶことを目指しています。

【学習目標】
「市場」「貨幣」「資本」といったわれわれの社会の基本的なキーワードの意味を理解するとともに、資本主義社会がどのような性格をもち、どのように運動していくのかといった経済の基盤となる知識の習得を目標としています。また、こうした基本的な知識を用いて、経済学的な思考から、私たちの身の回りの経済現象を論理的に理解することができるようになることを目指しています。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンスおよび入門となる演習問題
第 2 回：1．市場経済の仕組み　「市場経済」とは何か。
第 3 回：市場の原則―自由および平等の意味
第 4 回：市場経済と社会全体 (1) 社会的分業と富の増大
第 5 回：市場経済と社会全体 (2) 価格を通じた資源配分メカニズム
第 6 回：貨幣の諸機能と商品流通 (1) 貨幣とは何か、①価値尺度機
第 7 回：能貨幣の諸機能と商品流通 (2) ②流通手段機能
第 8 回：貨幣の諸機能と商品流通 (3) ③貨幣－蓄蔵手段、支払手段、世界貨幣
第 9 回：銀行信用と通貨制度 (1) 銀行信用と信用通貨のメカニズム
第10回：銀行信用と通貨制度 (2) 中央銀行制度
第11回：銀行信用と通貨制度 (3) 国際的通貨制度－金本位制からドル本位制へ
第12回：銀行信用と通貨制度 (4) 管理通貨制度
第13回：2．資本の生産過程
資本の定義とその意味 (1) 貨幣の資本への転化
第14回：資本の定義とその意味 (2) 労働力商品と価値増殖のメカニズム
第15回：まとめとふりかえり
第16回：資本主義的生産の諸特徴 (1) 利潤追求とその意味
第17回：資本主義的生産の諸特徴 (2) 絶えざる生産の拡大
第18回：資本主義的生産の諸特徴 (3) 資本主義的生産の基本的矛盾
第19回：相対的剰余価値の生産 (1) その概念と発生の仕組み
第20回：相対的剰余価値の生産 (2) 相対的剰余価値に示される資本主義の特徴
第21回：相対的剰余価値の生産 (3) 資本主義とイノベーション
第22回：相対的剰余価値の生産 (4) 生産性の上昇と賃金利潤関係
第23回：資本の蓄積 (1) 蓄積の定義と資本主義的蓄積の一般的法則
第24回：資本の蓄積 (2) 相対的過剰人口の累進的生産とその諸形態
第25回：3．資本産主義の全体像
資本の流通過程と資本循環の 3 形態
第26回：資本の運動と 4 つの市場
第27回：産業革命と帝国主義
第28回：戦後の世界と国家的資本主義
第29回：グローバリゼーションの進展と 21 世紀の資本主義
第30回：まとめとふりかえり

【事前および事後学習の指示】
毎回の練習問題に回答するために、各 1 時間程度 (合計 30 時間程度) が必要です。また、経済の具体的な動きを知っていると聞きやすくなるので、新聞やニュースなどで経済に関する知識をなるべく増やすために、講義と同程度の時間 (30 時間程度) を費やすようにしてください。

【テキスト】
政治経済学の再生 柴田信也編著
9784883521838 創風社

【参考文献】
用いない。

【コメント】
毎回出欠確認がわりの練習問題を課します。それをもとに成績作成を行いますが、最後に逆転可能なように少々重めの練習問題も課して、それを試験代わりにします。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
経済原論　02 ＜春集＞	**火 2/ 金 1**

【教員名称】
李　晨

【講義概要】
世界的な経済・金融危機が長期化するに伴い、資本主義によって生じる問題が、現代社会で改めて認識されつつある。その一例として「世界規模での格差の拡大」、「ブラック労働」「長時間労働」「なぜ賃金が上がらないのか」という問題などが挙げられる。経済だけでなく人々の意識さえも将来に希望を抱くことが困難な状況に陥っている。それらの課題を解決するには、まず資本とは何か、資本主義とは何か、資本主義に伴う危機とは何か等を包括的に考え、資本主義の運動法則を解明するマルクス経済学を理解しなければならない。
本講義は、マルクス経済学の基礎概念と分析手法を理解し、その分析方法を用いて、現実社会をより正確に読み取る力を培うことを目的とする。これらを通じて、現在の資本主義社会における各課題の背景となる資本主義社会の本質、資本主義社会の根本的な矛盾をはっきり見分けられようになることに主眼を置く。
具体的には、前半の部分にマルクス経済学における基本概念を説明する。中間部分はマルクス経済学の基本分析方法を理解する。それらを通じて受講者は、資本主義の本質・資本主義社会の根本的な矛盾を正確に把握することができるはずである。講義の後半では、マルクス経済学の方法を用いて現実社会を実際に分析する。世界的に拡大する格差、AI と資本主義、資本主義をベースとする日本経済、さらにマルクス経済学を基礎とした社会主義国家である中国の発展経路を考察する。それにより、資本主義社会と社会主義社会の根本的な違いを理解する。

【学習目標】
・マルクス経済学の基本概念について、古典派経済学と近代経済学との違いを踏まえて、説明することができるようになる。
・資本主義社会の本質、基本矛盾、それと社会主義の違いなどについて、説明することができるようになる。
・マルクス経済学の研究対象、分析方法を説明することができるようになる。
・マルクス経済学の方法論を用いて、現代資本主義社会における諸問題を解決するにあたってのセカンド・オピニオンを持ち、自身の意見を展開することができるようになる。

【講義計画】
第 1 回：なぜ今マルクス経済学か？マルクス経済学の研究対象とは？
第 2 回：経済学の発展系譜　①古典派経済学
第 3 回：経済学の発展系譜　②古典派経済学からマルクス経済学へ (比較)
第 4 回：経済学の発展系譜　③マルクス経済学
第 5 回：経済学の発展系譜　④マルクス経済学から近代経済学へ (比較)
第 6 回：経済学の発展系譜　⑤近代経済学
第 7 回：経済学の発展系譜　まとめ
第 8 回：マルクス経済学基礎概念　①商品とは何か
第 9 回：マルクス経済学基礎概念　②貨幣とは何か
第10回：マルクス経済学基礎概念　③資本とは何か
第11回：マルクス経済学基礎概念　④剰余価値とは何か？
第12回：資本主義経済の一般的運動法則――資本蓄積過程
第13回：資本の流通過程：資本の諸変態とそれらの循環
第14回：資本の流通過程：社会的資本の再生産①単純再生産
第15回：資本の流通過程：社会的資本の再生産②拡大再生産
第16回：資本と剰余価値の現れ方 (資本主義社会の国民所得と階級構造)
第17回：資本主義経済における搾取と蓄積のあり方の変遷
第18回：独占資本主義の形成と発展
第19回：グローバル資本主義と景気循環論
第20回：戦後資本主義世界の危機の構造
第21回：マルクス経済学の方法と現代社会
第22回：マルクス経済学の方法で社会を見る：世界的格差拡大を如何に読み取るか？①
(データからみる社会の多様な格差)
第23回：マルクス経済学の方法で社会を見る：世界的格差拡大を如何に読み取るか？②
(関連ビデオの視聴)
第24回：マルクス経済学の方法で社会を見る：AI と資本主義社会①
(AI と資本主義社会の発展)
第25回：マルクス経済学の方法で社会を見る：AI と資本主義社会②
(関連ビデオの視聴)
第26回：マルクス経済学の方法で社会を見る：日本におけるマルクス経済学の発展とその背景
第27回：マルクス経済学の方法で社会を見る：1990 年代以後の日本経済における構造的危機
(経済成長、社会問題)
第28回：マルクス経済学の方法で社会を見る：中国におけるマルクス経済学の発展とその背景
第29回：マルクス経済学の方法で社会を見る：中国経済成長におけるマルクス経済学
(経済成長、社会問題)
第30回：今後のマルクス経済学

【事前および事後学習の指示】
授業時間以外の予習としては、授業で取り上げる内容への理解力を高めるため、事前に配布した資料を読んでおくこと。さらに、授業計画にそって事前に配る主要専門用語の課題学習を提出すること。それらを通じて、講義へ意識を向けられるようになること。授業時間内においては、授業の最初の 10 分間で前回講義の内容を復習すること。また、授業終了前の 15 分、講義の内容の理解度を確認するため、レポートや小テストを実施し、その成果を再確認する。最後に、授業終了後は、講義の内容を復習し、次の講義に備えること。

【テキスト】

【参考文献】
伊藤誠 (2016)「マルクス経済学の方法と現代社会」桜井書店
大西広 (2015)「マルクス経済学」慶應義塾大学出版社
カールマルクス (著)、エンゲルス (編) 向坂逸郎 (翻訳)(1969)『資本論』岩波書店
延近充 (2015) 「21 世紀マルクス経済学」慶應義塾大学出版社
松尾匡 (2010) 「マルクス経済学　図解雑学シリーズ」ナツメ社
ヨハン・モスト原著；カールマルクス　加筆・改訂；大谷禎之介訳 (2009)「マルクス自身の手による資本論入門」

【コメント】
備考
課題 (80%)
その他 (20%)：講義への取り組み姿勢

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
経済情報処理論 I　＜春＞	**金 3**

【教員名称】
櫻井　雄大

【講義概要】
「経済情報処理論 I 」と「経済情報処理論 II 」は同一年度に履修することをお勧めします。 I で触れることができなかった部分は II で扱います。
この講義では、主に経済学部生が今後の学習 / 研究活動に応用できるように、情報処理の技術や背景などについて説明します。
経済学に限らず、今日では情報処理は私たちの生活に無くてはならないものとなっています。人々の様々な活動を記録し、大量のデータを素早く正確に処理し、そこから得られる知見を様々な分野で活用するにあたり、「なぜ動くのか？」「どういうことができるのか、(現状では) できないのか？」「現在はどのように活用されているか？」「将来の応用可能性は？」といった点を押さえながら概説します。

【学習目標】
情報技術の基礎知識について学習し正しく理解することで、経済学およびその他社会科学の学習において情報技術を活用するための土台をつくり上げることを目標としています。

【講義計画】
第 1 回：イントロダクション (講義内容詳細説明、アンケート等)
第 2 回：情報の歴史 (人は情報とどう向き合ってきたか)
第 3 回：情報社会の現状 (インターネット、スマートフォンの台頭)
第 4 回：情報の数値化 (デジタル化とはどういうことか、その利便性について)
第 5 回：コンピュータの歴史 (登場から高機能化、汎用化、小型化へ)
第 6 回：コンピュータの仕組み 1(部品の構成と役割)
第 7 回：コンピュータの仕組み 2(基本ソフトウェアについて)
第 8 回：コンピュータの仕組み 3(アプリケーションの概念)
第 9 回：ソフトウェア詳説 1(データとプログラム)
第10回：ソフトウェア詳説 2(プログラム言語の種類と特徴)
第11回：アルゴリズム概論 (各種アルゴリズムの紹介)
第12回：コンピュータの仕組み 4(ネットワークの仕組み)
第13回：インターネットと WWW
第14回：経済学、その他社会科学とコンピュータの関係
第15回：これまでの講義まとめ

【事前および事後学習の指示】
準備学習が必要な項目については、講義中に適宜指示します。
また、必ず講義ノートを取り、それを参考に講義中に話した項目について調べなおすことで復習してください。

【テキスト】

【参考文献】
「入門コンピューター科学　IT を支える技術と理論の基礎知識」
J.Glenn Brookshear(著)，神林靖 (翻訳)，長尾高弘 (翻訳)
株式会社 KADOKAWA,2017 ISBN-13:978-4048930543

【コメント】
備考
不定期に実施するオンライン上の小テスト成績により評価します。

【留意事項】
Web 開発業務の経験がある教員が、技術的な点も含めた IT 利活用について講義します。

講　義　名　称	曜　時
経済政策Ⅰ　＜春＞	**土 3**

【教員名称】　　**遠隔授業 (オンデマンド型)**
吉弘　憲介

【講義概要】
経済政策Ⅰでは、現代における政府構造、その歴史的な形成過程、主たる機能、各国の違いなどについて学ぶ。
特に、多くの先進諸国が「福祉国家」という国家形態をとる中で、それがどのように形作られ、いかなる機能を持ち、我々が暮らすこの日本においてはそれがどんな姿をしているのか (していたのか) を学ぶ。
また、近年、経済活動がグローバル化する中で「福祉国家」の在り方が揺らいでいることを学んでいく。
本授業は、授業内容に関する自習用動画を閲覧し、終了後に授業内容を確認する小テストを行う形ですすめる。授業内容は、動画及び授業内容をまとめたメモ等を公開して自習が可能なスタイルとする。

【学習目標】
各国における社会経済制度についての知識と、その背景にある経済学の思想・理論の習得を目指す。
具体的には、関係するテーマを扱った新聞・雑誌記事などを理解することが可能なようにする。
また、就職活動における時事問題、面接時の問題意識発表などに役立つ知識の習得を目指す。

【講義計画】
第 1 回：「ガイダンス」
講義内容のガイダンス及び「政府の 3 機能」について学ぶ
第 2 回：「公共財の理論」
公共財の性質と公共財の最適供給について学ぶ
第 3 回：「公共財と私的財の間」
サミュエルソン・ルールと公共財のバリエーション、公共財の歴史的側面
第 4 回：「所得の再分配をめぐる政治経済学」
功利主義、平等・公平・衡平、ロールズの正義論、社会的危機論
第 5 回：「再分配の手段としての租税政策」
租税の原理と機能、再分配を図る手段としてのジニ係数
第 6 回：「経済安定化のための手法と理論」
総需要管理としての 45 度線分析と IS=LM 分析、景気対策としての金融政策
第 7 回：「経済安定化機能としての乗数効果」
乗数効果を理解するための等比数列と無限等比級数、乗数効果の解説
第 8 回：「古典派経済学者の政府支出論とその限界」
古典派経済学者による政府支出の捉え方、古典派経済学者の論理の限界
第 9 回：「新しい希望ケインズ経済学、そして古典派の逆襲」
大恐慌による経済学へのインパクト、戦後のスタグフレーションの理論的意味
第10回：「慈恵としての福祉から権利としての福祉国家へ」
19 世紀までの貧困者対策、20 世紀以降の権利としての福祉と経済成長
第11回：「福祉国家の多様性、レジーム論」
福祉国家レジーム論による分類化、日本の福祉支出の特徴
第12回：「保守主義と社民主義　2 つの福祉レジーム」
保守主義レジームのモデルとしてのドイツ、社民主義レジームのモデルとしてのスウェーデン
第13回：「残余的グループとしての自由主義及び家族主義レジーム」
自由主義レジームとしてのアメリカ、家族主義レジームとしての日本
第14回：「講義の振り返り (1)」
講義内容の全体像の確認とポイント
第15回：「講義の振り返り (2)」
講義の理解に関する確認の実施

【事前および事後学習の指示】
宿題等を通じて、事前事後学習を義務付ける。

【テキスト】
福祉財政 (福祉＋αシリーズ) 高端正幸編著
9784623083695 ミネルヴァ書房

【参考文献】
神野直彦『財政学』有斐閣。
蓼沼宏一『幸せのための経済学』岩波ジュニア新書。
ナイアル・キシテイニー著、月沢李歌子訳『若い読者のための経済学史』すばる舎。

【コメント】
・その他の内容：
小テストで各授業 (第 2 回〜第 13 回) の内容について、4 択問題を 2 問出題する (合計 4 点満点、部分点なし)。
第 14 回、15 回で振り返りを行い、この際行う小課題をそれぞれ 1 点として提出を課す。
・試験の内容：
試験は期末にオンラインテスト (時間指定と時間制限あり、50 点満点) を行う。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
経済成長論Ⅰ　＜春＞	**金 4**

【教員名称】
上ノ山　賢一

【講義概要】
この講義では、経済成長の仕組みや要因について学習します。一国の経済が発展し成長する要因には、人口や資本量、技術水準などがあります。これらの要因がどのように互いに組み合わさり、マクロ経済が拡大していくのかを学習します。

【学習目標】
(1) 経済成長モデルの基礎を習得する。
(2) 成長モデルを基に途上国が発展していくために必要な制度やシステムについて議論出来るようになる。
(3) 時事問題を考察する際に、経済成長に関する考え方を応用することが出来る。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス：授業の進め方や成績評価に関する説明
第 2 回：経済成長の概略：データから見るトレンド
第 3 回：成長モデルとその特徴
第 4 回：新古典派経済学のマクロ経済
第 5 回：ソローモデル (1) 財市場均衡
第 6 回：ソローモデル (2) 生産関数の特徴
第 7 回：ソローモデル (3) 資本蓄積のメカニズム
第 8 回：ソローモデル (4) 経済成長経路
第 9 回：ソローモデル (5) 経済成長の要因
第10回：ソローモデル (6) ソローモデルの限界
第11回：成長と所得の変化　4 つの生活
第12回：人口動態と所得
第13回：教育と経済成長
第14回：成長論の課題
第15回：全体のまとめ

【事前および事後学習の指示】
この講義は、ミクロ経済学およびマクロ経済学の基礎の授業を履修中または履修済みである学生の受講を想定しています。また、基本的な微分を用いた数式の展開を授業で行いますので、数学が苦手な学生は予習・復習を十分にしておく必要があります。毎回の授業の内容は連続していますから、事前学習として参考資料とシラバスの確認、事後学習として練習問題や課題を解くようにして下さい。積極的な学生の受講を歓迎します。

【テキスト】

【参考文献】
齊藤誠、岩本康志、太田聰一、柴田章久「マクロ経済学」(2016) 有斐閣
ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド「FACTFULNESS(ファクトフルネス)」(2019) 日経 BP

【コメント】
授業内容の確認を前提とした課題 (計算問題を含む) を小レポートとして、複数回設定します。回答内容を評価の 30%とし、小レポートの提出状況を授業への参加姿勢として評価の 10%とします。また、授業の最後に授業全体の内容を範囲とする筆記試験を実施します。期末試験の評価は 60%とします。

【留意事項】

講義名称	曜時
経済入門　＜春＞	土４

【教員名称】　遠隔授業 (オンデマンド型)
矢根　眞二

【講義概要】
●「入門ゲーム理論」の入門授業で、「ゲーム論的関係」を通した世間や社会の見方を学習します。トランプやサッカー、受験や就活、恋愛や外交はもちろん、大学生活やビジネスへの準備にもこの単純な「モデル思考」の修得が不可欠だからです。
●そのためには 10 回程度の (指定期間内は繰り返し受験可能な 5 問 5 分の本学 Moodle 上のオンライン) クイズを反復練習する必要がありますから、自主自律的に自分のペースで効率的に学習できる大人の受講生を歓迎します。

【学習目標】
「自分で予測できる」範囲を広げることが講義目的ですが、問題練習によって得られる具体的な到達目標は以下の 3 点です。
1. 完備情報下の基本的なゲームパターンの識別能力の獲得
2. 毎回の問題練習による科学 (経済学) モデルの効率的な学習法の習得
3. 生活・ビジネス・経済ニュースの (モデル思考による) 理解・説明力の向上

【講義計画】
第 1 回：ゲームは「初手」が大事！：効率的な学習法と本学 Moodle へのアクセスの確認 - ゲームを有利に進めるには初手 (およびその情報) が最重要です。
1. 本授業の教材 (スライド・録画説明・Zoom リンク・Q&A・クイズ・試験等) は、すべて (M-Port ではなく)Moodle 上にありますから、
2. (M-Port に通知された登録キーを使って) 本学 Moodle にアクセスし、
3. 今年度の評価基準・クイズの利用法・教材および授業の活用法について学習するので、
4. 必ず最初に (リアルタイム・オンデマンドを問わず) チェックして学習計画を立てて下さい。
第 2 回：学習の便益・費用 (と Moodle・スライド・クイズの活用法の実践)
第 3 回：科学の要は「モデル思考」
第 4 回：成否の鍵は「セルフコントロール能力」(Quiz1)
第 5 回：「問題練習」なくして経済学は修得できない (Quiz2)
第 6 回：ゲームのプレイの基本 (Quiz3)
第 7 回：学習する「非協力完備情報ゲーム」と分析道具 (Quiz4)
第 8 回：「対立」か「協調」で異なる接し方 (Quiz5)
第 9 回：ゲームの「予測」(Quiz6)
第10回：悪名という「評判」の利益と恐怖 (Quiz7)
第11回：混合背略と理解度診断 (BQ1)
第12回：「先手・後手」の利益と情報 (Quiz8)
第13回：「囚人のジレンマ」の善悪 (Quiz9)
第14回：無限繰り返しゲームと授業内試験 (Exam)
第15回：ゲームオーバーからの教訓

【事前および事後学習の指示】
特に 9 回の反復・正答参照可能なオンライン問題練習で正答率連続 100% を達成していれば、成績評価のほぼ 4 割を占めるクイズ合計点を確保できるだけでなく、類題から成る試験の得点も高くなりますから、必ず期間内に問題練習する習慣が最も重要です。

【テキスト】

【参考文献】
初回講義でも用途別に例示予定ですが、授業がわかりにくい方には鎌田雄一郎 (2019)『ゲーム理論入門の入門』岩波新書、現実への適用の仕方・使い方に興味がわいた方にはディキシット (2010)『戦略的思考をどう実践するか』ＣＣＣメディアハウスが有用かもしれません。

【コメント】
- オンラインでの (時間厳守 1 回限りの) 試験 60 点とクイズ合計 45 点の計 105 点 (ムードル上の自己確認可能) がベースで、出席点はありません (60 点以上が合格)
- ただし、ボーナスクイズ (BQ) 等を加点する場合もあります
- 試験受験は単位認定の必要条件ですから、(公認欠席届なしの) 未受験者には単位を認定できません。

【留意事項】

講義名称	曜時
原価計算システム　＜春＞	木４

【教員名称】
濱村　純平

【講義概要】
この講義では、主に製造業でもちいられる原価計算の仕組みについて解説する。谷 (2012)『エッセンシャル原価計算』(中央経済社) をもちいて実際に企業が財務報告に用いる原価計算について解説する。
なお、講義内ではみなさんに計算問題を解いてもらって、前に出てもらって解答してもらおうと考えています。この講義では計算を重視するので、計算が直接成績に反映されると思ってください。

【学習目標】
・実際に製造業で用いられている原価計算システムがどのように計算されているかについて理解する。
・各原価計算システムのメリットとデメリットについて知る
・総合原価計算と個別原価ができるようにする。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス及び原価計算の基礎・他の分野との関わり
第 2 回：原価計算の意義
第 3 回：原価の概念
第 4 回：原価の費目別計算ー①材料費の計算
第 5 回：原価の費目別計算ー②労務費と経費の計算
第 6 回：原価の部門別計算
第 7 回：これまでの復習及び中間試験 (持ち帰り試験の可能性もあり)
第 8 回：単純総合原価計算ー①総合原価計算とは
第 9 回：単純総合原価計算ー②仕損品と減損
第10回：工程別原価計算
第11回：組別総合原価計算ー①組別総合原価計算の利点と組固定費・組変動費
第12回：組別総合原価計算ー②組別総合原価計算の計算方法
第13回：個別原価計算ー①製造指図書と個別原価計算の種類
第14回：個別原価計算ー②部門別原価計算の計算方法
第15回：講義のまとめおよび期末試験 (持ち帰り試験の可能性もあり)

【事前および事後学習の指示】
必要に応じて適宜解説するので事前に財務会計について習得しておく必要はありませんが、学習しておくとよいです。計算が中心になるのでテキストや参考文献の練習問題について、なぜそのような計算になるのかを考えながら実際に手を動かして復習してください。試験では実際に計算問題が出るので、これらを解けるようにする必要があります。

【テキスト】
エッセンシャル原価計算 谷武幸
978-4502450006 中央経済社

【参考文献】
タイトル：インサイト原価計算
著者：加登豊
出版社：中央経済社
ＩＳＢＮ：978-4502286704

【コメント】
中間試験と期末試験で合わせて 100 点 (50：50) です。講義中に前に出てきて解答してもらう場合もあります。
この講義では私語は慎んでください。私語がひどい場合には減点します。もちろん、質問は歓迎します。
また、必ず電卓を持ってきてください。この講義では緊急の案件以外でのスマートフォンの使用を禁止します。必ず手を動かしてください (反した場合は -50 点とします。なお、大学の方針にしたがい PC 等は可とします)。
レポートに剽窃がある場合は最終成績を D 評価とます。
加えて、レポートを遅れて提出する場合には採点したうえで最終成績から -40 点として対応いたします。
なお、オンライン講義の場合は別途告知します。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
健康・スポーツ科学講義 - 健康教育論　01 ＜春＞	**木 1**

【教員名称】
大西　史晃

【講義概要】
健康に関わる要素は多様であり、それらが日常の中でどのように変化するのか、あるいはどうすれば変化させることができるのかを知ることは人生の様々な時点で豊かなライフスタイルを獲得する上で重要です。本講義では、健康教育の要素と構造についての基礎知識を学びます。
本講義における前半部は、「健康」そのものについての定義やその要素に関する評価法について説明します。後半部では、前半部で学んだ「健康の要素」を整える、あるいは獲得する過程でみられる人の行動変容について提唱されてきた行動科学モデルについて説明するとともに、健康教育の実際の例を概説します。

【学習目標】
本講義では、「健康」とはどのような状態かを知り、その関連要素を満たすために必要な知識を修得するとともに人が健康行動を実施する過程を認識することを通して、人々が社会の中で健康行動を実施・継続するために必要なことを理解することを目指します。
講義内では「健康とはどのような状態かについて 3 つの観点から説明できる」、「健康教育の発展について提唱された理論やモデルについて説明できる」、「日常の身体活動量を評価できる」を具体的な到達目標とします。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス (授業の概要・成績評価・課題の説明含む)
第 2 回：「健康」の定義
第 3 回：精神的健康に関わる要素
第 4 回：肉体的健康に関わる要素
第 5 回：社会的健康に関わる要素
第 6 回：精神的健康とストレスの評価法
第 7 回：Quality Of Life(QOL) と身体活動量の評価法
第 8 回：「健康教育」とはなにか？
第 9 回：行動科学のモデル① KAP モデル / ヘルスビリーフモデル
第10回：行動科学のモデル②トランスセオレティカルモデル /Health Action Process Approach
第11回：行動科学のモデル③社会的認知理論
第12回：行動科学のモデル④ Precede-Proceed モデル
第13回：「ヘルスプロモーション」の 3 つの前提条件と 5 つのアクション
第14回：我が国のヘルスプロモーションの実際
第15回：諸外国のヘルスプロモーションの実際

【事前および事後学習の指示】
健康に関する書物や映像で事前に学習し、理解しておくようにしてください。これにより、講義を通して健康問題やそれに関する個人や社会の動きへの理解をより深めることができます。

【テキスト】

【参考文献】
「実践　ヘルスプロモーション」ローレンス W. グリーン＆マーシャル W. クロイター、医学書院

【コメント】
①小テスト 10 回 -100% (各 10%)

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
健康・スポーツ科学講義 - コーチング論　＜春＞	**火 1**

【教員名称】
松本　直也

【講義概要】
本講義では、スポーツ現場におけるスポーツコーチングに焦点を当てながら、スポーツの歴史、日本的スポーツ環境の問題点について理解を深め、スポーツコーチの役割について学習します。また、生涯スポーツと健康などスポーツを取り巻く様々な環境について考察を深めます。

【学習目標】
本講義では、幅広い知識と多面的な思考の方法を身につけるために、体育・スポーツ指導におけるコーチングの基本理論と実践について理解を深めることを目的とします。スポーツコーチの仕事について理解を深めるために、コーチング哲学、コーチに求められる資質、また、具体的な役割について、文献だけでなく実際の現場の視点からアプローチしていきます。パワーポイントを中心に授業を展開し、VTR 映像、新聞資料等からコーチングに関わる様々な問題を取り上げます。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス・・・授業計画の説明
第 2 回：スポーツについて考える
第 3 回：遊びの定義と近代スポーツの成立
第 4 回：スポーツの日本への伝播と戦前の体育・スポーツ
第 5 回：日本的スポーツ観①
～第 2 次世界大戦後の日本の体育・スポーツ～
第 6 回：日本的スポーツ観②
～企業スポーツと日本のスポーツ環境～
第 7 回：諸外国のスポーツ環境
第 8 回：レポート課題①
第 9 回：スポーツコーチングについて考える
第10回：スポーツコーチの役割①
～コーチングスタイル～
第11回：スポーツコーチの役割②
～スポーツ科学と情報分析～
第12回：スポーツコーチの役割③
～スポーツ医科学～
第13回：スポーツコーチの役割④
～心理的アプローチ～
第14回：スポーツコーチの役割⑤
～コーチングとリーダーシップ～
第15回：レポート課題②

【事前および事後学習の指示】
授業の予習・復習の他、授業で配布するプリント、資料等に目を通してから受講すること。

【テキスト】

【参考文献】
・「知的コーチングのすすめ」勝田隆著　大修館書店
・「コーチング学への招待」 日本コーチング学会編　大修館書店
・「スポーツ・コーチング学」 レイナー・マートン著　西村書店

【コメント】
(1) レポート (50%) は、到達目標に関連するテーマを設定した 1000-1600 字程度のレポート課題を 2 回課します。
(2) 授業においては毎回、小課題を課します。毎回の授業において課される課題の内容は、担当教員から講義の中、ならびに M-Port を通じてその都度指示が出ます。
(3) その他 (50%) は、毎回の授業において課す小課題の提出から、課題への取り組み、理解度等を総合的に評価します。
(4) 課した課題 (レポートも含む) の合計回数のうち、3/4 以上の提出がなければ、成績評価の対象にはなりません。

【留意事項】

講義名称	曜時
健康・スポーツ科学講義 - 体力トレーニング論 01 ＜春＞	金 1

【教員名称】
井口　祐貴

【講義概要】
本講義では、体力の概念、トレーニング法の原理原則など、体力トレーニングの基礎的な理論や情報、考え方に関する知識や、人々の生涯にわたる健康づくりに寄与するであろう体力トレーニングの意義について学習します。講義は、パワーポイントを中心に授業を展開し、映像資料なども用いて、体力トレーニングに関わる実践現場の視点からもアプローチしていきます。

【学習目標】
本講義では、スポーツ科学に基づいた体力トレーニングに関する基礎的な理論について理解を深め、自己の体力向上・健康づくりを目的とした体力トレーニングの実践につながる教養を身につけることを目指します。
講義内では、「身体的な健康の基礎である身体の構造や機能の基礎知識を踏まえて、体力トレーニングの意義を説明できる」、「体力トレーニングという概念を幅広くとらえ、身体活動・スポーツ活動などを切り口として、体力向上・健康増進の意義と社会における体力トレーニングの役割を説明できる」を具体的な到達目標とします。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス (授業計画の概略説明)
第 2 回：体力トレーニングについて考える
第 3 回：トレーニングの原理・原則
第 4 回：運動とエネルギー代謝
第 5 回：有酸素運動
第 6 回：レジスタンストレーニング
第 7 回：体力トレーニングの実践方法
第 8 回：運動と栄養
第 9 回：スポーツ競技者と体力トレーニング
第10回：障がい者と体力トレーニング
第11回：発育発達と体力トレーニング
第12回：高齢者と体力トレーニング
第13回：体力トレーニングと性差
第14回：生活習慣病とその予防
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
体力トレーニングや健康づくりに関する書物や映像で事前に学習し、理解に努めておいてください。また当科目は講義科目ですが、スポーツや身体活動の実践、体力の向上や健康の維持増進についての方法などにも興味を持って授業に臨んでください。これにより、講義を通して体力向上・健康づくりや健康問題への理解をより深めることができます。授業の予習・復習の他、授業で配布する資料等に目を通して受講してください。尚、授業において課す課題の提出期限については厳しく取り扱いますので、留意の上、受講するようにしてください。

【テキスト】

【参考文献】
「公認スポーツ指導者養成テキスト」公益財団法人 日本スポーツ協会
「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト」公益財団法人 日本スポーツ協会
「トレーニング指導者テキスト (理論編・実践編・実技編)」NPO 法人 日本トレーニング指導者協会

【コメント】
(1) 試験 (20%) は、授業内において M-port を用いて行います。
(2) レポート (30%) は、到達目標に関連するテーマを設定した 1000-1400 字程度のレポート課題を 2 回課します。
(3) 授業においては毎回、講義テーマに関連するテーマを設定した小課題および小テストを課します。毎回の授業において課される課題の内容は、担当教員から講義の中、ならびに M-Port を通じてその都度指示が出ます。
(4) その他 (50%) は、毎回の授業において課す課題の提出および回答から、課題への取り組み、理解度等を総合的に評価します。
(5) 課した全ての課題 (レポートも含む) のうち、3/4 (提出率 75%) 以上の提出がなければ、原則として単位認定対象外となります。

【留意事項】

講義名称	曜時
言語学概論 A　＜春＞	水 2

【教員名称】
平川　裕己

【講義概要】
言語はヒトという種に固有の体系であり、言語の探究はヒトという種の本質を明らかにする取り組みにほかなりません。この講義では、英語・日本語の実例 (データ) を言語学的な観点から記述・分析することをつうじて、言語を用いるヒトの姿を明らかにします。言語学概論 A では、言語の形式や構造に関わる分野に焦点を当て、ことばの実例を原理的・体系的に分析します。

【学習目標】
ヒトの言語はどのような仕組みを備えているのか、原理的・体系的な理解を得る。言語学の研究方法に関する基本的な知識を習得し、より専門的な研究につなげていくための基礎を固める。理論や分析手法に関わる基礎概念の正確な把握に加え、ことばの実例 (データ) を自分自身で精緻に分析できるようになる。

【講義計画】
第 1 回：授業概要と導入
第 2 回：言語学の理論と方法
第 3 回：音声学・音韻論 (1)　概論：ことばと音の関係
第 4 回：音声学・音韻論 (2)　音の分類
第 5 回：音声学・音韻論 (3)　音素と異音
第 6 回：音声学・音韻論 (4)　音節
第 7 回：形態論 (1)　概論：語とは何か
第 8 回：形態論 (2)　語と形態素
第 9 回：形態論 (3)　様々な語形成
第10回：形態論 (4)　派生と複合
第11回：統語論 (1)　概論：文の成り立ち
第12回：統語論 (2)　生成文法
第13回：統語論 (3)　機能主義文法
第14回：統語論 (4)　認知文法
第15回：言語研究の広がり

【事前および事後学習の指示】
各回の授業後には必ず復習すること。授業内容の十分な理解には、各自の努力が不可欠です。特に、授業で学んだ概念や方法を用いてことばのデータを自分自身で分析できるかどうか、必ず確認してください。
復習によって毎回の授業内容の理解を確かなものにしておくことが、次回の授業の事前学習となります。また、各回に進む予定の範囲について、事前に配布資料を読んでおくこと。
また、授業で取り上げた現象が日常言語や専攻する言語で実際にどのように表れているか、日ごろから観察するようにしてください。

【テキスト】

【参考文献】
大津由紀雄 . 2009.『はじめて学ぶ言語学』ミネルヴァ書房 .
加藤重広 . 2019.『言語学講義：その起源と未来』筑摩書房 .
川添愛 . 2021.『ふだん使いの言語学：「ことばの基礎力」を鍛えるヒント』新潮社 .
窪薗晴夫編 . 2019.『よくわかる言語学』ミネルヴァ書房 .
斎藤純男 . 2010.『言語学入門』三省堂 .
佐久間淳一 . 2013.『本当にわかる言語学：フシギなくらい見えてくる！』日本実業出版社 .
滝浦真人 . 2018.『新しい言語学：心理と社会から見る人間の学』放送大学教育振興会 .
中島平三編 . 2009.『言語学の領域 (I)』朝倉書店 .
中島平三編 . 2009.『言語学の領域 (II)』朝倉書店 .

【コメント】
この科目は日本語教員養成課程の必修科目でもあるため、成績は厳しく評価します。安易な気持ちや不真面目な態度では一切合格できません。
講義は配布資料をもとに行います。この授業では抽象的で難解な概念を数多く扱いますから、能動的な取り組みと事前・事後学習が必須です。毎回の授業内で課題を出すため、欠席すると単位取得に大きく影響します。また、課題やレポートの事後提出は一切認めません。成績評価は、授業課題を 70%、レポートを 30%とします。授業への出席は単位認定の前提ですから、3 回以上の欠席ないし課題の未提出がある受講生は、成績評価の対象外とします。
教室では座席を指定し、私語をする受講生は即座に退室してもらい欠席扱いとします。授業資料を持参していない、居眠りをしている、ノートを取っていない学生も同様です。また、著作権上の問題が生じる可能性があるため、授業内で提示するスライドの撮影は全面的に禁止します。撮影が認められた学生は欠席扱いとします。

【留意事項】
初回の授業で概要を説明します。受講を希望する学生は必ず出席してください。合理的事由が認められる場合を除き、「聞いていなかった」という事後の申し出は一切受け付けません。

講　義　名　称	曜　時
言語表現論 A　＜春＞	**木 2**

【教員名称】
平川　裕己

【講義概要】
この講義では、具体的な場面・状況で用いられたことば (発話・テクスト) にどのような特徴があるか、発話・テクストはどういう仕組みで産出・理解されるのかについて、主に英語を対象として言語学的な観点から学びます。発話やテクストの産出・理解には、いつ・どこで・誰が使ったことばなのかということだけでなく、前後の文脈や話し手と聞き手の関係など、様々な要因が関わります。加えて、発話・テクストが構成するジャンルや、コミュニケーションに利用された媒体が重要な働きをすることもあります。言語表現論 A では、指示や推論に焦点を当て、ことばの実例を原理的・体系的に分析・考察します。

【学習目標】
発話やテクストはどのような特徴をもつのか、それらはコミュニケーションのなかでどういう機能を果たすのか、原理的・体系的な理解を得る。理論的な概念を正確に把握することに加え、ことばの実例 (データ) を自分自身で精緻に分析できるようになる。

【講義計画】
第 1 回：授業概要・導入
第 2 回：ことばとコンテクスト
第 3 回：指示 (1)　指示とコンテクスト
第 4 回：指示 (2)　指示対象の同定
第 5 回：直示と照応
第 6 回：背景知識と前提・含意
第 7 回：コードモデルと推論モデル
第 8 回：協調原則と会話の公理 (1)　理論的背景
第 9 回：協調原則と会話の公理 (2)　事例分析
第10回：関連性理論 (1)　理論的背景
第11回：関連性理論 (2)　事例分析
第12回：共同性基盤意味論 (1)　理論的背景
第13回：共同性基盤意味論 (2)　事例分析
第14回：発話理解とコミュニケーション
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
各回の授業後には必ず復習すること。授業内容の十分な理解には、各自の努力が不可欠です。特に、授業で学んだ概念や方法を用いてことばのデータを自分自身で分析できるかどうか、必ず確認してください。
復習によって毎回の授業内容の理解を確かなものにしておくことが、次回の授業の事前学習となります。また、各回に進む予定の範囲について、事前に配布資料を読んでおくこと。

【テキスト】

【参考文献】
必要に応じて授業内で紹介します。

【コメント】
講義・課題は配布資料をもとに行います。この授業では抽象的で難解な概念を数多く扱いますから、能動的な取り組みと事前・事後学習が必須です。毎回の授業内で課題を出すため、欠席すると単位取得に大きく影響します。また、課題やレポートの事後提出は一切認めません。成績評価は、授業課題を 70%、レポートを 30%とします。授業への出席は単位認定の前提ですから、3 回以上の欠席ないし課題の未提出がある受講生は、成績評価の対象外とします。
教室では座席を指定し、私語をする受講生は即座に退室してもらい欠席扱いとします。授業資料を持参していない、居眠りをしている、ノートを取っていない学生も同様です。また、著作権上の問題が生じる可能性があるため、授業内で提示するスライドの撮影は全面的に禁止します。撮影が認められた学生は欠席扱いとします。

【留意事項】
初回の授業で概要を説明します。受講を希望する学生は必ず出席してください。合理的事由が認められる場合を除き、「聞いていなかった」という申し出は一切受け付けません。

講　義　名　称	曜　時
現代英語圏文化の諸問題 - フィクションと社会 A ＜春＞	**火 2**

【教員名称】
谷山　智彦

【講義概要】
「小説」は想像の産物であり、創作物である。フィクションであるが、その背景には多くの場合、創作された時代の社会の「空気」や「社会問題」がある。本講義では、「小説」と作家を通して、異文化である英語圏が現代にいたるまで抱えてきた社会諸問題を概観する。

【学習目標】
英語圏といっても多様であるが、本講義では英国、米国を中心に据え、作品と諸問題を見て行く。英語圏社会が現在に至るまで抱えてきた男女両性の不平等や経済格差、異文化との対立などの諸問題に触れることで、より異文化への理解を深めるものとする。また、部分的に英語原典にも触れ、英語力も養成するものとする。

【講義計画】
第 1 回：初回オリエンテーション、授業の流れや成績評価について
　　英語圏の小説の始まりについて
第 2 回：18 世紀の英国小説
　　ダニエル・デフォー「ロビンソン・クルーソー」①
第 3 回：ダニエル・デフォー「ロビンソン・クルーソー」②
第 4 回：ジョナサン・スウィフト「ガリバー旅行記」①
第 5 回：ジョナサン・スウィフト「ガリバー旅行記」②
第 6 回：19 世紀の英国小説
　　チャールズ・ディケンズ「オリバー・ツイスト」①
第 7 回：チャールズ・ディケンズ「オリバー・ツイスト」②
第 8 回：アメリカ合衆国の文学の始まりと発展
　　19 世紀の米国小説
　　エドガー・アラン・ポー「黒猫」①
第 9 回：エドガー・アラン・ポー「黒猫」②
第10回：20 世紀の米国小説
　　シャーウッド・アンダーソン「ワインズバーグ・オハイオ」①
第11回：シャーウッド・アンダーソン「ワインズバーグ・オハイオ」②
第12回：20 世紀の英国小説
　　ジョージ・オーウェル「1984 年」①
第13回：ジョージ・オーウェル「1984 年」②
第14回：20 世紀の英語圏小説
　　チヌア・アチェベ「崩れゆく絆」①
第15回：チヌア・アチェベ「崩れゆく絆」②
　　まとめ

【事前および事後学習の指示】
ある程度小説の内容は授業内で概説するが、授業で扱う物語の概要を事前に簡単に把握しておくことが望ましい。

【テキスト】

【参考文献】
石塚久郎 責任編集『イギリス文学入門』三修社　2014 年
諏訪部浩一責任編集『アメリカ文学入門』三修社 2013 年

【コメント】
主な成績評価は、授業内で行う記述式の小課題、学期中間で行う中間レポートの提出と期末提出のレポート、最後のまとめの授業で行う最終まとめ授業内課題の総合評価で行います。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
現代英語圏文化の諸問題 - フィクションと社会 B ＜春＞	**金 2**

【教員名称】
谷山　智彦

【講義概要】
「小説」は想像の産物であり、創作物である。フィクションであるが、その背景には多くの場合、創作された時代の社会の「空気」や「社会問題」がある。本講義では、「小説」と作家を通して、異文化である英語圏が現代にいたるまで抱えてきた社会諸問題を概観する。

【学習目標】
英語圏の中でも特に、英国の小説家の作品を中心的に取り上げ、読んでいく (必要に応じて英国以外の作品も紹介する)。英語圏社会が現在に至るまで抱えてきた男女両性の不平等や経済格差、異文化との対立などの諸問題に触れることで、より異文化への理解を深めるものとする。また、部分的に英語原典にも触れ、英語力も養成するものとする。

【講義計画】
第 1 回：初回オリエンテーション、授業の流れや成績評価について
　　英語圏の小説の始まりについて
第 2 回：18 世紀英国の散文・小説
　　ダニエル・デフォー「ペスト」
第 3 回：18 世紀～ 19 世紀初期の英国小説
　　ジェイン・オースティン「高慢と偏見」①
第 4 回：ジェイン・オースティン「高慢と偏見」②
第 5 回：19 世紀の小説
　　ブロンテ姉妹：シャーロット・ブロンテ「ジェイン・エア」①
第 6 回：ブロンテ姉妹：シャーロット・ブロンテ「ジェイン・エア」②
第 7 回：ブロンテ関連作品：
　　ジーン・リース「サルガッソ―の広い海」
第 8 回：ブロンテ姉妹：エミリ・ブロンテ「嵐が丘」①
第 9 回：ブロンテ姉妹：エミリ・ブロンテ「嵐が丘」②
第10回：トマス・ハーディ「テス」①
第11回：トマス・ハーディ「テス」②
第12回：ジョセフ・コンラッド「闇の奥」①
第13回：ジョセフ・コンラッド「闇の奥」②
第14回：20 世紀の小説
　　ヴァージニア・ウルフ「オーランド―」①
第15回：ヴァージニア・ウルフ「オーランド―」②
　　まとめ

【事前および事後学習の指示】
ある程度小説の内容は授業内で概説するが、授業で扱う物語の概要を事前に簡単に把握しておくことが望ましい。

【テキスト】

【参考文献】
石塚久郎 責任編集『イギリス文学入門』三修社　2014 年
諏訪部浩一責任編集『アメリカ文学入門』三修社 2013 年

【コメント】
主な成績評価は、授業内で行う記述式の小課題、学期中間で行う中間レポートの提出と期末提出のレポート、最後のまとめの授業で行う最終まとめ授業内課題の総合評価で行います。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
憲法 A　01 ＜春＞	**月 1**

【教員名称】
森口　佳樹

【講義概要】
憲法の基本的内容について解説する。憲法規定の内容を理解したうえで、それをめぐる学説・判例について紹介・検討することとする。憲法 A では、人権規定を中心に講義する。

【学習目標】
憲法規定について、自らが主体的に説明できる能力を身につけてもらうことを目標とする。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション、憲法総説
第 2 回：基本的人権の主体
第 3 回：人権と公共の福祉
第 4 回：人権規定の効力
第 5 回：幸福追求権の意義
第 6 回：新しい人権の具体化
第 7 回：平等の意義
第 8 回：平等権をめぐる判例
第 9 回：思想・良心の自由
第10回：信教の自由
第11回：表現の自由
第12回：表現の自由をめぐる判例
第13回：学問の自由
第14回：経済的自由権
第15回：身体的自由権

【事前および事後学習の指示】
講義中に指定する判例については、よく復習しておくこと。

【テキスト】
ワンステップ憲法 森口佳樹他
978-4-7823-0546-1 嵯峨野書院

【参考文献】
別冊ジュリスト「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ　第 7 版」(有斐閣)

【コメント】
受講生数によるが、基本的には試験に代わる単位認定レポートを主たる評価の対象とする。補助的に小テストを行い、補充的な成績評価の対象とする。
単位認定レポートは事例式の問題となり、学説・判例の理解を前提として課題に対する考え方を検討する問題となる。成績報告期限との関係で短期間の提出を求めることもあるので留意されたい。単位認定レポートを提出しなければ単位の認定はできない。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
憲法 A　02 ＜春＞	月 2

【教員名称】
森口　佳樹

【講義概要】
憲法の基本的内容について解説する。憲法規定の内容を理解したうえで、それをめぐる学説・判例について紹介・検討することとする。憲法 A では、人権規定を中心に講義する。

【学習目標】
憲法規定について、自らが主体的に説明できる能力を身につけてもらうことを目標とする。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション、憲法総説
第 2 回：基本的人権の主体
第 3 回：人権と公共の福祉
第 4 回：人権規定の効力
第 5 回：幸福追求権の意義
第 6 回：新しい人権の具体化
第 7 回：平等の意義
第 8 回：平等権をめぐる判例
第 9 回：思想・良心の自由
第10回：信教の自由
第11回：表現の自由
第12回：表現の自由をめぐる判例
第13回：学問の自由
第14回：経済的自由権
第15回：身体的自由権

【事前および事後学習の指示】
講義中に指定する判例については、よく復習しておくこと。

【テキスト】
ワンステップ憲法 森口佳樹他
978-4-7823-0546-1 嵯峨野書院

【参考文献】
別冊ジュリスト「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ　第 7 版」(有斐閣)

【コメント】
受講生数によるが、基本的には試験に代わる単位認定レポートを主たる評価の対象とする。補助的に小テストを行い、補充的な成績評価の対象とする。
単位認定レポートは事例式の問題となり、学説・判例の理解を前提として課題に対する考え方を検討する問題となる。成績報告期限との関係で短期間の提出を求めることもあるので留意されたい。単位認定レポートを提出しなければ単位の認定はできない。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
語彙・意味論　＜春＞	火 2

【教員名称】
島　千尋

【講義概要】
「語彙」とは、ある言語・ある分野・ある作品・ある人などが持っている単語の総体のことです。この授業では、日本語の語彙やその意味に関して、外国人の目から見た特徴や「日本語を教える」という観点から必要になる知識や技術について講義します。
将来、日本語教師として外国人学習者に日本語を教えてみたい人はもちろん、日本語のことをもっと深く知りたい人、今後社会で必ず関わることになる外国人と接する際に必要な知識を今から身につけておきたい人を対象とする授業です。
(講義全体を通して、文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容 50 項目」のうち (42) 日本語教育のための形態・語彙体系　(44) 日本語教育のための意味体系　について学びます)

【学習目標】
日本語学習者に日本語を教える際、また周りの外国人と接する際に、日本語の語彙に関して必要となる以下の 4 つを身につける。
1．自分自身が日本語の語彙を正確に使用できること
2．他言語から見た日本語の語彙の特徴について知ること
3．日本語の語彙に関する基本的な知識を得ること
4．日本語学習者や身近な外国人に日本語の語彙を効果的に教えられること

【講義計画】
第 1 回：1．正確な日本語語彙運用 (1)　～間違いやすい言葉①～
(文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容 50 項目」のうち (11) 待遇・敬意表現　を含む)
第 2 回：1．正確な日本語語彙運用 (2)　～間違いやすい言葉②～
第 3 回：2．他言語から見た日本語の語彙の特徴 (1)　～語彙の多さ・男女差～
第 4 回：2．他言語から見た日本語の語彙の特徴 (2)　～オノマトペ・助数詞～
第 5 回：2．他言語から見た日本語の語彙の特徴 (3)　～自動詞他動詞・カタカナ語～
第 6 回：2．他言語から見た日本語の語彙の特徴 (4)　～様々な言葉における他言語との差～
第 7 回：3．日本語の語彙に関する基本的知識 (1)　～音声変化～
第 8 回：3．日本語の語彙に関する基本的知識 (2)　～言葉の意味～
第 9 回：3．日本語の語彙に関する基本的知識 (3)　～様々な動詞～
第10回：3．日本語の語彙に関する基本的知識 (4)　～語彙の分類①～
第11回：3．日本語の語彙に関する基本的知識 (4)　～語彙の分類②～
第12回：3．日本語の語彙の教え方 (1)　～反義語～
第13回：4．日本語の語彙の教え方 (2)　～類義語・多義語～
第14回：4．日本語の語彙の教え方 (3)　～様々な教え方～
(文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容 50 項目」のうち (15) 言語学習　を含む)
第15回：4．日本語の語彙の教え方 (4)　～語彙指導の実践～

【事前および事後学習の指示】
・授業の録画と授業資料 (パワーポイント) を M-Port に上げますので、それを見て復習してください。
・自分自身や身の回りの日本語の言葉の正確さについて普段から強く意識するようにしてください。
・学内の留学生と積極的に関わり、話をして、彼らが日本語について感じていることを直接聞いてみてください。
・外国人学習者向けの様々な日本語教科書が図書館にあるので、語彙の面に注意をしながら見てください。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
・出席は取りませんが、その日の授業内容に基づいて、ほぼ毎回小テストを出します。授業資料を M-Port に上げるのは小テストの提出期限後ですので、授業を聞いていないと小テストができません。授業には毎回必ず出席してください。もちろん、ただ出席しているだけで出席点が加味されるということはありません。
・周りの人とおしゃべりをすること、断りなく途中退室することは厳禁とします。どうしても退室しなければならない場合は、講義中でも構いませんので教員に許可を取ってください。
・「レポート」は学期中に時々課す課題 (全 3 回・40%) と学期末に課す最終課題 (40%) です。
・「その他」はほぼ毎回課す小テスト (20%) です。
・授業中に質問への解答のためにスマートフォンを使用してもらう場合があります。

【留意事項】
日本語学校・専門学校・他大学での日本語教師経験のある現役日本語教師が経験の中で得た具体的な実例を交えつつ解説する

講義名称	曜時
考古学概論Ａ　＜春＞	月３

【教員名称】
秋山　浩三

【講義概要】
講義は考古学を理解するための基礎・概説編として実施します。原則として講義形式で進めますが、わかりやすくするためにスライドショーなどビジュアルな資料を使用します。教科書は指定せず、必要に応じてプリントなどを配付します。具体的な講義対象は、旧石器・縄文時代専論となります。

【学習目標】
考古学という学問を通じて、人類の残した考古資料の時代的変遷を把握し、現代社会あるい地域社会の文化を理解する能力をもつ。また、博物館学芸員課程受講者は、考古資料の基礎知識を習得する。

【講義計画】
第１回：ガイダンス
考古学とは何か
講義の進め方、成績評価について説明。
島に生きた旧石器人―沖縄の洞穴遺跡と人骨化石（沖縄）
第２回：サヌカイトに魅せられた旧石器人―二上山北麓遺跡群（奈良）
第３回：旧石器人の遊動と植民―恩原遺跡（岡山）
第４回：日本考古学の原点―大森貝塚（東京）
第５回：縄文文化のはじまり―上黒岩遺跡（愛媛）
第６回：奈良大和高原の縄文文化―大川遺跡（奈良）
第７回：琵琶湖に眠る縄文文化―粟津湖底遺跡（滋賀）
第８回：京都盆地の縄文世界―北白川遺跡群（京都）
第９回：国宝土偶「仮面の女神」の復元―中ッ原遺跡（長野）
第10回：日本海側最大級の縄文貝塚―小竹貝塚（富山）
第11回：縄文時代の社会構造をのぞく―姥山貝塚（千葉）
第12回：縄文のタイムカプセル―鳥浜貝塚（福井）
第13回：中国山地の縄文文化―帝釈峡遺跡群（広島）
第14回：徳島の土製仮面と巨大銅鐸のムラ―矢野遺跡（徳島）
第15回：まとめ
レポート提出（受理）・同寸評
縄紋の祈り・弥生の心―森の神から稲作の神へ

【事前および事後学習の指示】
講義前―関係書籍やインターネットの情報により、各回の対象とする遺跡に関する具体的内容をあらかじめ理解しておく。
講義後―参考文献などにより復習し、関連する遺跡（史跡公園など）や資料館・博物館で出土品などを実見する。

【テキスト】

【参考文献】
『佐原真の仕事１　考古学への案内』金関恕･春成秀爾編　岩波書店　2005
『考古学通論』近藤義郎　青木書店　2008

【コメント】
講義中に提示する最終課題論述レポート（60％）、講義中に抜き打ちで実施する２回の小テスト（40％）で評価。

【留意事項】
文化財担当・博物館職員として実施した発掘調査・展示経験をもとに考古学を講義する。
複数の他大学・大学院で非常勤講師ほかとして考古学を講義していた経験をもとに講義する。

講義名称	曜時
公的扶助論Ａ　＜春＞	火５

【教員名称】
忠岡　一也

【講義概要】
［授業の目的・ねらい］
貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境、貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する。また、貧困に係る法制度と支援の仕組み、貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。
［授業全体の内容の概要］
①貧困の概念、②貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境、③貧困の歴史、④貧困に対する法制度、⑤貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割

【学習目標】
［授業修了時の達成課題（到達目標）］
①貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。
②貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する。
③貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。
④貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する

【講義計画】
第１回：1 貧困の概念
第２回：2 貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境
第３回：3 貧困の歴史①：貧困状態にある人に対する福祉の理念
第４回：4 貧困の歴史②：貧困観の変遷、貧困に対する制度の発展過程
第５回：5 貧困に対する法制度①：生活保護法
第６回：6 貧困に対する法制度②：生活困窮者自立支援法
第７回：7 貧困に対する法制度③：低所得者対策
第８回：8 貧困に対する法制度④：ホームレス対策
第９回：9 貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割①：貧困に対する支援における公私の役割関係
第10回：10 貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割②：国、都道府県、市町村の役割
第11回：11 貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割③：福祉事務所の役割、自立相談支援機関の役割
第12回：12 貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割④：その他の貧困に対する支援における関係機関の役割、関連する専門職等の役割
第13回：13 貧困に対する支援の実際①：社会福祉士の役割
第14回：14 貧困に対する支援の実際②：貧困に対する支援の実際（多職種連携を含む）
第15回：15 まとめ

【事前および事後学習の指示】
公的扶助論の中核である生活保護制度は歴史的にも古く、また現行制度はその上に成立していることから複雑で精緻な制度です。専門職として実践力を期待される重要な学習分野です。予習・復習を繰り返して、各回の講義を理解するよう努めてください。本講義は、国家資格である社会福祉士、精神保健福祉士に加え、任用資格である社会福祉主事の要件科目です。そのため、これらの資格を目指す熱意と意欲を重視します。

【テキスト】
新・社会福祉士シリーズ 16　貧困に対する支援　福祉臨床シリーズ編集委員会 編・伊藤秀一 責任編集
978-4-335-61221-3 弘文堂
2022 年 05 月発刊
保護のてびき令和 5 年度版 生活保護制度研究会　編集
978-4-474-093270 第一法規出版

【参考文献】
生活保護手帳　別冊問答集　中央法規出版
Q&A 生活保護手帳の読み方・使い方［第 2 版］　吉永純　明石書店
生活保護と貧困対策 - その可能性と未来を拓く - 岩永理恵、卯月由佳、木下武徳　有斐閣
押さえておきたい公的扶助・生活保護行政　元田宏樹、松浦賢治、門井弘明　ぎょうせい
健康で文化的な最低限度の生活 (1 ～ 12 巻) 柏木ハルコ　小学館
THE BIG ISSUE JAPAN　（ビッグイシュー日本版）
※参考文献については、購入の必要はありません。

【コメント】
試験の結果にレポート提出状況及び授業課題への取組み状況等を加味して単位認定する。
詳細は授業初回に説明するため、初回授業には必ず出席すること。

【留意事項】
ソーシャルワーカーとして相談支援に取り組んできた教員が、その経験を活かして、貧困状態にある人の生活実態や生活課題を踏まえ、貧困に係る法制度と支援の仕組み、支援方法等について講義する。
講義資料は毎回配付します。詳細は初回講義で説明しますので、履修希望の学生は必ず出席してください。

講　義　名　称	曜　時
行動経済学Ⅰ　＜春＞	**月１**

【教員名称】
米田　紘康

【講義概要】
人間は常に些細なことから重要なことまで意思決定 (判断) の連続に晒 (さら) されています。
しかも私たちはコンピューターのように賢くもなくまた意志が弱いので、いつも正しい意思決定をしているとは限りません。
だからと言ってずっと悩み続けることはありませんし、いつも間違っているわけではありません。
その行動にはクセやパターンがあるということです。
このクセ・パターンを研究する分野を行動経済学といいます。
この講義では、行動経済学がどのような問題の解決に役立つのかさまざま事例を紹介します。
行動経済学はみなさんが習ってきた規範的な経済学 (= 特にミクロ経済学や金融論) に、心理実験や行動科学の要素を加えることで、より親しみやすい経済学になっています。

【学習目標】
主目標：受講生が、ミクロ経済学や行動経済学を中心とする基本的な意思決定について理解する。
副目標：受講生が行動経済学や認知科学の知識を生かして、多角的な視点から経済学が理解できる。
受講生は以下の 3 能力を身につけることができます。
・複雑に絡みあった経済・社会事象の仕組みを理解し、問題点を発見できる能力 (理解力)
・客観的な分析を基礎にして経済・社会事象を論理的に考察できる能力 (展開力)
・自らが体得した知見を自分の言葉で外部に対して発信できる能力 (発信力)

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション：行動経済学とは
第 2 回：人にやってほしいことをやらせるには？
第 3 回：女性が男性ほど稼げないのはなぜか？
第 4 回：女性が男性よりも競争が好きでない。なぜ？
第 5 回：成績格差
第 6 回：差別を終わらせる方法
第 7 回：いまどきの差別
第 8 回：自分のみを守る方法
第 9 回：なぜ寄付をする？
第10回：人に寄付させる方法
第11回：実験をしない代償
第12回：無料の魅力と罠
第13回：なぜ人は不正直なのか？
第14回：なぜ人は不正をするのか？
第15回：まとめとポイントの整理

【事前および事後学習の指示】
事前学習として 30 時間 (2h x 15 回)、事後学習として 30 時間 (2h x 15 回) を求めます。
具体的には授業後に次回のテーマを発表しますので、各自予習してください。
また授業終了後には、講義のポイントを復習するようにしてください。

【テキスト】

【参考文献】
ダニエル・カーネマン (著)、「ファスト & スロー (上・下) あなたの意思はどのように決まるか ?」、ハヤカワ・ノンフィクション文庫
ダン・アリエリー (著)、「予想どおりに不合理 : 行動経済学が明かす『あなたがそれを選ぶわけ』」、(ハヤカワ・ノンフィクション文庫)
ダン・アリエリー (著)、「ずる――嘘とごまかしの行動経済学」、(ハヤカワ・ノンフィクション文庫)

【コメント】
レポート 60% とは：事前に発表した課題についてレポートを提出してもらいます。
その他 40%とは：講義中にアンケートやリアクションペーパーを求めることがあります。

【留意事項】
履修条件はありませんが、以下のキーワードを含む講義を履修しているとより理解しやすいです。
ミクロ経済学、ゲーム理論、実験経済学、行動経済学

講　義　名　称	曜　時
コーポレート・ファイナンス (基礎)　＜春＞	**木４**

【教員名称】
齋藤　巡友

【講義概要】
企業を経営していく上で戦略の策定は非常に重要な意思決定となる。企業経営における戦略とは、企業経営に必要不可欠な資源である「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」の適切な使途および配分を決定することである。コーポレート・ファイナンスでは、特に「カネ」すなわち資金面の戦略に焦点を当てる。具体的には企業経営に係わる資金の流れを 3 つの段階に分けて考えることになる。1 つ目は、「どのように資金を集めるのか」という資金調達の段階である。2 つ目は、「集めた資金をどのように投資するのか」という投資の段階である。3 つ目は、「投資によって得られた利益をどのように処分するのか」という利益処分 (利益還元) の段階である。本講義では、これらの財務的意思決定における問題を理解するためのベースの部分となる概念や理論について学ぶ。

【学習目標】
コーポレート・ファイナンスに関する諸問題を理解するために必要な知識・概念や理論を習得することに加え、企業を「カネ」の側面から理解するためのフレームワークの習熟が本講義の学習目標となる。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション：授業内容や授業方針、成績評価について
第 2 回：財務活動と財務管理
第 3 回：財務諸表 1：財務諸表とは
第 4 回：財務諸表 2：貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書
第 5 回：財務諸表 3：財務指標からわかる企業の特性
第 6 回：資金の時間的価値
第 7 回：現在価値の公式と株式・債券の価格評価
第 8 回：企業価値の評価指標
第 9 回：リスクとリターン
第10回：ポートフォリオ理論 1：分散投資の効果
第11回：ポートフォリオ理論 2：平均・分散アプローチ
第12回：資産価格の決定理論
第13回：資本コストの概念 1：資本コストとは
第14回：資本コストの概念 2：資本コストの推計
第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
講義前に講義資料をアップロードするので、事前学習として講義資料を読み、疑問点を整理しておくこと。復習の際は、理解出来なかった点を講義後やオフィスアワーに質問する、または参考文献の該当箇所を確認するなどして疑問点を残さないようにすること。
本講義ではコーポレート・ファイナンスに関する応用的な内容を理解するために必要となる基礎概念や基礎理論を学ぶ。位置付けとしては「基礎」となっているが、理論的な部分を解説することが多く、トピックによっては初学者には難しく感じる部分も出てくると思うので、特に復習に重点をおいて取り組んでもらいたい。
この講義で扱うトピックの中には基礎的な数学知識を前提とするものもあるため、高校で習った数学 (特に確率) を復習しておくことを強く推奨する。

【テキスト】

【参考文献】
砂川伸幸著『コーポレートファイナンス入門〈第 2 版〉』日本経済新聞社
高橋文郎・井出正介著『経営財務入門　第 4 版』日本経済新聞出版社
米澤康博・小西大・芹田敏夫著『新しい企業金融』有斐閣アルマ
リチャード = ブリーリー・スチュワート = マイヤーズ・フランクリン = アレン著『コーポレートファイナンス 第 10 版 上』日経 BP 社
ジョナサン = バーク・ピーター = ディマーゾ著『コーポレートファイナンス入門編第 2 版』丸善出版株式会社
砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳『日本企業のコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社
砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳・佐藤淑子『経営戦略とコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社

【コメント】
①到達目標に対応する試験を期末に実施する。試験では、基礎的な知識や概念の理解度とそれらをどの程度応用できるかを確認するための問題を出題する。問題は短答式・記述式 (計算問題を含む) を組み合わせた形式となる。成績評価における点数配分は 70%
②授業の理解度を問う小課題を複数回実施する。成績評価における点数配分は 30%

【留意事項】
第 1 回の授業時に受講するうえで重要な情報 (授業運営の方針、成績評価等) を説明するため、初回授業への参加を本講義の履修の前提とする。やむを得ない事情により出席できない場合や遅刻する場合は必ず事前に担当教員に連絡すること。
※第 1 回目の授業に無断で欠席または遅刻した場合、本講義の履修を認めないこともある。

講義名称	曜時
国際会計論［2］ ＜春＞	**月 3**

【教員名称】
中村　恒彦

【講義概要】
「会計のルールを作っているのは？」
国際会計論では、IFRS(国際財務報告基準) 会計の学習を通じて現代の会計理論を学習します。学習内容が高度であるため、ひとつひとつの理論をゆっくりと学習していく予定にしています。

【学習目標】
この講義を通じて、論理的な考え方がどういうものかについて理解が深まればよいと思います。論理的な考え方に固執することはいけませんが、自分の視野を広げるためにも論理的な考え方が必要となります。会計学者や会計士や企業の財務担当者が考える論理の世界について体感していただければよいと思います。

【講義計画】
第 1 回：国際会計の世界　～国際化と外貨換算～
第 2 回：IFRS をめぐる背景
第 3 回：国際化の進展
第 4 回：IFRS の特徴と概念フレームワーク (1)　～演繹法と帰納法～
第 5 回：概念フレームワーク (2) ～会計の枠組み～
第 6 回：金融商品会計　～時価主義と原価主義～
第 7 回：利益計算のシステム (1)　～純利益と包括利益～
第 8 回：利益計算のシステム (2)　～資産負債アプローチと収益費用アプローチ～
第 9 回：中間ふりかえりと課題点検
第10回：リース会計　～実質優先主義と法的形式主義について～
第11回：連結会計　～経済的単一概念と親会社概念について
第12回：企業結合の会計　～パーチェス法と持分プーリング法～
第13回：収益認識の会計　～出荷基準と着荷基準～
第14回：国際会計の歴史　～生成から台頭まで～
第15回：最終ふりかえりと課題総点検

【事前および事後学習の指示】
財務諸表論や簿記関連科目や監査論と重複する部分が多いので、関連科目を履修することを勧める。

【テキスト】
はじめて学ぶ国際会計論 行待三輪
978-4-7944-1528-8 創成社
ベーシック国際会計 (第二版) 向伊知郎
978-4-502-30521-4 中央経済社

【参考文献】

【コメント】
・成績評価は、原則的に期末試験と平常評価によって行います。なお、平常評価は「出席」では行わず、講義中の「課題」や「宿題」によって評価を行います。
・期末試験 (80 点)+ 宿題・課題等 (20 点程度)　講義を欠席することのフォローは一切行いません。詳しい評価方法については、初回の講義で説明します。

【留意事項】

講義名称	曜時
国際機構論 A ＜春＞	**火 2**

【教員名称】
軽部　恵子

【講義概要】
この講義では、大航海時代から国連設立までの歴史を概観します。高校までの世界史と似ている部分もありますが、国際機構の視点で掘り下げるので、かなり異なる部分もあります。西洋を中心とした近現代史の基礎知識は、あらゆる科目の理解に必須です。この講義の第 2 回から第 4 回は、国際法 A の第 2 回から第 4 回､および地域研究 I A の一部と似ていますが、ここでは国際機構論の視点に基づき考察します。
講義冒頭には、国内外のメディアのホームページを用いて、最新の時事問題を国際機構論の視点から解説します。受講生は、メディアを批判的に読み解く「メディア・リテラシー」を学んでください。

【学習目標】
この講義では、大航海時代から国連設立までの歴史を概観します。高校までの世界史と似ている部分もありますが、国際機構の視点で掘り下げるので、かなり異なる部分もあります。西洋を中心とした近現代史の基礎知識は、あらゆる科目の理解に必須です。この講義の第 2 回から第 4 回は、国際法 A および地域研究 I A の一部と似ていますが、ここでは国際機構論の視点に基づき考察します。
講義冒頭には、国内外のメディアのホームページを用いて、最新の時事問題を国際機構論の視点から解説します。受講生は、メディアを批判的に読み解く「メディア・リテラシー」を学んでください。

【講義計画】
第 1 回：国際機構とは何か
第 2 回：国際機構の歴史 (1)　大航海時代、宗教改革、三十年戦争
第 3 回：国際機構の歴史 (2)　フランス革命、ナポレオン戦争
第 4 回：国際機構の歴史 (3)　ハーグ平和会議、赤十字国際委員会
第 5 回：第一次世界大戦 (1)　サラエボ事件
第 6 回：第一次世界大戦 (2)　近代兵器の登場
第 7 回：第一次世界大戦 (3)　国際聯盟の設立
第 8 回：国際連盟 (1)　国際連盟規約
第 9 回：国際連盟 (2)　大国の不参加
第10回：国際連盟 (3)　強制力の欠如
第11回：ファシズムの台頭と第二次世界大戦の勃発
第12回：国連の設立 (1)　「四つの自由」演説と大西洋憲章
第13回：国連の設立 (2)　ダンバートン・オークス提案
第14回：国連の設立 (3)　サンフランシスコ会議と国連憲章の採択
第15回：試験及びまとめ

【事前および事後学習の指示】
毎回の授業で指示される参考文献や参考 URL をもとに、事前および事後学習をしてください。

【テキスト】
新版一冊でわかるイラストでわかる図解世界史　成美堂出版編集部
978-4415328386

【参考文献】
植木安弘『国際連合：その役割と機能』日本評論社 2018 年
臼杵陽・鈴木啓之編著『パレスチナを知るための 60 章』明石書店　2016 年
青野利彦『冷戦史』全 2 巻　中央公論新社　2023 年
笈川博一『物語エルサレムの歴史』中公新書　2010 年
小林義久『国連安保理とウクライナ侵攻』筑摩書房 2022 年
篠原初枝『国際連盟』中央公論新社 2010 年
最上敏樹『国連とアメリカ』岩波書店 2005 年
横田洋三編『新国際人権入門：SDGs 時代における展開』法律文化社 2021 年
田中久美子監修『理由がわかればもっと面白い！西洋絵画の教科書』ナツメ社 2021 年

【コメント】
計 2 回の試験で成績評価を行います。出席は成績評価にいっさい関係ありません。追加の試験やレポートもいっさいありません。毎回の授業終了前に発表する「課題」は、成績評価の対象ではありませんが、受講生が講義の理解度を各自で確認できる内容になっています。詳細は、第 1 回授業資料を読んでください。

【留意事項】
国際機構論Ｂを履修する人は、なるべく国際機構論Ａから履修してください。
教科書は毎回使います。予習・復習にも積極的に利用してください。
聖書とギリシャ神話の基礎知識は、国際問題の理解に必須です。西洋絵画の名画の解説を読むと効率的に学べます。

講義名称	曜時
国際経済論Ⅰ　＜春＞	**月1**

【教員名称】
浅海　達也

【講義概要】
この講義では国際経済論を国際貿易の観点から学ぶ。グローバル化が進むにつれて、モノ・ヒトの国境を越えた流れが勢いを増している。このような国際貿易は我々の生活とどのように結びついているのだろうか。この問いに対して、経済全体で考える「貿易の利益」と経済主体を分けて考える「所得分配」の二つの側面から明らかにする。さらに国際貿易は貿易政策の下で行われるため、輸入関税や輸出補助金といった政策の効果も取り扱う。
講義はスライド資料と実際のデータを基に進める。前回の講義と関連がある場合には冒頭で前回の復習を取り入れる。受講者は自ら手を動かしてグラフの作成や簡単な計算をすることで国際貿易の考え方を身に付ける。

【学習目標】
この講義に積極的に参加することを通じて、
(1) 貿易の利益を経済全体の側面から理解する。
(2) 貿易による所得分配を個々の経済主体の側面から理解する。
(3) 貿易政策による貿易の利益と所得分配への影響を自分で考えることができる。
(4) 貿易に関するデータとそれを説明する理論の対応関係を把握する。

【講義計画】
第1回：ガイダンス
　　国際経済論における国際貿易
　　国際貿易の現実
第2回：労働生産性と比較優位：リカード・モデル (1)【貿易の利益】
第3回：労働生産性と比較優位：リカード・モデル (2)【相対価格の決定】
第4回：特殊要素と所得分配：特殊要素モデル (1)【短期的な所得分配】
第5回：特殊要素と所得分配：特殊要素モデル (2)【相対価格の決定】
第6回：移動可能要素と所得分配：ヘクシャー＝オリーン・モデル (1)【長期的な所得分配】
第7回：移動可能要素と所得分配：ヘクシャー＝オリーン・モデル (2)【相対価格の決定】
第8回：相対価格と交易条件：一般均衡モデル (1)【貿易の利益】
第9回：相対価格と交易条件：一般均衡モデル (2)【経済成長】
第10回：相対価格と交易条件：一般均衡モデル (3)【貿易政策】
第11回：余剰と交易条件：部分均衡モデル (1)【貿易の利益と所得分配】
第12回：余剰と交易条件：部分均衡モデル (2)【輸入関税】
第13回：余剰と交易条件：部分均衡モデル (3)【輸出補助金】
第14回：余剰と交易条件：部分均衡モデル (4)【国際交渉】
第15回：国際経済論Ⅰのまとめ

【事前および事後学習の指示】
事前学習では国際貿易に関するニュースや記事を読み、国際貿易への関心を深める。
事後学習では講義内容を復習するとともに、その内容がどのニュースや記事と対応しているのか考える。

【テキスト】

【参考文献】
P．R．クルーグマン 著 / M．オブストフェルド 著 / M．J．メリッツ 著 / 山形 浩生 訳 / 守岡 桜 訳 (2017)『クルーグマン国際経済学 理論と政策〈上〉貿易編』丸善出版.

【コメント】
試験が50%、各回(第2～14回)の授業内容に関するレポートが50%。
レポートでは各回の授業後に、講義を受けて学んだことを自分の言葉で説明する。
試験では第15回の授業後に、講義内容を理解しているかどうかを確認する。

【留意事項】
(1)「ミクロ経済学」を履修していることが望ましい。
(2)「国際経済論Ⅰ」では国際貿易を学び、「国際経済論Ⅱ」では国際金融を学ぶ。
(3) 参考文献はテキストとしては指定しないが、講義内容の理解を深めてより発展的な内容を学ぶために役立つ。

講義名称	曜時
国際政治史A　＜春＞	**木2**

【教員名称】
塚田　鉄也

【講義概要】
国際政治は、国内政治とは少し異なった、独特の仕組みを有しています。本講義では、16世紀から第一次世界大戦までの近代国際政治史上の主要な出来事を学びながら、国際政治の仕組みがどのように形成されてきたかを考察します。

【学習目標】
①近代国際政治史上の主要な出来事について理解し、説明できる
②国際政治の仕組みがどのように形成されてきたかを理解し、説明できる

【講義計画】
第1回：近代国際政治史を学ぶ意義
第2回：国際政治の基本構造
第3回：16世紀のヨーロッパ
第4回：三十年戦争とウェストファリア体制
第5回：勢力均衡の時代①：同盟の論理
第6回：勢力均衡の時代②：小国の運命
第7回：革命の時代
第8回：ウィーン体制の形成と展開
第9回：パクス・ブリタニカ
第10回：新たな勢力の登場①：ドイツ
第11回：新たな勢力の登場②：アメリカ
第12回：帝国主義の時代①：帝国主義の諸相
第13回：帝国主義の時代②：大国間関係
第14回：第一次世界大戦
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
テキストの指示された部分を事前に読んでおいてください。

【テキスト】
国際政治史―主権国家体系のあゆみ 小川浩之・板橋拓己・青野利彦
9784641150522 有斐閣

【参考文献】
君塚直隆『近代ヨーロッパの国際政治史』(有斐閣、2010年)

【コメント】
各回の内容について課される確認テスト(M-Portの「テスト」を利用)により評価する。なお、盗用等の不正行為が確認された場合は、その段階で不合格とする。

【留意事項】

講義名称	曜時
国際法Ａ　＜春＞	**金１**

【教員名称】
軽部　恵子

【講義概要】
この講義では、国際法の基礎知識を学びます。具体的には、近代国際法が誕生した歴史、国際法の重要原則、国際法の最も重要な主体である国際法上の国家を取り上げます。国際法がわかると、新聞やテレビの国際ニュースがよくわかるようになります。それは、国際法が国家の行動を規律する世界共通のルールだからです。
この講義の第２回から第４回は、国際機構論Ａの第２回から第４回、および地域研究ＩＡの一部と似ていますが、ここでは国際法の視点から考えていきます。
講義冒頭には、国内外のメディアのホームページを用いて、最新の時事問題を国際法の視点から解説します。受講生は、メディアを批判的に読み解く「メディア・リテラシー」を学んでください。

【学習目標】
①国際社会が成立する歴史的過程を理解する。
②国際法の基礎知識、とくに国家主権・管轄権・領域に関するものを修得する。
③国際問題の理解に必要な一般教養、とくに歴史・地理・文化・宗教に関する基礎知識を獲得する。
④メディア・リテラシーを身につける。

【講義計画】
第１回：国際法とは何か
第２回：戦争と平和の法 (1)　大航海時代、宗教改革、三十年戦争
第３回：戦争と平和の法 (2)　フランス革命とナポレオン戦争
第４回：戦争と平和の法 (3)　ハーグ平和会議と赤十字国際委員会
第５回：国際法の基本原則
第６回：国家 (1)　国際法上の国家
第７回：国家 (2)　属地主義と国籍主義
第８回：国家 (3)　犯罪人引渡し
第９回：国家 (4)　領域の得喪
第10回：国家 (5)　領土紛争
第11回：国家 (6)　海洋法①　無害通航権
第12回：国家 (7)　海洋法②　通過通航権
第13回：国家 (8)　海洋法③　排他的経済水域、公海、深海底
第14回：国家 (9)　領空と宇宙空間
第15回：試験及びまとめ

【事前および事後学習の指示】
毎回の授業で指示される参考文献や参考 URL をもとに、事前および事後学習をしてください。

【テキスト】
国際条約集 2024 有斐閣

【参考文献】
加藤信行『ビジュアルテキスト国際法』第３版 有斐閣 2022 年
中谷和弘他『国際法』第４版 有斐閣 2021 年
芹田健太郎『新ブリッジブック国際法入門』信山社 2020 年
大沼保昭『国際法』筑摩書房 2018 年
青野利彦『冷戦史』全２巻　中央公論新社　2023 年
小川浩之他『国際政治史：主権国家体系のあゆみ』有斐閣　2018 年
祝田秀全『入門　戦争史』幻冬舎 2020 年
西谷修『ロジェ・カイヨワ　戦争論』100 分 de 名著　NHK 出版　2018 年
田中久美子監修『理由がわかればもっと面白い！西洋絵画の教科書』ナツメ社　2021 年

【コメント】
計２回の試験で成績評価を行います。出席は成績評価にいっさい関係ありません。追加の試験やレポートもいっさいありません。毎回の授業終了前に発表する「課題」は、成績評価の対象ではありませんが、受講生が講義の理解度を各自で確認できる内容になっています。詳細は、第１回授業資料を読んでください。

【留意事項】
教科書である条約集は毎回使います。試験問題の一部は、最新版の条約集を用いて解答する形式です。条約集で採用する条約・宣言等は、毎年入れ替わっています。条約に入っている国のデータは、毎年更新されています。国際法Ｂの受講を考えている人は、なるべく国際法Ａから履修することを勧めます。聖書とギリシャ神話の基礎知識は、国際問題の理解に必須です。西洋絵画の名画の解説を読むと効率的に学べます。

講義名称	曜時
コンピュータ論Ⅱ　＜春＞	**水３**

【教員名称】
榎本　光世

【講義概要】
コンピュータを、より深く理解し、より広い用途に効率的に利用するためには、その動作原理について基本的なことから知っておく必要がある。そのためにはその動作原理の数学的な理解が必要性である。本講義では、まず、２進数と基数変換から始め、集合、論理演算と続き、確率と統計、そしてデータ構造やアルゴリズムを学習する。これらが特に数学的な要素を多く含む学習範囲であり、これらは必ず成績評価試験に出題する。全ての講義内容は相互に関連性を持つので、一度でも欠席すれば、試験に回答するための知識を得られない可能性が少なくない。

【学習目標】
ICT とは何かを理解し、個人 (従業員、経営者、消費者) の立場からの ICT 利用、それに組織体 (企業、行政、非営利組織) の利用に関して認識を深め、様々な立場やレベルにおける ICT の利用が社会に与える影響について考察できるようになる。

【講義計画】
第１回：講義概要；講義内容の説明と諸注意
第２回：基数表現 (2 進数、10 進数、16 進数)、集合と論理演算
第３回：確率と統計、情報量の単位、デジタル化と文字表現
第４回：コンピュータのハードウェア１；電子工学以前のコンピューター、算盤＞機械 (歯車) 式計算機＞継電器 (リレー) ＞真空管
第５回：コンピュータのハードウェア２；電子工学黎明期のコンピューター (コンピューターの発明)
半導体＞トランジスタ＞ IC ＞コンピューター
第６回：電子ネットワーク；コンピューターとデータ通信 (専用線、公衆網、インターネット、FTC)
第７回：コンピュータのソフトウェア１；
OS とアプリ、ソフトウェア開発 (顧客の要求分析) の困難性
第８回：コンピュータのソフトウェア２；
ソフトウェア・クライシス；フレドリック・ブルックス『人月の神話』、エドワード・ヨードン『デスマーチ』)
第９回：コンピュータのソフトウェア３；
フローチャート、ウォーター・フォール・モデル
第10回：コンピュータのソフトウェア４；
いろいろなコンピュータ言語 (低水準言語と高水準言語)
第11回：コンピュータのソフトウェア５；
コンピューター言語の実際 (C 言語、VisualBasic のコーディング)
第12回：経営と情報化
コンピューター時代を理解する様々なキーワード (ネオダマ、ゲーム化、クラウド、ビッグ・データ、スマホ)
第13回：社会と情報化
アルビン・トフラー『第三の波』、ニューエコノミー論、ネットワーク革命、デジタル・ディバイド、スマホ依存症、SCOT
第14回：情報社会に関する近年の話題と未来への展望
第15回：予備時間、まとめ

【事前および事後学習の指示】
前回までの内容を簡単に復習してから講義にのぞむこと。宿題は理由の如何を問わず必ず期限内に提出すること。

【テキスト】

【参考文献】
遠山曉、他『経営情報論』有斐閣アルマ、　その他参考書は講義中に指示する。

【コメント】
第１回目の講義中に重要な説明があるので、必ず出席すること。毎回出席を取る。M-Port の「テスト」機能で小テストを何回か実施する。この全てのテストを期限内に提出しない場合には単位習得は困難になる。また、3 回以上欠席した場合は、単位を取得できない場合がある。
参考書に関しては開講時に指示説明する。必要に応じて PDF ファイルを配布する。私語厳禁。講義中にはスマホや携帯電話などの利用を一切認めない。成績不振や欠席多数で単位の修得が危ぶまれる場合、この問い合わせには応じない。

【留意事項】
プログラマーとしての実務経験があるので、プログラム作成現場の体験談を説明可能。また、いわゆる文系出身プログラマーなので、文系受講者にもわかりやすくプログラミングを説明できる。

講　義　名　称	曜　時
産業構造論Ⅰ　＜春＞	**金 4**

【教員名称】
義永　忠一

【講義概要】
日本経済を取り巻く環境は、常に変化の中にあります。アベノミクス以降の為替変動 (円安) でも輸出が伸び悩み産業構造が変化したと指摘されました。そして 2020 年に起こった新型コロナウイルスの感染拡大による、「新状態」への模索があります。さらに 2022 年ロシアによるウクライナ侵攻、2023 年には中東パレスチナにおける混乱により、世界秩序・経済秩序が変化しつつあります。産業構造論Ⅰでは、これまでの日本の産業構造に関する議論を丁寧に追いながら、現在に至る道筋を説明します。そして、受講者とともに今後の方向性を議論していきます。

【学習目標】
産業構造に関する議論を、歴史的な背景とともに理解できる事を学習目標とします。

【講義計画】
第 1 回：産業構造論Ⅰについてー講義概要と評価方法についてーその 1
第 2 回：産業構造論Ⅰについてー講義概要と評価方法についてーその 2
第 3 回：産業構造とはなにか　ー政策の視点ー
第 4 回：経済自立期の構造と政策ー官の役割ー
第 5 回：経済自立期の輸出産業の存在ー民の復興ー
第 6 回：1960 年代の日本経済　ーモータリゼーション前夜ー
第 7 回：1970 年代の日本経済　その 1 ー開放政策　官民の温度差ー
第 8 回：1970 年代の日本経済　その 2 ー石油危機下の経済変動と政の存在感・日本的生産システムの確立を捉えるー
第 9 回：環境変化と産業構造 (1) ー日本的生産システムと情報化ーその 1
第10回：環境変化と産業構造 (2) ー日本的生産システムと情報化ーその 2
第11回：環境変化と産業構造 (3) ー国際化・グローバル化ー
第12回：環境変化と産業構造 (4) ープラザ合意・バブル経済ー
第13回：環境変化と産業構造 (5) ーバブル崩壊後～ 2001 年頃ー
第14回：失われた 20 年から現在までとこれからの産業構造
第15回：産業構造の変化と日本経済 (まとめ) と試験

【事前および事後学習の指示】
事前に、貿易収支等、新聞等で掲載される経済統計について目を通しておく事が、講義の理解に役立ちます。

【テキスト】

【参考文献】
鶴田俊正 / 伊藤元重 (2001)『日本産業構造論』NTT 出版を、本講義では中心に取り扱っています。しかし、最新のデータ及びこれまでの研究を補足しながら講義を展開しますので、参考文献として挙げます。

【コメント】
試験【60%】：論述による試験を実施します。各講義で提示されるテーマについて、その都度、学習する事が試験において重要となります。
その他【40%】：M-Port を通した課題を課します。その他【40%】の取り扱いについては、第 1 回講義内で詳細をお伝えします。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
産業社会学 [2]　＜春＞	**木 1**

【教員名称】
萩原　久美子

【講義概要】
納得のいく働き方がしたい。そのための一歩は雇用労働と管理のありかたを理解することから始まる。本講義はその実践のための基本的知識と雇用労働の変化について学ぶ。講義は日本型雇用システムを中心に、大きく三つの領域から雇用労働の変化と現在を考察する。第一に、労働や雇用を「管理」する基礎的な理論について取り上げる。第二に、日本型雇用システムの基本的な諸特徴と雇用管理上の基本的運用について学ぶ。第三に、社会変動と産業構造の変化とともに、企業における雇用管理がどのように変化したのか。またその変化が人々の生活をいかなる形で規定していったのか。政策の動きや財界の提言、さらにその社会的背景や国際的な動向とからめながら考察する。新聞記事や映像、企業情報などを通して、マネジメントの手法に映し出される企業組織の「働かせ方」と働く者が求める「働き方」とのせめぎあいの中から、納得のいく働き方、労働のありかたについてともに考える。

【学習目標】
①日本的雇用システムの雇用管理に関する基本概念と知識を理解し、日常生活の身近な課題として考察できるようになること。
②産業、労働力の変化が雇用管理に与えたインパクトと課題を説明できるようになること。
③日常での経験と結びつけながら雇用労働のありかたを社会学的に見る視点と実践的な知識を身につけること。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション：本講義の概要と進行、受講にあたっての注意事項を説明する
第 2 回：労働と管理のまなざし①
組織と科学的管理法、人間関係論
第 3 回：労働と管理のまなざし②
あなたの「やる気」のマネジメント
第 4 回：考察①雇用とこれからの暮らし
企業との関係をどう考えるか
第 5 回：日本型雇用システムを知る①
終身雇用は本当か？　日本的雇用の諸特徴――採用から定年まで
第 6 回：日本型雇用システムを知る②
能力って何のことか？　人事制度――職務と職能、役割、成果
第 7 回：日本型雇用システムを知る③
年功序列はやめるべきか？　評価と人事考課、昇進昇格の仕組み
第 8 回：日本型雇用システムを知る④
あなたの給料はいくらか？　賃金制度の変遷と今
第 9 回：日本型雇用システムを知る⑤
雇用の流動化はいいことか？　能力開発とキャリア
第10回：まとめと補論
第11回：社会と企業組織との結びつき①
なぜパートに女性が多いのか？　日本社会の労働力編成と企業組織のフレキシビリティ
第12回：社会と企業組織との結びつき②
働き方はどう改革されたのか？　労働時間管理と現状
第13回：社会と企業組織との結びつき③
働かないと生きていけないのか？　雇用を通じた「福祉」とその行方
第14回：考察②雇用とこれからの暮らし
豊かな暮らしとは？
第15回：まとめと補論

【事前および事後学習の指示】
講義資料は印刷し、ノートとして用いること。
小テスト、レポートを課すので、配布プリント・資料で講義内容を確認し、キーワードやポイントの整理を行うこと。
配付資料や指定された資料を読み、講義の予習、復習をを行うこと。

【テキスト】

【参考文献】
上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房
佐藤博樹・佐藤厚編『仕事の社会学』有斐閣ブックス
その他授業内でテーマに関連した文献や資料を配付、紹介する。

【コメント】
①評価対象とする試験：各テーマに関する小クイズ
②評価対象とするレポート：学習目標にそった課題に関するレポート
③その他：受講に対する積極性等

【留意事項】
報道現場の経験者が企業での人事労務管理の実際を踏まえて講義する

講義名称	曜時
産業心理学 A　＜春＞	**水 2**

【教員名称】
向井　有理子

【講義概要】
産業心理学は職場や組織における行動を科学的に明らかにする分野です。本講義では、集団や組織、”仕事”にかかわる諸問題にかかわる理論を取り上げ、実際の課題について産業心理学の知見を学びます。

【学習目標】
①組織や仕事の場面における課題について産業心理学の知見に基づいて説明できる
②現在の産業場面の諸問題について、産業心理学の知見に基づいて提案ができる

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション：産業心理学の考え方と授業で取り上げる内容について
第 2 回：グループダイナミックス①：集団の中での行動
第 3 回：グループダイナミックス②：集団での意思決定
第 4 回：グループダイナミックス③：集団内での協力と摩擦
第 5 回：グループダイナミックス④：集団間での協力と摩擦
第 6 回：ワークモティベーション①：モティベーションの理論
第 7 回：ワークモティベーション②：ワーク・エンゲージメント
第 8 回：ワークモティベーション③：自己決定の重要性
第 9 回：人的資源管理①：人事評価
第10回：人的資源管理②：雇用形態の多様化
第11回：現代的問題①：組織のダイバーシティ
第12回：キャリア①：キャリア発達
第13回：キャリア②：多様なキャリア
第14回：現代的問題②：働き方の今後
第15回：総括試験及びまとめ

【事前および事後学習の指示】
教科書は事前に読んで理解しておくこと。身近な問題やニュースについて、学習した内容から考えて、自分なりの意見が言えるように整理しておくこと。

【テキスト】
産業・組織心理学 TOMORROW 田中健吾・高原龍二
978-4-8429-1793-1 八千代出版

【参考文献】

【コメント】
①最終日に総括課題として試験を実施します。
②現代的問題に関してはミニレポートを実施します。
③その他、小テストやワークへの参加を評価に含みます。

【留意事項】
講義形式が中心となりますが、個別のワークやグループワーク、ディスカッションを取り入れることがあります。積極的に取り組んでください。

講義名称	曜時
ジェンダー法学 A　＜春＞	**月 5**

【教員名称】
的場　かおり

【講義概要】
2023 年、日本の男女格差を示す指数「ジェンダー・ギャップ指数」は 146 ヶ国中 125 位で、前年より 9 ランクのダウン！日本の最高法規である憲法 14 条は性差別を禁じ、各分野で法整備が進められているはずなのに、なぜなのでしょうか。
講義では、社会や文化が生み出す性差＝「ジェンダー」を軸に据え、日本の現状と法制度を考察します。「ジェンダー」の観点から、特に「身体」と「家族」の分野に潜む問題を発見し、その解決策を探ります。そして今や「ジェンダー」の問題は「男／女」に留まるものではありません。いわゆる「LGBT」についても考えます。

【学習目標】
①「ジェンダー」の観点から社会の問題を考える力を養います。これまでの「当たり前」を見直すことで、そこに潜む問題・課題に気づき、解決策を考えられるようになります。
②他者との違いを認め、多様性を尊重する姿勢を身に付けます。この姿勢は、多様な個性をもつ人々が平等に生きられる社会の実現に不可欠なものです。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス (講義の進め方・成績評価・講義の内容)
第 2 回：女性／男性／ジェンダー学と法
第 3 回：LGBT とは
第 4 回：日本におけるジェンダー平等の実態
第 5 回：性犯罪
第 6 回：売買春
第 7 回：ポルノグラフィー
第 8 回：リプロダクティブ・ライツ①人工妊娠中絶
第 9 回：リプロダクティブ・ライツ②優生思想と障がい者
第10回：リプロダクティブ・ライツ③生殖補助医療
第11回：婚姻①婚姻と法
第12回：婚姻②婚姻と子ども
第13回：離婚①離婚と法
第14回：離婚②離婚にともなう課題
第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
【事前学習】
・配布されたレジュメ・資料にしたがい、指示された事前学習に取り組む
・関連するニュース・出来事を調べる
【事後学習】
・解説で用いられたスライド資料を確認しながら、講義内容を復習する
・参考文献などを用いて問題を掘り下げ、自分の意見をまとめる

【テキスト】

【参考文献】
・犬伏由子・井上匡子・君塚正臣編『レクチャー　ジェンダー法〔第 2 版〕』(法律文化社、2021 年)
・三成美保・笹沼朋子・立石直子・谷田川知恵『ジェンダー法学入門〔第 3 版〕』(法律文化社、2019 年)
・辻村みよ子『概説ジェンダーと法〔第 2 版〕』(信山社、2016 年)
・山下泰子・矢澤澄子監修・国際女性の地位協会編『男女平等はどこまで進んだか』(岩波書店、2018 年)
・伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子『女性学・男性学〔第 3 版〕』(有斐閣、2019 年)

【コメント】
成績評価の詳細は次のとおりです。
①試験 (50％)：第 15 回目に行う論述試験
②リフレクションシート＝レポート (50％)：毎回授業終了時に「リフレクションシート」を提出
※未提出回数が 6 回以上となった場合、試験を受ける資格を失います。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
視覚メディア論　＜春＞	**金 2**

【教員名称】
有國　明弘

【講義概要】
本講義では、19 世紀から現代にいたるまでの視覚メディアの造形的特質、誕生した社会的・歴史的・文化的・技術的背景、さらに私たちの社会生活に及ぼす影響などについて幅広く理解することを目指す。映像資料を活用しつつ、講義形式で行う。毎回コメントペーパーを配布 (あるいは Google フォームでのアンケート機能や M-Port の各機能等を活用) し、皆さんと対話的な学びの機会とする。課題の内容については、授業ごとに指示する。

【学習目標】
本講義では次のような知識や能力を受講生のみなさんが身につけることを目標とします。
・視覚メディアに関する基礎的概念や理論を習得する。
・視覚メディアにいかなる技術や要素が盛り込まれているのか理解する。
・視覚メディアについて批判的に読み解く能力を身につける。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：「盛り」と「映え」をたどる
第 3 回：視覚と触覚と地図
第 4 回：メディアとプラットフォーム① (SNS 編)
第 5 回：メディアとプラットフォーム② (動画編)
第 6 回：メディアとプラットフォーム③ (ソーシャルメディアと文化編)
第 7 回：グローバリズムと個人化
第 8 回：コミュニケーション資本主義
第 9 回：監視資本主義ーソーシャル・ジレンマ
第10回：ソーシャルメディアと「炎上」
第11回：ソーシャルメディアとフェミニズム
第12回：ハリウッド映画と女性表象
第13回：健康の不安はメディアで解消されるのか？
第14回：「偽り」の情報を生み出すデジタル社会
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
参考文献などを読み予習しておくこと。配布した資料を用いて復習すること。

【テキスト】

【参考文献】
伊藤守編 , 2019,『コミュニケーション資本主義と〈コモン〉の探求――ポスト・ヒューマン時代のメディア論』東京大学出版会
松井広志・岡本健編著 , 2021,『ソーシャルメディア・スタディーズ』北樹出版

【コメント】
毎回の授業課題を 30%、期末レポートを 70%として成績評価を行う。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
社会学 A　01 ＜春＞	**木 2**

【教員名称】
金　太宇

【講義概要】
●社会学の成立とその展開
「社会学」とはどのような課題に向き合い、なにを追究してきた学問なのだろうか。哲学、政治学、歴史学などに比べ社会学は比較的新しい学問といえるが、これらの学問領域とはいかなる点で異なるのだろうか？社会学の主要な概念や命題を学びながら、社会学の独自性を理解し、「社会学的なものの見方」を獲得することを目指す。

【学習目標】
(1)「社会学」とはなにを目指す学問なのか？　を自分の言葉で説明できるようになること
(2) 社会学の重要概念を学び、「ステレオタイプ (偏見)」を批判する視点を獲得すること
(3) 自分の怒り、悩みなどの問題意識を社会学的な「問い」に変換し、考察する力を身につけること
以上を通じて社会に生きる「私 (個人)」を位置づけ、そしてともに生きる「あなた (他者)」への想像力と感受性を育み、社会学的な視点を身につける。

【講義計画】
第 1 回：はじめに――現代を生きる大学生にとっての社会学
第 2 回：社会学の基礎知識 (1)――概念、仮説、命題、理論の考え方
第 3 回：社会学の基礎知識 (2)――近代社会の登場と社会学
第 4 回：社会学の基礎知識 (3)――集団と社会
第 5 回：自己と社会 (1)――自我と他者
第 6 回：自己と社会 (2)――役割と自我
第 7 回：自己と社会 (3)――体制・逸脱・反体制
第 8 回：都市・地域・移民 (1)――封建制なき近代化・都市化
第 9 回：都市・地域・移民 (2)――アメリカン・ドリームと都市問題
第10回：貧困・格差・不平等 (1)――家族・ジェンダーと社会
第11回：貧困・格差・不平等 (2)――階級と階層
第12回：社会的包摂・排除と福祉国家 (1)――シティズンシップから見た現代
第13回：社会的包摂・排除と福祉国家 (2)――新自由主義の浸透と自己責任
第14回：社会学の未来像
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
授業の内容に関連する新聞やニュースを読んでおくこと。
授業時間外の質問はメールよりも M-Port の Q & A が望ましい。平日に寄せられた質問は 24 時間以内に回答するが、土日祝日や長期休み中は返信が遅れる場合がある。

【テキスト】

【参考文献】
長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学 (新版)』2019 年、有斐閣、3,850 円 (ISBN978-4-641-05389-2)
間々田孝夫・藤岡真之・水原俊博・寺島拓幸『新・消費社会論』2021 年、有斐閣、2,750 円 (ISBN978-4-641-17461-0)
友枝敏雄・樋口耕一・平野孝典編『いまを生きるための社会学』2021 年、丸善出版、3, 800 円 (ISBN 978-4621305553)

【コメント】
「その他」は授業内容に関するミニテストです。出題のタイミングと回数については、初回のガイダンスで担当者から説明があります。回答期限は厳守してください。なお、コロナ禍ですので、授業形態が変更になる可能性があります。

【留意事項】

講義名称	曜時
社会学 A　03 ＜春＞	土 5

【教員名称】　　**遠隔授業 (オンデマンド型)**
長崎　励朗

【講義概要】
社会学とは社会を理解するとともに、自身を理解することにも通じている学問である。なぜ自分はここにこうして生きているのか、なぜ自分はこのような状況に置かれているのか。こうした問いの答えを考えることは、自分の生きる世界が当たり前でないことを知ることにつながり、ひるがえっては他者に対する理解を助けてもくれる。
本講義では日常生活と関連づけながら社会学の理論を学ぶことで、現実社会に対する「普通」とは違った捉え方を身につけてもらうことを目指す。

【学習目標】
社会学の基本的な知識とともに、それを自身の日常生活に応用して考える思考力を身につけてもらうことが本講義の目的である。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス
第 2 回：社会規範と逸脱行動の意味 (前編)―誰が炎上させているのか？
第 3 回：社会規範と逸脱行動の意味 (後編)―逸脱行為の隠れた存在意義
第 4 回：逸脱・権力・秩序破壊者―パノプティコンとトリックスター
第 5 回：階級・階層 (1)―文化資本とハビトゥス
第 6 回：階級・階層 (2)―階級の再生産と格差解消の代償
第 7 回：階級・階層 (3)―学校＝「階級の再生産」の隠蔽装置！？
第 8 回：知識社会学
第 9 回：社会関係資本 (前編)―趣味とつながり
第10回：社会関係資本 (後編)―かつての若者 (現在の老人) たちのつながり
第11回：信頼とは何か？
第12回：相互作用の社会学 (前編)―対立は人を結ぶ！？
第13回：相互作用の社会学 (後編)―ロマンティック・ラブ・イデオロギーとその限界
第14回：グローバリゼーションとアメリカの反知性主義
第15回：授業内試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
授業内容は youtube もしくは学内のストレージで閲覧できるようにしておくので、自分自身が必要だと思った箇所、分からなかった箇所などは授業の前後に見ておくことを推奨する。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
主に最終レポートで合否を判断するが、授業内で出す課題も評価に加える。ただし、知識暗記型のテストではなく、レポート型の試験を行なうため、試験内容は事前に通知し、前もって回答を作成してくることは妨げない。
内容を丸暗記するのではなく、学んだ内容を常に日常生活と関連づける思考訓練をおこなっておくこと。

【留意事項】

講義名称	曜時
社会学 A　04 ＜春＞	火 2

【教員名称】
彭　永成

【講義概要】
●社会学の成立とその展開
「社会学」とはどのような課題に向き合い、なにを追究してきた学問なのだろうか。哲学、政治学、歴史学などに比べ社会学は比較的新しい学問といえるが、これらの学問領域とはいかなる点で異なるのだろうか？社会学の主要な概念や命題を学びながら、社会学の独自性を理解し、「社会学的なものの見方」を獲得することを目指す。

【学習目標】
(1)「社会学」とはなにを目指す学問なのか？　を自分の言葉で説明できるようになること
(2) 社会学の重要概念を学び、「ステレオタイプ (偏見)」を批判する視点を獲得すること
(3) 自分の怒り、悩みなどの問題意識を社会学的な「問い」に変換し、考察する力を身につけること
以上を通じて社会に生きる「私 (個人)」を位置づけ、そしてともに生きる「あなた (他者)」への想像力と感受性を育み、社会学的な視点を身につける。

【講義計画】
第 1 回：はじめに―――現代を生きる大学生にとっての社会学
第 2 回：社会学の基礎知識 (1)―――概念、仮説、命題、理論の考え方
第 3 回：社会学の基礎知識 (2)―――近代社会の登場と社会学
第 4 回：社会学の基礎知識 (3)―――集団と社会
第 5 回：自己と社会 (1)―――自我と他者
第 6 回：自己と社会 (2)―――役割と自我
第 7 回：自己と社会 (3)―――体制・逸脱・反体制
第 8 回：都市・地域・移民 (1)―――封建制なき近代化・都市化
第 9 回：都市・地域・移民 (2)―――アメリカン・ドリームと都市問題
第10回：貧困・格差・不平等 (1)―――家族・ジェンダーと社会
第11回：貧困・格差・不平等 (2)―――階級と階層
第12回：社会的包摂・排除と福祉国家 (1)―――シティズンシップから見た現代
第13回：社会的包摂・排除と福祉国家 (2)―――新自由主義の浸透と自己責任
第14回：社会学の未来像
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
授業の内容に関連する新聞やニュースを読んでおくこと。
授業時間外の質問はメールよりも M-Port の Q & A が望ましい。平日に寄せられた質問は 24 時間以内に回答するが、土日祝日や長期休み中は返信が遅れる場合がある。

【テキスト】

【参考文献】
長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学 (新版)』2019 年、有斐閣、3,850 円 (ISBN978-4-641-05389-2)
間々田孝夫・藤岡真之・水原俊博・寺島拓幸『新・消費社会論』2021 年、有斐閣、2,750 円 (ISBN978-4-641-17461-0)
友枝敏雄・樋口耕一・平野孝典編『いまを生きるための社会学』2021 年、丸善出版、3, 800 円 (ISBN 978-4621305553)

【コメント】
「その他」は授業内容に関するミニテストです。出題のタイミングと回数については、初回のガイダンスで担当者から説明があります。回答期限は厳守してください。なお、コロナ禍ですので、授業形態が変更になる可能性があります。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
社会学 A　05 ＜春＞	**月 4**

【教員名称】
村上　あかね

【講義概要】
●社会学の成立とその展
「社会学」とはどのような課題に向き合い、なにを追究してきた学問なのだろうか。哲学、政治学、歴史学などに比べ社会学は比較的新しい学問といえるが、これらの学問領域とはいかなる点で異なるのだろうか？社会学の主要な概念や命題を学びながら、社会学の独自性を理解し、「社会学的なものの見方」を獲得することを目指す。

【学習目標】
(1)「社会学」とはなにを目指す学問なのか？　を自分の言葉で説明できるようになること
(2) 社会学の重要概念を学び、「ステレオタイプ (偏見)」を批判する視点を獲得すること
(3) 自分の怒り、悩みなどの問題意識を社会学的な「問い」に変換し、考察する力を身につけること
以上を通じて社会に生きる「私 (個人)」を位置づけ、そしてともに生きる「あなた (他者)」への想像力と感受性を育み、社会学的な視点を身につける。

【講義計画】
第 1 回：はじめに―――現代を生きる大学生にとっての社会学
第 2 回：社会学の基礎知識 (1)―――概念、仮説、命題、理論の考え方
第 3 回：社会学の基礎知識 (2)―――近代社会の登場と社会学
第 4 回：社会学の基礎知識 (3)―――集団と社会
第 5 回：自己と社会 (1)―――自我と他者
第 6 回：自己と社会 (2)―――役割と自我
第 7 回：自己と社会 (3)―――体制・逸脱・反体制
第 8 回：都市・地域・移民 (1)―――封建制なき近代化・都市化
第 9 回：都市・地域・移民 (2)―――アメリカン・ドリームと都市問題
第10回：貧困・格差・不平等 (1)―――家族・ジェンダーと社会
第11回：貧困・格差・不平等 (2)―――階級と階層
第12回：社会的包摂・排除と福祉国家 (1)―――シティズンシップから見た現代
第13回：社会的包摂・排除と福祉国家 (2)―――新自由主義の浸透と自己責任
第14回：社会学の未来像
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
授業の内容に関連する新聞やニュースを読んでおくこと。
授業時間外の質問はメールよりも M-Port の Q & A が望ましい。平日に寄せられた質問は 24 時間以内に回答するが、土日祝日や長期休み中は返信が遅れる場合がある。

【テキスト】

【参考文献】
長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学 (新版)』2019 年、有斐閣、3,850 円 (ISBN978-4-641-05389-2)
間々田孝夫・藤岡真之・水原俊博・寺島拓幸『新・消費社会論』2021 年、有斐閣、2,750 円 (ISBN978-4-641-17461-0)
友枝敏雄・樋口耕一・平野孝典編『いまを生きるための社会学』2021 年、丸善出版、3, 800 円 (ISBN 978-4621305553)

【コメント】
「その他」は授業内容に関するミニテストです。出題のタイミングと回数については、初回のガイダンスで担当者から説明があります。回答期限は厳守してください。なお、コロナ禍ですので、授業形態が変更になる可能性があります。

【留意事項】
実務経験のある教員による授業① 政府・地方自治体、日本学術会議等の委員経験、データアーカイブの運営経験を持つ教員が政府および地方自治体での社会調査の実施・利用、政策について解説・講義する。

社会人の方へ (聴講に際して)
学部生の知識と能力を高めることが授業の目的であることをご理解のうえ、授業には原則毎回出席し、教科書を持参し、グループワークにも参加してください。

講　義　名　称	曜　時
社会学原論　＜春集＞	**水 4/ 金 3**

【教員名称】
有國　明弘

【講義概要】
身の回りの何気ない些細な出来事から、人々の関心が集中する大きな出来事を題材に、社会の仕組みを把握するための、社会学の視点や方法、概念を全 30 回で学ぶ。「わかっているようで、実はよくわかっていないこと」についてじっくりと考える際に有効な「社会学の技法」を身につけることが、本講義の目標である。毎回の講義でミニ・コメントペーパーを配布する。そこに記入されたみなさんの感想・コメントをもとに、次回以降の授業内容を柔軟に組み立てることで、「アクティヴ」に社会学的想像力を養う契機としたい。映像資料を活用しつつ、講義形式で行う。毎回コメントペーパーを配布 (あるいは Google フォームでのアンケート機能や M-Port の各機能等を活用) し、皆さんと対話的な学びの機会とする。課題の内容については、授業ごとに指示する。また、講義の復習・予習 (・オンライン講義になった場合の課題としての活用) のために教科書を指定するので、積極的に活用してほしい。

【学習目標】
社会学の視点や方法、重要な概念を適切に理解し、自ら活用することで、さまざまな社会現象を分析・考察することができる。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：日常のパフォーマンス
第 3 回：スマホ・SNS・メディア
第 4 回：「就活」からわたしたちの社会を考える
第 5 回：あなたが「労働」で売りにしているものは？
第 6 回：「好き」を仕事にする
第 7 回：都市
第 8 回：観光のまなざし
第 9 回：イメジと真正性
第10回：「スニーカー」から社会を考える
第11回：ヒップホップの経路と節合
第12回：ジェンダー (「男らしさ」「女らしさ」とは)
第13回：フェミニズム
第14回：理想の身体をつくる化粧・ダンス
第15回：パノプティコンとまなざし
第16回：管理と学校
第17回：エスニシティ① (「外国につながる子ども」)
第18回：エスニシティ② (「ハーフ」)
第19回：障害の社会学
第20回：家族の社会学
第21回：家族とジェンダー
第22回：集合的記憶とモノ
第23回：災害の社会学
第24回：リスク社会学① (新しい社会的リスク)
第25回：リスク社会学② (日常のさまざまなリスク)
第26回：行為の社会学
第27回：越境する胃袋
第28回：オリンピックの社会学① (復興と経済・参加と感動)
第29回：オリンピックの社会学② (法令遵守と自主統制)
第30回：最終講義：批判と社会学的想像力

【事前および事後学習の指示】
毎回の授業で配布するミニ・コメントペーパー (あるいはオンライン上でのコメント) は「レポート対策」になるので、積極的に記入してほしい。そのためにも、教科書や講義内で紹介された参考文献を活用し、加えて、身の回りの出来事を反省的に捉え返すためにメモを残すなど、事前・事後に能動的な学習を行う必要がある。

【テキスト】
ふれる社会学 ケイン樹里安・上原健太郎編
978-4-7793-0618-1 北樹出版

【参考文献】
有田亘・松井広志編著 , 2020,『いろいろあるコミュニケーションの社会学』ver.2.0, 北樹出版

【コメント】
毎回の授業課題を 30%、期末レポートを 70%で成績評価する。

【留意事項】

講義名称	曜時
社会学特講 - 格差社会を理論的に読み解く　＜春＞	**水 2**

【教員名称】
藤田　悟

【講義概要】
近年、日本社会において格差と貧困が急速に拡大しつつある。雇用・社会保障・教育・「自己責任」論などなど、格差社会をめぐる論点は多岐に渡っている。この講義では、格差社会の実態と格差社会化を推し進めている論理を学ぶとともに、格差社会に対抗する思想・論理を皆さんと探っていきたい。

【学習目標】
「格差」とは何だろうか。「貧困」とは何だろうか。こうした基本的(根本的)な問いに正面から向き合い、答えられるようになってほしい。また、「格差社会」の構造と問題点について、その歴史的な背景も含めて「理論的に読み解く」視点を獲得してほしいと思う。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス
　　イントロダクション―高等教育の費用と権利
第 2 回：イントロダクション―高等教育の費用と権利 II
第 3 回：格差とは何だろうか I ―格差は「問題」なのか
第 4 回：格差とは何だろうか II ―格差はなぜ「問題」なのか
第 5 回：貧困とは何だろうか I ―貧困の「発見」
第 6 回：貧困とは何だろうか II ―貧困の「境界」
第 7 回：生活保護の歴史と課題 I ―歴史と制度解説
第 8 回：生活保護の歴史と課題 II ―現状と課題
第 9 回：現代日本における貧困 I ―ワーキングプアの増加とその要因
第10回：現代日本における貧困 II ―ワーキングプアを生む構造
第11回：格差社会のイデオロギー I ―機会の平等と結果の平等
第12回：格差社会のイデオロギー II ―「自立」と「依存」
第13回：格差社会を克服する思想 I ―＜自立－依存＞再考
第14回：格差社会を克服する思想 II ―＜機会の平等＞再考
第15回：まとめ―格差社会の今後

【事前および事後学習の指示】
参考文献のいずれか一冊以上、事前に読んでおくこと。また講義では資料として新聞記事を多数使用するので、普段から新聞を読む習慣を身に付けておくことが望ましい。

【テキスト】

【参考文献】
阿部彩『弱者の居場所がない社会―貧困・格差と社会的包摂』講談社現代新書、2011 年。岩田正美『現代の貧困―ワーキングプア／ホームレス／生活保護』ちくま新書、2007 年。後藤道夫他『格差社会とたたかう―〈努力・チャンス・自立〉論批判』青木書店、2007 年。湯浅誠『反貧困―「すべり台社会」からの脱出』岩波新書、2008 年。 その他の文献は講義中に適宜紹介する。

【コメント】
授業期間中に複数回小レポートを課し、その合計点で評価する。

【留意事項】

講義名称	曜時
社会思想史 I　＜春＞	**火 4**

【教員名称】
梅田　百合香

【講義概要】
本講義では、西洋の古典古代から近代および現代の代表的な社会思想を分析することによって、人間性、市民的徳、共和主義などを中心に、民主主義が持つ根源的な問題と現代的課題を考察する。

【学習目標】
受講者は、広く経済学に関わる思想史上の専門的な知識を身につけることを目標とする。

【講義計画】
第 1 回：講義ガイダンス
　　ソクラテスの問い (1) ソクラテス裁判
第 2 回：ソクラテスの問い (2) 無知の知
第 3 回：第 1 回試験およびまとめ
第 4 回：プラトンの哲人王 (1) 正義の追究
第 5 回：プラトンの哲人王 (2) 哲人王の構想
第 6 回：第 2 回試験およびまとめ
第 7 回：アリストテレスの倫理学 (1) 倫理学の方法と対象
第 8 回：アリストテレスの倫理学 (2) 徳の探究
第 9 回：第 3 回試験およびまとめ
第10回：アリストテレスの政治学 (1) ポリスと人間
第11回：アリストテレスの政治学 (2) 国制論
第12回：第 4 回試験およびまとめ
第13回：キケロの共和主義 (1) 正義と慈善
第14回：キケロの共和主義 (2) 共和主義
第15回：第 5 回試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
各思想家について、参考文献の該当箇所を事前に読み、予習しておくこと。
講義中はノートをとり、授業後スライドの内容と照らし合わせて講義内容をノートにまとめ直し、復習しておくこと。

【テキスト】
テキストは使用しない

【参考文献】
山岡龍一『西洋政治理論の伝統』放送大学教育振興会、2009 年。
宇野重規『西洋政治思想史』有斐閣、2013 年。
仲正昌樹編著『政治思想の知恵―マキャベリからサンデルまで』法律文化社、2013 年。

【コメント】
5 回の小テストにおいて、学習目標に対応するテーマに関する選択式問題を出題する。
この 5 回のテストで、授業内容を踏まえた専門的な知識が身についているかどうかを評価する。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
社会心理学 [2]　＜春＞	**木 2**

【教員名称】
岩田　考

【講義概要】
社会心理学は、人間の行動を社会との関わりに着目しつつ研究する学問です。大別すると、「個人の心理的な過程」に焦点を当てる心理学的アプローチと「マクロな視点から個人と社会の関わり」を研究する社会学的なアプローチの二つがみられます。本講義は、社会学を学ぶ学生向けの講義であり、「社会学的な」社会心理学が中心となります。授業では、アイデンティティや流行などみなさんの身近な具体的な事例をとりあげつつ、社会学を学んでいくうえで重要となる社会心理学の研究を紹介します (授業を行う時期に注目されている現象なども取り上げるため、扱う現象を若干変更する可能性があります。)
講義を聴いていないと単位修得は難しいため、就職活動などで欠席が多くなることが予想される学生は注意して履修してください。また、社会学の基礎知識や社会学への興味関心がまったくないと理解が難しい部分があります。社会学科以外の学生の方は、慎重に履修してください。なお、何らかの配慮を必要とする場合には、講義が開始してからなるべく早い時期に相談するようにしてください。

【学習目標】
「心理学的な」社会心理学や関連した心理学の成果について講義する場合もありますが、社会学的な研究への寄与を常に念頭においたものです。社会心理学を学ぶことによって、社会学と心理学の差違や共通点を把握し、社会学への理解を深めることを目的としています。社会学に固有の考え方を、社会心理学や心理学との関係において理解することが最終的な学習目標です。「純粋」な心理学の講義を期待される方には向きませんので、注意してください。

【講義計画】
第 1 回：講義の概要
第 2 回：社会心理学とは
第 3 回：自己 (1)　自己をめぐる現代的〈問題〉
第 4 回：自己 (2)　映像から自己について考える
※映像は数回の授業にわたって見ます。
第 5 回：自己 (3)　心理学的アプローチからみた自己意識の現代的特質
第 6 回：自己 (4)　社会学的アプローチからみた自己意識の現代的特質
第 7 回：集団 (1)　集団とは・集団における意志決定
第 8 回：集団 (2)　映像から集団における意志決定について考える
※映像は数回の授業にわたって見ます。
第 9 回：集団 (3)　集団における課題遂行と集団間差別
第10回：流行と集合行動 (1)　集合とは・流行とは
第11回：流行と集合行動 (2)　映像から現代のファッションの流行について考える
第12回：流行と集合行動 (3)　映像から現代の集合行動 (ネットとデモ) について考える
第13回：流行と集合行動 (4)　流行と集合行動のゆくえ
第14回：心理学化・心理主義化　心理主義化する社会
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
各回の授業は相互に関連しています。準備学習として、配布したプリントで次回講義までに復習をしてください。また、事後学習として、講義中に紹介する参考文献等を読み理解を深めてください。

【テキスト】

【参考文献】
浅野智彦編 2006『検証・若者の変貌－失われた十年の後に－』勁草書房
浅野智彦・岩田考ほか著 2010『考える力が身につく社会学入門』中経出版
安藤清志ほか著 1995『現代心理学入門 4 社会心理学』岩波書店
池田知子・遠藤由美 2009『グラフィック 社会心理学　第 2 版』サイエンス社
岩田考ほか編 2006『若者たちのコミュニケーション・サバイバル－親密さのゆくえ』恒星社厚生閣
松井豊・上瀬由美子 2007『社会と人間関係の心理学』岩波書店
末永俊郎・安藤清志編 1998『現代社会心理学』東京大学出版会
『シリーズ情報環境と社会心理 1 － 8』北樹出版
『ニューセンチュリー社会心理学 1 － 6 巻』北樹出版
『対人社会心理学重要研究集 1 － 7』誠信書房
※その他の参考文献は講義中に紹介します。

【コメント】
①レポートは、800 字程度の論述課題を 2 つ出題する (60%)。
なお、論述課題の内容は、第 10 回の授業以降に M-Port を通じて提示。M-Port から提出。
②その他は、各領域終了後に行う小テストおよび授業内容に関する課題 (感想)(計 40%)
小テストは 4 回実施予定 (20%)。課題についても 4 回程度実施予定 (20%)。
どちらも M-Port を通じて提出。

【留意事項】
シンクタンクでの調査業務の経験もふまえ授業を行う
マーケティング調査業務の経験もふまえ授業を行う

講　義　名　称	曜　時
社会ビジネスの理論と実践 I　＜春＞	**金 1**

【教員名称】
西藤　真一

【講義概要】
近年、地域や社会が抱える課題の解決をミッション (使命) として、ビジネスの手法を用いて取り組むもの「ソーシャル・ビジネス」の取り組みが各地で見られるようになっています。そのような公益的な活動を行う組織としては従来から NPO がありましたが、寄付だけでは活動資金を賄えないという現実的な課題にも直面してきました。
一方、民間企業においても社会的責任 (CSR) を全うするという視点から公益にも目が向けられてきました。国連で SDGs が提唱されるようになると、社会的な課題に企業自身が取り組むこと自体が企業の新たなビジネスチャンスをもたらすとも理解されるようになりました。さらに、住民も参画した、協働・共創 (co-production) によって社会の様々な問題に対処しようという動きも加速しています。
このように、近年、従来、公共が担うべき役割とされた社会課題の解決には、NPO や民間企業、住民など様々なアクターがかかわっていることがわかります。そこで、本講義では社会課題をビジネスの手法で解決しようとする「ソーシャル・ビジネス」について、おもに 3 つの視点を提示しながら解説します。
①社会課題の解決に向けたアクターをめぐる議論の展開 (福祉国家・NPM の展開)
②社会的経済とサードセクターの役割 (アクターの概念的整理)
③わが国におけるソーシャル・ビジネスの展開 (経緯・事業戦略)
※講義計画は変更する場合があります。

【学習目標】
社会課題の存在に取り組む主体とその役割について理解できる

【講義計画】
第 1 回：イントロダクション：ソーシャル・ビジネスの展開に向けた期待と課題
講義計画は予告なくマイナーに変更する場合があります。
第 2 回：政府の役割：公共サービスの提供
第 3 回：経済政策思想はどのように変遷してきたか
第 4 回：会社組織を考える
第 5 回：ソーシャル・エンタープライズ
第 6 回：会社を取り巻く利害関係者
第 7 回：企業の社会的責任
第 8 回：中間まとめ (課題の提示)
第 9 回：SDGs にどう取り組むか：これまでの経緯と課題
第10回：産業界の SDGs に向けた取り組み：飛び恥
第11回：今後のまちづくり
第12回：企業同士はなぜ連携するのか
第13回：ソーシャル・イノベーション
第14回：ビジネスプランを作成してみよう
第15回：まとめ (課題の提示)

【事前および事後学習の指示】
高頻度で実施する授業中試験 (ほぼ毎回と考えてください) のために、学習内容の復習に取り組む必要があります。

【テキスト】

【参考文献】
・谷本寛治 (2020)『企業と社会 - サステナビリティ時代の経営学』中央経済社。

【コメント】
講義のたびに課題を提示し、その出来栄えで評価する。なお、提出期限には一定の余裕を設けるため、公欠であっても課題に取り組む必要がある。課題を提出しない場合は、その回は 0 点として処理する。教室への出席自体をプラス評価することはない。
授業は真面目に聞く態度のある学生を対象に行う。スマートフォンの操作、私語、居眠り、授業と関係のない事柄はすべて教室内の秩序を乱す迷惑行為であり、厳正に対処する。注意されるたびに 10 点以上の減点を行う。

【留意事項】

講義名称	曜時
社会病理学 [2]　＜春＞	**金 4**

【教員名称】
平野　孝典

【講義概要】
本講義では、「社会病理」とされる現象が生じる原因と、「社会病理」現象が問題視される社会的な背景について講義します。
第 1 部 (犯罪と非行) では、代表的な「社会病理」現象である犯罪・非行を取り上げ、その社会的原因について講義します。
続く第 2 部 (「社会病理」の変容) では、自殺や麻薬などの具体的な現象を取り上げ、「社会病理」とされる現象が時代によって変化すること、さらに問題視のされ方にも時代の特徴があらわれることを説明します。
なお、講義内容の深い理解のため、グループワークを毎回実施し、そのために座席を指定する場合があることを了解のうえで、履修登録をしてください。

【学習目標】
講義の学習目標は次の 3 点です。
(1) 具体的な犯罪・非行事件を 1 つ取り上げ、その事件を犯罪社会学理論にもとづいて説明できるようになること。
(2) 具体的な「社会病理」現象を 1 つ取り上げ、その現象が「社会病理」とされた社会的な背景を説明できるようになること。
(3) 自身の関心にもとづき講義ノートをとり、授業内容に関して担当教員や受講生に質問したり、意見を述べたりできるようになること。

【講義計画】
第 1 回：「社会病理」を問う 2 つの視点
第 2 回：犯罪と非行 (1) 学習理論
第 3 回：犯罪と非行 (2) 緊張理論
第 4 回：犯罪と非行 (3) コントロール理論
第 5 回：犯罪と非行 (4) ラベリング論
第 6 回：犯罪と非行 (5) 環境犯罪学
第 7 回：犯罪と非行 (6) 暗数問題
第 8 回：第 1 部まとめ
第 9 回：「社会病理」の変容 (1)「社会病理」とは何か
第10回：「社会病理」の変容 (2) 家族生活の病理
第11回：「社会病理」の変容 (3) 自殺
第12回：「社会病理」の変容 (4) 麻薬
第13回：「社会病理」の変容 (5) アルコール中毒
第14回：「社会病理」の変容 (6) 売春
第15回：第 2 部まとめ

【事前および事後学習の指示】
授業で紹介された現象以外にも「社会病理」とされる現象はたくさんあります。
それが何か、考えておいてください。

【テキスト】

【参考文献】
岩井弘融編、『社会学講座 16　社会病理学』東京大学出版会、1973 年
松下武志・米川茂信・宝月誠編、『社会病理学講座 1　社会病理学の基礎理論』学文社、2004 年
岡邊健編、『犯罪・非行の社会学――常識をとらえなおす視座［増訂版］』、有斐閣、2020 年
このほか、授業中に適宜紹介する。

【コメント】
レポート：学期中に 2 回のレポートを課す (字数：2000 字以内)。
その他：授業中に実施するミニテストと、コメントカードから評価する。
このほか、定期的に講義ノートの提出を求める。

【留意事項】

講義名称	曜時
社会保障法 A　＜春＞	**水 3**

【教員名称】
楠本　敏之

【講義概要】
社会保障法全体にわたる総論的なテーマを最初の数回にわたって取り上げた後、年金、医療保障、社会手当といった個別分野についてより深くわかりやすく解説します。その中で随時、社会保障法上の今日的な課題・問題についても検討していきます。

【学習目標】
国民の生活にきわめて密着した分野である社会保障法について、その重要な基本的事項を正確に理解することを目的とします。より具体的には、各社会保障法の発展過程、法体系及び基本原理の理解に基づいて、個別の法制度についての基本的知識を習得できるようにします。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス～講義の進め方・方針など
第 2 回：社会保障法総論 (1) ～社会保障を取り巻く現在の状況と社会保障の意義など
第 3 回：社会保障法総論 (2) ～社会保障法の歴史と日本の社会保障法制度の現在までの発展の過程など
第 4 回：社会保障法総論 (3) ～社会保障の保障方法など
第 5 回：社会保障法総論 (4) ～社会保障の理論など
第 6 回：年金 (1) ～年金制度の意義・役割・機能、沿革など
第 7 回：年金 (2) ～国民年金法の具体的仕組み
第 8 回：年金 (3) ～厚生年金法の具体的仕組み
第 9 回：年金 (4) ～その他の年金制度など
第10回：医療保障 (1) ～医療保険法の意義、沿革・体系、医療供給体制など
第11回：医療保障 (2) ～医療保険法の具体的仕組み①
第12回：医療保障 (3) ～医療保険法の具体的仕組み②
第13回：医療保障 (4) ～その他の医療保障など
第14回：社会手当
第15回：まとめと今後の課題

【事前および事後学習の指示】
社会保障法は、体系的に理解することが特に重要な法分野です。事前に指示されたテキストの該当部分や配布された判例等の資料については、読んだ上で講義に臨み、事後には、知識・理解の定着のために、各講義の際に配布されたレジュメを再確認し、丁寧に復習するようにしてください。

【テキスト】
『社会保障法』(有斐閣アルマ・第 8 版) 加藤智章ほか
9784641222113 有斐閣
社会保障法 B と共通

【参考文献】
岩村正彦編『社会保障判例百選 (5 版)』(有斐閣)

【コメント】
備考　学期末の 2 回のレポートのみで評価します (各 50%)。ただ、毎回の授業に関し定められた形式で M-Port を通じて課題を提出することを義務とし、その提出が 11 回以上の者のみが成績評価の対象となります。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
社会保障論Ａ　＜春＞	**土４**

【教員名称】　　**遠隔授業 (オンデマンド型)**
寺内　謙元

【講義概要】
[授業の目的・ねらい]
社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。また、現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題、社会保障制度の財政について理解する。
[授業全体の内容の概要]
わが国の社会保障制度は、日本国憲法第 25 条の生存権規定に基づき体系化されている。その具体的施策である年金・医療・福祉 (介護) システムがどのように国民生活の安定に寄与しているのか、また、その政治経済システムへの影響はどのようなものなのか、実態をふまえ講義を行う。社会保障論 A では、わが国の社会保障制度の理念と歴史、社会保障制度と行財政システムの運営について講義を行う。また政治経済システムとの関連において社会保障制度を多角的に考察していきたい。

【学習目標】
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]
①社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。
②現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解する。
③社会保障制度の財政について理解する。
④公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。
⑤社会保障制度の体系と概要について理解する。
⑥諸外国における社会保障制度の概要について理解する。

【講義計画】
第 1 回：1 オリエンテーション
第 2 回：2 現代社会における社会保障制度の現状①：人口動態の変化
第 3 回：3 現代社会における社会保障制度の現状②：経済環境の変化
第 4 回：4 現代社会における社会保障制度の現状③：労働環境の変化
第 5 回：5 社会保障の概念や対象及びその理念①：社会保障の理念と範囲
第 6 回：6 社会保障の概念や対象及びその理念②：社会保障の役割と意義
第 7 回：7 社会保障の概念や対象及びその理念③：社会保障の理念
第 8 回：8 社会保障の概念や対象及びその理念④：社会保障の対象
第 9 回：9 社会保障の概念や対象及びその理念⑤：社会保障制度の展開
第10回：10 社会保障と財政①：社会保障の財源
第11回：11 社会保障と財政②：社会保障給付費
第12回：12 社会保障と財政③：国民負担率
第13回：13 社会保障と財政④：社会保障と経済
第14回：14 まとめ①
第15回：15 まとめ②

【事前および事後学習の指示】
事前学習　30 時間、事後学習　50 時間を目安にしてください。特に事後学習には注力してください。

【テキスト】
7　社会保障 一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟

【参考文献】

【コメント】
小テスト 2 回　各 20 点
レポート 2 回　各 15 点
期末テスト 1 回　30 点
上記の内容で成績を評価します。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
障害者スポーツ論Ａ　01 ＜春＞	**水３**

【教員名称】
植田　里美

【講義概要】
障がいのある人がスポーツをすることの意義や目的、障がい者スポーツの現状と課題について学ぶと共に、障がいや障がい者スポーツに関する知識を学ぶ。映像などを活用し理解を深めたり、実際の指導法を実技を交えて講義することもある。

【学習目標】
障がいや障がい者スポーツについての基本的知識を理解し、障がいのある人のスポーツ支援ができるようになる。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス、障がいおよび障がい者スポーツについて
①授業に関する概要の説明
②障がいおよび障がい者スポーツについての導入
第 2 回：障がい者スポーツの意義と理念
①障がい者にとってのスポーツ (動画鑑賞等)
②レポート
第 3 回：障がい者スポーツの歴史と動向
①障がい者スポーツの歴史
②障がい者スポーツに関する諸施策
第 4 回：障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫 I
①身体障がい (肢体不自由①)
第 5 回：障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫 II
①身体障がい (肢体不自由②)
第 6 回：障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫III
①身体障がい (視覚障がい)
第 7 回：障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫IV
①身体障がい (聴覚・音声言語障がい、内部障がい)
第 8 回：障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫 V
①知的障がい、発達障がい
第 9 回：障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫VI
①精神障がい
第10回：障がい者スポーツ大会
①パラリンピック
②全国障害者スポーツ大会
第11回：障がい者スポーツ推進の取り組み
①地域での取り組み
②障がい者スポーツ指導者制度
第12回：スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質
①スポーツのインテグリティ
②指導者の役割と心構え
第13回：障がいに応じたスポーツの工夫
①レポート
第14回：障がい者との交流
①実技または講義
第15回：まとめ及び試験

【事前および事後学習の指示】
新聞やテレビなどの障がい児・者スポーツに関する話題に目を通したり、障がい児・者の大会やイベントのボランティアを行うことで、より学びを深めることができます。

【テキスト】
障がいのある人のスポーツ指導教本 (初級・中級) (公財) 日本パラスポーツ協会
9784324112502 ぎょうせい

【参考文献】

【コメント】
・第 15 回目にテストを実施します。(教室内で定期試験を実施できない場合は、M-Port 上で行います)
・レポートは 2 回実施します。期限内に提出すること。
・「その他」は、毎授業に出す課題の提出および授業中の積極的な参加等で評価します。

【留意事項】
障がい者スポーツセンター勤務

講　義　名　称	曜　時
商取引法Ⅰ　＜春＞	**月３**

【教員名称】
大川　済植

【講義概要】
経済社会において、重要な地位を占めている共同企業〔(ex) 会社法上認められる会社や各種の組合など)〕や個人企業〔(ex) 商店街の各種の売買商店や飲食店など) は、商法上の「商人」として商取引 (＝「企業取引」) を通じて経済的な利益を追求する企業組織体です。
我々が市民生活を営んでいる経済社会 (＝取引社会) において、ビジネス活動を行う企業は、事業を拡張・展開するために必要な資金を「銀行」から借り入れ、または「証券会社 (＝問屋)」を介して自ら株式などの有価証券を発行し、もしくは原材料を仕入れて商品を製造し国内外に販売するために、「銀行などの金融機関」、「各種の製造会社」や、「陸運・海運会社」、「航空会社」などの運送人、「倉庫会社 (＝物流会社)」と大量の企業取引を集団的・反復的・継続的に行っています。また会社のリスク管理の一環として、損害保険会社と各種の保険契約を通じて万が一のリスクに備えつつ、ビジネス活動を展開しています。
このように、金融サービス業、製造業、運送業、物流業などといった各種のビジネス分野においてビジネス活動を行う商人は、経済社会における別個の独立した経済単一体であるものの、経済市場での様々な商行為を通じて密接にかかわる経済的共同体として「経済活動」を行っています。
「商取引法Ⅰ」のねらいは、主として商法典の定める第１編の内容として (1) 商法の適用範囲を画する基本概念 (→商人・商行為)、(2) 商号、(3) 商業登記、(4) 商業帳簿、(5) 商業使用人と代理商、(6) 営業・事業譲渡に関する法的諸問題について、受講生に商法総則の規律する総体的なイメージを掴んでいただけるよう、解りやすく講述することにあります。
そこで、本講義では、受講生の商法に対する体系的理解を一歩深めるべく、各単元の内容を講述するにあたっては、まずは商人のビジネス活動に係る各種の法制度を概観し、具体的な事案に対する裁判例の見解および学説の見解については、①法制度論、②法規範論、③法解釈論の観点から順次にアプローチしながら講述するよう、心がけたいと思います。
受講生の皆さんには、将来のビジネスパーソンとして各種の会社で労務を提供するためには、商法総則・商行為の定めるルールや法制度を学び、その専門知識を様々な事業現場で生かすことが期待されます。

【学習目標】
「商取引法Ⅰ」は、司法試験、公認会計士などのような国家資格試験だけでなく、一般企業への就職を目指す学生のために提供される科目です。本講義のねらいは、将来のビジネスパーソンとして最低限知っておくべき「企業取引」の基礎知識の内容につき、受講生の理論的・体系的理解度を高めることにあります。

【講義計画】
第１回：ガイダンスおよび商法の適用範囲を画する基本概念 (＝商法総則と商行為法の視点)
・ガイダンス
・商法の意義①
→商法の意義およびその概念
→商法の目的
→形式的意義の商法
第２回：・商法の意義②
→企業法説
→民法との関係
→民法に対する商法の特色
→商法の法源
第３回：・商行為
→商行為法主義
→商人法主義
→絶対的商行為
第４回：・商行為
→営業的商行為
第５回：・商行為
→附属的的商行為
→一方的商行為
・商人
→固有の商人
第６回：・商業登記
→商業登記の意義
→商業登記事項
→商業登記事項の分類
→設定的登記事項と免責的登記事項
第７回：・商業登記
→商業登記に関する通則
→商業登記の手続
→登記官の審査
→商業登記の効力
一般的効力 (消極的公示力・積極的公示力)
第８回：・商業登記
→不実登記の効力
不実登記の効力による第三者の保護の必要性 (権利外観法理・禁反言の原則)
→帰責事由
第９回：・商号
→商号の意義
→商標〔対比〕
→商号の選定
→商号選定の自由に対する例外
→不正競争防止法による商号の保護
→商号権
第10回：・商号
→商号権の性質
→他の商人 (会社) と誤認させる名称等の使用の禁止
→商号の譲渡
第11回：・商号
→商号譲渡が認められる場合
→商号譲渡の対抗要件
→商号譲渡による変更の登記
→商号の相続
第12回：・商業使用人の意義
→商業使用人の種類
→支配人
→支配人の選任・終任
第13回：・商業使用人
→支配人の義務
→義務違反の効果
→表見支配人
第14回：・営業譲渡
→営業 (事業) 譲渡
→営業 (事業) 譲渡の充足要件
→営業 (事業) 譲渡の効果
第15回：春学期期末理解力小テスト

【事前および事後学習の指示】
限られた授業時間内において、「商取引法Ⅰ」のすべて内容を網羅的に詳説するのは、物理的に可能なことではありません。そこで、①授業で講述すべき内容と、②受講生のみなさんの自学自修に期待し委ねるべき内容とに振り分けることによって、授業の効率化を図りたいと思います。
したがって、本講義では、受講生自らが、事前学習をする際にテキスト等を読むだけで理解でき、または理解しやすい内容もしくは説明しなくてもよい内容については、省略することとします。その代わりに、本講義では、主として「商取引法Ⅰ」の基本的事項として検討すべき内容に焦点を合わせて授業を進行すると同時に、受講生自らが問題意識をもって具体的に考えることができる授業を行います。
この点、受講生のみなさんには、「商取引法Ⅰ」の主要内容から選別した重要論点を中心に進める授業内容を理解するべく、必ずテキスト・予習 (復習) 用レジュメ・復習資料 (オンデマンド形式の録音ファイル)・参考文献などを使い、授業で詳説しない内容または取り扱っていない内容についても幅広く学習していただきたいと思います。

【テキスト】
商法総則・商行為法〔第３版補訂版〕山下眞弘
978-4-587-03558-7 法学書院

【参考文献】

【コメント】
商取引法Ⅰの成績評価は、①授業への参加度 (配点：30 点)、②春学期期末理解力小テスト (配点：20 点)、③レポート課題提出 (配点：50 点) の内容をもって決します。商取引法Ⅰの成績評価方法については、３回目の対面授業で説明します。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
消費者行動論　＜春＞	**火２**

【教員名称】
辻本　法子

【講義概要】
【マーケティングはビジネスパーソンのマストスキルです！消費者心理の視点から次世代のマーケティングを考える】
現代において企業がマーケティング戦略を構築するためには、IT の進展などの社会環境の変化がもたらす消費者の行動を的確に把握することが不可欠となっています。本講義では、消費者に向けたマーケティング･コミュニケーション戦略を提案するために必要な消費者行動についての理論や、調査手法、コミュニケーション手法について具体的事例を交えて学習し、新たな時代のマーケティングについて議論します。本講義は、みなさんが就職した際に、自分の職務において消費者を対象としたマーケティング・コミュニケーションを企画することができる基礎的なスキルを身につけることを目指します。

【学習目標】
本講義の目標は、新たな時代のマーケティングについて自ら考える力を養成することです。
①消費者行動についての基本的な理論と分析手法を理解すること
②マーケティングにおける消費者とのコミュニケーション施策について理解すること
③新たな時代の企業のマーケティング戦略について消費者行動の視点から説明できること

【講義計画】
第１回：オリエンテーション
講義の進め方、予習方法、成績評価の方法、受講の際のルールについての説明をおこなう
第２回：消費者の意思決定プロセス
第３回：消費者行動モデル
第４回：消費者の情報処理
第５回：消費者の関与
第６回：消費者行動分析
第７回：消費者の選択肢評価
第８回：消費者の購買後評価と満足度
第９回：消費者視点のマーケティング・コミュニケーション１
価格プロモーション
第10回：消費者視点のマーケティング・コミュニケーション２
非価格プロモーション
第11回：消費者のブランド認知
第12回：消費者の個人特性
第13回：消費者間の相互作用
第14回：文化と消費者行動
第15回：まとめ
講義の内容全体を振り返り、まとめをおこなう

【事前および事後学習の指示】
次回の講義に対応する教科書の章、または事前の配布資料を読んでおくこと。
消費者の購買行動やライフスタイルに関する新聞、雑誌、ネットの記事について関心をもつこと。

【テキスト】
先を読むマーケティング：新しいビジネスモデルの構築に向けて 中田善啓・西村順二
978-4-495-64801-5 同文舘出版

【参考文献】
講義のなかで紹介します。

【コメント】
①授業期間中に授業の到達目標に対応するテーマに関するレポートを３回実施する。
②授業の理解度を確認するための課題を授業ごとに実施する。授業内容を踏まえて自身の考えを論理的に述べているかどうかに重点を置いて評価する。
③いずれも M-Port 経由で指定期間内に提出する。

【留意事項】
百貨店のマーケティング部門で勤務経験のある教員が、具体的な事例を交えた授業をおこなう。

講　義　名　称	曜　時
食農ビジネスの理論と実践Ⅰ　＜春＞	**木１**

【教員名称】
室屋　有宏

【講義概要】
皆さんが毎日食べている食料はどのように生産され手元に届くのだろうか。そこには農水産業、食品加工業、食品流通業・小売業など多くの産業が関わっている。また日本の食は「ローカル」と「グローバル」の要素が一体化しながら、今日の多様で高度なシステムを形成している。他方で、各ビジネス主体はこうした複雑なシステムが持つ様々なリスクや課題に対応することが経営の必須条件となっている。
本講義では、日本の食農ビジネスを支える各産業・ビネス主体がどのような競合関係や相互関係を持ちつつ、消費者ニーズに対応しているのかについて考察する。特に「食農ビジネスの理論と実践Ⅰ」では「食の外側」にあると位置づけられる内外の制度や国内の農業 (水産業) を取り巻く環境とビジネスの現状・課題を中心的に取り上げる。これに対して「食農ビジネスの理論と実践Ⅱ」では、主に日本の食ビジネスを対象とする。
なお講義計画の順序は変更する場合がある。またゲストスピーカーによる講義は予定であり変更の場合がある。

【学習目標】
1．日本の食と農を支える産業・ビジネスについて知る。
2．現在の日本の食と農が直面する問題点や課題について学ぶ。
3．日本の食農の背後にあるグローバルな制度・メカニズムを理解する。
4．長期的かつグローバルな視点から、望ましい食と農のビジネスについて自ら考える。

【講義計画】
第１回：イントロダクション～授業の目的とねらい
日本の食と農はどう変化してきたのか
第２回：グローバル時代の世界の農業・食料事情
第３回：アメリカのアグリビジネス・食の工業化～米国映画「Food Inc.」から考える
第４回：日本の食料消費と農産物貿易
第５回：食の安全安心と食料安全保障
第６回：食の環境問題
第７回：日本農業の現状と位置づけ
第８回：日本の農業政策の展開
第９回：日本の農業経営組織
第10回：関西の農業ビジネス～ (ゲストスピーカー予定)
第11回：農業のビジネス化 (1) ～六次産業化と農商工連携
第12回：農業のビジネス化 (2) ～六次産業の事例 (ゲストスピーカー予定)
第13回：農業のビジネス化 (3) ～農産物輸出と企業の農業参入
第14回：水産業の現状
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
食や農、また地域産業について関心を持ち、新聞・ニュース等に日常的に目を通すようにしてください。

【テキスト】

【参考文献】
時子山ひろみ・荏開津典夫・中嶋康博『フードシステムの経済学』第６版 (医歯薬出版)
清水みゆき・高橋正郎『食料経済　フードシステムからみた食料問題 (第５版)』(オーム社)
アンドレ・アンドニアン、川西剛史、山田唯人『マッキンゼー読み解く食と農の未来』(日本経済新聞出版)
鈴木宜弘『農業消滅　農政の失敗まねく国家存亡の危機』(平凡社新書)
勝川俊雄『漁業という日本の問題』(NTT 出版)

【コメント】
1．講義内容についての理解度を図る確認テストを授業中に実施する。
2．レポート課題を課す場合がある。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
人権教育論Ａ　01 ＜春＞ 人権教育論Ａ　02 ＜春＞	木３ 木４

【教員名称】
大北　規句雄

【講義概要】
部落差別撤廃の様々な取り組みや経験を通して差別の歴史や社会的役割を学び、日本における普遍的な人権の概念について検証する。また部落解放運動の中で取り組まれている「まちづくり」等「地域共生社会」を創造する実践についても学び、「人と人が豊かに繋がり、誰もがありのままに生きることが出来る新しい地域社会の再構築」とはどのようなものなのか検証し、教職を目指す学生が、人権問題を単に知識として得ることにとどまらず、当事者の創造的な実践に学び、自ら感じ、行動出来る想像力を養うこともこの授業のねらいとする。

【学習目標】
1．排除・忌避意識の社会的・歴史的背景を説明することができる。
2．様々な人権課題や差別問題の歴史的経過や、社会性を説明することができる。
3．差別解消のための様々な努力から学び、被差別当事者の思いをしっかりと受け止め、記述することができる。
4．上記１～３を踏まえ、自分の意見をしっかりと論理的にまとめ、記述することができる。

【講義計画】
第１回：(1) 講義ガイダンス・オリエンテーション
①受講ルールの説明 (受講にあたってのルールやマナーの説明)
②授業計画 (授業日程や全 15 講の内容説明)
③評価基準の説明 (単位取得について、評価方法の説明)
(2) ワークショップ「人権はいま・・」
授業に入るリードとして、現代社会における様々な人権概要についてクイズ形式で学ぶ
第２回：人権概論 (Ⅰ)
「鬼と呼ばれた人、狐にされた人」
①日本文化に現れる「隠し」の思想、②「穢れ」意識と差別の固定化への変遷の検証
第３回：人権概論 (Ⅱ)
「排除・忌避の背景を検証する」
①なぜ福祉は一部の「可哀想な人」の問題になったのか、②ジェントリ・フィケーションとは何か、③都市の持つ「排除・忌避」の機能
第４回：部落問題論 (Ⅰ)
「部落差別とはなにか」
部落差別の歴史的起源と水平社創立以前の部落差別を検証する。
第５回：部落問題論 (Ⅱ)
「水平社とはなにか (水平社宣言を読む)」
①水平社結成の歴史背景、②水平社創立が意味するもの、③戦前の部落解放運動
第６回：部落問題論 (Ⅲ)
「戦後民主主義と部落解放運動」
①オールロマンス闘争と行政責任論の登場、②部落解放運動の光と陰、③地域共生社会への挑戦
第７回：部落問題論 (Ⅳ)
「部落問題にかかわる諸理論の展開と論点」
これまでの部落解放運動から生まれてきた様々な差別解消のための論点を整理する。
第８回：部落問題論 (Ⅴ)
「社会課題に挑戦する部落解放運動」
①被差別部落の今日的実態と差別解消の様々なアプローチ、②部落解放運動を支える社会的ネットワークの拡がりを検証する
第９回：同和教育論 (Ⅰ)
「同和教育の歴史と実態から見えるもの」
①同和教育の歴史と創り上げてきた実践、②人権教育の拡がりと実践
第10回：同和教育論 (Ⅱ)
「意識化とは何か (文字を奪い返す取り組みから見えるもの)」
①教科書無償闘争、②識字教室の営み、③奨学金闘争、④進路保障の取り組み等、を通じて教育とは何かを問い直す。
第11回：地域共生論 (Ⅰ)
「部落解放への展望を探る Ⅰ (地域共生社会と部落差別)」
①セツルメントと同和地区隣保館、②部落の実践と国が目指す地域共生社会、③ソーシャルキャピタルとは何か
第12回：地域共生論 (Ⅱ)
「部落解放への展望を探る Ⅱ (部落が目指した人権のまちづくり)」
①部落のまちづくりをめぐる４つのチャンス、②各地で取り組まれる「人権のまちづくり」へのチャレンジ
第13回：地域共生論 (Ⅲ)
「差別撤廃の人類の叡智と国際基準を検証する」
①国連の人権のアプローチを検証する、②差別認識の４指標と差別撤廃の５方策
第14回：地域共生論 (Ⅳ)
「人権の新しい概念の創造に向けて」
①グローカル概念とは何か、②拡がる人権の概念、③グローバルコンパクトと SDGs
第15回：課題設定のテストおよびまとめ

【事前および事後学習の指示】
事前学習：前回授業終了時に次回講義の課題と「キーワード」を指示するので、事前に調べておくこと (推定目安時間１時間)
事後学習：ミニレポート (推定目安時間１時間)

【テキスト】
隣保館「まちづくりの拠点として」大北規句雄
978-4-7592-1029-3 解放出版社
大阪の部落解放運動「100 年の歴史と展望」
978-4-7592-4233-1 解放出版社
授業時に「レジュメ」と参考資料を配布します。

【参考文献】
「冬枯れの光景 (部落解放運動への黙示的考察) 上・下」谷元昭信著　解放出版社
「改訂：戦後同和教育の歴史」部落解放研究所編　解放出版社

【コメント】
①最終試験において、到達目標に対応するテーマに関する論述問題を出題する。授業での内容やオリジナリティなど自身の意見が論理的に述べられているかを重点に評価する。
②毎回授業のふりかえりとして、授業内容が理解されているかを判断するための小レポートを実施する。
③欠席が全授業の３分の１を超えると単位を認められないことがある。

【留意事項】
行政職員として人権政策に関わって来た経験のある者が、その経験を活かして今日的な人権諸課題の概要や、問題解決に向けたアプローチ等の取組の紹介などを行う。
まちづくりコンサルティング会社の職員としての経験のある者が、その経験を活かして「地域共生社会」の取組概要やアプローチを紹介する。
この授業は特定のテキストを使用しない。必要に応じて毎回レジュメを配布する。
この授業は後期の「人権教育論Ｂ」と通して履修することが望ましい。

講　義　名　称	曜　時
人的資源管理論Ａ　＜春＞	**火１**

【教員名称】
三輪　卓己

【講義概要】
経営管理における人的資源管理の位置付けと、その活動内容の基礎を学習します。理論的な深い考察などは応用編に譲ることとし、この講義では人的資源管理の内容をひとまず理解することに重点を置きます。人材という経営資源に対してより大きな期待がかけられる時代になってきました。それは人材が知識やノウハウを持ち、創造性を発揮する経営資源であるからに他ありません。不確実な経営環境においては、人材の持つ創造性が厳しい環境に打ち勝つ企業力の源泉となるのです。それゆえ、人材を有効活用できるかどうかは企業活動の成否に直結すると考えられます。また、人材は成長するものであり、現在よりも大きな価値のある資源になりうる存在でもあります。企業はそれを促すために教育訓練を行い、投資し、動機付けていく必要があります。人材を育成できる企業こそが長期的に成長できると考えられるのです。人的資源管理とは、人材を育成し、適切に活用するための仕組みや活動です。その内容を理解し、いくつかの実例を見ることを通して、それらがどのような機能を持っているのか、現在どのような問題に直面しているのかを議論します。企業で人材が活き活きと働き、活躍できるようにするためには何が重要となるのか、将来自分はどのように働きたいかといった問題意識を育てていただきたいと思います。

【学習目標】
人的資源管理の初歩的な理論を修得し、実際の諸活動の概要を理解すること。
人的資源管理の主要な用語や概念を理解し，それを使って現実の問題を考えること。
いくつかの企業事例に触れて実践的な問題意識を形成すること。
論理的思考能力 (特に課題発見力、創造力、論理的分析力、総合的判断力)、主体性の開発に主眼を置く。

【講義計画】
第１回：経営組織の中での人的資源管理
人的資源管理の内容と経営全体の中での位置づけを説明したうえで、授業全体のスケジュール等を確認し、受講するうえでの注意事項を伝達する。
第２回：雇用管理 (採用・配置・異動・退職)
人的資源の獲得 (採用)、育成 (配置、異動) から退職に至るまでのマネジメントを学び、日本企業の特徴について解説する。
第３回：人事制度 (人材の格付け制度)
人事等級制度について、主に日本独特の職能等級制度、欧米で一般的な職務等級制度を比較しながら学習する。
第４回：人事考課制度 (人材の評価や査定)
組織の中での人の働きぶりの評価活動について、その方法や、それが人に与える影響等について学習する。
第５回：賃金管理 (賃金の決め方と体系)
組織で働く人の報酬の支払い (月例賃金、賞与) について、日本的な年功給や成果主義賃金などを比較しながら学習する。
第６回：昇進管理 (役職昇進の意義と新しい昇進経路)
役職やより重要な職務への異動 (昇進) について、早い昇進と遅い昇進を比べながら、その意義や問題点について学習する。
第７回：労働時間管理 (労働時間の短縮、弾力化、現実の問題点)
労働時間の管理方法や短縮化について学び、現在社会で議論されている問題点について解説する。
第８回：能力開発 (ＯＪＴとＯｆｆ－ＪＴ)
組織の中で行われる能力開発の手法と、日本企業の特徴について学ぶ。
第９回：労使関係管理 (労働組合と協調的労使関係)
労働組合の意義や役割を確認したうえで、日本的労使関係の特徴について学ぶ。
第10回：職場環境管理 (福利厚生と職場環境)
日本企業における福利厚生の特徴と、近年の変化について学習する。
第11回：多様な人材の管理 (非正規従業員、派遣労働者)
近年増加している新しい人的資源と、そのマネジメント上の問題点について学ぶ。
第12回：企業の事例 (1) 製造業・自動車産業の事例
製造業の人的資源管理の特徴 (ゆっくりとした昇進、配置転換、チーム作業等) について学習する。
第13回：企業の事例 (2) 流通業・総合スーパーの事例
流通業の人的資源管理の特徴 (大量採用、競争的な昇進制度、非正規社員との協働) について学習する。
第14回：企業の事例 (3) サービス業・情報産業の事例
情報産業の人的資源管理の特徴 (高度な専門性、労働移動、自律的キャリア) について学習する。
第15回：まとめ
全体を振り返り、ポイントの整理と今後に向けての展望を行う。

【事前および事後学習の指示】
第１回
(事前学習) テキスト第１章を読んで疑問点等をまとめておくこと
(事後学習) 配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
第２回
(事前学習) テキスト第５章を読んで疑問点等をまとめておくこと
(事後学習) 配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
第３回
(事前学習) テキスト第４章を読んで疑問点等をまとめておくこと
(事後学習) 配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
第４回
(事前学習) テキスト第７章を読んで疑問点等をまとめておくこと
(事後学習) 配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
第５回
(事前学習) テキスト第９章を読んで疑問点等をまとめておくこと
(事後学習) 配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
第６回
(事前学習)M-Port で指示する資料を見て疑問点等をまとめておくこと
(事後学習) 配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
第７回
(事前学習) M-Port で指示する資料を見て疑問点等をまとめておくこと
(事後学習) 配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
第８回
(事前学習)M-Port で指示する資料を見て疑問点等をまとめておくこと
(事後学習) 配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
第９回
(事前学習) テキスト第 11 章を読んで疑問点等をまとめておくこと
(事後学習) 配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
第 10 回
(事前学習) テキスト第 10 章を読んで疑問点等をまとめておくこと
(事後学習) 配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
第 11 回
(事前学習) テキスト第 12 章を読んで疑問点等をまとめておくこと
(事後学習) 配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
第 12 回～第 15 回
(事前学習)M-Port で指示する資料を見て疑問点等をまとめておくこと
(事後学習) 配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること

【テキスト】
入門人的資源管理　第２版 奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著
978-4-502-67360-3 中央経済社

【参考文献】

【コメント】
中間レポートと最終レポートを課す。
その他は、授業中の発言や質問、授業後の質問メール、任意のミニレポートによって評価する。

【留意事項】
企業の人事スタッフ、ならびに組織人事の経営コンサルタントの実務経験を授業に反映させる。

社会人の方へ (聴講に関して)
予習用の動画を事前に見ていただきますので、PC 等が必要になります。

講義名称	曜時
心理学 A　01 ＜春＞	金 1

【教員名称】
伊庭　千恵

【講義概要】
[授業の目的・ねらい]
心理学理論による人の理解とその技法の基礎、人の成長・発達と心理との関係について理解する。また、日常生活と心の健康との関係について、心理的支援の方法と実際について理解する。
[授業全体の内容の概要]
最近、利用者ニーズが多様化する福祉現場の状況から、心理学的援助技術の導入を求める機運が急速に高まってきている。優れた支援やケアの理論的根拠としての心理学理論が求められてきている現状を踏まえ、実践に必要な心理学の基礎を学ぶことを目指す。

【学習目標】
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]
①心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。
②人の成長・発達と心理との関係について理解する。
③日常生活と心の健康との関係について理解する。
④心理的支援の方法と実際について理解する。

【講義計画】
第 1 回：心理学の視点①：心理学の歴史と領域
第 2 回：心理学の視点②：こころの働きと行動
第 3 回：人の心と基本的な仕組みと機能①：認知と知能①
第 4 回：人の心と基本的な仕組みと機能②：認知と知能②
第 5 回：人の心と基本的な仕組みと機能③：個人と社会
第 6 回：人の心の発達過程①：人の成長・発達と心理①
第 7 回：人の心の発達過程②：人の成長・発達と心理②
第 8 回：日常生活と心の健康①：日常生活とこころの健康①
第 9 回：日常生活と心の健康②：日常生活とこころの健康②
第10回：心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本①：心理学的アセスメント①
第11回：心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本②：心理学的アセスメント②
第12回：心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本③：カウンセリングの概念と範囲①
第13回：心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本④：カウンセリングの概念と範囲②
第14回：心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本⑤：心理療法の概要と実際①
第15回：心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本⑥：心理療法の概要と実際②

【事前および事後学習の指示】
シラバスに沿って進行し、事前に授業資料を提示します。
事前に配布する資料をもとに予習 (30 分) して出席してください。
授業後は講義内容と資料を基に復習 (30 分) してください。

【テキスト】

【参考文献】
〇長谷川寿一・東条正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行著『はじめて出会う心理学』有斐閣アルマ
〇加藤伸司・山口利勝編著『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 21 心理学理論と心理的支援第 2 版』ミネルヴァ書房

【コメント】
試験　0%
レポート課題：期中および期末にレポート課題を実施し理解度を評価します。(90%)
その他：授業内容についてコメントシートの提出、もしくは、M-Port を通じて課題提出や授業内容についての意見、感想等を複数回実施し、授業態度等を評価します。(10%)
期中、期末のレポート課題、および授業内容に対する意見・感想などの提出時期は不定期に行います。実施前に提示します。

【留意事項】
児童福祉、障害福祉現場、矯正施設などにおいて心理士・カウンセラーの経験のある教員が「心の健康」等の専門科目を担当する。
臨床心理士・公認心理師の教員が心理学の理論を解説する。
授業で提示する資料を各自で管理し、予習、復習に活用してください。
春学期に行う心理学 A では、心理学の基礎を中心に講義を行います。
なお、秋学期で行う心理学 B では、心理学の知識の対人援助場面への応用を中心に講義を行います。
心理学 A、心理学 B 合わせて授業されるとより深く心理学を学べます。

講義名称	曜時
心理学 A　02 ＜春＞	月 1

【教員名称】
岡崎　満希子

【講義概要】
心理学は、人の心のしくみとはたらきを科学的に探究する学問として発展してきた。この授業では、これまで心理学が研究対象としてきたさまざまな領域で明らかにされた基礎的知見と研究成果を概説する。「心理学の研究法」「心のしくみと認知」「心のはたらきと行動」「個人と社会」「人の成長・発達」の各領域に分けて心理学の基礎理論を取り上げ、一般的包括的な内容構成に基づき講義を行う。学びの深化とともに、社会や教育現場で役立つ批判的・論理的な思考・判断能力の向上を目指す。

【学習目標】
・科学としての心理学の基礎理論および心理学研究上の基礎的知見・成果を体系的に理解している。
・子どもの心の発達と発達要因について理解している。
・日常生活におけるさまざまな心理社会的行動の特徴について、心理学理論と研究法を応用して探究し理解することができる。
・日常生活における多様な情報に対して、心理学的観点から批判的・論理的に思考・判断して適切に行動することができる。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション：心理学の基礎理論
第 2 回：心理学の歴史と領域
第 3 回：心理学の研究法
第 4 回：心のしくみと認知①：感覚と知覚
第 5 回：心のしくみと認知②：記憶
第 6 回：心のしくみと認知③：学習 (条件づけ)
第 7 回：心のしくみと認知④：知能と思考
第 8 回：心のはたらきと行動①：動機づけ
第 9 回：心のはたらきと行動②：情動と感情
第10回：個人と社会①：人格・性格
第11回：個人と社会②：他者と集団
第12回：人の成長・発達と心理①：遺伝と環境
第13回：人の成長・発達と心理②：ライフサイクル
第14回：人の成長・発達と心理③：心の発達
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
・授業内で示すテーマについて、次回までに予習をしておく。
・授業内容において関心を持った領域やテーマに関して、授業資料で示した参考文献等を通じて理解を深める。

【テキスト】
テキストは使わないが、スライド (パワーポイント)、インターネット、DVD、印刷物などによって資料を提供する。

【参考文献】
・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行 (著)『はじめて出会う心理学 (第 3 版)』有斐閣アルマ
・その他、授業内で示す。

【コメント】
①授業内容に関する考えや感想を書いて提出する。提出のタイミングと方法はその都度指示する。
②学期末に期末試験を実施する。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
心理学 A　03 ＜春＞	**火 2**

【教員名称】
中村　隆行

【講義概要】
心理学は、人の心のしくみとはたらきを科学的に探究する学問として発展してきた。この授業では、これまで心理学が研究対象としてきたさまざまな領域で明らかにされた基礎的知見と研究成果を概説する。「心理学の研究法」「心のしくみと認知」「心のはたらきと行動」「個人と社会」「人の成長・発達」の各領域に分けて心理学の基礎理論を取り上げ、一般的包括的な内容構成に基づき講義を行う。学びの深化とともに、社会や教育現場で役立つ批判的・論理的な思考・判断能力の向上を目指す。

【学習目標】
・科学としての心理学の基礎理論および心理学研究上の基礎的知見・成果を体系的に理解している。
・子どもの心の発達と発達要因について理解している。
・日常生活におけるさまざまな心理社会的行動の特徴について、心理学理論と研究法を応用して探究し理解することができる。
・日常生活における多様な情報に対して、心理学的観点から批判的・論理的に思考・判断して適切に行動することができる。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション：心理学の基礎理論
第 2 回：心理学の歴史と領域
第 3 回：心理学の研究法
第 4 回：心のしくみと認知①：感覚と知覚
第 5 回：心のしくみと認知②：記憶
第 6 回：心のしくみと認知③：学習 (条件づけ)
第 7 回：心のしくみと認知④：知能と思考
第 8 回：心のはたらきと行動①：動機づけ
第 9 回：心のはたらきと行動②：情動と感情
第10回：個人と社会①：人格・性格
第11回：個人と社会②：他者と集団
第12回：人の成長・発達と心理①：遺伝と環境
第13回：人の成長・発達と心理②：ライフサイクル
第14回：人の成長・発達と心理③：心の発達
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
・毎回講義終了後に、その回の重要事項復習用として、確認問題を配布する。次回講義までに必ず確認問題を解いておくこと。
・講義で学習したことが、実際の日常生活のどういったところと関連しているのか、注意して生活してみること。

【テキスト】

【参考文献】
・加藤伸司・山口利勝 (編著) 『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 21　心理学理論と心理的支援　第 2 版』　ミネルヴァ書房
・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦　『はじめて出会う心理学 改訂版』有斐閣アルマ

【コメント】
定期試験 90% 授業内提出物 10%
(新型コロナウイルスの感染拡大防止のために定期試験が実施できない場合には、小テストを 100%に変更する)

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
心理学 A　04 ＜春＞	**火 3**

【教員名称】
中村　隆行

【講義概要】
心理学は、人の心のしくみとはたらきを科学的に探究する学問として発展してきた。この授業では、これまで心理学が研究対象としてきたさまざまな領域で明らかにされた基礎的知見と研究成果を概説する。「心理学の研究法」「心のしくみと認知」「心のはたらきと行動」「個人と社会」「人の成長・発達」の各領域に分けて心理学の基礎理論を取り上げ、一般的包括的な内容構成に基づき講義を行う。学びの深化とともに、社会や教育現場で役立つ批判的・論理的な思考・判断能力の向上を目指す。

【学習目標】
・科学としての心理学の基礎理論および心理学研究上の基礎的知見・成果を体系的に理解している。
・子どもの心の発達と発達要因について理解している。
・日常生活におけるさまざまな心理社会的行動の特徴について、心理学理論と研究法を応用して探究し理解することができる。
・日常生活における多様な情報に対して、心理学的観点から批判的・論理的に思考・判断して適切に行動することができる。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション：心理学の基礎理論
第 2 回：心理学の歴史と領域
第 3 回：心理学の研究法
第 4 回：心のしくみと認知①：感覚と知覚
第 5 回：心のしくみと認知②：記憶
第 6 回：心のしくみと認知③：学習 (条件づけ)
第 7 回：心のしくみと認知④：知能と思考
第 8 回：心のはたらきと行動①：動機づけ
第 9 回：心のはたらきと行動②：情動と感情
第10回：個人と社会①：人格・性格
第11回：個人と社会②：他者と集団
第12回：人の成長・発達と心理①：遺伝と環境
第13回：人の成長・発達と心理②：ライフサイクル
第14回：人の成長・発達と心理③：心の発達
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
・毎回講義終了後に、その回の重要事項復習用として、確認問題を配布する。次回講義までに必ず確認問題を解いておくこと。
・講義で学習したことが、実際の日常生活のどういったところと関連しているのか、注意して生活してみること。

【テキスト】

【参考文献】
・加藤伸司・山口利勝 (編著) 『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 21　心理学理論と心理的支援　第 2 版』　ミネルヴァ書房
・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦　『はじめて出会う心理学 改訂版』有斐閣アルマ

【コメント】
定期試験 90% 授業内提出物 10%
(新型コロナウイルスの感染拡大防止のために定期試験が実施できない場合には、小テストを 100%に変更する)

【留意事項】

講義名称	曜時
心理学 A　05 ＜春＞	月 2

【教員名称】
小松　佐穂子

【講義概要】
心理学は、人の心のしくみとはたらきを科学的に探究する学問として発展してきた。この授業では、これまで心理学が研究対象としてきたさまざまな領域で明らかにされた基礎的知見と研究成果を概説する。「心理学の研究法」「心のしくみと認知」「心のはたらきと行動」「個人と社会」「人の成長・発達」の各領域に分けて心理学の基礎理論を取り上げ、一般的包括的な内容構成に基づき講義を行う。学びの深化とともに、社会や教育現場で役立つ批判的・論理的な思考・判断能力の向上を目指す。

【学習目標】
・科学としての心理学の基礎理論および心理学研究上の基礎的知見・成果を体系的に理解している。
・子どもの心の発達と発達要因について理解している。
・日常生活におけるさまざまな心理社会的行動の特徴について、心理学理論と研究法を応用して探究し理解することができる。
・日常生活における多様な情報に対して、心理学的観点から批判的・論理的に思考・判断して適切に行動することができる。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション：心理学の基礎理論
第 2 回：心理学の歴史と領域
第 3 回：心理学の研究法
第 4 回：心のしくみと認知①：感覚と知覚
第 5 回：心のしくみと認知②：記憶
第 6 回：心のしくみと認知③：学習 (条件づけ)
第 7 回：心のしくみと認知④：知能と思考
第 8 回：心のはたらきと行動①：動機づけ
第 9 回：心のはたらきと行動②：情動と感情
第10回：個人と社会①：人格・性格
第11回：個人と社会②：他者と集団
第12回：人の成長・発達と心理①：遺伝と環境
第13回：人の成長・発達と心理②：ライフサイクル
第14回：人の成長・発達と心理③：心の発達
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
・授業情報 (授業課題、レポート課題など) は、M-Port を通じて提供する。授業の前後にそれらの情報を確認し、課題提出および予習・復習・発展学習のために役立てること。

【テキスト】
テキストは使わないが、スライド (パワーポイント)、インターネット、DVD、印刷物などによって資料を提供する。

【参考文献】
・加藤伸司・山口利勝 (編著)『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 21 心理学理論と心理的支援 第 2 版』ミネルヴァ書房
・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行 (著)『はじめて出会う心理学 (第 3 版)』有斐閣アルマ

【コメント】
①授業ごとにその内容に関するコメントの提出 (M-Port を通じウェブ提出) を求め、授業への主体的・積極的な参加状況を確認する (20%)。
②加えて、学期の中間点でレポート課題を指示し、M-Port を通じファイル提出を求める (40%)。
③および、学期末にレポート課題を指示し、M-Port を通じファイル提出を求める (40%)。
④それらの結果に基づき、修得した知識および論理的な思考力・表現力について総合的に評価を行う。

【留意事項】

講義名称	曜時
数理科学入門 - 推測統計入門　＜春＞	月 4

【教員名称】
藤間　真

【講義概要】
複雑怪奇な現実を把握するための方法論の一つが統計科学です。統計科学は大量の数値を扱い、またその背景には確率論をはじめとする数学的な考え方があるため、20 世紀においては一部の専門家のものでしかありませんでした。しかし、PC の急速な進歩により、一般人でも簡単に扱えるようになってきており、現代人に必要な素養の一つとみなされるようになってきました。
この現実をうけて、本講義では、無味乾燥で忍耐力が必要となる計算や表操作を PC ソフトを使うことによって回避しつつ、「世界を見る視座としての統計」という視点から統計科学の中でも特に推測統計に触れることにより、将来必要になった際に簡単に習熟できる土台を築くことを目指します。
頻繁に習熟度を確認して調整を行う予定です。

【学習目標】
この講義の目指す点は二つです。
その一つは、世界を見る視座としての統計科学、とくに推測統計に触れてもらうことです。
もう一つは、世界を見る視座としての統計科学の道具としてのパソコンについて知ることです。
なお、本講義で扱う PC ソフトは主に Excel ですが R の初歩も扱う予定です。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーションを行います。
詳細は第 1 回で示します。
受講を検討する学生諸君は、必ず出席してください。どうしても出席できない場合は早急に連絡してください。
第 2 回：1 変数のデータの要約と視覚化
第 3 回：2 変数のデータの要約と視覚化
第 4 回：事象と確率
第 5 回：確率変数
第 6 回：基本確率分布
第 7 回：中間まとめ
第 8 回：母集団と標本の関係
第 9 回：標本分布
第10回：統計的推測とは
第11回：区間推定とは
第12回：母平均の仮設検定
第13回：独立性の検定
第14回：回帰分析
第15回：総まとめ

【事前および事後学習の指示】
各回ごとに事後学習を指示します。

【テキスト】
教養のための統計入門 大田靖 , 宿久洋
9784407332841 実教出版

【参考文献】
向後千春・富永敦子著、『統計学がわかる』、技術評論社、2007
向後千春・富永敦子著、『統計学がわかる , 回帰分析、因子分析編』、技術評論社、2009

【コメント】
講義中の課題、事後課題、問題演習 (複数回で実施する予定です)、まとめ課題の結果を総合的に評価します。
なお、本講義の評価時に、出席点は加味することはありませんが、きちんと出席していれば、単位認定できるように講義運営する予定です。
詳細は、オリエンテーション時に示します。

【留意事項】
数値シミュレーション関係のプログラマーとしての経験を数理モデルの解説に盛り込みます。

講　義　名　称	曜　時
スピリチュアルケア A　＜春＞	**水 2**

【教員名称】
齋藤　かおる

【講義概要】
●能は、650 年以上の歴史を持ち、ユネスコ無形文化遺産に指定されている、現存最古の継続的に営まれ続けてきている舞台芸術です。
●そのように時代を越えて継続的に営まれ続けてきているのは、能が【魂の配慮】として機能する力を備えているからだと考えられます。
●本講義は、能の個々の曲 (演目) の考察を通して、そのような能の力の具体像を探り、そのような能の力の可能性を見定めてゆきます。

【学習目標】
●能が提示する思考の方向性を把握し、その可能性 (西欧的スピリチュアルケア概念の補完となる可能性) を理解しましょう。
●能の知見を手がかりに、人間の三次元性 (時間性・空間性・精神性) をめぐる思索を深めましょう。
●国内外の様々な伝統文化にも、関心を拡げましょう。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション
　　●狭義のスピリチュアルケア概念が孕む西欧的思考の傾向性と、その諸問題について、概説します。
　　●能には西欧的思考とは異なる【魂の配慮】の方向性を見出せることと、その意義について、概説します。
第 2 回：●この世の無常 —— 蝉丸
第 3 回：●弱さと恥じらい —— 弱法師
第 4 回：●大人たちの過ち —— 天鼓
第 5 回：●退治するもの・されるもの —— 大江山
第 6 回：●老いと良心 —— 卒塔婆小町
第 7 回：●老いと情愛 —— 通小町
第 8 回：●思いの齟齬 —— 清経
第 9 回：●信義と矜持 —— 鉢木 +Q169
第10回：●良識と矜持 —— 江口
第11回：●絶望と孤独 —— 隅田川
第12回：●命の繋がり —— 夜討曽我
第13回：●共に生きる喜び —— 松虫
第14回：●共に生きる不思議 —— 杜若
第15回：総括と補足
　　●【魂の配慮】と能舞台・能楽師

【事前および事後学習の指示】
●事前学習：講義で扱う能の曲 (演目) の概略等を、事前に調べておきましょう。
●事後学習：講義内容を手がかりに知見と思索を深めつつ、国内外の様々な伝統文化についても関心を拡げましょう。

【テキスト】

【参考文献】
●能楽事典 (能楽協会のサイト)　https://www.nohgaku.or.jp/encyclopedia
●天野文雄『能楽手帖』角川文庫、2019 年。
●齋藤かおる『良心の哲学』檜書店、2022 年。
●小辰恭子 (著)、齋藤かおる (編)『京都の能によりそって五十年』京都新聞出版センター、2022 年 5 月出版予定。

【コメント】
●成績評価は 2 回の課題レポートによって行います。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
政治学 A　＜春＞	**木 4**

【教員名称】
塚田　鉄也

【講義概要】
世の中には、さまざまな考え方や価値観、利害を持った人がいます。そして、そうした異なる価値観や利害が併存するなかで、共通の問題に対処したり集団としての方針を決めようとするときに必要になるのが政治です。本講義では、特に異なる価値観や利害の併存という点に注目して、政治の基本的な概念を学びながら、国内政治や国際政治において具体的にどのような問題が争点になっているのかを考察していきます。

【学習目標】
①政治の基本的な概念や対立軸について理解し、説明できる
②そうした理解に基づいて現実の政治を理解し、説明できる

【講義計画】
第 1 回：政治学を学ぶ意義
第 2 回：政治とは何か
第 3 回：権力論
第 4 回：自由論
第 5 回：平等論
第 6 回：デモクラシー
第 7 回：ポピュリズム
第 8 回：ネイションとナショナリズム
第 9 回：フェミニズム
第10回：環境と政治
第11回：国際政治①：対立と協調
第12回：国際政治②：主権と人権
第13回：国際政治③：文化とアイデンティティ
第14回：国際政治④：貧困と開発
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
テキストの指示された部分を事前に読んでおいてください。

【テキスト】
現代政治理論 (新版) 川崎修・杉田敦編
9784641124547 有斐閣

【参考文献】
村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ (新版)』(有斐閣、2015 年)

【コメント】
各回の内容について課される確認テスト (M-Port の「テスト」を利用) により評価する。なお、盗用等の不正行為が確認された場合は、その段階で不合格とする。

【留意事項】

講義名称	曜時
精神保健福祉の原理 B　＜春＞	**月 3**

【教員名称】
栄　セツコ

【講義概要】
[授業の目的・ねらい]
①精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえそれに対する問題意識をもつ価値観を体得する。
②精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。
③現在の精神保健福祉士の基本的枠組み (理念・視点・関係性) と倫理綱領に基づく職責について理解する。
④精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。
⑤近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。
[授業全体の内容の概要]
「精神保健福祉士」の資格化の経緯を辿り、精神保健福祉の原理と理念、「精神保健福祉士」の機能と役割について、精神保健福祉士の理解を図る。

【学習目標】
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]
「精神保健福祉士」が国家資格化された経緯、その基本的枠組みと倫理綱領について説明できる。「精神保健福祉士」を規定する法律をふまえ、社会的役割とその職域・業務特性について理解できる。

【講義計画】
第 1 回：1　オリエンテーション
第 2 回：2　精神障害者の障害特性
第 3 回：3　精神障害者の生活実態
第 4 回：4 「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯
第 5 回：5 「精神保健福祉士」の原理・価値
第 6 回：6 「精神保健福祉士」の観点と視点
第 7 回：7 「精神保健福祉士」の援助における関係性
第 8 回：8 「精神保健福祉士法」の理解
第 9 回：9 「精神保健福祉士」の職業倫理
第10回：10 「精神保健福祉士」の業務特性
第11回：11 「精神保健福祉士」の職場・職域
第12回：12 「精神保健福祉士」の業務内容と業務指針
第13回：13　精神障害者の家族支援の必要性
第14回：14　精神障害者を取り巻く環境整備・社会変革の必要性
第15回：15　まとめ

【事前および事後学習の指示】
・配布される講義レジェメの指示にしたがってあらかじめ予習・復習すること。
・精神保健福祉の原理は、精神保健福祉士の国家試験受験資格取得に必要な科目である。

【テキスト】
精神保健福祉の原理 一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟編
978-4-8058-8256-6 中央法規

【参考文献】

【コメント】
到達目標に対応する試験 (小テスト：2 回)、レポート提出 (1 回) をもって評価する

【留意事項】
精神保健福祉士として、医療機関・障害サービス事業所等で実務経験のある教員が精神障害者に関する概念等の講義等をする。

講義名称	曜時
税法A　＜春＞	**火 1**

【教員名称】
浦東　久男

【講義概要】
税法の基本的な原則を理解するために、相続税法、消費税法、所得税法などを素材にして、講義する。

【学習目標】
・憲法が規定する租税法律主義について学ぶ、その内容と意義を理解する。
・相続税法を学び、税法の適用において私法 (民法) が基礎となることを理解する。
・消費税法を学び、間接税についてその基本的な問題を知る。
・所得税法の基本的な仕組みを知る。
・「税制改正」がもたらす意味を知る。

【講義計画】
第 1 回：導入　授業計画の説明　わが国の税制を概観する
・税財政の状況
・税法と他の科目 (法分野) との関係
・各税目の特徴
第 2 回：租税法の体系と構造 (税法の法源)・基本原則 (租税法律主義)
憲法と法律の関係、法律と政令の関係
個別税法の例　地方税条例の例を知る
法律の遡及適用について
第 3 回：租税法の解釈と適用：「疑わしきは納税者の利益に」、「借用概念」とは
租税回避と「事実認定による否認」
第 4 回：相続税法 (1) 納税義務者 (居住と国籍) と課税対象財産：民法と税法の関係を考える
第 5 回：相続税法 (2) 課税の対象：遺産取得税とはどんなものか　課税対象となる財産の範囲
第 6 回：相続税法 (3) 納税額の計算：基礎控除額、累進税率、税額軽減
第 7 回：相続税法 (4) 土地などの財産の評価 (路線価方式と倍率方式)
通達の意味
(地方税の代表例として) 固定資産税について知る
第 8 回：消費税法 (1) 直接税と間接税、間接税の分類、多段階課税の間接税と累積課税
第 9 回：消費税法 (2) 累積課税の排除
仕入税額控除
課税対象取引と非課税取引
第10回：所得税法 (1) 所得課税の基礎、所得概念、法人税と所得税
第11回：所得税法 (2) 所得区分と各種所得の金額 (その 1) 事業所得と給与所得
第12回：所得税法 (3) 各種所得の金額 (その 2) 譲渡所得、利子所得、配当所得
第13回：所得税法 (4) 所得控除と確定申告
第14回：租税手続法　租税債務の成立と確定　源泉徴収　強制徴収との関係
第15回：まとめ　わが国の税制改正

【事前および事後学習の指示】
教科書の該当箇所によって、前回までの講義内容の復習をすること。授業中に出題された質問をノートに記す、そしてその答えを考えること。授業中に小テストを実施するが、成績評価には含めない。

【テキスト】
図説・租税法ノート (第 14 訂版) 八ツ尾順一
9784433739232 清文社

【参考文献】
1　岡村忠生・酒井貴子・田中昌国著『租税法法〔第 3 版〕』(有斐閣)
2　寺崎寛之編著『図説日本の税制令和四年度版』(財経詳報社)
3　中里実・佐藤英明・増井良啓編『租税判例百選〔第 7 版〕』(有斐閣)
4　三木義一『日本の税金 (第三版〉』(岩波書店)

【コメント】
(1) 授業中に出題される小テスト及びレポート課題による。
(2) レポート：次の課題について、1000 字程度で説明しなさい。
課題「相続税法が定める「基礎控除額」について」
提出期限：6 月の第 2 回目の授業日
(具体的な日程は M-Port により 4 月中に提示します。)

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
税務会計論　＜春＞	**金 1**

【教員名称】
金光　明雄

【講義概要】
本講義では、主に法人企業を対象にして、税務当局や経営者に対して報告される課税所得金額・法人税額の計算の仕組みとその背後にあるルール (税務法令等) を学び、税務会計情報の作成と分析に必要な基礎知識を身につけます。

【学習目標】
(1) 企業会計上の利益計算との異同を理解したうえで、税務会計における課税所得計算・税額計算の仕組みを体系的に説明できるようになること
(2) 税務会計情報を作成・分析できるようになることを学習の到達目標とします。

【講義計画】
第 1 回：本講義の概要説明
第 2 回：法人所得課税制度の概要
第 3 回：課税所得計算の構造
第 4 回：益金計算の原則
第 5 回：損金計算の原則
第 6 回：収益の税務処理
第 7 回：費用の税務処理
第 8 回：資産の税務処理
第 9 回：負債・欠損金の税務処理
第10回：法人税額の計算
第11回：税務申告書の作成
第12回：法人税の申告と納付
第13回：グループ法人税制
第14回：国際税務
第15回：総括

【事前および事後学習の指示】
【事前学習】M-Port〔授業資料〕画面から講義資料を入手し、講義テーマを確認する。
【事後学習】講義ノートを作成し、学習内容を整理する。小テストの問題に解答し提出する。

【テキスト】
テキストは使用しません。

【参考文献】
税務大学講本『法人税法 (令和 6 年度版)』税務大学校，2024 年。
成道秀雄 (監修)・坂本雅士 (編著)『現代税務会計論 (第 6 版)』中央経済社，2023 年。

【コメント】
小テスト (計 5 回、各 20%) で評価します。
小テストは、M-Port の〔テスト機能〕を用いたオンライン形式で実施します。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
西洋経済史 I　＜春＞	**金 1**

【教員名称】
豆原　啓介

【講義概要】
古代ローマ時代から、産業革命までの西洋経済史を学ぶ。
『テルマエ・ロマエ』などの歴史映画や映像資料を頻繁に視聴しながら、具体的なイメージを学生が持てるように留意しながら、授業を進める。
また、狭い意味での経済のみならず、芸術 (音楽、美術、建築など) や、食文化などをトピックとして扱う。
受講生の学部・学年は問わない。

【学習目標】
・中世から近代に至る西洋経済史の流れを把握し、基礎的な事項を理解すること。
・経済のあり方が歴史を通して構築されるものであることを理解すること。
・現在存在する経済システムの多くがヨーロッパに歴史的な起源を持つことを理解すること。

【講義計画】
第 1 回：映画『テルマエ・ロマエ』鑑賞
第 2 回：映画『テルマエ・ロマエ』から考える、古代ローマの経済と現代日本の経済
第 3 回：中世のヨーロッパ都市を映像散歩してみよう !!
―現代の都市と何が違うだろうか？―
第 4 回：「商業の復活」と、ルネサンス
―なぜヴェネツィアとフィレンツェは観光客を集めているのか？―
第 5 回：大航海時代の到来
―ポルトガルとブラジルの海洋覇権競争―
第 6 回：映画『提督の艦隊』鑑賞
第 7 回：映画『提督の艦隊』から考える、近世オランダの経済と商業
第 8 回：前半のまとめと復習 /
ファッション大国フランスの起源
第 9 回：産業革命はなぜイギリスでスタートしたのか？　①ふたつの市民革命
第10回：産業革命はなぜイギリスでスタートしたのか？　②科学革命の背景
第11回：イギリス産業革命①繊維製品からのスタート
第12回：イギリス産業革命②機械化の進展
第13回：近世・近代の文化芸術 (音楽など) と西洋経済史
第14回：後半部分のまとめと復習
第15回：期末テストの実施およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
事前学習は特に必要とはしないが、歴史科目という特性上理解すべき事項が多岐にわたるために一回の授業が終了する都度、各自が復習し理解の上で次回の授業に臨むことが望まれる。

【テキスト】

【参考文献】
奥西孝至、鳩澤歩、堀田隆司、山本千映著『西洋経済史』有斐閣、2010 年。
須藤功、廣田功、山本通、馬場哲著『エレメンタル西洋経済史』晃洋書房、2012 年。

【コメント】
試験は、ほぼ毎回、授業の最後に行う復習テストと、期末テストによって構成される。
復習テストと期末テストの比率は半々の予定である。
テストに際しては、各種プリント類などの参照・持ち込み可とする。
「その他」は、授業への積極的参加を指す。

【留意事項】

講義名称	曜時
西洋法制史 A　＜春＞	月 2

【教員名称】
鈴木　康文

【講義概要】
古代から中世までのヨーロッパにおける法と法学の歴史を概観します。

【学習目標】
①各時代の政治・社会の状況を理解する。
②上記①を前提に、その時々の法と法学のあり方を学び理解する。
③過去との比較を通じて現代の法のあり方を考察する。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス
第 2 回：テキスト第 1 講　［ 通史 ］　ローマ共和政期
第 3 回：テキスト第 2 講　［ 通史 ］　ローマ帝政期
第 4 回：テキスト第 1 ～ 2 講の課題解説とこれまでのまとめ
第 5 回：テキスト第 3 講　［ トピック ］　民事訴訟
第 6 回：テキスト第 4 講　［ トピック ］　契約
第 7 回：テキスト第 5 講　［ トピック ］　法学
第 8 回：テキスト第 3 ～ 5 講の課題解説とこれまでのまとめ
第 9 回：テキスト第 6 講　［ 通史 ］　中世法学のはじまり
第10回：テキスト第 7 講　［ 通史 ］　中世法学の展開
第11回：テキスト第 6 ～ 7 講の課題解説とこれまでのまとめ
第12回：テキスト第 8 講　［ トピック ］　法学部の登場と発展
第13回：テキスト第 9 講　［ トピック ］　訴訟手続と裁判機構
第14回：テキスト第 10 講　［ トピック ］　法学者と法学の広がり
第15回：テキスト第 8 ～ 10 講の課題解説とこれまでのまとめ

【事前および事後学習の指示】
事前学習：テキストを読んでおいてください。
事後学習：授業で学んだことを思い出しながらテキストを再び読んでください。

【テキスト】
史料で読む西洋法史 (仮) 宮坂渉・松本和洋・出雲孝・鈴木康文
法律文化社
4 月下旬以降に刊行予定。

【参考文献】

【コメント】
毎回の課題 (小テスト)：100%
※課題の詳細については第 1 回のガイダンスで説明します。

【留意事項】

講義名称	曜時
世界の市民 - 少年と刑事法　01 ＜春＞	月 3

【教員名称】　　**遠隔授業 (同時双方向型)**
河野　敏也

【講義概要】
この講義は、少年法をはじめとして「少年」と「刑事法」に関わるトピックスを横断的に扱います。
少年法 2 条は、「この法律において『少年』とは、二十歳に満たない者をいう」と規定していますので、世間一般に使われる「少年」とは意味が異なり、男女共に「少年」です。したがって、この講義では「二十歳に満たない者」を取り巻く様々な刑事問題について考えてもらいます。
少年法は、「少年」が非行をした場合に適用される法律ですのでこちらも学びますが、それだけではなく、「少年」が犯罪に巻き込まれた場合についても学ぶことになります。また必要に応じて映像資料を使用します。

【学習目標】
この講義を受けることにより次の 2 点を獲得する。
①少年を取り巻く法律知識を身につけ、法的な思考力を獲得する
②具体的な少年問題の事例を通して、課題を法的に解決する力を身につける

【講義計画】
第 1 回：イントロダクション――少年を取り巻く法
第 2 回：犯罪と非犯罪を区別する①――未成年者略取誘拐罪と子供の連れ去り問題
第 3 回：犯罪と非犯罪を区別する②――未成年者略取誘拐罪と子供の連れ去り問題への対策
第 4 回：未成年者の堕胎と人工妊娠中絶
第 5 回：少年と虐待①――虐待防止法の概要
第 6 回：少年と虐待②――虐待と刑法
第 7 回：家庭・学校と犯罪
第 8 回：前半のまとめ
第 9 回：少年法概論
第10回：少年非行の現状
第11回：少年法の対象
第12回：少年審判と刑事裁判の比較
第13回：少年法の歴史
第14回：世界の少年法
第15回：全体のまとめ

【事前および事後学習の指示】
予習は各回で指示をします。初回の予習として少年と刑事事件としてどのようなものがあるか調べてきてください。配布資料を使用して授業で扱った専門用語や議論を自分なりにまとめることが復習です。不明な部分は、参考文献も使用して学習して下さい。それでも明らかにならない場合は、図書館でほかの資料に当たることも必要になります。本科目では、この予習と復習について各 30 時間以上の授業外学習を行うようにして下さい。

【テキスト】

【参考文献】
参考文献は講義中に適宜示しますが、本格的に少年法を勉強したい方に向けて、以下のものを示しておきます。
守山正、後藤弘子編著『ビギナーズ少年法』(成文堂、第 3 版補訂版、2022 年)
丸山雅夫『少年法講義』(成文堂、第 4 版、2022 年)

【コメント】
M-Port の課題・テスト機能を利用した小テストを 10 回実施する (10 点を 10 回)。

【留意事項】
授業は、レジュメを配布して進めていきます。この資料も含めて初回授業時に使用教材・注意事項等についての案内を行います。授業後の質問などで全体に補足すべきものは翌週の授業内にてフィードバックを行います。

講　義　名　称	曜　時
世界の市民 - 情報の時代の世界を生きる　＜春＞	木 4

【教員名称】
藤間　真

【講義概要】
桃山学院大学の建学の理念は、「キリスト教精神に基づく人格の陶冶と世界の市民の養成」です。本学の構成員は学生であるか教職員であるかを問わず、世界の市民として育ち続ける必要があります。この講義では、本学の目指す「世界の市民」とは何か、また、どうしたら「世界の市民」になれるのかをともに学び考えていきたいと思います。
担当者の本学でのポストは大学全体の情報リテラシー教育担当ですが、研究者としての出発点は現象数理学で、企業勤務経験を経て現職についています。このような担当者の特性に立脚した、講義を展開する予定です。
講義中に軽度のアクティブラーニングを交える予定であることを認識してください。
なお、一方通行ではない講義を目指すので、受講生の提示した提出物に対応して下記の講義予定が変更となることがあり得ます。

【学習目標】
大学での学びには、絶対的な正解はありません。また、単に「答え」を覚えようとする態度では、「世界の市民」への道は遠のくばかりです。この講義では、世界市民としての知識を増やすだけではなく、自ら疑問を持って積極的に考えていく姿勢とそれを支える知的体力を身につけることを目指します。そのために、
(1)「情報」を扱う機器とインフラについての基本的な理解
(2)「情報」はどのように保存され管理されているのかという視点からの理解
(3)「情報」はいかに作成され伝達されるのかという視点からの理解という三本の柱から、色々な視点を提供し考えます。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション
受講を検討している人は必ず出席してください。
なお、第一回の内容も、成績評価の対象の一部とします。
第 2 回：桃大生を支援する桃大の情報基盤
第 3 回：個人を支援する情報機器 (1) 自分を支援する情報機器
第 4 回：個人を支援する情報機器 (2) 特性を支援する情報機器
第 5 回：市民を支援する情報基盤 (1) 図書館の理念
第 6 回：市民を支援する情報基盤 (2)MLA 連携と情報公開制度
第 7 回：「市民」とウィキペディア
第 8 回：「市民」とエコーチェンバーとフィルターバブル
第 9 回：「市民」が考えることを支援する統計と数理
第10回：考えることと知的権利とコモンズ
第11回：「市民」のためのクリティカル・シンキング
第12回：市民となるためのレポート・ライティング
第13回：人工知能とチューリング・テスト
第14回：人工知能とシンギュラリティ
第15回：総まとめ

【事前および事後学習の指示】
毎回、その回の事後学習と次回の事前学習の課題を提示します。

【テキスト】

【参考文献】
都度指示します。

【コメント】
レポートが 60%となっていますが、これは出席した上で課された課題に取り組んだ上でレポートに生かすまでを含めた数字です。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
世界の市民 -『リヴァイアサン』から政治を学ぶ＜春＞	金 3

【教員名称】
梅田　百合香

【講義概要】
トマス・ホッブズの『リヴァイアサン』のテクストを参照軸に、政治、宗教、紛争、国際関係等、様々な角度から現代的問題を考察する。

【学習目標】
受講者は、政治と社会に関する専門的知識を身につけることを目標とする。

【講義計画】
第 1 回：講義ガイダンス
第 2 回：ホッブズの時代背景
第 3 回：ホッブズの自然状態論、国家、宗教
第 4 回：小テスト (1) およびまとめ
第 5 回：ホッブズの社会契約論とリアリズム
第 6 回：ロックの社会契約論とリベラリズム
第 7 回：小テスト (2) およびまとめ
第 8 回：『リヴァイアサン』第 13 章 (人間の至福と悲惨に関する自然状態について)
第 9 回：ホッブズトゥキュディデスー疫病と無法状態
第10回：小テスト (3) およびまとめ
第11回：『リヴァイアサン』第 17 章 (国家の原因、生成、定義について)
第12回：小テスト (4) およびまとめ
第13回：『リヴァイアサン』第 12 章 (宗教について)
第14回：現代の国家と宗教ーホッブズの宗教観から見た日本の国家神道
第15回：小テスト (5) およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
講義資料は授業前に M-Port に UP されるので、事前に読み、予習しておくこと。
講義中はノートをとり、授業後、講義資料の内容とノートを照らし合わせて講義内容をノートに整理し、復習しておくこと。

【テキスト】
テキストは使用しない

【参考文献】
梅田 百合香『世界の思想シリーズ　ホッブズ『リヴァイアサン』』角川選書、2022 年。
トマス・ホッブズ (水田洋訳)『リヴァイアサン』一ー四、岩波文庫、1954 ー 1992 年。

【コメント】
小テストを 5 回実施する (各 20%)。学習目標に対応するテーマに関する問題を出題し、授業内容を踏まえた専門的知識が身についているかどうかを評価する。

【留意事項】

講義名称	曜時
世界のメディアB　＜春＞	**木4**

【教員名称】
小池　誠

【講義概要】
韓国・インド・インドネシアを対象にして、世界のメディア(とくにポピュラー音楽と映画)について、それぞれの国の社会と文化との関係について考えます。第一に、K-POPなどのポピュラー音楽が、どのような社会・文化的な背景のなかで創造され、そしてグローバル化していったのかという問題を取り上げます。第二に、ふだんあまり目にすることがないインドとインドネシアの映画を取り上げ、世界の多様な映画文化について学びます。この講義は、世界のメディアを通して、幅広く現代世界のさまざまな文化とグローバリゼーションの動向に対する理解と関心を深め、「多文化共生をめざす国際理解の促進」と「現代の諸問題への対応」につながることを目的としています。

【学習目標】
①現代世界におけるメディアのグローバル化について理解し、正しい知識をもつ。
②授業で取り上げたテーマについて的確に論じることができる。
③講義で学んだことを正確にまとめ、それにもとづいて自分の意見を述べることができる。

【講義計画】
第1回：授業ガイダンス：世界のメディアへのアプローチ
第2回：K-POPブームの前史
第3回：K-POPブームの到来
第4回：K-POPのアメリカ進出
第5回：現代のK-POP
第6回：韓国映画産業のグローバル化：東南アジア
第7回：韓国映画産業のグローバル化：日本
第8回：インド映画の特徴と歴史
第9回：インド映画の多様性
第10回：最近のインド映画
第11回：映画から考えるインドの社会と文化
第12回：インドネシア映画の歴史
第13回：インドネシア映画の多様性
第14回：映画から考えるインドネシアの社会と文化
第15回：講義のまとめ

【事前および事後学習の指示】
次回の授業までに読んでおくべき資料を配布しますので、よく読んでから授業に出てください(事前学習)。また、授業後、必ず資料を読み直して事後学習してください。なお、授業で取り上げたテーマに関連する映像資料などを積極的に観るようにしてください。

【テキスト】

【参考文献】
授業のなかで必要に応じて紹介します。

【コメント】
試験は授業内容に関する小テスト(3点満点)を計10回実施する(30点)。
レポートは中間レポート(10点)および最終レポート(30点)の計2回実施する。
その他は、毎回の授業に関する質問とコメントなど、授業への積極的な参加度によって評価する(30点)。

【留意事項】

講義名称	曜時
総合人間学A　＜春＞	**水1**

【教員名称】　　**インテ・遠隔授業（同時同方向型）**
梅山　秀幸

【講義概要】
20世から今世紀にかけて専門分野の細分化が起き、さまざまな「学」が生まれたが、しかし、個別の「学」では今日の人類が直面する地球環境、人口、教育、人権などの諸問題に十分に答えることができない。そこで、学際的な、人間に関する新たな総合学が必要とされる。そうした学問的要請に基づいて、この講義は複数の講師によって「インテグレーション」科目として実施される。特に、2020年以後、世界はコロナウィルスに襲われ、次々と新種株が生まれて、すでに数波の感染拡大に襲われた。このウィルスの実態について専門家の説明をうかがうとともに、われわれはどう対処し、コロナ後の世界を構築すべきなのかを考えたい。

【学習目標】
自然科学と人文・社会科学の最新の研究成果を踏まえながら、新たな学際的総合教育を目指す。ここで人間とは、生物種ヒトとその双方を含み、現代文明のもとでさまざまな問題に直面しながら、科学、技術、法律、教育、芸術、宗教などを生み出している主体ととらえる。文化の多様性・相対性を認めつつも、異なる文化を持つ人々の間での共通性を解明することによって、ヒューマニズムは何かという人間学の目標に迫っていきたい。

【講義計画】
第1回：授業の到達目標およびテーマ、授業の概要、授業計画、参考書、評価などについて説明
第2回：ヒトとゴリラのあいだ
第3回：Out of Africa
第4回：地球環境と人間
第5回：エネルギーと人間
第6回：疫病とどう立ち向かうか？
第7回：コロナ・ウィルスについて
第8回：「心の理論」について
第9回：脳・感情
第10回：自然と共生する社会(1)ーシベリア、ウデへの場合ー
第11回：自然と共生する社会(2)ー日本での取り組みー
第12回：原子力とは何か
第13回：福島で起こったこと
第14回：女性が自立した人間として生きていくために
第15回：コロナ以後の社会について考える

【事前および事後学習の指示】
ゲスト講師が参考文献として挙げた書物および論文は読むことが望ましい。

【テキスト】

【参考文献】
尾本恵市『ヒトと文明』(ちくま新書)・西原智昭『コンゴ共和国　マルミミゾウとホタルの行き交う森から』(現代書館)

【コメント】
毎回授業終了後に200字から400字のコメントを書いて提出してもらいます。それを見て授業の理解度をはかり、点数化することにします。「その他」というのはそれをいいます。

【留意事項】
アフリカのコンゴで長らく研究生活を送り、環境保護の顧問をして来た方
薬品会社に勤務していた方の授業を予定している。

講　義　名　称	曜　時
ソーシャルワーク論Ⅰ A　＜春＞	**金 5**

【教員名称】
梅谷　進康

【講義概要】
[授業の目的・ねらい]
制度としての社会福祉を具体的に実現するための実践方法であるソーシャルワークについて、その基礎的な理解と実践活動にとって重要と思われる様々な知識の習得を目的としている。
[授業全体の内容の概要]
ソーシャルワークの基盤を学ぶ。具体的には、社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性やソーシャルワークの概念、定義、原理、理念、形成過程、価値と倫理などの解説と考察をとおして、ソーシャルワークの基礎となる内容について理解を深める。

【学習目標】
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]
①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。
②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。
③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけⅠ―社会福祉士及び介護福祉士法
第 3 回：社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけⅡ―精神保健福祉士法
第 4 回：社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけⅢ―社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性
第 5 回：ソーシャルワークの概念
第 6 回：ソーシャルワークの定義
第 7 回：ソーシャルワークの基盤となる考え方Ⅰ―ソーシャルワークの原理
第 8 回：ソーシャルワークの基盤となる考え方Ⅱ―ソーシャルワークの理念 (尊厳の保持、権利擁護など)
第 9 回：ソーシャルワークの基盤となる考え方Ⅲ―ソーシャルワークの理念 (ソーシャルインクルージョン・ノーマライゼーションなど)
第10回：ソーシャルワークの形成過程Ⅰ―慈善組織協会、セツルメント運動
第11回：ソーシャルワークの形成過程Ⅱ―医学モデルから生活モデルへ、ソーシャルワークの統合化
第12回：ソーシャルワークの倫理Ⅰ―専門職倫理の概念
第13回：ソーシャルワークの倫理Ⅱ―倫理綱領
第14回：ソーシャルワークの倫理Ⅲ―倫理的ジレンマ
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
事前学習：社会福祉やソーシャルワークと関連する新聞記事を毎日読み、理解する。
事後学習：テキスト、ノート、配布プリントを読み込み理解を深める。

【テキスト】
ソーシャルワークの基盤と専門職 日本ソーシャルワーク教育学校連盟
9784805882412 中央法規出版

【参考文献】
授業中に適宜提示する。

【コメント】
試験 (40%)、中間レポート (15%)、授業中の課題取り組み状況 (45%) で評価する。

【留意事項】
社会福祉施設・機関でソーシャルワーク業務の経験のある教員が、ソーシャルワークに関する教育を行う。
社会福祉士国家試験受験資格指定科目　精神保健福祉士国家試験受験資格指定科目

講　義　名　称	曜　時
ソーシャルワーク論Ⅲ A　＜春＞	**月 5**

【教員名称】
塩田　祥子

【講義概要】
制度としての社会福祉を具体的に実践するための実践方法であるソーシャルワークについて、その基礎的な理解と実践活動にとって重要と思われる様々な知識の獲得を目的としている。具体的には、ソーシャルワークにおいて基本となる「人と環境との交互作用」の概念について、人と環境が相互に影響し合うという「全体的にとらえる見方」として、理解を促す。またその視点に基づいて、ソーシャルワークの対象や援助関係および展開過程を理解することで、実践活動としてのイメージ化ができることをめざす。利用者と出会うインテークから援助の終結にいたるまでの一連の援助過程を基本的な専門的技術として理解する。

【学習目標】
・相談援助における人と環境との相互作用に関する理論との交互作用に関する理論について理解する。
・援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。
・相談援助の過程に係る知識と技術について理解する。
・相談援助における事例分析の意義や方法、相談援助の実際について理解する。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション
ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念
第 2 回：実践モデルとアプローチ①
第 3 回：実践モデルとアプローチ②
第 4 回：実践モデルとアプローチ③
第 5 回：ソーシャルワークのための面接技術の実際①
第 6 回：ソーシャルワークのための面接技術の実際②
第 7 回：ソーシャルワークのための面接技術の実際③
第 8 回：アウトリーチによる相談援助の方法
第 9 回：アウトリーチによる相談援助の方法
第10回：スーパービジョンとコンサルテーション
第11回：コンサルテーションとネットワーキング①
第12回：コンサルテーションとネットワーキング②
第13回：情報管理と情報通信技術
第14回：社会資源の活用・調整・開発
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
※配布レポートの確認、授業内容を日常生活に落とし込んで考えてみる。
それを、授業時の振り返りシートにいかす。
日常の中にあるソーシャルワーク要素を意識する。

【テキスト】

【参考文献】
授業時に適宜指示

【コメント】
毎回授業時の振り返りシート記入内容 30%、レポート作成 50%、ミニテスト 20%

【留意事項】
福祉現場における研修、SV に基づく事例応用

講義名称	曜時
地域経済論Ⅰ　＜春＞	**火 3**

【教員名称】
角谷　嘉則

【講義概要】
本講義は地域経済の動態を把握するだけでなく、地域社会の問題を解決していくことも想定している。
地域経済の主体は、地域で働き、生活する上で、地域の問題に向き合わざるをえないからである。
講義は、地域経済の理論、地域問題の把握の仕方、地域開発の政策などについて、日本全国の地域のケースを用いて進める。

【学習目標】
・地域経済の課題や問題を理解する
・地域経済の構成と動態を理解する
・地域問題を解決するための思想と手法を獲得する

【講義計画】
第 1 回：イントロダクション
★本講義は、事前学習としてオンデマンド資料で自習し、事後学習として M-Port 上で課題をおこなってもらいます。
★本講義の対面授業の内容は、基本的にグループワークで課題の背景や解決策の検討をおこないます。
★また、対面授業の後半にプレゼンテーションしてもらいますので、必ずパソコンを持参して下さい。
第 2 回：地域問題と地域政策
第 3 回：地域経済への接近方法
第 4 回：地域経済から見た歴史①（第 2 次大戦前の日本経済と地域）
第 5 回：地域経済から見た歴史②（第 2 次大戦後の日本経済と地域）
第 6 回：地域経済から見た歴史③（国土計画と全国総合開発計画）
第 7 回：地域経済から見た歴史④（都市と農山漁村の変貌）
第 8 回：地域経済と地域政策①（地域政策とリゾート法）
第 9 回：地域経済と地域政策②（国際化時代と地域政策）
第10回：地域経済と地域政策③（自治と新しい公共）
第11回：地域政策の未来を読む①（まち・ひと・しごと創生法と地方創生）
第12回：地域政策の未来を読む②（地方創生と観光）
第13回：地域政策の未来を読む③（人口減少と地方消滅）
第14回：地域政策の未来を読む④（震災復興とエネルギー）
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
テキストを購入する必要はないが、事前に読んでおくことが望ましい。

【テキスト】
地域づくりの経済学入門 岡田知弘
4880377112 自治体研究社
国際化時代の地域経済学 岡田知弘，川瀬光義，鈴木誠，富樫幸一
4641220751 有斐閣

【参考文献】
授業内で紹介する。

【コメント】
講義内容について M-Port 上で実施する小テスト (10 回程度) で評価する。
また、対面授業ではグループワークやプレゼンテーションの内容で加点する。

【留意事項】

講義名称	曜時
地域研究ⅠA　＜春＞	**火 3**

【教員名称】
軽部　恵子

【講義概要】
この科目では、大航海時代以降の南北アメリカ史を概観し、重要なできごとを学びます。国ごとの歴史だけでなく、南北アメリカの国々や、ヨーロッパとアメリカが相互に与えた影響についても考えていきます。
講義冒頭には、国内外のメディアのホームページを用いて、「アメリカ」に関するニュースを解説します。受講生は、メディアを批判的に読み解く「メディア・リテラシー」を学んでください。

【学習目標】
①大航海時代以降の南北アメリカ史をグローバル・ヒストリーとして概観し、基礎知識を習得する。
②アメリカ合衆国とそれ以外の地域が、互いに及ぼした影響について考察する。
③国際問題の理解に必要な一般教養、とくに歴史・地理・文化・宗教に関する基礎知識を獲得する。
④メディア・リテラシーを身につける。

【講義計画】
第 1 回：「アメリカ」とは何か
第 2 回：コロンブス以前とコロンブス以後
第 3 回：植民地の建設とピルグリム・ファーザーズ
第 4 回：アメリカ独立革命とフランス革命
第 5 回：ナポレオン戦争とラテンアメリカ諸国の独立
第 6 回：南北戦争と西部開拓
第 7 回：第一次世界大戦と「アメリカ」
第 8 回：第二次世界大戦と「アメリカ」
第 9 回：冷戦の始まりとキューバミサイル危機
第10回：ベトナム戦争と米中国交正常化
第11回：ラテンアメリカ諸国の軍事政権と民主化
第12回：冷戦の終わりと湾岸戦争
第13回：アメリカ同時多発テロとイラク戦争
第14回：ウクライナ戦争とイスラエル・ハマス紛争
第15回：試験及びまとめ

【事前および事後学習の指示】
毎回の授業で指示される参考文献や参考 URL をもとに、事前および事後学習をしてください。

【テキスト】
新版一冊でわかるイラストでわかる図解世界史　成美堂出版編集部
978-4415328386 成美堂

【参考文献】
古矢旬『グローバル時代のアメリカ：冷戦時代から 21 世紀』岩波書店 2020 年
青野利彦『冷戦史』全 2 巻　中央公論新社　2023 年
岡本裕『アメリカの政党政治』中央公論新社 2020 年
森本あんり『キリスト教でたどるアメリカ史』KADOKAWA 2019 年
水透『ラテンアメリカ五〇〇年　歴史のトルソー』岩波書店 2017 年
細川道久『カナダの歴史を知るための 50 章』明石書店 2017 年
臼杵陽・鈴木啓之編著『パレスチナを知るための 60 章』明石書店　2016 年
笈川博一『物語エルサレムの歴史』中公新書　2010 年

【コメント】
計 2 回の試験で成績評価を行います。出席は成績評価にいっさい関係ありません。追加の試験やレポートもいっさいありません。毎回の授業終了前に発表する「課題」は、成績評価の対象ではありませんが、受講生が講義の理解度を各自で確認できる内容になっています。詳細は、第 1 回授業資料を読んでください。

【留意事項】
教科書は毎回使います。予習・復習にも積極的に利用してください。地域研究ⅠB の履修を考えている人は、地域研究ⅠA から先に履修することを勧めます。やむを得ず地域研究ⅠB から履修する場合は、南北アメリカの歴史を教科書で自習してください。

講　義　名　称	曜　時
地域研究ⅡA　＜春＞	**月１**

【教員名称】
塚田　鉄也

【講義概要】
近代以降、ヨーロッパ諸国は積極的な対外進出を進め、世界各地の政治や社会に大きな影響を与えてきました。現在のヨーロッパはかつてほど「世界の中心」とは言えなくなりましたが、それでも、日本をはじめとする多くの国にとって重要な参照点であり続けています。本講義では、ヨーロッパ諸国の中でも特に日本人に馴染みが深く、G7 の構成国でもあるイギリス、フランス、ドイツ、イタリアを取り上げ、歴史的背景、政治の基本構造、現代の争点という三点にわたって検討していきます。

【学習目標】
①各国の政治と社会の特徴を、歴史的背景を含めて理解し、説明できる
②各国が直面している問題やそうした問題への対応を理解し、説明できる

【講義計画】
第１回：ヨーロッパ研究の意義
第２回：世界の中のヨーロッパ
第３回：イギリス①：歴史的背景
第４回：イギリス②：政治の基本構造
第５回：イギリス③：現代の争点
第６回：フランス①：歴史的背景
第７回：フランス②：政治の基本構造
第８回：フランス③：現代の争点
第９回：ドイツ①：歴史的背景
第10回：ドイツ②：政治の基本構造
第11回：ドイツ③：現代の争点
第12回：イタリア①：歴史的背景
第13回：イタリア②：政治の基本構造
第14回：イタリア③：現代の争点
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
テキストの指示された部分を事前に読んでおいてください。

【テキスト】
データブック・オブ・ザ・ワールド 2024 二宮書店編集部
9784817605184 二宮書店

【参考文献】
松尾秀哉ほか編『教養としてのヨーロッパ政治』(ミネルヴァ書房、2019 年)

【コメント】
各回の内容について課される確認テスト (M-Port の「テスト」を利用) により評価する。なお、盗用等の不正行為が確認された場合は、その段階で不合格とする。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
地域ビジネス論　＜春＞	**木２**

【教員名称】
室屋　有宏

【講義概要】
日本では人口減少・高齢化が進行するなかで、地域活性化に対する関心や必要性が強まっている。国の政策でも「地方創生」が推進されている。こうした中で、地域の農林水産物、自然・景観、歴史・文化などの「地域資源」を積極的に利活用することで地域ビジネスを興し、地域が主体的に所得や雇用を改善し人口維持を図る取組みが各地で行われている。
本講義では、こうした地域発のビジネスについての事例 (優良事例だけでなく失敗例も含めて) を紹介、検討することで地域ビジネスが成立する条件や要因について考察する。
本講義を履修する学生は主体的に自らの地域の課題を発見し、改善する意識を持ち、ビジネスプランを創り上げていく意欲的な姿勢が必要である。
なお講義計画の順序は変更する場合がある。またゲストスピーカーによる講義は予定であり変更の場合がある。

【学習目標】
1．地域課題の把握と理解 (課題発見力をつける)
2．地域資源の理解・発見と活用 (地域の強みと資源を知る)
3．地域ビジネスの創出と地域経営の発想を持つ (地域経営と地域ビジネスへの関係理解)
4．自ら地域課題の解決につながるビジネスプランをつくる (課題解決力をつける)

【講義計画】
第１回：イントロダクション～授業のねらいと目的
　　地域の実情と現在の経済構造・システムとの関係を理解する
第２回：地域とはなんだろうか
第３回：自分の地域を知る～ RESAS データの利活用
第４回：地域資源について知る・考える
第５回：地域資源の磨きあげ～地域ブランド化
第６回：日本の国土政策・地域政策の展開～地方創生は可能か
第７回：地域ビジネスとまちづくり
第８回：地域づくりの現場 (ゲストスピーカーを予定)
第９回：食農ビジネス (1) ～ 6 次産業化・農商工連携の取組み
第10回：食農ビジネス (2) ～家族経営の可能性
第11回：食農ビジネス (3) ～ (ゲストスピーカーを予定)
第12回：観光ビジネス (1) ～観光資源のマネジメントと地域活性化
第13回：観光ビジネス (2) ～これからの観光ビジネスを考える
第14回：ソーシャルビジネス、環境・エネルギービジネス
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
日常的に地域活性化・地域再生についてのニュースや報道に関心を持ち情報収集をする。

【テキスト】

【参考文献】
岡田知弘『地域づくりの経済学入門』(自治体研究社)
室屋有宏『地域からの六次産業化』(創森社)
北川太一『地域産業の発展と主体形成』(放送大学テキスト)

【コメント】
1．講義内容についての理解度を図る確認テストを授業中に実施する。
2．地域課題解決につながるビジネスプランについてのレポート課題を課す

【留意事項】

講義名称	曜時
地域福祉論Ａ　＜春＞	**火４**

【教員名称】
小野　達也

【講義概要】
地域福祉論Ａは、地域福祉の歴史や現状を踏まえて、その必要性や概念、考え方を理解させることが教育の目的である。
[授業全体の内容の概要]
現代社会において地域福祉がなぜ重視されてきているかを社会・歴史的動向と同時に、地域福祉の理論に沿いながら考察する。また、地域福祉を追求するための枠組み、すなわち地域福祉の構成としては何が必要なのかを住民主体の視点に即して明らかにする。

【学習目標】
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]
地域福祉の基本的な考え方、必要性、構成、地域福祉の考え方の広がりについて理解し、説明できるようになることを目指す。

【講義計画】
第１回：1　地域福祉の基本的な考え方
第２回：2　地域福祉の歴史的動向
第３回：3　現代社会での生活と課題
第４回：4　地域での生活問題に対する社会福祉
第５回：5　地域福祉の必要性
第６回：6　地域福祉援助の原則
第７回：7　地域福祉の構成要素
第８回：8　地域でのケアサービス
第９回：9　地域でのケアの現代的動向
第10回：10　地域社会と組織化活動
第11回：11　組織化活動の現代的動向
第12回：12　地域福祉の歴史と展開 (1)
第13回：13　地域福祉の歴史と展開 (2)
第14回：14　これからの地域福祉のあり方
第15回：15　地域福祉論Ａの振り返りとまとめ

【事前および事後学習の指示】
・講義内容について事前に提示する資料内容を確認しておくこと。
・講義で分からなかった点を事後学習すること。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
①最終レポートを実施する。地域福祉論Ａの全体にかかわるテーマとなる。地域福祉の基本的な考え方を確認する。
②毎回、講義にもとづく提出物を求める。その他の点数に反映される。

【留意事項】

講義名称	曜時
地方財政論Ⅰ　＜春＞	**火３**

【教員名称】
田代　昌孝

【講義概要】
経済のグローバル化と少子高齢化が進む中で、政府に求められる役割が大きくなってきた。国も地方も膨大な借金を抱えており、今日において財政の再編が求められている。とりわけ、地方財政は厳しい財政状況に直面しており、何らかの改革が必要となっている。地方分権や地域の活性化、あるいは官業の民間委託はその典型的な例と言えよう。本講義では地方財政の制度や課題、そして、わが国の地方財政の実態について説明する。

【学習目標】
本講義の目的は、地方財政の基礎知識を習得することにある。具体的な地方自治体の財政データを示しながら、新聞報道の地方財政関連記事に興味を持たせ、わが国における地方財政問題について語る能力を身につけることにこの授業の狙いがある。
地方財政論を学問領域とするため、当該科目履修後は将来公務員を目指す学生の基礎的な知識が身につくことを目標とする。

【講義計画】
第１回：ガイダンス。
地方財政とは何か。
成績評価についての説明。
講義を受けるうえでの注意事項。
第２回：地方財政の現状 (総務省統計に基づいて)
第３回：財政の役割 (財政の三機能)
第４回：国と地方の役割分担 (身近な公共サービスの提供)
第５回：地方財政計画 (地方ガイドラインの設計)
第６回：地方の歳出構造 (義務的経費と投資的経費)
第７回：地方の歳入構造 (自主財源と依存財源)
第８回：地方税の原則 (過去から現在まで)
第９回：地方税の制度 (住民税・事業税・地方消費税・固定資産税)
第10回：地方税の課題 (理想と現実の乖離)
第11回：地方交付税の制度 (多様性と複雑化)
第12回：地方交付税の課題 (ソフトな予算制約)
第13回：国庫支出金の制度と課題 (失われた地方の自主性)
第14回：地方債の制度 (求められる財政健全化)
第15回：地方債の課題 (失われた財政規律)

【事前および事後学習の指示】
講義テーマに該当する教科書の部分を熟読するようにして下さい。

【テキスト】
新・地方財政 林宜嗣
9784641184565 有斐閣ブックス

【参考文献】
菅原宏太･松本　睦･加藤秀弥著『地方財政の見取り図』有斐閣、2023 年。(ISBN9784641151161)
林宏昭・橋本恭之著『入門地方財政　第３版』中央経済社、2013 年。(ISBN978450265)
佐藤主光著『地方財政入門』新世社、2009 年。(ISBN9784883841332)

【コメント】
【成績評価について】
M-Port による課題提出が 30%、学期末に出されるレポート課題が 70%。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
中国経済論Ⅰ　＜春＞	**火４**

【教員名称】
大島　一二

【講義概要】
改革・開放政策実施以降の 30 余年で中国の経済は大きく発展した。国内総生産の実質成長年率は年率 10％に達し、日本経済の高度経済成長期に匹敵する水準である。これにより 2010 年には世界第 2 位のＧＤＰ大国となった。また外貨準備高はすでに世界第 1 位の水準にある。この結果、多くの日本企業が中国に参入している。
しかし、国内には解決しなければならない課題も山積している。例えば、三農問題といわれる農業・農村の停滞、1.5 億人ともいわれる大規模な労働力流動と都市・農村社会の急激な変容、国際的問題ともなった食品安全問題、深刻な環境問題など数多い。
本講義では、中国経済の成長過程を明らかにし、高度成長が実現した背景、直面している主な問題、今後の課題について解説する。また、台湾、香港、マカオ等の地域の経済についても解説する。テキストのほかに、中国経済の動きに関する新聞報道なども紹介し、NHK などが制作したドキュメンタリーを放映するなどして、わかりやすい授業に心掛ける。
この中国経済論Ⅰでは、1949 年の新中国建国から現在に至る中国経済の展開と、香港、台湾の経済について取り扱う。

【学習目標】
日本と中国の経済的な繋がりはますます深まっているが、現代の中国経済はどのように形成されてきたのか、またその課題は何かについて体系的、客観的に理解できるようになる。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション。授業の進め方、講義内容の概要などについて説明する。
第 2 回：近現代から現在に至る中国、台湾、香港、マカオの展開
第 3 回：社会主義計画経済体制の形成と課題。
第 4 回：計画経済期の中国経済。人民公社、国営企業、戸籍制度を中心に。
第 5 回：改革開放期の高度成長
第 6 回：南巡講話と外資導入の促進。
第 7 回：所有制改革と社会主義市場経済。
第 8 回：ＷＴＯ加盟と国際化。
第 9 回：世界の工場から世界の市場へ。
第10回：台湾の経済 (1) 台湾の歴史と社会
第11回：台湾の経済 (2) 台湾経済の発展と開発モデル
第12回：台湾の経済 (3) ファブレス、ファウンドリ関係と台湾経済
第13回：香港の経済
第14回：マカオの経済
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
テキストは特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する。また、できるだけ参考文献を読んでおくこと。

【テキスト】

【参考文献】
大島一二編著 (2007)『中国野菜と日本の食卓　－産地、流通、食の安全・安心』芦書房。
大島一二 (2015)『日系食品産業における中国内販戦略の転換 (日本農業市場学会研究叢書)』筑波書房。
大島一二・山田七絵 (2019)『朝日緑源、10 年の軌跡』農林統計出版。

【コメント】
対面授業を想定し、以下のように配点する。
M -Port によるレポート (必修、1 回、50 点)、課題 (5 回各 10 点、50 点) を基本とする。
さらに講義への出席を促進するため、出席点 20 点 (4 回各 5 点) を加点する。
合計 120 点となるが、評価は他の講義と同様に以下の基準である。
59 点以下 D、60 ～ 69 点 C、70 ～ 79 点 B、80 ～ 89 点 A、90 点～ 120 点 S。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
中小企業論Ⅰ　＜春＞	**金２**

【教員名称】
義永　忠一

【講義概要】
金融危機以降、経済環境が激変している。さらに 2011 年には大震災やその後の津波を起因とする事故など、大きな変化が起こった。2020 年には、新型コロナウイルス感染拡大により、「新状態」への模索が続いている。そして 2022 年ロシアによるウクライナ侵攻、2023 年中東パレスチナにおける混乱により、世界秩序・経済秩序が変化しつつある。日本経済の主要な担い手である中小企業は、大きな変化を迫られている。「新状態」への模索と共に大きく揺れ動いている地域経済の下、中小企業･ベンチャー企業について本講義では講義していく。

【学習目標】
地域に根を張り、地域との関係をさまざまに強く持つことの多い中小企業が直面している大きな変化が、どのようなものかを理解・把握することを学習目標とする。

【講義計画】
第 1 回：中小企業・ベンチャー企業を学ぶ－講義概要と評価の方法－
第 2 回：日本経済と中小企業～明治期から 1970 年代まで
第 3 回：日本経済と中小企業～ 1970 年代から 2010 年代まで
第 4 回：大企業と中小企業
第 5 回：地域経済と中小企業
第 6 回：海外の中小企業
第 7 回：下請システムとものづくり中小企業
第 8 回：国際化と中小企業
第 9 回：事業承継と中小企業
第10回：集積・ネットワークを活かす中小企業
第11回：地域と共に生きる中小企業
第12回：中小企業金融
第13回：国による中小企業政策
第14回：自治体による中小企業政策
第15回：まとめと論述試験

【事前および事後学習の指示】
教科書にあらかじめ目を通し、講義を受けて質問が出来るようにすること。

【テキスト】
中小企業・ベンチャー企業論　新版　グローバルと地域のはざまで
植田浩史編著
978-4-641-16431-4 有斐閣

【参考文献】

【コメント】
講義資料は、事前に M-Port を通じて配布します。講義は、事前に講義資料を確認したことを前提に、概要説明後、講義参加者によるディスカッションを行います【質疑応答も実施】。ディスカッションを通じて、講義受講後に課す論述課題を設定します。事前準備を行い、ディスカッションに参加した発言者へは、加点します。
試験【60%】は、論述形式で実施します。論述試験の評価基準 (ルーブリック) についての詳細な説明を第 1 回講義に行います。
その他【40%】は、M-Port を通した課題となります。その他【40%】の取り扱いについては、第 1 回講義内で詳細をお伝えします。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
哲学　＜通期＞	金 3

【教員名称】
木下　昌巳

【講義概要】
哲学とは、世界と人間について、常識を突き抜け、その根源的なあり方を認識しようとする学問である。この講義では、哲学をはじめて学ぶ人たちを対象として哲学という学問の問題意識と西洋の主要な哲学者の思想について講義する。
春学期は「哲学」という学問的営みが成立した古代ギリシアの哲学者たちの思想を取り上げ、「哲学」という学問がどのように成立し、発展していったのかを概観することによって、哲学という学問の問題意識の理解を図ることを主眼に置いて講義をおこなう。秋学期は哲学の黄金期とも言うべきヨーロッパの近世・近代の哲学思想を中心として、17 世紀から 20 世紀に至るまでの主要な哲学者の思想を解説する。
この授業では、講義のテーマとして、哲学のなかでも「存在論 (世界は究極的にいかなる存在から成り立っているのかという問題)」と「認識論 (人間は何をどこまで知ることができるのかという問題)」を中心的に解説する。哲学が取り扱うまた別の主要問題である「ひとはいかに生きるべきか？」という問題 (道徳哲学) に関心のある人は、この授業とは別に開講される「倫理学」の受講を勧める。この「哲学」と「倫理学」と両方を選択することも可能である。

【学習目標】
「哲学」という学問を学ぶということは、ただ過去の哲学者の名前や難解な専門用語を暗記することではない。大切なことは哲学が取り組むさまざまな問題の本質を正確に把握したうえで、その問題に対して「自分はその問題に対してどのように考えるのか」ということを論理的に説明ができるようになることである。しかし、その考えが独りよがりなものにならないようにするためには、古代から現代の至るまでの過去の代表的な思想を学び、過去の哲学者たちがどのような問題に取り組み、その問題に対してどのような答えを出してきたのかを理解することが必要である。そして、そのうえで、その問題に対して各人が自分の頭によって論理的に考えて、問題の内容とそれに対する自分自身の考えを自分の言葉で自分以外の人にも説明できるようになることを目指す。

【講義計画】
第 1 回：はじめて哲学を学ぶ人に向けての導入
・「哲学」とはいかなる学問か
・「哲学」という言葉の意味と成り立ち
・哲学が扱う三つの領域
・西洋哲学の流れとその時代区分
・一年間の講義予定の説明
第 2 回：ソクラテス以前の哲学者たち①
ミレトス派と万物の始源 (アルケー) の探求
第 3 回：ソクラテス以前の哲学者たち②
エレア派の哲学 1―「アキレウスは亀を追い抜けない？」
第 4 回：ソクラテス以前の哲学者たち③
エレア派の哲学 2―「飛んでいる矢は止まっている？」
第 5 回：ソクラテスの生き方①
哲学　対　弁論術
第 6 回：ソクラテスの生き方②
「よく生きる」とはどういうことか？
第 7 回：プラトン①
プラトンとソクラテス
第 8 回：プラトン②
プラトンの「イデア論」とは何か
第 9 回：プラトン③
プラトンの主著『国家』と「洞窟の比喩」
第10回：プラトン④
哲人王とプラトンの民主制批判
第11回：プラトン⑤
哲学とエロスー「プラトニック・ラブ」とは何か？
第12回：アリストテレス①
「万学の祖アリストテレス」
第13回：アリストテレス②
プラトンのイデア論批判
第14回：アリストテレス③
アリストテレスの目的論的世界観
第15回：アリストテレス④
アリストテレスの倫理思想ー「中庸」とは何か？
第16回：西洋近世・近代哲学の概観
16 世紀から 19 世紀における哲学思想の展開
第17回：大陸合理論とイギリス経験論
17 ～ 18 世紀の西欧における思想的状況
第18回：デカルト①
デカルトの「方法的懐疑」
第19回：デカルト②
「われ思う、ゆえに、われあり」の意味すること
第20回：パスカルの思想
「パスカルの賭け」－哲学と宗教の違い
第21回：イギリス経験論①
大陸合理論に対するイギリス経験論
第22回：イギリス経験論②
ロックによる生得観念の否定
第23回：イギリス経験論③
ヒュームによる観念の分類
第24回：イギリス経験論④
ヒュームによる因果律の否定
第25回：カント①
カントの批判哲学と「コペルニクス的転回」
第26回：カント②
直観の形式
第27回：カント③
判断の形式
第28回：ニーチェ①
ニーチェの問題意識と「道徳の系譜学」
第29回：ニーチェ②
奴隷道徳と貴族道徳
第30回：ニーチェ③
力への意志と超人思想

【事前および事後学習の指示】
シラバスで提示されたテーマに対応するテキストの箇所をできるだけ事前に読んでおくこと。独力でテキストを読んでその内容を理解することは難しいかもしれない。しかし、講義後に、再度読み直すことによって「そういうことが書いてあったのか」と納得することができるだろう。さらに授業で取り上げた思想家の解説書や関連書物を授業内で紹介していくので、授業後や休暇中にそれらの書物をすすんで読んでくれることを期待する。
授業で提示するスライドのファイルは、M-Port の授業資料欄に順次アップロードしていくので、各自ダウンロードして自己学習に利用してほしい。

【テキスト】
物語 哲学の歴史 - 自分と世界を考えるために 伊藤邦武
978-4121021878 中央公論新社

【参考文献】
内山勝利他『哲学の歴史』(全 13 巻)(中央公論新社、2007-2008)
ISBN: 978-4124801415
現在、日本で出版されているもっとも詳しい哲学史である。内容は細かいが、講義で取り上げた哲学者とその思想、さらに参考文献についてさまざまな知識や情報を得ることができる。
さらに桃山学院大学の図書館には哲学関係の蔵書が揃っている。指示された本を読むだけではなく、自分で書架の前に立ち、自分の目から見て興味を持てそうな本を手にとって開き、面白そうだと思ったら、自分には難しそうだと思っても借りて読んでみてほしい。書物、とくに哲学の書物は一度読んだだけで理解できるものではない。このことを繰り返しているうちに、自分はどんなことに興味があるのか、自分は何をどこまで理解できているのかということがわかるようになる。

【コメント】
春学期分配点 50 点、秋学期分配点 50 点として通年で 100 点満点で成績評価をおこなう。
春学期・秋学期配点 50 点の成績評価は、両学期とも
・授業内で告知する小レポート 5 回 (5 点× 5　計 25 点)
・学期末レポート (25 点) とする。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
ドイツの文化 A　＜春＞	**月 4**

【教員名称】
高田　里恵子

【講義概要】
この講義のキャッチコピーは「ドイツを知ると日本が見えてくる！」というものです。近代ドイツの歴史や文化を辿りながら、その影響を受けた近代日本の歩を振りかえってみましょう。
講義は第 1 部と第 2 部に分かれています。第 1 部は 1900 年前後のエリート教育について、ドイツの近代史を踏まえながら考察します。日本とアメリカ合衆国、ドイツとを比較しながら、各国の歴史的背景を見ていきます。
第 2 部では、1900 年前後のドイツ社会の構造的な変化を、当時流行した学校小説を取りあげながら分析します。当時のブルジョア階級の特徴を「ホモソーシャル」という切り口で見つめながら、現代社会の分析にも踏み込んでいく予定です。

【学習目標】
文学作品や映像作品など具体的な事例に触れながら近代ドイツに特徴的な歴史状況を見ていくことによって、考察力と分析力を身につけることを目標とします。ドイツとアメリカの相違点、ドイツと他のヨーロッパの国との相違点、近現代日本と欧米諸国の相違点に注目しながら、ドイツおよび日本の近代史を知ることを目指します。
この講義では、授業の内容を自分でうまくノートにまとめる練習、人の話の要点を的確につかむ訓練をしていただきたいと思います。したがって、授業のスライドは、(授業の前ではなく) 授業の終了後に配布しますので、そのつもりで授業に臨んでください。
また、小テストやコメントシートなどを通して、わかりやすく簡潔な文章を書く練習をします。この講義の目標は、何かを暗記することや歴史事項を確認することではありません。さらなる勉学や就職活動のために、聞く力・書く力・話す力を身につけることが目標となります。

【講義計画】
第 1 回：講義の進め方や内容、試験、成績評価について説明する。
　　また、講義のテーマを概観する。
第 2 回：第 1 部　近代国家のエリート教育――ドイツ、日本、アメリカを比較して
　　19 世紀から 20 世紀初頭にかけてのドイツ史、その特殊性 (「遅れ」) について概観する。
第 3 回：ドイツの中等教育制度について
　　ギムナジウム体制の成立
第 4 回：近代日本の中等教育制度と高等教育制度について
第 5 回：アメリカのハイスクール制度とその特殊性
第 6 回：日独の敗戦とエリート教育の変化
第 7 回：第 1 部の振りかえりと第 2 部の導入
第 8 回：第 2 部　ドイツ学校小説とジェンダーの問題
　　ドイツ教養市民層の構造
第 9 回：教養市民層の男らしさとその衰退
第10回：学校小説の構造と社会の動き
第11回：学校小説と同性間の関係
第12回：近代社会におけるホモソーシャリティ
第13回：学校小説とホモソーシャリティを考える応用問題
第14回：学校小説と支配・被支配を考える応用問題
第15回：全体のまとめ

【事前および事後学習の指示】
予習として、授業で扱う文学作品や参考文献のうち、文庫などで入手しやすいものを自分で読んでみることをすすめる。直接には試験にはつながらなくとも、学生時代にさまざまな読書に挑戦することは重要である。
また、復習として講義のノートをよく整理しておくこと。

【テキスト】

【参考文献】
野田宣雄『ドイツ教養市民層の歴史』(講談社学術文庫)
M．クラウル『ドイツ･ギムナジウム 200 年史――エリート養成の社会史』(ミネルヴァ書房)
トマス･キューネ『男の歴史――市民社会と「男らしさ」の神話』(柏書房)

【コメント】
「試験」は、対面の小テスト (1 回 10 点) を抜き打ちで 2 回行ないます。問題はその日の講義の内容に基づいてます。記述式で一問のみ。200 字以上 300 字以内の解答となります。
「レポート」は、期末レポートとして最後の授業の終了後に課題を出します。M-Port でウェブ提出することになります。だいたい 1000 字から 1200 字程度のレポートにする予定です。
「その他」については、ほぼ毎回提出していただくコメントシートや (小テスト実施日にはコメントシート提出はありません)、挙手での発言などを総合的に判断します。コメントシートに書いてもらう内容は、講義の最後に出す課題の解答です。コメントシートに感想や授業のまとめを書いていただくことはありませんので、ご注意ください。この言わば平常点が評価の中心となります。
詳細は学期の開始時に授業資料として M-Port で配布する「コメントシート、レポート、テストの採点基準について、及びコピペに対する処置ついて」をよく読んでください。

【留意事項】
社会人の方へ（聴講に際して）
１年生から履修できる基礎的な科目であるため、ノートテイキングや答案の書き方などの基礎指導に時間を割く場合があります。

講　義　名　称	曜　時
統計学総論 I　＜春＞	**水 2**

【教員名称】
吉田　茂一

【講義概要】
記述統計 (＝統計データの整理と記述の方法) について概説し、推測統計 (＝確率の考えをもとに、標本から母集団の特性を推論する方法) の基礎的な考え方について、講義を進めていく。
「統計学総論 I 」と「統計学総論 II 」では、大きな流れはどちらも共通しており、I で充分に扱えないトピックスを II で扱う。

【学習目標】
記述統計の知識と推測統計の考え方、これらについての理解を深めることを目標とする。このためには、各自の自習時間にパソコンも活用して教科書の例題などの課題にも挑戦していただく予定だが、決して難しい作業ではない。「統計 (学) 的な物の考え方」は、今後社会に出てからもあらゆる場面できっと役に立つものであろう。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス
　　(各回の順序は理解度に応じて入れ替えることがある)
第 2 回：記述統計と推測統計
第 3 回：代表値 (平均値、中央値、最頻値)
第 4 回：ちらばりの指標 (分散、標準偏差)
第 5 回：偏差値
第 6 回：度数分布とヒストグラム
第 7 回：確率
第 8 回：正規分布
第 9 回：母集団と標本
第10回：推定と検定
第11回：平均の区間推定
第12回：比率の区間推定
第13回：平均に関する検定
第14回：相関係数
第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
教科書の練習問題等での予習・復習を中心に、空き時間等を利用して積極的に課題に取り組むことが求められる。

【テキスト】
よくわかる統計学－Ｉ基礎編－ (第 2 版) 金子治平・上藤一郎編
978-4-623-06111-2 ミネルヴァ書房
(￥2600+ 税)

【参考文献】
郡山彬 + 和泉澤正隆 = 著『統計・確率のしくみ (入門ビジュアルサイエンス)』日本実業出版社 (税込￥1365)　ISBN:978-4534026620

【コメント】
授業内で 2.3 回程度、Excel を用いて実際に計算を行えるかを確認するレポートを課す。

【留意事項】
シンクタンク [アジア太平洋研究所] 勤務における調査分析の実務経験も反映させた講義内容

講　義　名　称	曜　時
東洋史　01 ＜通期＞	**月 3**

【教員名称】
濱野　亮介

【講義概要】
東アジア世界の中心であった中国王朝の変遷を軸に、モンゴル高原、中央アジア、極東地域の通史を概観する。なお、本授業では授業回ごとに予習的課題を課す。授業時以外での作業時間を要するので注意すること。

【学習目標】
東アジアの歴史を通史的に概観することによって関連する地域の歴史と文化の変遷の流れを理解し、それぞれが歴史を学ぶ意義について考えることを目標とする。

【講義計画】
第 1 回：《授業外ダインス》
・授業の方法・予習・課題についての説明
・全体の流れ
・「東洋史」とは
第 2 回：《歴史とはなにか》
歴史の定義・なぜ歴史を学ぶのか
第 3 回：《神話～夏殷時代》
中華文明の発祥・神話から歴史へ
第 4 回：《殷～西周時代》
殷周革命・西周による封建制・周の東遷
第 5 回：《春秋・戦国時代》
覇者の時代・戦国七雄と各国の競争
第 6 回：《秦代》
秦による天下統一事業
第 7 回：《楚漢争覇時代～前漢成立～武帝期》
秦の滅亡・楚漢戦争・前漢の成立・武帝の積極政策
第 8 回：《前漢末～後漢時代》
外戚の専権・王莽と後漢成立・後漢朝の対外関係・宦官の跳梁
第 9 回：《漢代の文化と周辺諸国》
漢代の文化・北方の騎馬民族・古朝鮮～四郡設置
第10回：《後漢末～西晋時代》
黄巾の乱・三国鼎立・三国統一・八王の乱
第11回：《五胡十六国時代 (前期)》
「五胡」と「十六国」・鮮卑族の勃興・前秦と符堅
第12回：《五胡十六国時代 (後期)・六朝時代》
淝水の戦い・華北の再統一・南朝貴族制の成立
第13回：《南北朝～隋時代》
非漢民族による「漢地支配」・仏教道教の発展・隋朝の成立
第14回：《隋末～唐初時代》
煬帝の即位・隋末騒乱・唐の成立・隋唐の政治改革
第15回：《春期内容の確認と復習》
第16回：《秋期授業内容の概観》
第17回：《唐朝と国際関係》
隋唐と長安・シルクロードの成立・テュルク系民族・朝鮮半島と倭国・朝貢冊封と羈縻政策
第18回：《唐時代 (中期)》
武周朝の成立・玄宗と黄金時代・安史の乱
第19回：《唐末～五代十国時代》
三国同盟・黄巣の乱と唐朝滅亡・「 五代 」と「 十国 」・燕雲十六州
第20回：《五代末～宋時代》
後周の世宗と宋朝・宋朝の中央集権体制・科挙の整備・王安石の改革
第21回：《契丹 (遼)・西夏・女真 (金初)》
沿海州と渤海国・契丹族の伸張・タングート族と西夏の成立・女真族の勃興・靖康の変・民族と文字
第22回：《金・南宋時代》
紹興の和議・海陵王と金朝の政治・南宋の専権宰相・都市と経済の発展・朱子学の成立・高麗の成立と中央アジアの動向
第23回：《モンゴル帝国時代》
チンギス＝ハーンの登場・ウルスと大ハーン・モンゴル軍の遠征・四大ウルスの成立・クビライの即位
第24回：《元朝～明朝時代》
モンゴル帝国の解体・紅巾の乱・明朝の成立・靖難の変と永楽帝・経済の発展と商人の活動・明朝の皇帝たち
第25回：《近世東アジアの国際関係と海》
市舶司の設置・海禁と前期倭寇・「 海禁＝朝貢 」システムの完成・銀の流入と後期倭寇・朝貢から五市へ・大航海時代と中国
第26回：《内陸アジアの国際関係》
モンゴル勢力の北走・ダヤン＝ハーンとアルタン＝ハーン・女真族の再興
第27回：《明末～清朝時代》
秀吉の朝鮮出兵・李自成の乱と明朝滅亡・ヌルハチと清朝入関・清朝黄金時代・条約の締結・「 中国 」の完成
第28回：《清末～辛亥革命》
帝国の斜陽と西洋諸国・アヘン戦争・続く内乱・「 瓜分危機 」・ロシアの伸張と朝鮮半島・近代化への道
第29回：《中華民国～現代》
国民党と共産党・ソ連と共産党・第二次大戦と日中戦争・大戦の終結・朝鮮戦争と東西冷戦・ソ連の解体と現在の東アジア
第30回：《授業全体のまとめ》

【事前および事後学習の指示】
【授業外学習】
事前学習を目的とした課題の提出必須。授業終了後すぐに、M-Port にて次回の授業資料 (PDF) を配布する。週末までに授業資料の内容を確認し、M-Port でそこに記された課題に解答・提出すること。授業時にはその解答の理解度に従って必要な部分を解説する。成績に直結するため、課題は毎回の提出を求める。

【テキスト】

【参考文献】
講談社『中国の歴史』シリーズ (全 12 巻)、2004 年～ 2005 年
ほか、授業中に適宜紹介する。

【コメント】
《レポート》
春・秋学期末それぞれにレポートを課す。
《その他》
授業回ごとに、事前に配布した授業資料に基づく授業前の予習課題を課す。
※レポートおよび授業課題において、引用ルールを守らない盗用剽窃を行った者については厳正に対処する。

【留意事項】
本授業では、ChatGPT をはじめとする各種チャットツールなどの使用を全面的に禁止する。明らかな使用が認められた場合だけでなく、課題やレポートの記述内容に明確な根拠が示せない場合などについても大幅な減点対象となるため、十分注意すること。なおこれらの詳細は初回の授業時に説明する。

講　義　名　称	曜　時
東洋美術史　＜通期＞	**月 4**

【教員名称】
打本　和音

【講義概要】
本科目では、各時代・各地域の東洋美術の優品をテーマごとに確認することで、東洋美術の歴史を概観し、それらが日本にどのような影響を与えたのかを考えていく。

【学習目標】
本講義では、各回に東洋美術あるいは東洋美術と関連の深い日本美術の優品を取り上げ、他作品との比較を通して、その作品が持つ意味合いと東洋美術史上における意義についてみていく。よって受講者には、これらの作品の様子を記憶し、その記憶を繋いで東洋美術史に対する各自のイメージを作り上げてもらいたい。また少なくとも前期に 3 点、後期に 3 点の作品について、その歴史的価値と魅力について具体的に述べられるようにする。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス
本講義の対象地域、研究方法及び授業の進め方、評価方法についての説明
第 2 回：東洋美術史とは何か
東洋美術史の基本的な考え方とシルクロード
第 3 回：シルクロードの美術①
仏塔とその美術
第 4 回：シルクロードの美術②
仏像の誕生
第 5 回：シルクロードの美術③
仏教美術の基本的な主題と造形
第 6 回：シルクロードの美術④
仏教美術の基本的な主題と造形の各地における展開
第 7 回：シルクロードの美術⑤
仏伝と仏伝図
第 8 回：シルクロードの美術⑥
仏伝図の各地における展開：インドでの展開を中心に
第 9 回：シルクロードの美術⑦
仏伝図の各地における展開：中国での展開を中心に
第10回：シルクロードの美術⑧
仏伝図の各地における展開：日本での展開を中心に
第11回：石窟寺院の美術①
石窟寺院概説
第12回：石窟寺院の美術②
石窟寺院の意義と構造 (アジャンター石窟、エローラ石窟)
第13回：石窟寺院の美術③
石窟寺院の意義と構造 (キジル石窟、バーミヤーン石窟)
第14回：石窟寺院の美術④
石窟寺院の意義と構造 (龍門石窟、雲岡石窟)
第15回：まとめと試験
第16回：ガイダンス
前期の復習と後期の講義の概要
第17回：異界の美術
天界・地獄・極楽の造形の概要
第18回：地獄の造形①
地獄の概要
第19回：地獄の造形②
地獄をあらわす美術の概要
第20回：地獄の造形③
地獄をあらわす美術とその地域的展開：インドから日本まで
第21回：天界と神々の造形①
天に関する概要
第22回：天界と神々の造形②
天をあらわす美術とその地域的展開：インドから西方へ
第23回：天界と神々の造形③
天をあらわす美術とその地域的展開：インドから東方へ
第24回：極楽の造形①
極楽の概要
第25回：極楽の造形②
極楽をあらわす美術とその地域的展開：群像表現を中心に
第26回：極楽の造形③
極楽をあらわす美術とその地域的展開：単独像を中心に
第27回：生と死の美術①
性と死をめぐる美術の地域的展開
第28回：生と死の美術②
聖と死をめぐる美術の地域的展開
第29回：生と死の美術②
生と死をめぐる美術の地域的展開
第30回：総まとめと試験

【事前および事後学習の指示】
事後に紹介した作品の図版を掲載する図録や美術全集をみて、作品についての解説を読んだ上で、自らの作品に対する感想を述べられるようにする。目標として、前後期に各 3 点の作品について、このような作業をできるようにする。

【テキスト】

【参考文献】
高濱秀ほか責任編集『世界美術大全集　東洋編』 第 1-17 巻、小学館、1997-2000 年。
青柳正規ほか編『日本美術館』小学館、1997 年。ほか

【コメント】
春学期試験を 20%、秋学期試験を 20%とする。
その他の 60%は受講態度とする。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
都市社会学 [2]　＜春＞	**金 2**

【教員名称】
竹中　英紀

【講義概要】
教科書『都市社会学・入門〔改訂版〕』の前半について講義を行う (後半は来年度開講の「現代都市論」で扱う)。都市社会学は、都市の近代化や人口の増大といった状況のもと、ヨーロッパの近代社会学に端を発し、20 世紀アメリカの「シカゴ学派」において確立をみた学問分野である。この授業では、都市社会学の学問的な系譜と、その後の展開 (コミュニティ論・ネットワーク論との関係など) について解説する。講義は教科書の内容に沿って行い、適宜、小テストを実施して理解度を確認する。

【学習目標】
都市社会学の学説史に関する基本的な知識の習得。

【講義計画】
第 1 回：都市社会学の問い
第 2 回：都市社会学の始まり (1) シカゴの発展／シカゴ社会学
第 3 回：都市社会学の始まり (2) シカゴ学派の都市研究
第 4 回：アーバニズム (1) 生活様式としてのアーバニズム
第 5 回：アーバニズム (2) 都市と社会構造／アーバニズムと下位文化
第 6 回：都市生態学と居住分化 (1) 人間生態学という視座
第 7 回：都市生態学と居住分化 (2) 同心円地帯理論からの批判的展開／東京の社会 - 空間構造分析
第 8 回：授業前半の補足・まとめ
第 9 回：地域コミュニティ (1) 地域コミュニティとはなにか／都市化と町内会・自治会
第10回：地域コミュニティ (2) 郊外化とコミュニティ形成／ NPO と市民活動
第11回：都市と社会的ネットワーク (1) コミュニティのネットワーク分析／「コミュニティ」問題
第12回：都市と社会的ネットワーク (2) アーバニズムとパーソナル・ネットワーク／日本におけるアーバニズム理論の検証
第13回：都市圏の発展段階 (1) 欧州における都市圏の発展段階／日本における三大都市圏の発展段階
第14回：都市圏の発展段階 (2) 東京における都市圏の発展段階
第15回：授業後半の補足・まとめ

【事前および事後学習の指示】
授業計画を参照して、教科書の該当箇所を熟読すること。また授業ノートをこまめに整理し、自己の理解を確認すること。

【テキスト】
都市社会学・入門〔改訂版〕松本康編
978-4-641-22207-6 有斐閣
現代都市論と共通。必ず 2022 年 12 月刊の改訂版を購入すること。

【参考文献】
松本康編、2011、『都市社会学セレクション 1 近代アーバニズム』日本評論社
松本康、2021、『「シカゴ学派」の社会学』有斐閣
野沢慎司編訳、2006、『リーディングス ネットワーク論』勁草書房

【コメント】
試験 100% (小テスト 20%、中間テスト 40%、期末テスト 40%)。

【留意事項】

講義名称	曜時
図書館・博物館への誘い　＜春＞	**水 3**

【教員名称】　　**インテ**
水沼　友宏

【講義概要】
図書館・博物館・文書館で実際に働いている司書・学芸員・アーキビストの口から、実際の活動および現状を聞くことにより、市民社会における社会の記憶機関とそれを支える専門職への理解を目指します。なお、講義計画執筆段階で講師のスケジュール調整が終わってないため、下記に示すものはあくまで予定である。疑問のある人は、担当者までメールで問い合わせること。

【学習目標】
図書館・博物館・文書館に勤務する専門職の口から現状と展望を聞くことにより、市民社会における社会の記憶機関を支える専門職というロールモデルを提供することと、そのような社会的機関に対する関心・素養のない学生を含め、そのような機関を必要に応じて利用できる用意をすることが本講義のねらいである。
素養のある学生に、提供された専門職と言うロールモデルによって司書課程・学芸員課程に積極的に参加すること、また、受講したすべての学生が市民として社会の記憶機関の利用する能力を身につけることが本講義の到達目標である。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション
なお、シラバス執筆時 (2024 年 1 月上旬) の段階でゲスト講師の日程調整が終わっていないので、下記の予定は変更の可能性がある。
第 2 回：桃大生を支える桃大図書館
第 3 回：日本の博物館界の現状と展望
第 4 回：博物館の現状と展望：美術館の立場から
第 5 回：博物館の現状と展望：歴史博物館の立場から
第 6 回：博物館の現状と展望：企業博物館の立場から
第 7 回：博物館の現状と展望：科学博物館の立場から
第 8 回：博物館の現状と展望：水族館の立場から
第 9 回：日本のアーカイブの現状と展望
第10回：市立図書館の現状と展望
第11回：市立図書館の色々なサービス
第12回：学校図書館の新しいなサービス
第13回：図書館関連企業の現状と展望
第14回：専門図書館の現状
第15回：専門図書館の展望

【事前および事後学習の指示】
事後学習として、毎回の講義後、講義内容をまとめる宿題を課す。
最寄りの図書館、博物館、公文書館等を事前に見学しておくことが望ましい。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
備考 出席した上で真剣に聴講し、しっかり復習しないと書けないレポートを課す予定です。なお、当初想定した受講人数から大幅に変動した場合、成績評価の方法を変えることがあります。詳細は第一回に説明します。

【留意事項】
原則として現在図書館・博物館で勤務されている実務家をゲスト講師として招聘予定である。

講義名称	曜時
図書館情報学原論　＜春＞	**月 2**

【教員名称】
水沼　友宏

【講義概要】
図書館情報学は、情報や知識をメディアや図書館、人間の行動という側面から明らかにする分野である。情報の量が急激に増加しその形態が多様で複雑になりつつある現代において、図書館情報学は重要性を増している。本講義ではこのような図書館情報学について、その初学者向けに、関連する概念や用語、全体像、最新の動向などについて解説する。具体的には、(1) 図書館情報学の範囲、(2) 図書館情報学にかかわる制度、(3) 情報の概念とメディア、(4) 情報の検索と組織化、(5) 情報機関としての図書館、について解説する。左記 (5) では、図書館の理念、現状、歴史、館種と館種別利用者、図書館職員や業務等について解説を行う。

【学習目標】
図書館情報学に関連する概念や用語について理解するとともに、その全体像をつかむことを目標とする。

【講義計画】
第 1 回：はじめに、図書館情報学の範囲
第 2 回：情報の定義、性質、法則
第 3 回：図書館情報学の研究と研究方法の特色
第 4 回：図書館情報学にかかわる権利と諸制度 (著作権)
第 5 回：図書館情報学にかかわる権利と諸制度 (個人情報保護法、情報公開法など)
第 6 回：情報メディア (本)
第 7 回：情報メディア (雑誌、新聞、テレビ)
第 8 回：情報メディア (インターネットとウェブ)
第 9 回：情報検索の事例と技術
第10回：学術コミュニケーション
第11回：情報メディアの保存
第12回：図書館の種類と歴史
第13回：レポート講評
第14回：図書館の職員と業務、司書課程の科目紹介
第15回：まとめ、試験

【事前および事後学習の指示】
授業内で配付資料や文献を紹介するので、それらを読んで内容をよく理解すること。授業内容を振り返り、授業内で解説された用語や概念について説明できるようになること。

【テキスト】

【参考文献】
上田修一、倉田敬子『図書館情報学 第 2 版』(勁草書房、2017)
日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典 第 4 版』(丸善出版、2013)
図書館情報学ハンドブック編集委員会編『図書館情報学ハンドブック 第 2 版』(有斐閣、1999)

【コメント】
備考 ①試験とレポートを中心として評価するが、授業への取り組み (コメントシート、授業内での発言、授業態度など) も勘案し総合的に評価する。なお 1/3 以上欠席した場合は成績評価の対象外とする。②試験では、図書館情報学に関連する概念や用語についての理解度を問う問題を出題する (論述を含む)。③図書館情報学に関する理解促進のため、図書館情報学に関する論文を 1 本選び要約するレポート課題を 1 回課す。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
日中ビジネス論　＜春＞	**金 3**

【教員名称】　　**インテ**
大島　一二

【講義概要】
この講義は、日本および大阪を代表する企業、機関の担当者がゲスト講師となるインテグレーション講座です。「日中ビジネスの最前線」をテーマとし、日本と中国のビジネス事情について解説していただきます。
講義は、大きく以下の内容からなっています。
(1) 中国への企業進出や中国での事業展開について
(2) 日本と中国それぞれの経済状況と両国間の経済関係について
(3) 中国ビジネスの実際について
本講義の講師陣は、中国ビジネスに活発に関わっている現役実務家や機関の方々です。実務家の視点から生きた経済を語っていただくことにより、中国の経済やビジネスに関心のある学生はもちろん、広く日本経済・業界に関心のある学生にも興味が持てる内容となるでしょう。

【学習目標】
講義は、毎回異なるテーマについて、第一線で活躍中ないし経験豊富な実務家をゲスト講師として進められます。本講義の目的は、日本経済と中国経済との関わりを理解し、日本の対中国ビジネスへの関心を深めていくことです。また、各回の講義で述べられる事例から、ビジネスへの理解力を高め、業界研究を進めていくこともできると考えられます。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンスおよび大島一二「中国における食品安全問題」
講師日程と各回のテーマは確定次第あらためて連絡します。ただし、講師都合による日程変更時は別のテーマで行うこともあります。以下の日程は 2023 年度の予定です。
第 2 回：林　千野氏 (双日)「中国ビジネスの心構え」
第 3 回：和田芳明氏 (ＮＴＴデータ)「中国の IT ビジネス」
第 4 回：金子あき子氏 (龍谷大学)「中国・香港・台湾における日系外食企業の戦略」
第 5 回：野崎由紀子氏 (三井物産戦略研究所)「中国の農業・食品事業」
第 6 回：山田七絵 (アジア経済研究所)「中国の食品ビジネス」
第 7 回：浜口夏帆 (香港貿易発展局)「香港ビジネス」
第 8 回：竹内健氏 (丸一鋼管)「企業のグローバル展開」
第 9 回：岡野寿彦氏 (NTT データ経営研究所)「中国経済の発展と日本企業」
第10回：高村幸典氏 (諏訪大連会)「中国の自動車産業」
第11回：辻維周氏 (岡山理科大学)「中国・台湾からの訪日観光と課題」
第12回：繁実建史 (日清食品)「中国での食品ビジネス」
第13回：森山たつを氏 (スパイスアップ)「中国･香港･台湾への企業進出」
第14回：濱島敦博氏 (桃山学院大学 ビジネスデザイン学部)「香港への食品輸出と課題」
第15回：齋藤幸則氏 (テイジン)「中国での事業展開」、まとめ

【事前および事後学習の指示】
日々の中国経済関係の報道に関心を持って下さい。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
対面授業を想定し、以下のように配点する。
レポート (1 回、50％) と課題 (5 回、50％) の合計で評価する。

【留意事項】
本講義の講師陣は､中国ビジネスに活発に関わっている現役実務家や機関の方々です。
上記は 2023 年度の予定日程です。多数の講師にお願いしている講義の性格上、講師の都合により変更もあり得ます。ガイダンス時に、あらためて日程とテーマを提示しますので確認してください。 また、対面授業の場合、授業中に私語をするなど、聴講の態度が悪いと判断される場合は、ただちに退室を命じることがあります。 悪質な場合、その場で「不合格」を宣告することがありますので、くれぐれも注意してください。

講　義　名　称	曜　時
日本経済史Ⅰ　＜春＞	**木 4**

【教員名称】
見浪　知信

【講義概要】
近世から 1900 年代にかけての日本経済のあゆみを、通時的に講義します。本講義では、日本経済について統計データや図表をもとに具体的に説明します。また、現代社会への接続を意識しつつ、国際比較や国際関係といった観点を取り入れて講義します。

【学習目標】
①日本経済について、基本的な知識を習得し、その展開を説明することができる。
②日本経済を、国際比較および国際関係といった観点で捉えることができる。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス　日本経済のあゆみ
第 2 回：近世① 近世の貿易
第 3 回：近世② 近世の農業発展
第 4 回：近世③ 国内市場の形成
第 5 回：近世④ 近世の物価・財政
第 6 回：幕末・維新期① 開港の経済的影響
第 7 回：幕末・維新期② 明治維新
第 8 回：幕末・維新期③ 地租改正と秩禄処分
第 9 回：幕末・維新期④ 殖産興業政策
第10回：幕末・維新期⑤ 松方デフレ
第11回：産業革命期① 企業勃興と産業革命
第12回：産業革命期② 企業勃興の制度的基盤
第13回：産業革命期③ 日清・日露戦争と日本経済
第14回：産業革命期④ 明治期の国際経済関係
第15回：期末試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
授業前に、授業レジュメを印刷し、目を通しておくこと。
授業後に、授業レジュメの内容を復習し、小レポートおよび期末試験に向けて学習すること。

【テキスト】

【参考文献】
タイトル：『日本経済史：近世から現代まで』、著者：沢井実・谷本雅之著
出版社：有斐閣、ISBN：9784641164888、備考：2016 年出版

【コメント】
この講義の成績は、第 15 回の講義時に実施される期末試験、および講義中数回出される小レポートから算出される。

【留意事項】

講義名称	曜時
日本経済論Ⅰ　＜春＞	月 4

【教員名称】
澤田　鉄平

【講義概要】
日本経済は、第二次世界大戦後の対米従属・安保体制を前提とした日本特有の資本蓄積および外需依存によって発展したが、今日まで内在する矛盾を温存・強化しており、また世界経済の変化の中で日本経済はバブル崩壊以降、深刻な長期不況が続いている。
そこで本講義では戦後日本経済の歴史的発展過程を経済・政策の視点に立脚して振り返り、内在する諸矛盾の検討を通じて、今日求められる日本経済再生の糸口を探っていく。日本経済論Ⅰは戦後日本の復興期から経済成長期を経て長期不況に至る前夜であるバブル崩壊までを、日本経済論Ⅱはバブル崩壊以降今日に至るまでの長期不況の構造を、世界経済の変化を踏まえつつ考察していく。

【学習目標】
本講義に積極的に取り組むことを通じて
1 戦後からバブル期までの日本経済についての体系的な理解。
2 今日日本経済の諸現象についての要因の考察。
を獲得するのが目標である。

【講義計画】
第 1 回：日本経済の学びとは何か？ (イントロダクション)
第 2 回：米ソ冷戦構造の発展と GHQ による戦後民主化改革、財閥解体、農地改革、労働改革
第 3 回：朝鮮戦争と特需、高度成長を迎えるための資本蓄積
第 4 回：重化学工業育成政策と企業集団・系列化
：高度成長期 (その 1)
第 5 回：国際競争力強化、70 年代への足がかり
：高度成長期 (その 2)1962 ～ 70 年
第 6 回：都市流入と地方過疎化
：高度成長期の弊害 (その 1)
第 7 回：公害発生と公害闘争
：高度成長期の弊害 (その 2)
第 8 回：ブレトンウッズ体制の崩壊と日本経済
：高度成長の終焉 (その 1)1970 年代
第 9 回：2 度のオイルショック、狂乱物価、輸出競争力を増す製造業
：高度成長の終焉 (その 2)1970 年代
第10回：米国双子の赤字、輸出競争力のピーク
：安定成長期 (その 1)1978 ～ 1983 年
第11回：日米貿易摩擦とその解決方法、多国籍化の萌芽
：安定成長期 (その 2)1984 ～ 1986 年
第12回：プラザ合意、前川リポートと政策転換
：バブル経済 (その 1)
第13回：過剰流動性、実体経済と金融経済の乖離
：バブル経済 (その 2)
第14回：公定歩合引き上げ、金融経済の急速な収縮と不良債権問題
：バブル崩壊
第15回：戦後日本経済の振り返り・ゆがみの頂点
：失われた 25 年への道

【事前および事後学習の指示】
参考文献のうちのいずれかを選び、第二次世界大戦後の日本経済について予習すること。また講義各回はその前の回までの講義を前提とするため、各回を入念に復習すること。
M-Port に資料をアップするので、講義内容を繰り返し読み、わからない部分については自分で調べ、それでも理解できない場合は教員に M-Port で質問すること。

【テキスト】

【参考文献】
中村隆英 (1986)『昭和経済史』岩波書店。
三和良一 (2012)『概説日本経済史　近現代　第 3 版』東京大学出版会。
橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齋藤直 (2011)『現代日本経済　第 3 版』有斐閣。

【コメント】
課題 6 回 ;10 点＝ 60 点
期末レポート 1 回 ;40 点＝ 40 点
の合計 100 点満点で評価します。

【留意事項】

講義名称	曜時
日本語学概論　＜春集＞	月 3/ 木 2

【教員名称】
有川　康二

【講義概要】
ONE PIECE のルフィが涙や鼻水を流しながら「仲間がいる゛よ！」。「る゛」って変。何故？大学応援歌の「青空」は [aozora] だけど、[aosora] は変。でも、大学学歌では「大空」は [oosora] で [oozora] ではない。何故？「痩せた猫の飼い主」と「痩せた猫と飼い主」では意味が違う。何故？「猫が金魚を食べた」は OK。でも、「猫が金魚が食べた」は変。何故？「が」とか「を」って何？格助詞って何？格って何？「が」とか「を」について徹底的に考える。「が」とか「を」は母なる自然がつくった情報処理の臓器 (脳) に発生したウイルス (エラー)。ホモ・サピエンス語を生み出す言語システムは、このウイルスと共生して構造を創る。ヒト脳内の言語システムは母なる自然がつくったウイルス・チェック・システム。授業を受けると意味が分かります (驚)。「が」とか「を」について徹底的に考えるのは、あなたの人生の中で最初で最後。日本語の母語話者は文法など意識せずに使う。日本語はアホほど当たり前 (阿呆)。日本語のことは何でも知っていると思い込む。しかし、日本語の音や文法の法則やメカニズム、それがヒト脳内で如何に生成されるかは説明できない。全部知っていると思い込んでいることが、何にも分かっていないという戦慄！誰でも脳味噌は使えるが、その法則やメカニズムは説明できない。経験科学の方法で言語システムの法則とメカニズムを探る。科学は、当たり前すぎて考えるのもアホらしいと思う事柄に驚嘆することから始まる (驚)。子どもはアホなことに驚嘆できるというすばらしい能力の持ち主 (科学者)。長年の学校教育と受験勉強で抹殺されたこのすばらしい能力を取り戻してみませんか？「自然言語 (ことばをしゃべる)」というアホらしい現象は、物理学の最先端の問題である「重力 (ものが落ちる)」や「光 (明るい・暗い)」というようなアホらしい現象と同様、科学の格好の対象。鳥は飛びまくり、魚は泳ぎまくり、花は咲きまくり、犬は嗅ぎまくり、カエルはジャンプしまくり、私たちヒトはしゃべりまくる。言葉とは何か？その言葉をしゃべりまくる生物である私達とは、一体、如何なる生物なのか？授業をちゃんと聞かない人、勉強する気がない人には全て無駄話に聞こえます (危険)。向学心豊かな真の大学生になる気のない人は受講しないでください (願)。

【学習目標】
日本語を三つの視点から概論。(1) 生物言語学：ヒト自然言語システムは、母なる自然が創造したヒト脳に突然変異と創発的自己組織化が生じて出現した。その一般的性質とは？何故、ホモ・サピエンス語はこんな形なのか？ (2) 日本語教育学：日本語を外国語として学ぶ人にとって、日本語の客観的な説明、よりよい説明とは？地球上の数千の言語は、同じホモ・サピエンス語の方言。日本語を外国語、ホモ・サピエンス語として考える。(3) 哲学：今この瞬間も時速 10 万 8 千 km(弾丸速度の約 19 倍) で公転している地球。その表面に重力でへばりついて、今ここで何をしているのか？約 138 億年前にできたこの宇宙の中で、46 億年前にできた地球上で、38 億年前に生まれた生命のナレノハテとして、何をしながら、老いて、死んでいくのか？お寺とか大学とか超暇な時間が流れる時空間で考えます。宇宙市民となって徹底的に考えてみませんか？ (驚愕)

【講義計画】
第 1 回：イントロ
履修要項とシラバスの確認。
勉強とは？単位とは？何故、英語の教科書を使用するか？
第 2 回：私たちホモ・サピエンスの脳の中に約 200 万年前に突然変異的に出現した自然言語システムの本質とは？言語とは？言語の牢獄に閉じ込められた人間とは、いかなる生物か？
第 3 回：ヒト脳の中の言語計算システムの説明とは？「説明」とは何か？
第 4 回：古典物理学の説明の方法とは何か？
第 5 回：ガリレオ、ニュートンらが約 500 年前に開始した古典物理学、約 120 年前に開始された量子力学では説明できない自然現象の説明とは？ (あなたの脳内の自然言語システムは、母なる自然が約 200 万年前に創造した自然物。)
第 6 回：言語に関する常識 (ドグマ) を疑う (1)
第 7 回：言語に関する常識 (ドグマ) を疑う (2)
第 8 回：言語に関する常識 (ドグマ) を疑う (3)
第 9 回：言語に関する常識 (ドグマ) を疑う (4)
第10回：ヒト脳内で、どのようなシステムが言語の情報処理に関わっているか？ヒト脳と、ヒト以外の生物の脳の決定的な違いとは？ (1)
第11回：ヒト脳内で、どのようなシステムが言語の情報処理に関わっているか？ヒト脳と、ヒト以外の生物の脳の決定的な違いとは？ (2)
あなたが言葉を聴いたり、発したりしている時、脳の中で何が起こっている？
第12回：ミツバチ語を生み出すミツバチ脳の計算とは？何故、ミツバチ語？ミツバチはピタゴラスの定理を本能的に利用！
第13回：数百年の研究の歴史がある連濁現象は、慣性の法則に従う自然現象！
第14回：「仲間がいる゛よ！！！」何故、「る゛」は、普通ではないのか？
第15回：複数を示す音素 /s/ が三種類に変化することは中学英語で勉強した。cakes, dogs, boxes では、音素 /s/ は、[s], [z], [iiz]。何故か？日本語の連濁と同様、慣性の法則が関わっている！連濁が阻止される音韻環境を決定するライマンの法則とは？
第16回：ヒト脳の言語計算システムで、どのような素性 (情報、英語で、features) が関わっているか？言語にとって本質的な素性とは構造素性 (形態統辞素性) ！
第17回：言語システムの計算とは何か？文の構造、ウイルス・チェックの構造を紹介。
第18回：言語システムで決定的に重要な操作「結合」(英語では、MERGE)(1)
結合操作は、一見、単純だが、言語計算の本質的な操作。
第19回：「結合」(MERGE)(2)
第20回：言語システムの基本性質 (basic property)(1)
キーワードは、「構造的最短距離」。
第21回：言語システムの基本性質 (basic property)(2)
第22回：言語システムの基本性質 (basic property)(3)
第23回：言語システムの基本性質 (basic property)(4)
第24回：「言語システムはウイルス・チェック・システム」という仮説をより詳しく。あなたの体は、ウイルス・チェック・システム (免疫システム)。あなたの言葉を生み出す言語システムは、あなたの頭蓋骨という自然の創造したヘルメットの中の脳という情報処理の臓器 (典型的な免疫システム) の中。

第25回：言語システム内で起こる構造素性 (エラー、ウイルス) の消去を、数学のガウスの消去法と生物の免疫機構と比較、考察。あなたのスマホの中の全てのソフトは、ガウスの消去法を四六時中、使用。
第26回：言語システムにおいて、数学でいう交換法則と結合法則は成立しているか、破れているか？ (1)
(「結合法則」(associative law) の「結合」(associative) と、言語操作「結合」(MERGE) は別。)
第27回：言語システムにおいて、交換法則と結合法則は成立しているか、破れているか？ (2)
第28回：自然法則、物理法則である「最小計算の法則」(principle of minimal computation (MC)) の詳細。ミツバチが本能的に駆使するピタゴラスの定理が再登場。
第29回：MC(続き)
第30回：MC(続き)

【事前および事後学習の指示】
内容を順次理解しなければ、珍糞漢糞になります。特定の教員に「授業内容を説明して」と質問された場合、皆さんが説明する義務はありません。授業を聞いただけで最先端の内容を説明できなくて当然。皆さんが授業ノートを取りながら懸命に勉強する。それで十分。もし、そのような質問にストレスを感じた場合、本学のハラスメント委員会、または、私に相談して下さい。

【テキスト】

【参考文献】
Jenkins, L. (2000) Biolinguistics: Exploring Biology of Language. Cambridge University Press.
酒井邦嘉 (2002)『言語の脳科学 - 脳はどのようにことばを生みだすか』中公新書
寺村秀夫 (1982)『日本語のシンタクスと意味 I』くろしお出版
寺村秀夫 (1984)『日本語のシンタクスと意味 II』くろしお出版

【コメント】
講義中に自筆でノートをとってください。毎回提出の自筆授業ノートの質、量、提出具合で評価。自筆でのノート取りは基本の基。基本の基で評価します。ここでは剽窃援助 AI システム ChatGPT も無能です。

【留意事項】
日本語教師としての実務経験あり
毎回の講義の録画データを M-Port にアップします。自筆ノートの補正に利用してください。

講　義　名　称	曜　時
日本語教材・教具論 A　＜春＞	**金 2**

【教員名称】
友沢　昭江

【講義概要】
日本語学習者の多様化に対応するためにさまざまな教授法や教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景などを考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教授法や教材を選択する眼をもたなければなりません。本講では「日本語教授法演習」で行う模擬授業や教壇実習に必要な様々な教授法とそれらに対応して作成された教科書について学びます。春学期の「A」では目的・対象別の日本語教授法と、それらに対応する具体的な教材や教具の特徴について学びます。秋学期の「B」では学習者の背景や学習動機、日本語レベルに対応する教科書を実際に分析しプレゼンテーション形式で発表します。そのため「A」を履修した後に「B」を履修することが求められます。「A」と「B」はできれば同一年度に履修することが望ましいですが、「A」を履修した次の年度に「B」を履修することも可能です。

【学習目標】
・この授業 (春学期の「A」) では日本語を教えるのに必要な基礎的な知識 (シラバスやコースデザイン、教室活動など) とともに多様な教科書の構成について学習します。
・教科書の特徴などを学ぶことで、秋学期の「B」で行う教科書分析 (グループ発表) のための視点を身に付けます。
・また実際の日本語教育の現場を知るために交換留学生の日本語授業を見学します。見学後は分析項目に沿った報告書を作成し提出します。それにより現場で教科書や教材が実際にどのように使用されているかを知り、客観的な授業分析ができるようになります。

【講義計画】
第 1 回：日本語を教えるということ：授業を組み立てるために必要な基礎知識を学ぶ。
①目的・対象別の日本語教育プログラムについて学ぶ (いろいろな外国語教授法①)
オーディオリンガル法、コミュニカティブアプローチ、TPR、サイレントウェイなど。
第 2 回：②いろいろな外国語教授法 (ESL、イマ―ジョン、過渡的バイリンガル教育、トランスランゲージングなど)
第 3 回：初級の教え方①：初級学習者を教室で教えることについて、その学習環境ー教室形態、収容人数などを考える
第 4 回：初級の教え方②：日本国内の日本語学校等で使用されてきた日本語教科書の変遷を知る
第 5 回：日本語教科書の構造 (初級) ①：導入される文型や語彙、媒介語の使われ方、定着のための活動の特徴などの観点から
第 6 回：日本語教科書の構造 (初級) ②：導入される文型や語彙、媒介語の使われ方、定着のための活動の特徴などの観点から
第 7 回：4 技能の教え方 (初級) ①：受容・理解能力 (聞く・読む) とは何か。またその能力を向上させるために、教科書はどのような工夫をしているかを考える
第 8 回：4 技能の教え方 (初級) ②：言語運用能力 (話す・書く) とは何か。またその能力を向上させるために、教科書はどのような工夫をしているかを考える
第 9 回：中上級の教え方①：初級と中級、中上級、上級の違いについて考える。日本語能力試験の内容などからレベルについて考える。
第10回：中上級の教え方②：初級と中級、中上級、上級の違いについて考える。基本的な文法や文型を習得した後、正確さから流暢さへとシフトし、より実践的な日本語能力を向上させるために何が求められるかを教科書を通じて考察する。
第11回：日本語教科書の構造 (中級) ①：学習者の求める日本語能力の多様化に応じて開発された様々な中級、上級レベルの教科書や教材について具体的に比較検討する。
第12回：日本語教科書の構造 (中級) ②：学習者の求める日本語能力の多様化に応じて開発された様々な中級、上級レベルの教科書や教材について具体的に比較検討する。
第13回：社会文化能力とは何かを理解し、学習者がその能力を向上させるために教科書はどのような工夫をしているかを考える。
第14回：授業見学の振り返り：実際の授業 (交換留学生を対象とする日本語授業。レベルはゼロ初級から中級までの 4 レベル) を見学する際には、その授業がプログラム全体の中でどういう位置づけであるかや、授業を担当する日本語教員がどのような考え方をもって授業を行っているかなどを事前に聞くこととなっているが、見学後にそれらを報告し合い、クラス全体で共有する。
第15回：日本語教育における教科書の役割について
まとめのテスト

【事前および事後学習の指示】
講義期間中に教科書の内容をすべて扱うことができないので、早めに購入して読み進めてください (特に第 1 章、2 章)。できれば講義が始まるまでに扱われている項目についてある程度の知識をもっておいてください (事前学習 30 時間)。コメントシート作成や授業見学および報告書作成 (事後学習 30 時間) も求められます。履修要件ではないですが、この授業を履修する前または同時に日本語教員養成課程の履修科目一覧にある授業 (必修、選択必修、選択科目) をできるだけ多く履修しておいてください。

【テキスト】
新・はじめての日本語教育 2 ー日本語教授法入門 (増補改訂版) 高見澤孟
978-4-87217-994-1 アスク出版　2016 年

【参考文献】
・『日本語教育への道しるべ第 3 巻』(坂本正他監修　凡人社　2017 年)
・『ここから始まる日本語教育』(姫野昌子他、ひつじ書房)
・『初級ドリルの作り方』(三浦昭、凡人社)
・『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(庵功雄他、スリーエーネットワーク)
・『中上級を教える人のための文法ワークブック』(庵功雄他、スリーエーネットワーク)
・『ベーシック日本語教育』(佐々木泰子編、ひつじ書房)

【コメント】
15 回目の授業においてまとめのテストを行います。学期中に交換留学生の日本語授業を見学し課題レポートを作成します。授業見学後のレポート以外には、授業中の発言内容、回数、数回のコメントシートなどを総合的に考慮して評価を行います。資格関連の科目なので出席は重要視されますが、それだけではなくすべての課題をしあげることがより重要です。

【留意事項】
社会人の方へ (聴講に際して)
春学期の「A」を受講することは可能ですが、「A」の単位を受講した人だけが秋学期の「B」を受講できます。「B」から受講をすることはできません。
単一年度に両方を受講する必要はありません。複数年度にわたり、「A」→「B」と受講することも可能です。
学生の資格過程で非常に重要な科目ですので、その点をご理解いただける方のみ聴講をお願いいたします。

講 義 名 称	曜 時
日本語教授法の基礎 A ＜春＞	**月 4**

【教員名称】
有川　康二

【講義概要】
どんな教授法 (教え方の哲学や方法) にも、どんな教科書にも長所と短所があります。要は、様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用しながら自分の授業を学習者とともに作り上げていくことです。そのためには、何が長所で、何が短所なのかを理解しておかなければなりません。特に長所とは何かを知っておくことが肝要です。他人の教科書の粗探しばかりしていても話になりません。例えば、語学学習の命であるドリル (稽古) に関していえば、機械的な形の練習だけでなく (これも重要です)、より現実に近い状況や会話の十分な練習があれば長所と言えます。また、500 年、1000 年前の古語の活用体系に現代日本語の活用を無理やり押し込めた矛盾だらけの学校文法では未だに「四段活用」とか「一段活用」とかいう用語が出てきます。このような用語を鵜呑みにしている箇所は短所です。しかし、教科書がなければ授業ができないというような教科書至上主義も間違いです。教科書やプリントに頼って学習者がずっと下を向いているような授業は駄目です。外国語授業の基本は学習者ひとりひとりの目を見ながら徹底的に聞いたり話したりする実践的な稽古をすることです。勿論、読み、書きの訓練も取り入れながら。日本語の初級文法に焦点を絞り、(教師のための) 実践的な文法整理と、(学習者のための) 効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行います。初級文法を含む幅広い知識を吸収しようと努力する向学心豊かな外国語教師を目指す人、日本語の初級文法を一般教養として勉強したい人だけ受講してください。

【学習目標】
ある言葉が母語としてぺらぺら話せることと、その言葉を外国語として学習する人に体系的、説得的に教えることのできる能力とは別物です。一定の制限された状況 (教室) や時間内 (初級の集中コースとして例えば週 15 時間で約 6 か月) に、日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習 (ドリル) を行い、「使える日本語」を身につけてもらうためには、教える側に特別の知識と技術が必要となります。その知識と技術を身につけます。
初級レベルで学習者が興味を失ってしまったら、それまでです。ある意味では初級レベルが最も難しいと言えます。文法の質問から逃げる日本語教師は学習者には信頼されません。初級日本語文法の知識を身につけます。
「何故、私は外国語を学ぶのか？何故、私は日本語を外国語として教えるのか？日本語を教えるという仕事を通して私には何ができるのか？」という問いを問い続けなくてはなりません。このような主体的な問題意識を身につけます。

【講義計画】
第 1 回：イントロ
履修要項とシラバスを確認。勉強とは？単位とは？何故、英語の参考書を使用するか？どのような項目を勉強するのか？
外国語教授法のイロハとは？ どんな授業がよいのか？ どんな教材が必要なのか？ どんな仕事に就ける可能性があるのか？ 本学の先輩達は日本語教員資格を取得してどんな所で仕事をしているのか？
第 2 回：コソアドの文法解説とドリルのシミュレーション、形容詞の活用など
第 3 回：コソアドを利用した形容詞のドリルのシミュレーション、テイル形による動詞の分類、動詞の活用など
第 4 回：存在表現の文法とドリル
第 5 回：動詞一般の活用の文法、テミル表現の文法、テイルのドリルなど
第 6 回：テ形の他のドリル、テイル形の文法、テンス・アスペクト (～時、～) の Note 2 まで
第 7 回：テンス・アスペクト (～時、～) の Note 3 から、「～時、～」のドリル、意志形の文法
第 8 回：意志形のドリル、希望・願望の表現「ほしい」の文法
第 9 回：希望・願望表現の「たい」の文法、希望・願望表現のドリル、可能形の文法など
第10回：可能表現の文法とドリル、自発表現の文法とドリルなど
第11回：様態の表現 (ソウダ) の文法とドリル、伝聞推量の表現 (ラシイ) の文法
第12回：推量の表現「ヨウダ」の文法とドリル
第13回：自動詞と他動詞がペアを形成しているペア動詞、それらを伴う「～テイル、～テアル、～テオク、～テミル、～テクル」などの文法と、そのドリル
第14回：授受動詞の「クレル」の文法
第15回：授受動詞の「モラウ」の文法、授受動詞のドリル

【事前および事後学習の指示】
本学には世界の様々な国から留学生が来て日本語や日本文化について勉強しています。留学生の人たちと話をしてみてください。
特定の教員に「授業内容を説明して」と質問された場合、皆さんが説明する義務はありません。授業を聞いただけで授業内容を説明できなくて当然。皆さんが授業ノートを取りながら懸命に勉強する。時々、自分で復習する。それで十分です。もし、そのような質問にストレスを感じた場合、本学のハラスメント委員会、または、私に相談して下さい。

【テキスト】

【参考文献】
三浦昭 (1983)『初級ドリルの作り方』凡人社
岡崎敏雄 (1989)『日本語教育の教材 - 分析・使用・作成』アルク
Makino, S. and Tsutsui, M. (1986) A dictionary of basic Japanese grammar- 日本語基本文法辞典 . The Japan Times.

【コメント】
講義中に自筆でノートをとってください。この自筆ノートは、皆さんが将来、日本語教師となって教壇に立った時に必ず役に立つ参考書となります。この世界に一冊しかない、あなただけの参考書を作って下さい。
毎回提出の自筆授業ノートの質、量、提出具合で評価。自筆でのノート取りは基本の基。ここは剽窃援助システム ChatGPT も無能となる場所。基本の基で評価します。

【留意事項】
日本語教師の実務経験あり。毎回の講義の録画データを M-Port にアップします。自筆ノートの補正に利用してください。

講　義　名　称	曜　時
日本史　02 ＜通期＞	**月 2**

【教員名称】
吉村　智博

【講義概要】
日本史を履修するにあたり、歴史学および人文地理学の最新の研究成果を反映させた内容とする。春期は、日本史の視点や認識を概観する研究入門からはじめ、文献資料を中心とした前近代史および近現代史について講義する。秋期は、図像資料を中心に前近代を中心とする地図に関する内容とする。その際、原史料 (文字と地図) をできるだけ参照しつつ進めていく。春期・秋期ともにおこなう授業内レポートでは、受講生自身の独自の意見・見解・論理などを問う内容となる。なお、レポートをもって「試験」に替えることとする。

【学習目標】
義務教育段階あるいは高等学校段階までで基本的に履修した歴史的事項はもちろんのこと、個別テーマについて掘り下げて考察することで、日本史における多様な側面を深く理解することを目標とする。ゆえに、受講生自身の関心や考究の態度など学習の到達度がわかるような授業内レポートを実施する。また、本講義を受講することによって、最新の日本史学界の動向やその研究状況、さらには、日本史のみならず日本地理に関する基本的な事柄を履修することができる。

【講義計画】
第 1 回：日本史入門－日本史学の現在
通期の授業計画およびガイダンスを含め、日本史研究の現段階について概説する。
第 2 回：日本史の見方①－民衆史・社会史
1970 年代以降に注目されるようになった民衆史と 1980 年代にヨーロッパ社会論の影響を受けて導入された社会史について
第 3 回：日本史の見方②－国民国家論・帝国論
1990 年代に社会主義国の崩壊以降に問題となった国民国家、コロニアリズムを必然的に内包する帝国主義の歴史と現段階について
第 4 回：古代社会と律令制
記紀神話に代表される古代の歴史観と社会観、さらに律令国家の社会構成および身分制度について
第 5 回：中世社会と権門体制
荘園公領制を基本として展開される中世の政治的・経済的社会について
第 6 回：近世社会と身分制
近世的特徴である幕領・大名領国・旗本知行を基本とする身分制社会 (都市・農村) における生活の諸相について
第 7 回：明治維新と地方自治
日本近代化の転換点となった明治維新期の外交と政治、および国内自治の内実について
第 8 回：自由民権と帝国憲法
民選議員設立建白に端を発する国会開設、憲法制定運動の内実と帝国憲法について
第 9 回：日清戦争と日露戦争
近代化路線を邁進する日本が東アジアにおいておこなった戦争とその意味について
第10回：第 1 次世界大戦と民力涵養
ヨーロッパにおける戦争にアジアを舞台に参戦した日本の意図とその新たな分析視角について
第11回：米騒動と社会政策
富山に端を発した米騒動の通説的理解の見直しと、その後の都市型社会政策について
第12回：大正デモクラシーと民本主義
「大正」期に隆盛したデモクラシー的状況とその思潮・文化の内容について
第13回：アジア・太平洋戦争
昭和恐慌後におこった 15 年におよびぶ対中国戦争 (アジア) と、対米・英・蘭戦争 (太平洋) の意味と現在性について
第14回：春期のまとめとレポートについて
春期 13 回の内容を再度確認し、論点を整理するとともに、春期のレポートについての注意事項
第15回：春期の到達度確認のためのレポート提出
春期の学習到達度を確認するため、期限を設けてレポートの提出を課す (注意事項は第 14 回に明示)
第16回：古代社会と荘園絵図
班田制から荘園公領制に移行していく古代・中世の社会の諸相と現存する荘園絵図について (あわせて古地図・絵図の歴史的位置づけの外観)
第17回：中世社会と行基図
一般的に「行基図」と称されている絵図の特徴と東アジアにおける日本の地理的位置、および中世の世界観について
第18回：戦国大名と洛中洛外図
京の街並みを鳥瞰した洛中洛外図屏風が描き出す日常の空間と人々の生活、さらに武家文化と公家文化との相違について
第19回：外国との接触と世界図
大航海時代に「到達・発見」されたことによって、高い関心を寄せた多くの地理学者・地図作成者の手になる世界図と日本図について
第20回：測量への挑戦と伊能図
歩測におる日本地図を完成させた伊能忠敬を取り巻く人間関係とそ測量方法およびシーボルト事件について
第21回：徳川の権威と国絵図
将軍家が日本全国の諸大名や旗本などの領国・知行地などを一括支配するために命じた国絵図の編纂意図について
第22回：松前・薩摩と蝦夷図・琉球図
松前藩を通じて交易のありながら長くその存在を明記されなかった「蝦夷」、尚氏による王朝として栄えた「琉球」を描いた地図について
第23回：共同体生活と村絵図
近世身分制社会を支える経済生活の基礎となっていた在地共同体 (農村) の水利・入会などを記した村絵図について
第24回：出版文化と大坂町絵図
近世の三大都市のひとつある大坂市中を描いて出版された大坂町絵図の特徴と変遷について
第25回：伝統都市と京都町絵図
洛中洛外図以来、衆目をさらっていた京の街並みを描いて出版された京都町絵図の特徴と変遷について
第26回：首都建設と江戸町絵図
家康の入部以来本格化する江戸の街づくりに関する絵図の変遷とその特徴について
第27回：明治維新と基本図
内務省地理局と陸軍参謀本部との 2 系列で作成されていく基本図の法制史的位置づけとその特徴について
第28回：遊覧図と外邦図
デモクラシーの思潮とともに整備されていく諸都市を描いた吉田初三郎、美濃部政治郎に代表される遊覧図について、および植民地支配を軸に帝国の版図を拡大していくなかで作成された外邦図について
第29回：秋期のまとめとレポートについて
秋期 13 回の内容を再度確認し、論点を整理するとともに、次回の授業内レポートについての注意事項
第30回：秋期および通期の到達度確認のためのレポート提出
本講義の秋学期および通期にわたる学習到達度を最終確認するため、授業内でレポートを実施 (注意事項は第 29 回に明示)

【事前および事後学習の指示】
事前・事後とも 30 分程度

【テキスト】

【参考文献】
春期および秋期のはじめに詳細なものを提示するが、さしあたり、全体にかかわる以下のものを提示する。
①永原慶二『20 世紀日本の歴史学』吉川弘文館、2003
②桂島宣弘『思想史で読む史学概論』文理閣、2019
③大日方純夫ほか編『日本近現代史を読む・増補改訂版』新日本出版社、2019
④佐々木潤之介ほか編『概論・日本歴史』吉川弘文館、2000
⑤金田章裕・上杉和央『日本地図史』吉川弘文館、2011

【コメント】
基本的には講義 (オンデマンド配信の場合がある) であるため、毎回作成するプレゼンテーション (ｐｐｔ音声入り) あるいはレジュメ (いずれにしても基本的に M-Port よりダウンロード) をもとに授業を進める。春期および秋期の最後に論述中心のレポート (試験に相当) を課すことになる。また、春期・秋期とも何回か「コミュニケーションカード」のようなものを記入してもらう。
なお、レポートを提出しない、レポートの内容が到達点に達していない、コミュニケーションカードの提出がない、など場合には単位を認定することは難しい。

【留意事項】

講義名称	曜時
日本文化史 A　01 ＜春＞	土 4

【教員名称】　　**遠隔授業 (オンデマンド型)**
梅山　秀幸

【講義概要】
『源氏物語』は「もののあはれ」を書いたものだと、本居宣長はいう。「もののあはれ」とは心の奥底の感情の動きだと考えていいが、原文を味わいながら、以後の日本人に影響を与えてきた美意識について考えていく。「色好み」は今の社会では悪徳だが、平安時代の貴族社会がつちかったセクシュアリテが鎌倉以降の武士社会で起こした相克、近松門左衛門の「妻敵討ち」などについても言及したい。

【学習目標】
一般的な学生は高校の古典の授業など敬遠して過ごしてきたと思われるが、煩瑣な古典文法にこだわることなく、できるだけかみ砕いて解釈していくことで、「苦手意識」を払拭して、おもしろいと思うところまでたどり着きたいと思う。

【講義計画】
第 1 回：『伊勢物語』1 ー「みやび」の宣言ー
第 2 回：『伊勢物語』2 ー「夢」か「うつつ」か、タブーを犯すー
第 3 回：『源氏物語』1「桐壺」ー後宮の秩序ー
第 4 回：『源氏物語』2「桐壺」ー光君の誕生ー
第 5 回：『源氏物語』3「桐壺」ー母の死ー
第 6 回：「源氏物語』4「桐壺」ー母に似た女性への思慕ー
第 7 回：『源氏物語』5「帚木」ー雨夜の品定め、嫉妬深い女ー
第 8 回：『源氏物語』6「帚木」ー雨夜の品定め、常夏の女ー
第 9 回：『源氏物語』7「帚木」ー方違えの夜のアヴァンチュールー
第10回：『源氏物語』8「空蝉」ー人妻の拒絶、脱ぎ捨てていった小袿ー
第11回：『竹取物語』ーかぐや姫の光と影ー
第12回：『源氏物語』9「夕顔」ー六条わたりの御しのび歩きのころー
第13回：『源氏物語』10「夕顔」ー仮面をかぶった密会ー
第14回：『源氏物語』11「夕顔」ー幽霊屋敷での情事、女の急死ー
第15回：本居宣長の『源氏物語玉の小櫛』の「もののあはれ論」

【事前および事後学習の指示】
授業資料は M-Port にあらかじめ掲示しておくので、眼を通しておいてほしい。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
5 回程度、600 ～ 800 字のレポートを課します。

【留意事項】

講義名称	曜時
日本文化史 A　02 ＜春＞	木 2

【教員名称】
南郷　晃子

【講義概要】
日本の説話や伝承の世界には、「ウチ」と「ソト」という空間認識が反映されているものが多くあります。「ソト」は村の外であることもあれば、海のむこう、他界であることもあります。そしてその間にはウチとソトをわける「境界」があります。そして物語はしばしば境界を越えるものにより伝えられていきます。本授業では、ウチとソト、そして境界をキーとして伝承世界を紐解いていきます。また伝承を伝えるものとしての境界を行き交う人々にも焦点を当てます。講義形式ですが、コメント・意見をもとめます。授業を通して活発に議論をしていきたいと思っています。

【学習目標】
説話、伝承世界を中心にウチとソトの認識について理解をする。その上で物語世界のみならず社会のあちこちに引かれる「境界」を意識化できるようになる。また表象と境界について自分で考察し分析できるようになる。

【講義計画】
第 1 回：イントロダクション
第 2 回：境界と説話、伝承
第 3 回：境界をみつめる
第 4 回：ウチからソトへー虫を送る
第 5 回：境界のソトからくるものー疫神
第 6 回：境界のソトからくるものー来訪神
第 7 回：境界のソト①ー海のむこうの世界
第 8 回：境界のソト②ー山中他界
第 9 回：ウチとソトの葛藤①ー歓待と殺人の伝承
第10回：ウチとソトの葛藤②ー共同体と憑きもの
第11回：ウチとソトをつなぐもの①ー憑かれるもの
第12回：ウチとソトをつなぐもの②ー供儀、生贄
第13回：ウチとソトをつなぐもの③ー芸能者
第14回：身近な説話世界
第15回：まとめと試験

【事前および事後学習の指示】
授業用に配布するレジュメに含む説話をあらかじめ読み、内容を把握しておくこと。

【テキスト】

【参考文献】
赤坂憲雄『境界の発生』(講談社学術文庫、2002 年) 小松和彦『異人論』(青土社、1985 年)

【コメント】
試験は記述を中心とします。授業をふまえて A41 枚程度の論述を行なってもらいます。
また毎回の授業内で課題を出し、その回答によって、意欲的に授業に参加しているかどうかをみます。これが「その他」の 50% に相当します。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
日本法制史 A　＜春＞	**月 4**

【教員名称】
的場　かおり

【講義概要】
表現の自由、思想・良心の自由、罪刑法定主義、無償の義務教育、学問の自由・・。普段みなさんが学ぶ現行法の講義では「当たり前」のものばかりです。でもこれらが登場したのは「明治」以降、いわゆる「近代法」が日本に誕生してからのことなのです。ちょんまげが切り落とされ、ガス燈が街を照らし、工場が煙を吐くようになった「明治」は法の世界にも大転換をもたらしました。
講義では、日本が西洋法をモデルに達成した「法の近代化」を共通テーマに、憲法および刑事法に関連する分野が日本でどのように生成・展開したのかを明らかにします。

【学習目標】
①「歴史で法を読み解く力」を身につけます。高校までに学んだ「歴史」を「法」の観点から見直し、現行法の「当たり前」を理解できるようになります。
②「比較する力」を養います。時代や国・地域などを比較することで、物事を多面的・相対的に観察し問題を解決する力を磨きます。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス (講義の進め方・成績評価・講義の内容)
第 2 回：条約改正と西洋法の継受
第 3 回：国家機構と官僚制
第 4 回：憲法制定前史①自由民権運動と私擬憲法
第 5 回：憲法制定前史②伊藤博文の憲法調査
第 6 回：憲法①大日本帝国憲法の制定とその特徴
第 7 回：憲法②大日本帝国憲法から日本国憲法へ
第 8 回：刑法①法典編纂の先駆け
第 9 回：刑法②旧派・新派と法典編纂
第10回：警察法制
第11回：治安法制①治安立法とは
第12回：治安法制②法整備と運用実態
第13回：学校・教育法制①諸学校令と勅令主義
第14回：学校・教育法制②国体観念と教育
第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
【事前学習】
・配布されたレジュメ・資料にしたがい、指示された事前学習に取り組む
【事後学習】
・解説で用いられたスライド資料を確認しながら、講義内容を復習する
・参考文献などを用いて問題を掘り下げ、自分の意見をまとめる

【テキスト】

【参考文献】
・川口由彦『日本近代法制史〔第 2 版〕』(新世社、2015 年)
・伊藤孝夫『日本近代法史講義』(有斐閣、2023 年)
・山中永之佑監修『日本現代法史論』(法律文化社、2010 年)
・山中永之佑編『日本近代法案内―ようこそ史料の森へ―』(法律文化社、2003 年)
・藤田正ほか編著『日本近現代法史・資料年表〔第 2 版〕』(信山社、2015 年)

【コメント】
成績評価の詳細は次のとおりです。
①試験 (50%)：第 15 回目に行う論述試験
②リフレクションシート＝レポート (50%)：毎回授業終了時に「リフレクションシート」を提出
※未提出回数が 6 回以上となった場合、試験を受ける資格を失います。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
ネットビジネス [学部]　＜春＞	**火 1**

【教員名称】　　**遠隔授業 (同時双方向型)**
岳　理恵

【講義概要】
インターネットの普及により、経営、医療、教育の様々な分野で、モノやサービスの創出や、既存のビジネスプロセスの革新など、新たなイノベーション創造活動は、社会や経済に画期的な変化をもたらしている。本講義では、経営工学などの種々の手法を用いて、ネットワークを介したビジネスのメカニズムについて解説する。加えて、種々の応用事例を紹介しながら、ネットビジネスを推進するための情報活用能力を養成する。

【学習目標】
ネットビジネスの仕組むについて理解を深めると共に、ネットビジネスを推進する実務的な情報活用能力を身に付ける。

【講義計画】
第 1 回：イントロダクション (情報化と経営)
第 2 回：ネットビジネスの歴史
第 3 回：ネットビジネスの発展経緯
第 4 回：ネットビジネスの現状
第 5 回：電子商取引の仕組み
第 6 回：EDI 標準
第 7 回：流通 BMS
第 8 回：電子商取引のサイト構造
(1 回目小テスト)
第 9 回：電子商取引のサイト分析
第10回：ビジネスデータの活用
第11回：イノベーション
第12回：イノベーションの応用事例
第13回：ネットビジネスのフロンティア
(2 回目小テスト)
第14回：ネットビジネスに関連する職業
第15回：授業統括
(最終レポート)

【事前および事後学習の指示】
授業予定内容を確認するには、M-Port ⇒「クラスプロファイル」⇒「ネットビジネス」⇒「コース学習」⇒「__回目」の順にアクセスしましょう。「_回目」のすぐ下になる「アジェンダ」と書いているメモ書きは、予定授業内容の目次となりますので、漏れなく学習するために、毎回の学習をスタートする前に、必ずご確認ください。

【テキスト】

【参考文献】
Digital Business and E-Commerce Management 7th Edition
by Dave Chaffey, Tanya Hemphill, David Edmundson-Bird
(Pearson)

【コメント】
課題提出 (40%)、小テスト・レポート (60%) を総合して学習到達度の観点から評価する。ただし、最終レポートを提出されなければ、失格となり、成績判断対象外となりますので、ご注意ください。

【留意事項】
講義中、進捗状況や受講生の理解度に応じて内容や進度を調整する。

講義名称	曜時
ネットワーク論　01 <春>	木 1

【教員名称】
中崎　修一

【講義概要】
ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴い、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。さらにセキュリティの観点から、情報通信ネットワーク構築・運用に関する知識は様々な分野で求められるようになった。本講義では、ネットワーク関連技術を中心に、現在および今後のネットワークシステムに関して解説する。

【学習目標】
現代社会と情報通信ネットワークとの関係の理解を深めることを目的とする。また、情報通信ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、更には新しいサービス提供やビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

【講義計画】
第 1 回：現代社会と情報通信
第 2 回：情報通信の基礎知識　n 進数の基礎、データとは、通信の方向
第 3 回：情報通信のしくみ (1)　プロトコル、階層構造、物理層、データリンク層
第 4 回：情報通信のしくみ (2)　TCP/IP(1)　ネットワーク層 (IP)
第 5 回：情報通信のしくみ (3)　TCP/IP(2)　トランスポート層 (TCP、UDP)
第 6 回：情報通信のしくみ (4)　アプリケーション層、ネットワークサービス
第 7 回：インターネット (1)　インターネットの歴史・構成
第 8 回：インターネット (2)　WWW　仕組みと構成、Web ブラウザ
第 9 回：インターネット (3)　コミュニケーションツール
第10回：有線通信、無線通信
第11回：ネットワークセキュリティ (1)　概要、セキュリティ対策の技術
第12回：ネットワークセキュリティ (2)　暗号化、セキュリティ対策の運用
第13回：情報通信技術の活用 (1)　SNS、情報倫理
第14回：情報通信技術の活用 (2)　新しいビジネスモデル、新しい技術
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
事前学習及び事後学習については、その都度配布資料等で指示する予定である。
普段から情報通信ネットワーク (携帯電話を含む) について、利便性や安全面を意識しながら利用してもらいたい。
パソコンやインターネット関連の基本的な用語理解、利用方法の習得を前提として授業を進行するため、再確認しておくこと。

【テキスト】
この一冊で全部わかる ネットワークの基本　第 2 版 福永勇二
978-4815617677 SB クリエイティブ

【参考文献】
三輪賢一、「改訂 4 版 TCP/IP ネットワーク ステップアップラーニング」、技術評論社
その他、適宜紹介

【コメント】
レポート課題を計 5 回実施予定である。(まとめレポート含む)
『その他』の内訳は、授業参加 (出席に近い)15%、授業中の成果物提出 35% とする。

【留意事項】

講義名称	曜時
農業経済論 I　<春>	水 1

【教員名称】
大島　一二

【講義概要】
近年特に、国の内外でわが国の農業と農業政策をめぐって各種の議論が高まっているが、わが国の農業・食料政策はどうあるべきかということは、非常に重要な課題である。
本講義では、農業生産の特質を踏まえた上で、日本と世界各国の農業生産と食料消費の現状と問題点、さらにこれらのあり方を考えるために、最低限必要な基礎的知識・考え方について講義する。
農業経済論 I では、農業経済、フードシステムに関する理論的な学習を行う。

【学習目標】
本講義が目標とすることは、各自が日本の農業問題および食料問題を正しく認識し、その政策の方向性について、自分の考えを述べることが出来るようになることである。

【講義計画】
第 1 回：序論、講義の進め方、評価、参考書についての紹介
第 2 回：経済発展と農業、農業部門の縮小、エンゲルの法則
第 3 回：世界人口の急増と食料
第 4 回：食料自給率の低下と影響
第 5 回：農地と地代、農業技術の進歩、農業機械化
第 6 回：農業の経営組織、大規模経営の育成
第 7 回：高齢化と新たな農業の担い手
第 8 回：農業と協同組合 (1) 日本の農協組織
第 9 回：農業と協同組合 (2) 中国の農民専業合作社
第10回：農産物貿易と貿易保護
第11回：フードシステムの発展と食品産業
第12回：食品産業のグローバル化 (1) 農業企業
第13回：食品産業のグローバル化 (2) 食品加工産業
第14回：食品産業のグローバル化 (3) 外食産業、食品小売業
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
新聞を毎日読むよう習慣付けること。

【テキスト】

【参考文献】
1) 速水佑次郎・神門善久著『農業経済論』(岩波書店)
2) 荏開津典生・鈴木宣弘『農業経済学 [第 4 版]』岩波書店　2015 年
3) 生源寺真一『農業経済学』東京大学出版会　1993 年
4) 時子山ひろみ・荏開津典生『フードシステムの経済学』医歯薬出版株式会社　1998 年
5) 大島一二・山田七絵『朝日緑源、10 年の軌跡　－中国における日系農業企業の挑戦』農林統計出版、2019 年
6) 大島一二編著『日系食品産業における中国内販戦略の転換 (日本農業市場学会研究叢書)』筑波書房、2015 年

【コメント】
対面授業を想定し、以下のように配点する。
M -Port によるレポート (必修、1 回、50 点)、課題 (5 回各 10 点、50 点) を基本とする。
さらに講義への出席を促進するため、出席点 20 点 (4 回各 5 点) を加点する。
合計 120 点となるが、評価は他の講義と同様に以下の基準である。
59 点以下 D、60 ～ 69 点 C、70 ～ 79 点 B、80 ～ 89 点 A、90 点～ 120 点 S。

【留意事項】
講義メモや講義で用いた資料については、M-Port で配布する。

【参考文献】
『文化財保護行政ハンドブック　美術工芸品編』文化庁美術工芸課編　ぎょうせい　1998 年
『博物館学 I　博物館概論、博物館資料論』　大堀哲・水嶋英治編　学文社　2013 年
『博物館概説　改訂版』関西大学出版部編　2001 年
『新博物館学　これからの博物館経営』小林克　同成社　2009 年

【コメント】
試　　験：授業最終日に、到達目標に対応できるテーマに関する論述問題を出題します。答案の構成および論理的な記述になっているかを重点を置いて評価します。
レポート：第 4 回・第 8 回・第 12 回の授業中にレポート作成による課題を出します。レポートは授業内で作成し提出してもらいます。その次回で答の講評をします。
そのほか：毎回、出席カードを提出してもらいますが、カードに授業内容を簡潔にまとめてもらいます。また、質問があれば、カードに記入してください。

【留意事項】
博物館学芸員として勤務経験のある教員が、博物館資料 (人文系文化財) の取り扱いについて解説できる。
6 月ないし 7 月中に、学外授業として府外の人文系博物館の臨地見学を実施し、博物館資料の整理や保存について解説する予定です。学外授業は 1 回予定です。このほか、可能な限り、学生自らが博物館や美術館などを訪問し、展示資料に接する時間を増やしてほしい。

講　義　名　称	曜　時
博物館資料論　＜春＞	**火 2**

【教員名称】
白石　耕治

【講義概要】
博物館資料論の講義は①博物館資料の概念、②博物館資料の分類、③博物館資料に対する学芸員の仕事、の 3 つの内容に大きく分けて行う。①では博物館資料とは何かについて、②では博物館資料の分類方法の概要を述べるとともに、学芸員が実務上必要とする行政上の分類に従い資料を具体的に提示し、その特色について、③では、学芸員の仕事として博物館資料とどのように関わっているか、収集・整理・保管・取扱い・移動・調査・撮影・展覧会の企画 (公開)・図録編集に焦点を当てて講義する。

【学習目標】
博物館資料、特に日本の美術工芸資料を中心に収集・整理・取扱い等に関する理論や方法についての知識・技術を習得し、さらに博物館における調査研究活動を深く理解して博物館資料に対する基礎的能力を養う。博物館資料に名称を付け、分類できるようになることを到達目標とする。

【講義計画】
第 1 回：「博物館資料の概念」
博物館資料論の授業ガイダンスを行う。
博物館資料の意義、価値について考え、資料の種類と分類について説明できる。
第 1 回の予習として、「博物館法」・「文化財保護法」の定義と両法による資料の分類について、文化庁ホーページや参考書等を用いて調べて予習しておくこと。
また､「博物館法」の条文は､写し等を常に手元に置くようにしてほしい。
第 2 回：「博物館資料の収集・分類・保管① (総論)」
博物館資料の収集の理念とその方法、資料の調査研究・鑑定について説明できる。
第 3 回：「博物館資料の収集・分類・保管② (人文系博物館)」
歴史学・考古学などの人文系博物館資料の収集・分類・保管について説明できる。
第 4 回：「博物館資料の収集・分類・保管③ (自然系博物館)」
自然史学などの自然系博物館資料の収集・分類・保管について説明できる。
第 1 回から第 4 回までの授業内容について課題を出すので、授業内でレポート①を作成し、提出してもらいます。
第 5 回：「博物館資料の公開の理念と方法」
博物館資料の公開の理念・方法と教育普及事業、資料化のプロセスについて説明できる。
レポート①について、授業内で講評する。
第 6 回：「博物館における調査研究活動・博物館種別の調査研究①」
博物館における資料の調査研究活動についての意義とその方法について説明できる。
博物館種別では、総合博物館における資料の調査研究について説明できる。
第 7 回：「博物館種別の調査研究②」
歴史民俗系・考古系・美術系博物館における資料の調査研究について説明できる。
第 8 回：「博物館種別の調査研究③」
野外博物館・エコミュージアム・自然史系博物館における調査研究について説明できる。
第 5 回から第 8 回までの授業内容について課題を出すので、授業内でレポート②を作成し、提出してもらいます。
第 9 回：「博物館資料の展示解説」
博物館資料のさまざまな展示解説方法と展示解説書の作成などについて説明できる。展示解説書の重要性について説明する。
レポート②について、授業内で講評する。
第10回：「人文系博物館の事例研究」
学外授業として、博物館の事例を取り上げ、施設を訪問して、資料研究について説明できる。
土曜日または日曜日に実施する。
第11回：「博物館・大学の共同調査研究」
博物館と大学との共同研究の必要性と課題を示し、その成果の公表の特質、地域社会への還元について説明できる。
第12回：「博物館資料の活用」
博物館の展覧会の形態、展覧会の計画、展示照明、展示ケース設計などについて説明できる。
第 9 回から第 12 回までの授業内容について課題を出すので、授業内でレポート③を作成し、提出してもらいます。
第13回：「博物館資料の教育的・情報的活用」
博物館における生涯学習の支援、博学連携について説明できる。
レポート③について、授業内で講評する。
第14回：「博物館資料の今後と課題」
博物館資料収集の現実と限界、展示と公開、資料の情報化について、現状と課題を説明できる。
第15回：「まとめ及び試験」
第 1 回から第 14 回までの授業の総まとめとして試験を実施する。

【事前および事後学習の指示】
シラバスの講義計画にそって、授業中に次回の授業内容について説明し、事前に教科書用プリントを配布するので､参考文献等で予習しておくこと。なお、第 1 回分は文化庁ホームページ等で、博物館資料の意義について考えておくこと。復習は、教科書用プリントを用いて授業の内容を整理しておくこと。
第 4 回・第 8 回・第 12 回で復習を兼ねたレポート課題を出します。

【テキスト】
プリント配布

【参考文献】
『文化財保護行政ハンドブック　美術工芸品編』文化庁美術工芸課編　ぎょうせい　1998 年
『博物館学Ⅰ　博物館概論、博物館資料論』　大堀哲・水嶋英治編　学文社　2013 年
『博物館概説　改訂版』関西大学出版部編　2001 年
『新博物館学　これからの博物館経営』小林克　同成社　2009 年

【コメント】
試　　験：授業最終日に、到達目標に対応できるテーマに関する論述問題を出題します。答案の構成および論理的な記述になっているかを重点を置いて評価します。
レポート：第 4 回・第 8 回・第 12 回の授業中にレポート作成による課題を出します。レポートは授業内で作成し提出してもらいます。その次回で答の講評をします。
そのほか：毎回、出席カードを提出してもらいますが、カードに授業内容を簡潔にまとめてもらいます。また、質問があれば、カードに記入してください。

【留意事項】
博物館学芸員として勤務経験のある教員が、博物館資料 (人文系文化財) の取り扱いについて解説できる。
6 月ないし 7 月中に、学外授業として府外の人文系博物館の臨地見学を実施し、博物館資料の整理や保存について解説する予定です。学外授業は 1 回予定です。このほか、可能な限り、学生自らが博物館や美術館などを訪問し、展示資料に接する時間を増やしてほしい。

講　義　名　称	曜　時
博物館展示論　＜春＞	**火 1**

【教員名称】
鮫島　泰平

【講義概要】
博物館における展示の役割を、博物館の使命との関連や来館者の視点から学び、さまざまな展示の種類を知る。展示の歴史では、博物館の種類別にその歴史をみることで、館種別の特徴や変遷を知る。展示の計画と施工では、その全体像と計画における展示評価の活用、個別の手法ごとの特徴と留意点を学ぶ。実際に博物館の展示を見て分析しする事前学習を課す。

【学習目標】
学芸員として展示を通した博物館活動を行ううえでの必要な基礎的能力を養う。実際に展示を見て分析することで展示企画を行う上で基礎となる言葉でまとめる力を高める。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス
大阪近郊の博物館の展示をとりあげ、多様な展示を概観する。また、博物館展示に類似する様々なメディアや機関と比較することで、博物館展示の特徴を考える。
第 2 回：博物館における展示の役割①使命と教育
三つの世代に分けられる博物館について、それぞれの使命とその教育観がどのように違うかを見ていくことによって、それぞれの博物館における展示の役割を考える。
第 3 回：博物館における展示の役割②顧客満足と集客
来館前から来館を経て来館後までの一連の利用者の行動の流れ、すなわち博物館体験の視点から、来館者を満足させ、集客につながる展示のありかたをみていく。
第 4 回：博物館展示の種類①人文系博物館
国内の博物館、特に歴史系の博物館展示を中心に、展示と展示論の歴史を見ていくとともに、展示の政治性にもふれながら、多様な展示の展開を見ていくことで、社会に働きかける展示の意義を考える。
第 5 回：博物館展示の種類②自然系博物館
欧米の自然史博物館に、調査研究の成果の提示としての展示のルーツを見ていく。また自然史から科学技術や生物の生態展示まで、さまざまな展示や環境的な視点で社会に働きかける展示を考える。
第 6 回：博物館展示の計画と施工
事業としての展示をつくる視点をもって計画から施工までの流れ、関係者との協力を見る。展示シナリオの作成については、コミュニケーション目標を設定して展示のねらいをはっきりさせることの重要性を認識する。
第 7 回：展示評価の活用
構成主義的な考え方に基づく展示評価について、その目的を踏まえながら、調査の方法や手法、評価結果の活用までの流れを見ていく。利用者の声を直接聞くことと、展示のねらいをはっきりさせることが不可分であることを認識する。
第 8 回：展示諸計画①ゾーニング
空間に展開する展示では、ゾーニング計画は展示の流れや文脈を具体化するうえで欠かせない。展示を見ることを助け、展示を眺める楽しさを提供するゾーニングと動線づくりを事例にそって見ていく。
第 9 回：展示諸計画②ケース・照明・演示
実物資料展示を中心に、資料保存に配慮したケース展示と照明、および理解に導く演示について、事例にそって見ていく。さらにモノを見ることによる教育という博物館の特性をどのように活かすかを考える。
第10回：展示諸計画③解説グラフィック
これは何かを解説する図解、これによって何がもたらされたかを解説する文章など、解説する内容と手法について、主に平面上の表現をみていく。展示のねらいを端的に伝えることとともに、見ることや考えることを誘発する解説活動を考える。
第11回：展示諸計画④造形・模型
博物館展示の大きな役割の一つである歴史や環境の復元を実現する技術、造形や模型について、その計画や制作の留意事項を事例にそって見ていく。また、こうした再現展示の利活用について考える。
第12回：展示諸計画⑤体験展示
近年要望の高い体験型の展示。ハンズ・オンをはじめとする多彩な手法を事例にそってみていく。引付ける力や使いやすさをつくるための留意事項とともに、遊びで終わらせずに自由な学びに導く方法を考える。
第13回：展示諸計画⑥映像・情報
解説からイメージまで、モバイルから大型画面まで、さらには双方向など、多彩な展開を見せる映像・情報メディアについて、コンテンツをよく表現するための留意事項を事例にそって見ていく。
第14回：展示諸計画⑦展示の運営
ワークシートやセルフガイド、人による解説や展示室でのプログラム、さらには展示替えや改修など、リピーターの獲得に欠かせない展示運営のあり方を考える。
第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
博物館の展示を実際に自分の目で見て体験することが必要。何が自分を引付けるのか、何が自分を遠ざけるのか、経験することが展示をつくるうえでの基礎となる。

【テキスト】

【参考文献】
『展示論』　日本展示学会編　雄山閣
『市民の中の博物館』　伊藤寿朗　吉川弘文館
『ひらけ、博物館』　伊藤寿朗　岩波ブックレット
『博物館をみせる』　K．マックリーン　玉川大学出版会
『ハンズ・オンとこれからの博物館』　ティム・コールトン　東海大学出版会
『こどものための博物館』　染川香澄　岩波ブックレット

【コメント】
最終回の試験および、博物館見学レポートによって評価する。

【留意事項】
博物館展示の企画から制作までを請け負った経験のある教員が講義する。

講　義　名　称	曜　時
比較文学 A　＜春＞	水 3

【教員名称】
岩男　久仁子

【講義概要】
西洋古典期の早くから「イソップ寓話」は流布していた。様々な形態で文字化され保存されてきている。現在では全世界に広まっている「イソップ寓話」をその初期の形態を中心に他の時代の物 (特に日本のイソップ寓話) との比較を行い、イソップ寓話の特質を見ていく。

【学習目標】
「イソップ伝 (イソップの生涯の物語)」を中心に、講義を進めていく。2000 年以上も前から伝わる伝承から現在まで脈々とつながる思想を読み解くとともに、当時の社会背景なども、日本と比較していく。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション
　　どういう視点で行う講義なのか、評価の方法など解説。
第 2 回：イソップ寓話・伝記　伝承系統図　解説①
第 3 回：イソップ寓話・伝記　伝承系統図　解説②
第 4 回：①原典イソップ伝の紹介　(第 1 部)
第 5 回：②原典イソップ伝の紹介　(第 1 部)
第 6 回：③原典イソップ伝の紹介　(第 2 部)
第 7 回：④原典イソップ伝の紹介　(第 2 部)
第 8 回：⑤原典イソップ伝の紹介　(第 3 部)
第 9 回：⑥原典イソップ伝の紹介　(第 4 部)
第10回：⑦原典イソップ伝の紹介　(第 5 部)
第11回：⑧原典イソップ伝の紹介　(第 5 部)
第12回：日本に伝播したイソップ寓話 (明治期以後)
第13回：難題解決譚　蟻通明神縁起
第14回：難題解決譚　賢者アヒカル物語
第15回：まとめのテスト

【事前および事後学習の指示】
詳細は講義中に指示するが、理解を深めるために、「イソップ寓話集」を読む。
「イソップ寓話集」は数多くあるが、手に入るもので良い。

【テキスト】

【参考文献】
『イソップ寓話の世界』　中務哲郎著　ちくま新書　600 円
『イソップ寓話集』　中務哲郎訳　岩波文庫　700 円

【コメント】
レポート 33%→こちらが指定するテーマでレポートを必ず提出。未提出の場合は、単位認定しません。
レポートは、提出すれば「合格」ではありません。厳しい条件をクリアしたレポートのみ、レポートの内容を評価します。
試験 33%→講義の総まとめとして春学期の終わりに行います。試験を受けない場合は、単位認定しません。
その他 34%→講義中に課す小課題についてのコメント (皆さんの意見・感想等) を 11 回以上提出すること。それ以下であれば､単位認定しません。

【留意事項】
社会人の方へ (聴講に際して)
講義中もパソコンやタブレットを使用して資料を見てもらうことを考えているので紙資料は用意しないつもりです。(M-Port に掲載の資料を印刷していただくことは問題ありません。) 予めご了承のほどお願いいたします。

講　義　名　称	曜　時
比較文化研究 - インドネシアと日本の音楽文化 A ＜春＞	金 3

【教員名称】
由比　邦子

【講義概要】
インドネシアと日本は地域も民族も文化も異なるが、東南アジアもしくは東アジアの域内における位置関係、さらにインドもしくは中国という古代の大国の影響を色濃く受けているという点で共通性がある。そして、両国の音楽文化には明らかな類似性、またその反面、似て非なる相違点が見られる。本講義では、音楽の演奏形態と楽器に特に焦点を当てて、両国の古典音楽の諸相を対比させて論じる。加えて古典音楽とポピュラー音楽の関わりについても取り上げる。

【学習目標】
音楽は、それを生み出す人間が属する文化の脈絡内で理解しなければならない。したがって、「音楽は世界共通の言語ではない」ということを説明できるようにする。

【講義計画】
第 1 回：音楽から見たインドネシアと日本の文化的背景
第 2 回：多様な楽器から成る日本の合奏形態 (雅楽)
第 3 回：音の同質性を特徴とする日本の合奏形態 (長唄)
第 4 回：音の同質性を特徴とするインドネシアの合奏形態 (ガムラン)
第 5 回：ゴングの生成と発展
第 6 回：ゴングの組み合わせ奏という発想
第 7 回：金属楽器と竹楽器の関係
第 8 回：ドレミファソラシドではない音階
第 9 回：型の組み合わせによる " 創作 "
第10回：戦争を媒介とする音楽の伝播
第11回：ポピュラー音楽をも巻き込む古典音楽のパワー
第12回：一直線にやってきた弦楽器
第13回：幻の弓形ハープ
第14回：日本とインドネシアの交差点としての木琴
第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
前回の授業内容の確認を事前学習とし、授業ノートの整理および授業内容に関連する音楽チェック (YouTube など) を事後学習とする。

【テキスト】

【参考文献】
月渓恒子『日本音楽との出会い　日本音楽の歴史と理論』(東京堂出版)
皆川厚一編『インドネシア芸能への招待　音楽・舞踊・演劇の世界』(東京堂出版)
福岡まどか『インドネシア上演芸術の世界　伝統芸術からポピュラーカルチャーまで』(大阪大学出版会)

【コメント】
第 15 回に実施する試験 70%、不定期に計 5 回実施するミニテスト 30%

【留意事項】
楽器博物館で民族楽器の調査・研究に携わった経験を持つ教員が、インドネシアと日本の楽器について解説する。

講義名称	曜時
比較文化研究 - 近現代の日本と朝鮮半島 A ＜春＞	水 4

【教員名称】
西村　直登

【講義概要】
日本の「敗戦」、朝鮮植民地支配の「解放」から 75 年以上が過ぎた。にもかかわらず、戦争と植民地支配の歴史をめぐって、日本と朝鮮半島のあいだでは、「過去」をどのように克服していくのかをめぐる論争がいまもなお続いている。いわゆる「歴史認識問題」といわれるような論争は、政治やナショナリズム、記憶と結びつきながら複雑化し、新聞やテレビ、インターネットを含むメディアによっても増幅されている。そのような「過去」をめぐる対立や葛藤、そして交流の歴史は、単に国家間のみならず、日本と朝鮮半島の人びとの「現在」の課題であり続けている。
そこで本講義では、戦前における日本と朝鮮半島とのあいだの基本的な歴史を概観する。そして、日本と朝鮮半島を単に「比較」するのではなく、たがいの「関係」性を重視し、その関係のなかで生じたさまざまな人びとの対立・葛藤・交流などの意味を歴史的に考えたい。その際、視聴覚資料 (パワーポイント・映像・写真・史料など) を積極的に用いて、授業内容に対する理解を深め、想像力を高める工夫を行う。

【学習目標】
朝鮮半島の歴史・社会・文化について基本的な知識を習得する。
近現代の日朝・日韓関係について想像力を働かせながら、歴史的に考えることができるようになる。
国際的な諸問題に対して、主体的に物事を考え、相互理解ができるようになる。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：「開国」をめぐる日本と朝鮮
第 3 回：日清・日露戦争と朝鮮①　東学農民戦争と日清戦争
第 4 回：日清・日露戦争と朝鮮②　日露戦争と朝鮮の「保護国」化
第 5 回：日本の朝鮮植民地支配①　「韓国併合」
第 6 回：日本の朝鮮植民地支配②　「武断政治」と 3.1 独立運動
第 7 回：日本の朝鮮植民地支配③　「文化政治」と「協力」体制
第 8 回：日本の朝鮮植民地支配④　戦時期朝鮮における総動員体制
第 9 回：日本の朝鮮植民地支配⑤　「同化」と「排除」
第10回：日本の朝鮮植民地支配⑥　植民地朝鮮で生きた日本人
第11回：戦前における在日朝鮮人①　朝鮮人の渡日と社会の形成
第12回：戦前における在日朝鮮人②　関東大震災と朝鮮人
第13回：戦前における在日朝鮮人③　広島・長崎と朝鮮人
第14回：戦前における在日朝鮮人④　京都と朝鮮人
第15回：戦前における在日朝鮮人⑤　大阪と朝鮮人

【事前および事後学習の指示】
毎回授業で配布するレジュメや参考資料、授業で紹介した参考文献を読んだり調べたりしておくこと。
日々、日本と朝鮮半島に関する新聞記事やニュースに関心を持って、読んだり見たりしておくこと。

【テキスト】

【参考文献】
『日韓交流の歴史：先史から現代まで』(明石書店、2007 年)
『在日朝鮮人ってどんなひと？』(平凡社、2012 年)
『在日朝鮮人：歴史と現在』(岩波新書、2015 年)
『在日コリアンの歴史を歩く：未来世代のためのガイドブック』(彩流社、2017 年)
『だれが日韓「対立」をつくったのか：徴用工、「慰安婦」、そしてメディア』(大月書店、2019 年)
『調べ・考え・歩く 日韓交流の歴史』(明石書店、2020 年)
『日韓の歴史をたどる：支配と抑圧、朝鮮蔑視観の実相』(新日本出版社、2021 年)
『「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし』(大月書店、2021 年)
『ひろがる「日韓」のモヤモヤとわたしたち』(大月書店、2023 年)

【コメント】
レポート：本授業の内容についての理解を問う期末レポートを作成する。
その他：各授業内容に関するコメントペーパーを作成する。
※出席率・コメントペーパーの提出率が 60% 未満の場合、成績評価の対象としない。

【留意事項】
春・秋学期に開講する「比較文化研究－近現代の日本と朝鮮半島 A・B」(戦前・戦後編) をそれぞれ受講することが望ましい。

講義名称	曜時
比較文化研究－日本と韓国の民俗と現代文化 A ＜春＞	月 3

【教員名称】
崔　杉昌

【講義概要】
本講座は民俗学・文化人類学の観点から現代における一般庶民の暮らしや生活文化を語り、その意味合いを正しく理解することを目的とします。春学期は民俗学 (文化人類学) の学問的特質を学びしながら、民俗学の成果に基づいた日本の民俗文化の事例を取り上げ、毎日の暮らしの中でごく当たり前に思っていた文化事象について学問的に問い直していくと同時に自文化に対する理解と知的好奇心を培っていきたいと思います。

【学習目標】
・比較文化研究方法論として民俗学・文化人類学の手法を身につける。
・「あたりまえ」だと思っている日々の生活を、新たな視線でとらえ直す面白さに気づいてもらう。
・自文化に対す知的好奇心を高めていく。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション
　　講義内容の説明と周知事項の案内
第 2 回：民俗学へのいざない
　　民俗学はどんな学問なのか？
第 3 回：柳田国男を知っていますか？
第 4 回：ムラ社会とはどんな社会？
第 5 回：ムラ社会と交際
　　「徳島県祖谷の女たち」DVD
第 6 回：子どもの民俗
第 7 回：若者宿とは？
　　「答志島の若者宿」DVD
第 8 回：家と家族
第 9 回：イエを訪れるカミ
第10回：四国遍路
　　「八十八カ所の旅」DVD
第11回：妖怪と異界
第12回：都市と祭り
　　「祇園祭」を楽しむ
第13回：お中元、お歳暮はなぜするのか？
第14回：お葬式とお墓
第15回：総括

【事前および事後学習の指示】
・必要に応じて配布する資料を事前に読んでおくこと。
・授業後は授業感想や質問を寄せてもらう。
・自文化・異文化理解への積極的な姿勢が求まられる。

【テキスト】

【参考文献】
八木透編『こんなに面白い民俗学』ナツメ社
岸祐二『手にとるように民俗学がわかる本』かんき出版
福田アジオ他『図説日本民俗学』吉川弘文館
八木透編『新・民俗学を学ぶ』昭和堂

【コメント】
・初日のオリエンテーションには必ず出席してほしい。
・国立民族学博物館 (吹田市) または大阪くらしの今昔館 (大阪市北区) の見学予定
(見学は相談のうえ、代替え授業として土曜日に実施する予定)

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
ビジネス英語 A　＜春＞	**木 2**

【教員名称】
OTION，Tony

【講義概要】
Business English helps students establish fundamentals on using English for (spoken & written) communication in business. Students expect to practice key concepts introduced during the course through the assignments, case analysis and presentations.

【学習目標】
By the end of the course students will be able to take a strategic approach to communication in business English, write persuasive messages in business English, deliver persuasive English business presentations, and use key business terminology.

【講義計画】
第 1 回：An overview of the course
Unit 1　就職活動
・Telephone Communication: 取り次いでもらう・取り次ぐ
・Business Topics 高まるビジネス英語の必要性
第 2 回：Unit 2　面接
・Telephone Communication: 間違い電話
・Business Topics 就職面接のポイント
第 3 回：Unit 3　会社プロフィール
・Telephone Communication: 不在のときの応対
・Business Topics 日本企業の特徴
第 4 回：Unit 4　仕事の内容
・Telephone Communication: 取り次ぎを断る
・Business Topics 会社の組織
第 5 回：Unit 5　会議開催の通知
・Telephone Communication: メッセージを残す・あずかる
・Business Topics グローバル企業でのコミュニケーション
第 6 回：Unit 6　ビジネスパートナーを空港で出迎える
・Telephone Communication: 本人による電話応対
・Business Topics 出入国手続き
第 7 回：Unit 7　受付での対応
・Telephone Communication: ボイスメール
・Business Topics 国際ビジネスで大切なホスピタリティの精神
第 8 回：Unit 8　紹介と名刺交換
・Telephone Communication: アポイントメントをとりつける
・Business Topics 異文化間コミュニケーション
第 9 回：Unit 9　会議冒頭のあいさつ
・Telephone Communication: 会議に遅れることを伝える
・Business Topics 訪日外国人を増やすための政府の取り組み
第10回：Unit 10　プレゼンテーション
・Telephone Communication: 打ち合わせの申し入れ
・Business Topic プレゼンテーションのスキル
第11回：Unit 11　交渉
・Telephone Communication: ねぎらいと別れのあいさつ
・Business Topics 望ましいネゴシエーションとは？
第12回：Unit 12 接待
・Telephone Communication: 感謝を述べる
・Business Topics 海外のビジネスパートナーを接待する
第13回：Business Writing
第14回：Conclusion and review
第15回：Final Exam Review Session

【事前および事後学習の指示】
The above Lesson Plan is meant to identify the specific Units, Lessons, and Activities from the required Textbooks that will be covered in this Course. It reflects the sequence in which they will be covered; it does not, however, represent the precise amount of class time that each Unit, Lesson, or Activity will occupy.
I will provide you with a more detailed Syllabus, explaining specific Course requirements, policies, and procedures, as well as a precise day-to-day schedule of instruction that will indicate daily lesson and homework assignments, together with the assessment criteria and grading formula for their Class.

【テキスト】
Business English ?Basic Communication Skills for International Business Situations 辻和成・辻勢都・Margaret M.・Lieb
978-4-255-15659-0 朝日出版社

【参考文献】

【コメント】
Grades will be based on the quality of the papers submitted. Students who behave inappropriately in class will have their grades reduced.

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
ファイナンス I　＜春＞	**水 2**

【教員名称】
北野　友士

【講義概要】
英語のことわざに“A fool and his money are soon parted”(「愚者の金は身につかない」) というものがあるそうです。お金に関する知識がないと生きていけないわけではありませんが、人生とお金との関係を理解し、お金に関して賢くなることは、豊かな人生を歩むうえで非常に重要です。なお、「豊かな人生」とは必ずしも「お金持ちになる」ことを意味しません。
本講義では、お金に関する意思決定の学問といえる「ファイナンス」について学びます。ファイナンスの対象としては企業や政府も想定できますが、この講義では家計の意思決定を中心に扱います。

【学習目標】
・ライフデザインおよびライフプランに基づくファイナンシャルプランニング能力を身につける。
・貨幣の時間的価値などファイナンス論の基礎的な考え方を身につける。
・ファイナンシャルプランニングおよびファイナンス論に基づいて、借金、リスク管理、税金・社会保険、および投資手法を使いこなす。

【講義計画】
第 1 回：イントロダクション
第 2 回：ライフデザイン・ライフプランとファイナンシャルプランニング (1)FP の基礎
第 3 回：ライフデザイン・ライフプランとファイナンシャルプランニング (2) 学生生活と FP
第 4 回：ファイナンス論の基礎 (1) 貨幣の時間的価値
第 5 回：ファイナンス論の基礎 (2) ファイナンスにおける「年金」と現在価値
第 6 回：ファイナンス論の基礎 (3) ファイナンス論に基づく FP
第 7 回：ファイナンシャルプランニングと借金 (1) 借入による資金の異時点間の移動
第 8 回：ファイナンシャルプランニングと借金 (2) 借入の活用事例と FP
第 9 回：ファイナンシャルプランニングとリスク管理 (1) リスクマップに基づくリスク管理
第10回：ファイナンシャルプランニングとリスク管理 (2) 学生生活で気を付けたいトラブル
第11回：ファイナンシャルプランニングと税金および社会保険 (1) 税金および社会保険が所得に与える影響
第12回：ファイナンシャルプランニングと税金および社会保険 (2) 税金および社会保険を考慮した FP
第13回：ファイナンシャルプランニングと投資の基礎 (1) 投資の基礎と FP
第14回：ファイナンシャルプランニングと投資の基礎 (2)FP に基づく投資手法の活用
第15回：ファイナンス I のまとめ

【事前および事後学習の指示】
受講前にテキストに目を通し、受講後はしっかり復習したうえで毎回の小テストに挑んでください。また事後学習の延長として、ファイナンス II と合わせて受講し、FP(ファイナンシャル・プランニング) 技能士 3 級、ひいては FP 技能士 2 級に合格できる力をつけ、ぜひ検定に挑戦してください。

【テキスト】
学生に読んで欲しいお金の攻略本ーゼミ生と考えた金融リテラシーのすゝめー 北野友士
978-4802085021 パブファンセルフ
紙の出版物 (税込 1980 円) と電子書籍 (税込 1100 円) が選べるので、いずれかを選んで購入しておいてください。

【参考文献】
・ツヴィ・ボディ、ロバート・C・マートン、デーヴィッド・L・クリートン (著)、大前恵一朗 (訳)(2011)『現代ファイナンス論　原著第 2 版』ピアソン桐原。
・手嶋宣之 (2011)『基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門』ダイヤモンド社。
・ジョン・ケイ (著)、薮井真澄 (訳)(2018)『世界最強のエコノミストが教える お金を増やす一番知的なやり方 賢明なる投資家のためのパーソナル・ファイナンス読本』ダイヤモンド社。

【コメント】
毎回の授業の内容理解を問う小テスト：70% (対面授業か遠隔授業かを問わず web 上で実施)
全体の復習テスト：30%(第 15 回のまとめ後の web テスト)
※本科目が対面授業となるか遠隔授業となるかはシラバス執筆時点では未定ですが、M-Port のテスト機能を全面的に使います。

【留意事項】
対面授業となる場合、私語は周りに対する迷惑行為であり、感染症対策の観点からも厳しく対処します。
遠隔授業となる場合、通信環境の不具合による提出遅れは社会に出たら言い訳になりませんので、必ず余裕をもって取り組むようにしてください。

講義名称	曜時
福祉レクリエーション支援論　＜春＞	**金 2**

【教員名称】
水流　寛二

【講義概要】
年齢、障害に関わりなくすべての人々がいきいきと生きる権利を有しています。 レクリエーションは、人がその人らしく生きていく上で不可欠であり、その本質を理解することが重要です。生活とレクリエーションの結びつきを理解した上で、レクリエーションを福祉現場で展開していくための考え方や方法論を学びます。福祉レクリエーションの理念やサービスの目的を理解し、具体的に支援計画に反映させる過程を学びます。

【学習目標】
①医療・保健・福祉領域におけるレクリエーションの考え方と意義を理解する
②福祉レクリエーション支援方法、支援計画 (支援プロセス) を理解する

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション
・レクリエーションのイメージ
・授業のねらい、すすめ方、評価について
第 2 回：レクリエーションの基本的理解
第 3 回：福祉レクリエーションの基礎的理解
第 4 回：福祉レクリエーションの理解～事例から学ぶ
第 5 回：福祉レクリエーション支援とは
第 6 回：福祉レクリエーション支援の方法①～福祉レク情報の収集
第 7 回：福祉レクリエーション支援の方法②～ TR モデルのプロセス
第 8 回：個別レクリエーション支援の計画①～個別支援とアセスメント
第 9 回：個別レクリエーション支援の計画②～目標設定と支援計画
第10回：コミュニケーションワークの実際
第11回：グループレクリエーション支援の意義と方法
第12回：グループレクリエーション支援の実際①～施設利用者へのレク支援
第13回：グループレクリエーション支援の実際②～地域福祉サービス利用者へのレク支援
第14回：グループレクリエーションの展開
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
福祉レクリエーションに関する情報収集と福祉レクリエーション活動支援体験および振り返りを積極的に行うこと。

【テキスト】

【参考文献】
・日本レクリエーション協会編　楽しさを追求を支える理論と支援の方法 (公益財団法人　日本レクリエーション協会)
・日本レクリエーション協会編　楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施 (公益財団法人　日本レクリエーション協会)
・日本レクリエーション協会編　楽しさの追求を支えるための介入技術 (公益財団法人　日本レクリエーション協会)

【コメント】
①試験において、到達目標に対応するテーマに関する論述問題を出題する。答案の構成および論理的な記述になっているかどうかに重点を置いて評価する。
② A4・1 枚程度のレポート課題を 3 回課す (到達目標に対応するテーマの中から任意のものを 3 つ選択)。
③毎回のコメントシートおよびグループ発表の内容と討論への参加度合いによって評価する。

【留意事項】
障害者福祉センターにおける体育講座指導経験のある教員が、ホスピタリティ・トレーニングやアイスブレーキングの技法を用いたコミュニケーション・ワークについて実例を交えて指導する。

講義名称	曜時
文化人類学 A　＜春＞	**月 2**

【教員名称】
小池　誠

【講義概要】
文化人類学は自分たちとは異なる文化を調査 (フィールドワーク)、研究し、この世界に住むさまざまな人々の多様性を明らかにしてきました。この講義では家族と結婚を中心テーマに選び、文化人類学における重要な問題を取り上げます。とくに日本の家族と結婚、そして日本とはまったく異なるインドネシア東部のスンバ島の親族と結婚を取り上げ、具体的な事例をとおして文化人類学の考え方を講義します。この講義は異文化理解を深め、「多文化共生をめざす国際理解の促進」につながることを目的としています。文化の多様性だけでなく、人類としての普遍性も見ていきたいと思います。私たちの常識とまったく違う習慣や社会のあり方を「遅れたもの」と見下すのではなく、それぞれに独自の価値を見いだす文化相対主義の視点を身につけてください。

【学習目標】
①文化人類学の基本的な用語と概念をきちんと理解し、正しい知識をもつ。
②文化人類学の考え方を理解し、それにもとづいて授業で取り上げた事例について自分の考えを述べることができる。
③講義で学んだことを正確にまとめ、それについて自分の意見を述べることができる。

【講義計画】
第 1 回：授業ガイダンス：文化人類学の家族・結婚研究
第 2 回：インドネシア東部・スンバ島でのフィールドワーク
第 3 回：スンバの父系制：祖先との系譜のたどり方
第 4 回：母系社会：インドネシア・ミナンカバウ
第 5 回：日本の家族史：イエと家族
第 6 回：現代日本のゆらぐ家族
第 7 回：現代の生殖医療技術と親子関係
第 8 回：実子と養子
第 9 回：結婚の多様性：誰が誰と結婚するか
第10回：一般交換と母方交叉イトコ婚
第11回：スンバの母方交叉イトコ婚
第12回：スンバの結婚と交換
第13回：現代日本の愛と結婚
第14回：新しい結婚のかたち：台湾の同性婚
第15回：講義のまとめ

【事前および事後学習の指示】
次回の授業までに読んでおくべき資料を配布しますので、よく読んでから授業に出てください (事前学習)。また、授業後、かならず資料を読み直して事後学習してください。なお、授業で取り上げたテーマに関連する資料などを積極的に読むようにしてください。

【テキスト】

【参考文献】
小池誠、2005、『東インドネシアの家社会――スンバの親族と儀礼』晃洋書房
平井晶子ほか編著、2017、『シリーズ家族研究の最前線② 出会いと結婚』日本経済評論社
山下晋司・船曳建夫編、1997、『文化人類学キーワード』有斐閣
このほか、講義のテーマに応じて授業中に参考図書を紹介する。

【コメント】
試験は授業内容に関する小テスト (3 点満点) を計 10 回実施する (30 点)。
レポートは中間レポート (10 点) および最終レポート (30 点) の計 2 回実施する。
その他は、毎回の授業にかんする質問とコメントなど、授業への積極的な参加度によって評価する (30 点)。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
文化人類学 B　＜春＞	**木 1**

【教員名称】
小池　誠

【講義概要】
文化人類学は自分たちとは異なる文化を調査 (フィールドワーク)、研究し、この世界に住むさまざまな人々の多様性を明らかにしてきました。この講義では宗教と儀礼を中心テーマに選び、人類学における重要な問題を取り上げます。とくにイスラームと、インドネシア東部のスンバ島の儀礼、日本の神道と祭を取り上げ、具体的な事例をとおして文化人類学の考え方を講義します。この講義は異文化理解を深め、「多文化共生をめざす国際理解の促進」につながることを目的としています。文化の多様性だけでなく、人類としての普遍性も見ていきたいと思います。私たちの常識とまったく違う習慣や社会のあり方を「遅れたもの」と見下すのではなく、それぞれに独自の価値を見いだす文化相対主義の視点を身につけてください。

【学習目標】
講義をとおして、以下の 3 つの目標を達成できるようにします。
①文化人類学の基本的な用語と概念をきちんと理解し、正しい知識をもつ。
②文化人類学の考え方を理解し、それにもとづいて授業で取り上げた事例について自分の考えを述べることができる。
③講義で学んだことを正確にまとめ、それについて自分の意見を述べることができる。

【講義計画】
第 1 回：授業ガイダンス：文化人類学の宗教研究
第 2 回：宗教研究とフィールドワーク
第 3 回：神とイスラーム
第 4 回：イスラームの暦と礼拝
第 5 回：越境するムスリムとモスク
第 6 回：インドネシア・スンバの祖先とマラプ (カミ)
第 7 回：インドネシア・スンバの家屋と儀礼
第 8 回：インドネシア・スンバの死者儀礼
第 9 回：スンバの巨石墓
第10回：日本の祖先と霊魂観
第11回：現代日本の葬送儀礼と墓
第12回：日本の神と神社
第13回：日本の祭：神事としての天神祭
第14回：日本の祭：風流としての天神祭
第15回：講義のまとめ

【事前および事後学習の指示】
次回の授業までに読んでおくべき資料を配布しますので、よく読んでから授業に出てください (事前学習)。また、授業後、かならず資料を読み直して事後学習してください。なお、授業で取り上げたテーマに関連する資料などを積極的に読むようにしてください。

【テキスト】

【参考文献】
小池誠、2005、『東インドネシアの家社会――スンバの親族と儀礼』晃洋書房
山下晋司編、2005、『文化人類学入門』弘文堂
関一敏・大塚和夫編、2004、『宗教人類学入門』弘文堂
このほか、講義のテーマに応じて授業中に参考図書を紹介する。

【コメント】
試験は授業内容に関する小テスト (3 点満点) を計 10 回実施する (30 点)。
レポートは中間レポート (10 点) および最終レポート (30 点) の計 2 回実施する。
その他は、毎回の授業にかんする質問とコメントなど、授業への積極的な参加度によって評価する (30 点)。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
法学 A　01 ＜春＞	**水 2**

【教員名称】
楠本　敏之

【講義概要】
社会生活を送っている以上、わたしたちは法と無縁でありえません。現代社会を生きるために、その基本的枠組みを理解し、とくに民主主義国家では、わたしたちがわたしたちのために法を作っているという観点から法の世界にふれていきます。課題をみつけその解決のための知識の習得とその活用を内容とします。

【学習目標】
1. 基礎的な法律知識を身につけ、法的な思考力を獲得する
2. 具体的な事例を通して、課題を解決するための基礎的な力を身につける
3. 国際社会で主体的に生き、平和で民主的な国家及び社会の一員として生きるために必要な能力を養う

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス (法学の初歩)
第 2 回：法学の基礎 (法の意義・体系・裁判手続など)
第 3 回：憲法の基礎① (基本原理と人権)
第 4 回：憲法の基礎② (統治機構)
第 5 回：民法の基礎① (総則・契約法など)
第 6 回：民法の基礎② (不法行為など)
第 7 回：民法の基礎③ (家族法など)
第 8 回：刑法の基礎① (犯罪と刑罰の基本原則・機能など)
第 9 回：刑法の基礎② (犯罪と刑罰の総論・各論)
第10回：企業活動と法の基礎
第11回：行政と法の基礎
第12回：国際法の基礎① (国際社会の法的規律 (条約、慣習法、国連など))
第13回：国際法の基礎② (国際私法など)
第14回：国際法の基礎③ (その他の問題)
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
事前および事後学習の範囲については、講義日前までに M-Port で配信する授業資料により具体的に提示します。

【テキスト】

【参考文献】
松井茂記ほか『はじめての法律学 (第 6 版)』(有斐閣・2020)
池田真朗ほか『法の世界へ (第 9 版)』(有斐閣・2023)

【コメント】
備考　学期末の 2 回のレポートのみで評価します (各 50%)。ただし、毎回の授業に関し定められた形式で M-Port を通じて課題を提出することを義務とし、その提出が 11 回以上の者のみが成績評価の対象となります。

【留意事項】
特記事項なし。

講義名称	曜時
法学特講 - 消費者法入門　＜春＞	**木 1**

【教員名称】
田中　志津子

【講義概要】
私達は「消費者」。しかし、消費者だけでは社会は成り立たず、消費者等に物やサービスを提供する事業者と、消費者や事業者を保護し又は規制する行政が存在する。私達消費者は法に囲まれて生活をしているが、自ら身を守る道具として、また、積極的に事業者等に働きかける道具として法を活用するためには、必要な知識を身に付ける必要がある。この講義では、特定商取引法を中心に、「消費者」として身につける必要があるものを扱う。

【学習目標】
各自が「消費者市民社会」の中の消費者の 1 人であることを自覚し、「よりよい消費者」となるために必要な知識を習得し、消費者を害する行為を見分け、直面した問題を習得した知識をもって解決できる力を身につける。

【講義計画】
第 1 回：消費者とは
第 2 回：コピペ・SNS と著作権
第 3 回：個人情報保護
第 4 回：訪問販売
第 5 回：通信販売
第 6 回：送付商法・電話勧誘販売
第 7 回：押し買い
第 8 回：特定継続的役務提供契約
第 9 回：連鎖販売取引
第10回：製造物責任
第11回：食品表示
第12回：クレジット契約
第13回：金融取引
第14回：電子書籍と権利
第15回：現代社会と消費者

【事前および事後学習の指示】
・まず、各自が「消費者」としての行動を意識すること。また、各項目について新聞等に目を通し、社会問題となっている事象について、消費者の目線から問題の解決策を考えること。
・「消費者」として身の回りで調べる課題を課すことがある (初回講義時に説明する)。

【テキスト】

【参考文献】
・くらしの豆知識 (2024 年版)、国民生活センター編、国民生活センター (購入は任意。詳細は初回講義時に説明する。)
・最新版の六法を毎時限持参すること。

【コメント】
・小テスト・期末テストを行う。
・調べ学習による評価も行う予定である。

【留意事項】

講義名称	曜時
法学特講 - 政治と行政　＜春＞	**金 2**

【教員名称】
小島　和貴

【講義概要】
法や政策はいかに形成されるのかをテーマにして議論を行うこととしたい。日本国憲法第 41 条は、国会が国の唯一の立法機関であるとする。しかし日本で成立する法律の多くは内閣によって提出された法案を基にしており、その法案の多くは、各省庁によって用意されるのである。消費税の例を考えてみても明らかなように、ひとつの法律ができれば、私たちの生活は変化を強いられる場合が多い。そこで、政府や国会の議論を見ながら、いまどのような法律が制定されそうになっているのか、仮に制定されたならば、私たちの生活はどのように変化するのか、すでに制定されている法律との整合性はどうなのか、それは好ましいことなのか等を判断することが重要となる。本講義では、長与専斎を事例として、日本の政策がいかに形成されるのかについて接近する。

【学習目標】
法や政策の形成の視点から以下の項目を説明することができるようになる。
・政治制度の違いについて各国と比較しながら説明することができる。
・政党の役割と活動について説明することができる。
・内閣の役割と活動について説明することができる。
・公務員の役割と活動について説明することができる。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション (この授業の進め方、配布する資料、授業中のアクティビティ等について説明する)
第 2 回：日本の「近代化」
第 3 回：日本の政治と西洋諸国の動向：岩倉遣外使節団
第 4 回：官僚の役割：制度の形成 (医制)
第 5 回：中間のまとめ：日本の政治と西洋
第 6 回：近代国家の建設と社会問題：コレラの流行
第 7 回：政策の実施と修正：「衛生事務拡張論」
第 8 回：政策の実施と警察：感染症対策
第 9 回：「衛生警察」
第10回：中間のまとめ：政策の形成と官僚
第11回：行政と住民の協働
第12回：官僚とその人脈
第13回：官僚の活動と公務員制度の形成
第14回：官僚とポスト：衛生局長退任以後の長与専斎
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
(事前学習) 自分たちの身近な法律や政策を概観する。
(事後学習) 授業で学んだことを具体的に説明することができる。

【テキスト】
長与専斎と内務省の衛生行政 小島和貴
978-4-7664-2750-9 慶応義塾大学出版会

【参考文献】

【コメント】
具体的には初回授業にて説明するため受講予定者は必ず出席すること。
「試験」は「まとめのレポート」として実施される。
授業中に発言を求めることがある。受講予定者は、その都度、自身の考えを述べることができるよう、準備すること。
毎回レポートの作成とプレゼンテーションの時間が設けられる。

【留意事項】

講義名称	曜時
マクロ経済学　02 ＜春集＞	火 4/ 金 3

【教員名称】
中村　勝之

【講義概要】
マクロ経済学の主要な課題は、一国経済の動向を規定する GDP(国内総生産) の決定メカニズム、およびそこから派生する経済成長、失業、インフレーションといった諸変数の決定メカニズムを探り、その上で、政府によるマクロ経済政策 (景気対策とほぼ同義) の効果を理論的に検証することにある。だが入門書で語られていることと今の日本経済の現状を素朴に観察したとき、かなりの食い違いに気づく。そこにはいくつかの理由があるのだが、その 1 つとして確実に言えそうなのは、入門書では経済の「グローバル化」、すなわち対外経済取引をほとんど捨象していることが問題を見えにくくしているのである。
そこでこの講義ではマクロ経済学の基礎知識の 1 つのゴールである IS-LM 分析を、対外経済取引が行われる状況に拡張した議論 (マンデル＝フレミング・モデル) を最終到達点として、マクロ経済学の基礎知識を解説していく。
なおこの講義では数学をより積極的に使用する予定にしているが、初学者で対応可能な操作を行うので、恐れずに受講していただければ幸いである。

【学習目標】
学部初級レベルのマクロ経済学は「連立方程式体系」で構成され、数多くの式と記号で記述される。これを数多く触れながら、
① 背後にある前提
② 論理を追求した際の整合性
③ 政策上の帰結と含意
これらを理解していただきたい。

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス
(このときに成績評価基準の詳細を通知する。)
第 2 回：文法としての経済数学 I (関数と方程式)
第 3 回：文法としての経済数学 II (微分法)
第 4 回：GDP I (三面等価の原則)
第 5 回：GDP II (さまざまな指標)
第 6 回：GDP III (名目と実質)
第 7 回：主要関数一覧 I (需要面の諸関数)
第 8 回：主要関数一覧 II (供給面の諸関数)
第 9 回：乗数理論 I (ノーマルケース)
第10回：乗数理論 II (均衡財政主義)
第11回：IS － LM 分析 I (均衡の導出)
第12回：IS － LM 分析 II (ノーマルケース)
第13回：IS-LM 分析 III (経済政策論争の入り口)
第14回：AD-AS 分析 I (ノーマルケース)
第15回：AD-AS 分析 II (新古典派ケース)
第16回：AD-AS 分析 III (ケインズ革命の核心)
第17回：AD-AS 分析 IV (ケインズ本人のケース)
第18回：AD-AS 分析 V (ケインズ派ケース)
第19回：失業とインフレーション I (データの観察)
第20回：失業とインフレーション II (マネタリストのケース)
第21回：失業とインフレーション III (新しい古典派のケース)
第22回：ここまでの講義まとめ
第23回：乗数理論の拡張 I (ノーマルケース)
第24回：乗数理論の拡張 II (2 国間貿易)
第25回：為替制度と国際金融のあらまし
第26回：マンデル＝フレミング・モデル I (3 つの曲線の導出)
第27回：マンデル＝フレミング・モデル II (固定相場制でのマクロ経済政策の効果)
第28回：マンデル＝フレミング・モデル III (変動相場制でのマクロ経済政策の効果)
第29回：マンデル＝フレミング・モデル IV (閉鎖経済との比較考察)
第30回：総まとめ

【事前および事後学習の指示】
・特段の事前学習の指示はない。
・桃山トップレベルの難易度を誇っているので、やりきるだけの覚悟を持って事後学習に励むこと。

【テキスト】
使用しない。適宜資料 (レジュメ) を配付する。

【参考文献】
中村勝之 (2021)『大学院へのマクロ経済学講義』(新装版) 現代数学社

【コメント】
①講義時間中に行われる小レポート (5 回実施 (1 回につき 10 点満点)。獲得合計を 100 点満点に換算)
②講義期間中頃に行われる中間大レポート
③期末大レポート
④単元末のレスポンスシート
※上記①～④の獲得点数をもとに、一定のルールにしたがって評点を計算し、60 点以上であれば合格。

【留意事項】
受講生数や能力等に応じて、講義進行を変更することがある。

講義名称	曜時
マス・コミュニケーション論　01 ＜春＞	水 3

【教員名称】
有國　明弘

【講義概要】
本講義では、私たちの行動や思考に大きな影響を及ぼし、現代の生活に欠かすことができないマス・コミュニケーションについて、欧米と日本における個別のメディア装置をとりあげながら以下の 3 つのポイントに留意しながら考察していきます。すなわち (1) 近代のマス・メディアが生起していく歴史的経緯をたどること、(2) マス・コミュニケーション理論の成立を具体的な事例と関連づけて理解すること、(3) 現代のメディアがどのように実践されているのかを知ることです。それぞれの時代における歴史的・社会的・文化的背景を盛り込みながら、メディアの様相について幅広く理解することが本講義の目的です。映像資料を活用しつつ、講義形式で行う。毎回コメントペーパーを配布 (あるいは Google フォームでのアンケート機能や M-Port の各機能等を活用) し、皆さんと対話的な学びの機会とする。課題の内容については、授業ごとに指示する。

【学習目標】
本講義では次のような知識や能力を受講生のみなさんが身につけることを目標とします。
・欧米および日本における近代のマス・メディアがいかなる歴史的な変遷をたどったのかを理解する。
・戦後から現代における日本の様々なメディア状況について把握する。
・マス・メディアをとりまく技術や文化を幅広く知り、デジタル化やグローバル化に即したマス・コミュニケーションの様相を考察する。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：文字の誕生
第 3 回：写本と紙
第 4 回：印刷術とグーテンベルク以前・以後
第 5 回：印刷術と新聞ジャーナリズム
第 6 回：テクノロジーとしての写真
第 7 回：写真術と肖像画とコミュニケーション
第 8 回：「見えないモノを撮る」
第 9 回：マスとコミュニケーションのあいだ
第10回：見世物興行から映画へ
第11回：マス・メディアの時代：メディア・イベント
第12回：マス・メディアの時代：プロパガンダ
第13回：ネット・インキュナブラ
第14回：パーソナル化するメディア
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
参考文献などを読み予習しておくこと。配布した資料を用いて復習すること。

【テキスト】

【参考文献】
ケイン樹里安・上原健太郎編 , 2019,『ふれる社会学』北樹出版
伊藤明己 , 2014,『メディアとコミュニケーションの文化史』世界思想社
長谷正人編 , 2016,『映像文化の社会学』有斐閣

【コメント】
毎回の授業課題を 30%、期末レポートを 70%として成績評価を行う。

【留意事項】

講義名称	曜時
マルチメディア論　01 ＜春＞	火 1

【教員名称】
松田　いりあ

【講義概要】
この授業は、インターネットにより大きな変革期を迎えているといわれているマスメディアについて概観し、マスメディアからインターネットへの転換が、マルチメディアのあり方に与えてきた変化と今後について考える。

【学習目標】
1. マルチメディアの歴史と現状の把握によって、多様な価値観が共存しうる社会とその条件を理解する力を身につける。
2. マルチメディアの基本的な仕組みを知ることで、他者の意見を理解し尊重したうえで、自分の見解を的確に提示し理解を求める方法を習得する一助とする。
3. メディアの相互作用を理解することによって、既存の考え方にとらわれず、新たな価値をつくり出す創造力／想像力を育む。

【講義計画】
第 1 回：はじめに：マルチメディアとは。講義の概要と評価方法の説明
第 2 回：マルチメディアの現在：近代社会の編制からインターネットまで
第 3 回：マルチメディアの展開と現状 (1)：新聞
第 4 回：マルチメディアの展開と現状 (2)：出版
第 5 回：マルチメディアの展開と現状 (3)：放送
第 6 回：マルチメディアの展開と現状 (4)：音楽
第 7 回：マルチメディアの展開と現状 (5)：映画
第 8 回：マルチメディアの展開と現状 (6)：アニメ
第 9 回：マルチメディアの展開と現状 (7)：インターネット
第10回：マルチメディアの展開と現状 (8)：広告
第11回：マルチメディアの展開と現状 (9)：電子商取引
第12回：マスメディアとしてのマルチメディア
第13回：ネットワークメディアとしてのマルチメディア
第14回：今後のマルチメディア
第15回：まとめ：授業の総括

【事前および事後学習の指示】
事前学習としてシラバスで各授業回の内容を確認し、気になる点があれば調べておくこと。
事後学習としてミニ課題を課すので、授業内容を復習して提出すること。

【テキスト】

【参考文献】
情報メディア白書 (電通メディアイノベーションラボ編、ダイヤモンド社)

【コメント】
その他についてはミニ課題を課す。

【留意事項】

講義名称	曜時
マルチメディア論　02 ＜春＞	火 2

【教員名称】
松田　いりあ

【講義概要】
この授業は、インターネットにより大きな変革期を迎えているといわれているマスメディアについて概観し、マスメディアからインターネットへの転換が、マルチメディアのあり方に与えてきた変化と今後について考える。

【学習目標】
1. マルチメディアの歴史と現状の把握によって、多様な価値観が共存しうる社会とその条件を理解する力を身につける。
2. マルチメディアの基本的な仕組みを知ることで、他者の意見を理解し尊重したうえで、自分の見解を的確に提示し理解を求める方法を習得する一助とする。
3. メディアの相互作用を理解することによって、既存の考え方にとらわれず、新たな価値をつくり出す創造力／想像力を育む。

【講義計画】
第 1 回：はじめに：マルチメディアとは。講義の概要と評価方法の説明
第 2 回：マルチメディアの現在：近代社会の編制からインターネットまで
第 3 回：マルチメディアの展開と現状 (1)：新聞
第 4 回：マルチメディアの展開と現状 (2)：出版
第 5 回：マルチメディアの展開と現状 (3)：放送
第 6 回：マルチメディアの展開と現状 (4)：音楽
第 7 回：マルチメディアの展開と現状 (5)：映画
第 8 回：マルチメディアの展開と現状 (6)：アニメ
第 9 回：マルチメディアの展開と現状 (7)：インターネット
第10回：マルチメディアの展開と現状 (8)：広告
第11回：マルチメディアの展開と現状 (9)：電子商取引
第12回：マスメディアとしてのマルチメディア
第13回：ネットワークメディアとしてのマルチメディア
第14回：今後のマルチメディア
第15回：まとめ：授業の総括

【事前および事後学習の指示】
事前学習としてシラバスで各授業回の内容を確認し、気になる点があれば調べておくこと。
事後学習としてミニ課題を課すので、授業内容を復習して提出すること。

【テキスト】

【参考文献】
情報メディア白書 (電通メディアイノベーションラボ編、ダイヤモンド社)

【コメント】
その他についてはミニ課題を課す。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
ミクロ経済学　02 ＜春集＞	**火 3/ 金 4**

【教員名称】
西﨑　勝彦

【講義概要】
市場経済では財・サービスが市場で取引され、市場を通じて財・サービスが生産・消費される。こうした市場を通じた財・サービスの配分の過程を分析するための学問がミクロ経済学である。ミクロ経済学は公共経済論や財政論、労働経済論、国際経済論、産業組織論といった経済学の応用分野の基礎となっている。この授業ではミクロ経済学の基礎について説明し、市場経済の仕組みについて考える。
この授業では、ミクロ経済学を構成する「均衡理論」と「ゲーム理論」による基本的な分析を説明する。説明はスライドを使った講義形式で行う (スライドは授業資料として履修者に配布する)。履修者にはいくつかの授業で課題 (計算問題を含む) に取り組んでもらい、その解答を提出してもらう (授業の最初に前回の課題を解説する)。

【学習目標】
(1) ミクロ経済学で使われている分析方法を習得する。
(2) 部分均衡理論・一般均衡理論がどのような環境で何を分析しようとしているのかを理解する。
(3) ゲーム理論がどのような環境で何を分析しようとしているのかを理解する。

【講義計画】
第 1 回：授業内容の説明およびミクロ経済学の概説
第 2 回：需要と供給
第 3 回：需要曲線の構造
第 4 回：消費者行動と需要曲線
第 5 回：供給曲線の構造
第 6 回：短期費用曲線と長期費用曲線
第 7 回：生産者行動と供給曲線
第 8 回：市場の均衡と効率性
第 9 回：効用と無差別曲線
第10回：予算制約と消費者行動
第11回：所得の変化と需要
第12回：価格の変化と需要
第13回：生産関数と企業
第14回：費用最小化行動と総費用曲線
第15回：利潤最大化行動
第16回：交換の利益
第17回：生産活動における資源配分
第18回：授業内容の総括 1：均衡理論
第19回：ミクロ経済学の展開
第20回：標準型ゲーム
第21回：最適反応とナッシュ均衡
第22回：囚人のジレンマ
第23回：クールノー競争
第24回：展開型ゲーム
第25回：後ろ向き帰納法
第26回：部分ゲーム完全均衡とナッシュ均衡
第27回：空脅しとコミットメント
第28回：シュタッケルベルク競争
第29回：ゲーム理論の展開
第30回：授業内容の総括 2：ゲーム理論

【事前および事後学習の指示】
テキストに掲載されている演習問題に取り組むなどして、問題意識を持つことでミクロ経済学への理解を一層深めてもらいたい。

【テキスト】
ミクロ経済学 第 3 版 伊藤元重
978-4535558441 日本評論社
本書に基づいてスライドを作成し、それを授業資料として履修者に配布する。本書で不足している部分については、参考文献をもとに適宜補足する。
ミクロ経済学－戦略的アプローチ－ 梶井厚志、松井彰彦
978-4535552029 日本評論社
上記のテキストではゲーム理論の説明が不十分であるため本書で補足する。

【参考文献】
天谷研一 (2011)『図解で学ぶゲーム理論入門』日本能率協会マネジメントセンター
伊藤元重、下井直毅 (2023)『ミクロ経済学パーフェクトガイド』日本評論社
奥野正寛 (2008)『ミクロ経済学』東京大学出版会
神取道宏 (2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社
武隈慎一 (2016)『新版 ミクロ経済学』新世社
船木由喜彦 (2014)『はじめて学ぶゲーム理論』新世社
松井彰彦 (2010)『高校生からのゲーム理論』筑摩書房
武藤滋夫 (2001)『ゲーム理論入門』日本経済新聞出版社

【コメント】
第 3-17 回と第 20-28 回の授業内で毎回課題 (短答式、計算問題を含む) を出す (上記「その他」に該当)。対面授業を基本とし、授業の残り 20 分ほどで課題に取り組んでもらい、その解答を任意の用紙に記入して写真に収め、その写真データを授業日の翌日までに M-Port 経由で提出してもらう (Word ファイルなどその他の電子媒体でも構わない)。
第 17 回および第 28 回の授業が終わった段階で、いくつかの授業に関するレポート課題を履修者に無作為に割り当て (履修者によってレポート課題が異なる場合がある)、そのレポート (論述式) を M-Port 経由で提出してもらう (上記「レポート」に該当、それぞれ 40% ずつで評価)。なお、第 17 回後については第 3 回から第 17 回までの中から、第 28 回後については第 20 回から第 28 回までの中からレポート課題を割り当てる。
授業内の課題およびレポート課題の詳細については第 1 回の授業で説明するので、履修者は必ず確認すること (授業に出席できなかった場合は担当教員に問い合わせること)。

【留意事項】
(1) 対面授業を予定しているが、遠隔授業 (Zoom を使用予定) になった場合に備えて履修環境を整えておくこと。
(2) スライドは授業の要点をまとめたものであり、内容を十分に理解するためには配布した授業資料を参考にテキストを熟読することを勧める。
(3) 授業内の課題はレポート作成の勉強を兼ねているため、それを意識して取り組んでもらいたい。
(4) 授業内の課題およびレポート課題に関して困ったことがあれば、早めに担当教員に相談すること。

講義名称	曜時
民俗学 A　＜春＞	木 1

【教員名称】
大野　啓

【講義概要】
本講義は民俗学とはどのような学問であるのかについて、その成り立ちや学問としての特徴について講義する。その際、民俗学がどのような「知」を構築してきたのか、そして、それがどのような問題を内包し、どのような可能性を持ちうるのかなどについて検討していく。

【学習目標】
1. 講義中に解説した用語を理解すること
2. 講義の内容を理解して説明することができること
3. 民俗学がどのような学問的特性を有しているのかを学史を通じて考えることができる

【講義計画】
第 1 回：ガイダンス
第 2 回：近代国家の形成と「文化」
第 3 回：ナショナリズムと国民 1 民族・文化・言語と国家
第 4 回：ナショナリズムと国民 2「国民」の同質性と周縁の存在
第 5 回：国家が規定する「民俗」
第 6 回：前近代における「日本」へのまなざし
第 7 回：民俗学前史 -「伝統」を対象化すること
第 8 回：民俗学の形成
第 9 回：民俗学の成立
第10回：柳田以降の民俗学 1「常民」の歴史へのまなざし
第11回：柳田以降の民俗学 2「常民」の文化へのまなざし
第12回：「常民」概念の可能性について
第13回：「伝統」を対象化する意味について
第14回：民俗学の限界と可能性
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
講義中に指示した参考文献などに目を通すこと。
また、講義内容で理解できない用語などがある場合には、『日本民俗大辞典』(吉川弘文館) などで調べること。

【テキスト】

【参考文献】
ベネディクト・アンダーソン著、白石隆／白石さや訳『増補　想像の共同体ーナショナリズムの起源と流行』NTT 出版

【コメント】
レポートを 2 回課します。講義時間中に課すリアクションペーパーも評価の対象に入れます。なお、遠隔授業の場合には M-Port の掲示板にリアクションペーパーに記すべき内容と提出先を指示します。

【留意事項】

講義名称	曜時
メディア文化特論 - ドキュメンタリーを作る・観る・読む＜春集＞	月 2/ 月 3

【教員名称】
鈴木　隆史

【講義概要】
本講義ではテレビ・映画のドキュメンタリー作品を鑑賞しながら、それぞれの作品はどのようにして生まれ、何を観るものに伝えようとしているのかについて共に考え、ドキュメンタリーの多様性とその魅力について学びます。一般的にドキュメンタリーは、「制作者の意図や主観を含まぬ“事実の描写”」と考えられていますが、必ずしもそうではありません。カメラで同じ出来事を捉えていても、そこには同じ映像が写っているわけではありません。映像の編集過程では制作者 (ディレクターや映画監督) の意図が必ず反映されます。いわゆる客観的な映像というのはないと言えるでしょう。社会問題や政治問題などを扱ったドキュメンタリーが問題の本質を観るものに気づかせてくれることも多いのは、制作者の問題意識が反映されているからでもあるのです。私たちはこうして作品から知らなかったことを知るだけでなく、改めて考えさせられたり、共感したり、怒ったり、感動するのだと言えます。ドキュメンタリーの海に共に漕ぎ出してみましょう。

【学習目標】
ドキュメンタリー映画の多様性について理解する。様々なドキュメンタリーが存在することを知る。ドキュメンタリーは社会や自然を描くだけでなく、人間を描くものである。ドキュメンタリーは制作者の意図が反映される。ドキュメンタリーから世界が直面する課題や歴史、知らなかった事実を知ることができる。ということを理解し、ドキュメンタリーの魅力に気づく。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション。森達也「ドキュメンタリーは嘘をつく」
森達也著『ドキュメンタリーは嘘をつく』
佐藤真「ドキュメンタリーはフィクションである」
事実をもとに制作者が伝えたいことを描いたものであることをまず理解しよう。
第 2 回：世界初のドキュメンタリー映画を観る
フラハティ監督『極北の怪人』　探検家が撮った記録映画、住民参加によって作られた、社会派たちから批判を受けたのはなぜか？
第 3 回：テレビドキュメンタリーを観る　1)
大島渚監督『忘れられた皇軍』映画に描かれた事実は何かを知るために当時の社会について学ぶ
なぜ大島は怒りをぶつけたのかについて考える
第 4 回：テレビドキュメンタリーを観る　2)
TBS　報道特集から現代の社会・政治問題について学ぶ　今世界で何が起きているのか？　私たちの日常生活に目を向ける
第 5 回：ドキュメンタリー映画を観る　1)
原一男監督『ゆきゆきて神軍』
カメラの暴力性について考える
第 6 回：ドキュメンタリー映画を観る　2)
原一男監督『ゆきゆきて神軍』続きを観る
映画評、シナプスを読んで内容について議論する
第 7 回：ドキュメンタリー映画を観る　2)
土本典昭監督『ある機関助士』
国鉄の宣伝映画だが、監督はどのようにしてこの作品を作り上げたのか？撮られる人たちとの関係をどのようにして築くのか？
第 8 回：ドキュメンタリー映画を観る　3)
亀井文夫監督『戦ふ兵隊』、日中戦争下、戦意高揚を目的に陸軍省支援によって制作された映画。しかし上映が認められなかった。それはなぜか？
亀井文夫が映画に込めた思いとは何か？映像の中から探し出す。
第 9 回：ドキュメンタリー映画を観る　4)
土本典昭監督と水俣病　徹底して一つのテーマを掘り下げる
『水俣ー患者さんとその世界』
第10回：ドキュメンタリー映画を観る　5)
土本典昭監督と水俣病　続き
患者さんにカメラを向けるということの覚悟と責任とは
第11回：テレビドキュメンタリーを観る　3)
現代社会が抱える問題について捉えた作品を観る
沖縄基地、原発、自殺、差別、セクハラ、いじめ、コロナ、外国人労働者など
第12回：テレビドキュメンタリーを観る　4)
テーマを選んで観る　続き
第13回：ドキュメンタリー映画を観る　6)
佐藤真監督『阿賀に生きる』スタッフとともに撮影現場に住んで映画を撮る
撮る側と撮られる側の共犯関係について考える
第14回：ドキュメンタリー映画を撮る　7)
佐藤真監督『阿賀に生きる』続き
佐藤真のドキュメンタリー論を読む　映画についていろんな見方がある　何を読み取るかは観る人によって異なる
第15回：ドキュメンタリー映画を観る　8)
ヤン・ヨンヒ監督『ディア・ピョンヤン』(ドキュメンタリー)
自身の家族、特に父カメラを向ける
第16回：ドキュメンタリー映画を観る　9)
ヤン・ヨンヒ監督『かぞくのくに』(劇映画)
同じテーマを描いた 2 つの映画、劇映画に描かれた家族の姿
ドキュメンタリーと劇映画との違いはあるのだろうか？
第17回：ドキュメンタリー映画をつくる　1)
インドネシアにおける日本軍性暴力 (性奴隷制) を描く
取材、インタビュー、編集のプロセスを具体的に話す
第18回：ドキュメンタリー映画を作る　2)
インドネシアにおける日本軍性暴力を描く
続き　何を伝えようとするのか、何を感じ取ることができるか
第19回：ドキュメンタリー映画を観る　10)
ルイ・シホヨス監督『ザ・コーヴ』が描く捕鯨問題
同じテーマでも制作者の視点が異なると違う作品が生まれることを知る

第20回：ドキュメンタリー映画を観る　11)
八木景子監督『ビハインド・ザ・コーヴ』は反コーヴ？
第21回：ドキュメンタリー映画を観る　12)
佐々木芽生監督『おクジラさま』
一人のアメリカ人ジャーナリストの目線で太地のクジラ漁を捉える
第22回：ドキュメンタリーテレビを観る　6)
NHK『鯨と生きる』
第23回：ドキュメンタリーを読む　1)
太地町の捕鯨を巡る問題を映画が描き出す
異なる視点、異なる印象、あなたはどう考える？
第24回：ドキュメンタリーテレビを観る　5)
NHK 『灼熱の海にクジラを追う？インドネシア・ロンバタ島』
鯨と人との命がけの闘い
第25回：ドキュメンタリー映画を観る　13)
観察映画とは？ナレーション、音楽を省くと何が見える？
想田和弘監督『精神』『選挙』
第26回：続き　観察映画とは？
第27回：ドキュメンタリー映画を観る　7)
フレデリック・ワイズマン監督『ニューヨーク・ジャクソンハイツへようこそ』
第28回：ドキュメンタリー映画を読む　2)
観察映画の魅力　観る力・読み解く力を養う
第29回：ドキュメンタリー映画の魅力　1)
ナチスドイツのプロパガンダ映画
レニ・リーフェンシュタール監督『意志の勝利』
第30回：ドキュメンタリー映画の魅力　2)
ビアース・ラファティ監督他『アトミック・カフェ』
原子爆弾や実験の記録映画、プロパガンダ映画を編集によってつなぎ合わせた作品　さてその内容は？

【事前および事後学習の指示】
本講義では事前学習の通知がない場合は、その必要がない。ただし、作品を見損ねた場合は自身でネットなどで作品を鑑賞してほしい。採集レポート作成には必要になることもある。

【テキスト】

【参考文献】
森達也著『ドキュメンタリーは嘘をつく』草思社、2005 年、ISBN4794213891
想田和弘著『なぜ僕はドキュメンタリーを撮るのか』講談社新書、2011 年、ISBN 978-4-06-288113-5
佐藤真著『ドキュメンタリー映画の地平』凱風社、2009 年、ISBN978-7736-3313-9
土本典昭著『不敗のドキュメンタリー　水俣を撮り続けて』岩波現代文庫 2019 年

【コメント】
本授業では採点はレポート提出で行う。授業毎に提出する短いレポートが 30%。出欠にかえる。また授業最終日を目処に提出してもらうレポートが 70%とする。
授業は二コマを連続して行う。映画を上映することが多いので授業開始 20 分以降の入室は認めない。変則的に休憩時間を設けるが、一つの作品をすべて鑑賞しないでレポートを書くことは認めない。
授業時間に間に合わない (列車の遅延などを除く) 場合は、二時間目から出席することも認めないので一時間目から出席すること。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
メディア文化特論 - マルチメディア文化の理解　＜春＞	**水 2**

【教員名称】
有國　明弘

【講義概要】
20 世紀末のデジタル技術の普及により、映像、画像、言葉、音楽など複数のメディア様式を融合するマルチメディアの発展は、私たちの生活や社会に大きな影響をもたらしてきた。それと同時に、私たちは日々の営みの中で、実践的にマルチメディア文化を生み出してもきた。本講義では歴史的な眼差しでメディアと人間・社会の相互作用を論じてきた「メディア論」の視座から、マルチメディア文化をめぐるさまざまな現象について考察していく。YouTube や SNS など個々のメディアの理解に留まらず、歴史的想像力を持って俯瞰的な目で、ダイナミックに変容していくマルチメディア文化について考えを深めていく。各講義の後には理解を掘り下げるための作業課題に取り組む。

【学習目標】
(1) マルチメディアとは何か、またそれをメディア論的視座から学ぶ意義について自分の言葉でまとめられる。
(2) マルチメディアの発展の歴史と社会へのインパクトを理解し、説明できる。
(3) 文化コンテンツを批判的に検討し、自分の考えを述べられる。
(4) マルチメディア文化についての自分なりの意見を持って、伝えられる。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：マルチメディア発展史 (1) 現代メディア史と戦前・戦後の社会変容
第 3 回：マルチメディア発展史 (2) メディアと現代社会
第 4 回：マルチメディア発展史 (3) インターネットとメディア
第 5 回：マルチメディア発展史のまとめと小レポート (1)
第 6 回：メディア社会の変容 (1) ネットと世論
第 7 回：メディア社会の変容 (2) なぜフェイクニュースが生まれるのか？
第 8 回：メディア社会の変容 (3) スマホと写真
第 9 回：メディア社会の変容 (4) メディアと身体
第10回：メディア社会の変容のまとめと小レポート (2)
第11回：文化コンテンツの現在 (1) 炎上するジェンダー広告
第12回：文化コンテンツの現在 (2) 犯罪報道とプライバシー
第13回：文化コンテンツの現在 (3)K-POP の人気と越境
第14回：文化コンテンツの現在 (4) グーグルマップと地域の記憶
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
事前学習として、各授業のテキストの該当箇所を読み、疑問点などまとめておくこと。事後学習として、作業課題に取り組み、授業の内容を自分の身の回りのマルチメディア環境と結び付け、学んだことを発展的に考えること。

【テキスト】
基礎ゼミ　メディアスタディーズ 石田佐恵子・岡井崇之編
978-4790717416 世界思想社　2020 年

【参考文献】
実践マルチメディア編集委員会 (2018)『実践マルチメディア論　改訂新版』画像情報教育振興協会
水越伸 (2014)『改訂版　21 世紀メディア論』放送大学教育振興会
浜田陽子・福間良明編 (2021)『はじめてのメディア研究「基礎知識」から「テーマの見つけ方」まで 第 2 版』世界思想社

【コメント】
小レポート 24%(小レポート 2 回・各 12%)、期末レポート 50%、毎回の授業課題 26% で評価する。

【留意事項】

講義名称	曜時
メディアリテラシー論 A　＜春＞	火 4

【教員名称】
土屋　祐子

【講義概要】
本授業ではメディアリテラシーの基礎を学ぶ。メディアリテラシーは、文字の読み書き能力を発展させた「多様なメディアを読む (理解する) 書く (表す・伝える)」ための個人の社会的なコミュニケーション力である。スマートフォンが普及し、ソーシャルメディアなど多元的なコミュニケーションが常態化している中、メディア情報を批判的・能動的に受け取り、メディアで表現、発信することがより重要になっている。さらに、メディア環境自体を批判的に眼差し、新しいメディア・コミュニケーションのあり方を考える力も必要となっている。授業ではこうしたメディアリテラシーの基本的な考え方、知識、手法について講義する。また、映像分析やコンテンツ作成などワークショップ (体験学習) を取り入れて受講者の理解を深める。

【学習目標】
(1) メディアリテラシーとは何かについて自分の言葉でまとめられる。
(2) メディアリテラシーの歴史的展開について理解し、説明できる
(3) 基本概念の「メディウムフレーム」について自分の経験と重ねて説明できる。
(4) メディアリテラシーにどう取り組めばよいのか、自分なりの意見を持てる。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション：メディアリテラシーと動画クリエイター
第 2 回：私たちのメディア環境 (1) 世論調査にみる必要なメディア・信頼できるメディア
第 3 回：私たちのメディア環境 (2) 今日的課題
第 4 回：歴史にみるメディアリテラシーのアプローチ (1) 保護・分析
第 5 回：歴史にみるメディアリテラシーのアプローチ (2) 創造
第 6 回：歴史にみるメディアリテラシーのアプローチ (3) 日本で育まれた協働と気づきのワークショップ
第 7 回：中間確認テスト
第 8 回：メディアリテラシーを身に着ける (1) 生活行動から考える
第 9 回：メディアリテラシーを身に着ける (2) メディア論と「メディウムフレーム」
第10回：メディアリテラシーを身に着ける (3)「メディウムフレーム」とメディアリテラシーの地平
第11回：ワークショップ (1) メディアコンテンツの作成
第12回：オルタナティブな表現とメディア・コミュニケーション (1) 身体の拡張とデジタルの可能性
第13回：ワークショップ (2) メディアコンテンツのふり返り
第14回：オルタナティブな表現とメディア・コミュニケーション (2) 多様なストーリーテリング
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
事前学習として、各授業のテキストの該当箇所を読み疑問点などまとめておくこと。事後学習として、作業課題に取り組み授業の内容を自分のメディアとの関わりに結び付け、学んだことを発展的に考えること。

【テキスト】
「メディウムフレーム」からの表現―創造的なメディアリテラシーのために 土屋祐子
978-4-902619-18-8 広島経済大学出版会　2019 年

【参考文献】
水越伸 (2014)『改訂版　21 世紀メディア論』放送大学教育振興会
水越伸・東京大学情報学環メルプロジェクト編 (2009)『メディアリテラシー・ワークショップ』東京大学出版会
長谷川一・村田麻里子編 (2015)『メディアリテラシー・トレーニング』三省堂
坂本旬・山脇岳志 (2022)『メディアリテラシー　吟味思考を育む』時事通信社

【コメント】
試験 10%(中間確認テスト 1 回)、期末レポート 45%、作業課題 45% で評価する。

【留意事項】
オンラインニュースの取材や編集、制作経験を持つ教員が、社会的なメディアリテラシーの意義について考察する。

講義名称	曜時
流通論［2］　＜春＞	月 2

【教員名称】
福田　晴仁

【講義概要】
流通とは、生産と消費を結びつけるものであり、商的流通 (商取引) と物的流通 (物流) から構成されます。本講義は 2 部構成となっており、第 1 部は経済活動における流通の重要性と、卸売業、小売業の役割を解りやすく解説します。第 2 部は物流に焦点を当て、その基礎的な内容について講義します。具体的には物流の定義および分類、物流活動の諸要素 (輸送、保管、荷役、包装、物流情報管理および流通加工) について説明します。とりわけ物流活動の中心的な要素である輸送部門については、主要な輸送機関であるトラック、海運、鉄道を取り上げて説明します。

【学習目標】
・流通の基礎的な内容を理解する。
・卸売業、小売業の役割について説明できる。
・物流活動が複数の要素から成り立っていることを理解する。
・わが国の物流業における諸課題を具体的に説明できる。

【講義計画】
第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：流通の定義
第 3 回：流通政策
第 4 回：卸売業
第 5 回：小売業
第 6 回：これまでの復習と中間試験
第 7 回：物流の定義と分類
第 8 回：物流活動の諸要素① (輸送・保管・荷役)
第 9 回：物流活動の諸要素② (包装・物流情報管理・流通加工)
第10回：わが国の物流市場の動向①
第11回：わが国の物流市場の動向②
第12回：トラック
第13回：海運・航空
第14回：鉄道
第15回：授業のまとめと期末試験

【事前および事後学習の指示】
流通・物流分野に関心を持って、インターネット、新聞、雑誌等の記事や当該分野の著書を事前に読むようにしてください。講義中に挙げた要点については、必ず復習し理解を深めてください。

【テキスト】

【参考文献】
鷲尾紀吉 (2004)『新版　現代流通の潮流』同友館。
ジェイアール貨物・リサーチセンター [2007]『変貌する産業とロジスティクス』成山堂書店。
上羽博人 他 編著 [2008]『交通と物流システム』成山堂書店。
齊藤実・矢野裕児・林克彦 [2015]『物流論』中央経済社。

【コメント】
試験は中間試験 50 点、期末試験 50 点とします。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
倫理学　＜通期＞	**金 4**

【教員名称】
木下　昌巳

【講義概要】
われわれは日々生きていくなかで、誰もがさまざまな事柄に関して「これは善いことだ」、「それは悪いことだ」というような価値的な判断を積み重ねながら生きている。しかし、その「善い」や「悪い」という判断はそもそもどういうことを意味しているのだろうか。
倫理学は、「善と悪」とはそもそもどういうことなのか、善悪の判断にはどのような根拠があるのか、さらにそれと深くかかわる「幸福」や「正義」とはどういうことなのかという問題を哲学的に考察して、その本性をあきらかにしようとする学問である。この授業では、日常生活のなかで直面するさまざまな具体的問題を例として取り上げながら、①過去の思想家たちは「善と悪」についてどのような捉え方をしてきたのか、②現代に生きる私たちは「善と悪」についてどのように考えればよいのか、ということを倫理学を初めて学ぶ人に対してわかりやすく解説する。

【学習目標】
近年の社会においては、安楽死の是非、男女差別、人間と AI との関わりというような事柄が問題とされ、これらの問題についてさまざまな意見が述べられている。しかし、これらの問題は、最終的には「われわれは何を善として何を悪とするか」という倫理的判断を前提として初めて答えられる問題である。この講義では、以上のようなトピックを取り上げながら、これらの問題を分析して、その根本にある倫理的問題をあきらかにする。さらに、日常生活から新しいテクノロジーの分野にいたるまで、われわれがこれから直面するであろうさまざまな倫理的問題について、他者の言うことを鵜呑みにするのではなく、問題となっていることがを自らの力で整理・分析して、各人が主体的で自立的な判断をする態度と見識を養う。

【講義計画】
第 1 回：倫理学の基礎 1
「倫理学」とは何か
第 2 回：倫理学の基礎 2
①記述と規範
②「倫理学に正解はない」のか
第 3 回：倫理学の基礎 3
①倫理学の下位分類
②直観に基づく倫理と理由に基づく倫理
第 4 回：死刑は存続させるべきか、廃止すべきか 1
死刑制度の存廃論①－賛成論
第 5 回：死刑は存続させるべきか、廃止すべきか 2
死刑制度の存廃論②－反対論
第 6 回：嘘をつくこと・約束を守ることの倫理 1
・義務論の考え方
第 7 回：嘘をつくこと・約束を守ることの倫理 2
・功利主義の考え方
第 8 回：自殺と安楽死 1
・自殺することは常に悪いことか
第 9 回：自殺と安楽死 2
・自殺に関するヒュームとカントの議論
第10回：自殺と安楽死 3
・安楽死は倫理的に許されるか
第11回：自殺と安楽死 4
・治療中止をどう考えるか
第12回：他者危害原則と喫煙の自由 1
・他者危害原則とパターナリズム
第13回：他者危害原則と喫煙の自由 2
・喫煙は個人の自由であるため公共空間では規制しないという主張
第14回：他者危害原則と喫煙の自由 3
①公共空間では規制し、私的空間でしか喫煙はできないという主張
②私的空間でも公共空間でも喫煙は認められるべきという主張
第15回：春学期のまとめと総括
第16回：ベジタリアニズム 1
①秋学期の講義計画　　②動物の愛護と肉食
第17回：ベジタリアニズム 2
①肉食を正当化する論理　　②いくつかの反論と応答
第18回：善いことをする義務 1
・「善行」の倫理学的な位置づけ
第19回：善いことをする義務 2
・「義務」とは何か
第20回：善いことをする義務 3
・カントによる善行の正当化
第21回：善いことをする義務 4
・シンガーの援助義務論
第22回：善いことをする動機 1
・利他主義についての懐疑
第23回：善いことをする動機 2
・動機は無関係という立場
第24回：善いことをする動機 3
・人々は「やりたいことをやっている」のか
第25回：善いことをする動機 4
・利他主義について懐疑的に答える
第26回：災害時の倫理 1
①「津波てんでんこ」とは何か
②二つの批判
第27回：災害時の倫理 2
①「津波てんでんこ」は利己的な教えか
②「津波てんでんこ」と心理的困難さ
第28回：法と道徳 1
①現代日本の法と道徳に関する理解
第29回：法と道徳 2
①法と道徳の教科書的区別とその問題点
②法と道徳に関するベンタムの見解
第30回：秋学期のまとめと総括

【事前および事後学習の指示】
授業前に、テキストの該当箇所を一読しておくこと。テキストを独力で読みこなすことは初めて倫理学を学ぶ学生には困難かもしれない。しかし、講義を受けた後で読み返してみると「なるほど、そういうことが書いてあるのか」と腑に落ちるはずである。授業後、テキストを繰り返し熟読すること。
授業で使用したスライドファイルは授業後に M-Port にアップロードする。各自ダウンロードして復習に利用してほしい。

【テキスト】
実践・倫理学 児玉聡
978-4326154630 勁草書房

【参考文献】
倫理的な問題に対する判断は社会と時代の変化に伴って変化するものであり、とくに時事的な問題については必ず賛否両論が並立する。授業で取り上げた具体的な事例、またその他の時事的な倫理的な諸問題については、インターネットで最新の情報や意見を収集することが不可欠である。検索やリンクをたどっていけば、さまざまな主張や論争がいたるところで展開されていること見て取れるだろう。大切なことは、あるところで書かれていることを鵜呑みにするのではなく、反対の意見にも耳を傾けて、双方の主張を整理し、自分はどのような立場を採るかということをつねに考える習慣を身に着けることである。倫理学を学ぶことの意義はここにある。

【コメント】
春学期分配点 50 点、秋学期分配点 50 点として通年で 100 点満点で成績評価をおこなう。
春学期・秋学期配点 50 点の成績評価は、両学期とも
・授業内に告知して提出してもらう小レポート 5 回 (5 点× 5　計 25 点)
・学期末レポート (25 点) によっておこなう。

【留意事項】

講　義　名　称	曜　時
労働法Ａ　＜春＞	**木１**

【教員名称】
楠本　敏之

【講義概要】
近年、テレビ・新聞などの報道で、しばしば「非正規雇用問題」「長時間労働」など多くの労働問題が議論され、その解決の必要性が叫ばれています。実際、日本の労働現場では、非正規雇、長時間労働をはじめとして、セクハラ、パワハラ、ワーク・ライフ・バランス、時間外労働規制、過労死・過労自殺など多くの解決すべき問題があります。本講義では、そのような問題に対処するための手段としての現在の労働法についてわかりやすく解説するとともに、現在においても未解決の様々な問題を解決するために何を改善するべきなのかを考えることができるようにします。

【学習目標】
労働法の全体像を体系的に示した上で、労働契約に関する諸規定や賃金に関する規制などについて解説します。労働法の基本知識をしっかりと習得していくことから始め、最終的には、何らかの労働問題に直面した時に、正しく判断し適切に処理することのできる法的能力を身に着けることができるようにすることが目標です。

【講義計画】
第１回：ガイダンス～講義の進め方・方針など
第２回：労働法の意義―労働法の発生とその歴史など
第３回：労働法における登場人物―労働者・使用者・労働組合など
第４回：労働法の法源―労働法のルールの所在～労働契約・労働契約・労働法規など
第５回：採用・採用内定・試用など
第６回：人事異動―配転・出向・転籍など
第７回：懲戒など
第８回：労働契約の終了①～解雇・整理解雇
第９回：労働契約の終了②～解雇・整理解雇以外の終了事由
第10回：労働条件の変更など
第11回：非正規労働者の労働契約
第12回：雇用平等・人権擁護①（男女平等など）
第13回：雇用平等・人権擁護②（その他の平等・人権問題）
第14回：賃金規制など
第15回：まとめと今後の労働法の課題について

【事前および事後学習の指示】
労働法は、法律だけでなく、実際に生じた問題を取り扱った判例がとりわけ重要な法分野です。事前に指示されたテキストの該当部分や配布された判例などの資料については、読んだ上で講義に臨み、事後には、知識・理解の定着のために、講義の際に配布されたレジュメを再確認し、丁寧に復習するようにしてください。

【テキスト】
プレップ労働法（第７版）森戸英幸
9784335313332 弘文堂

【参考文献】
村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選（第 10 版）』（有斐閣）

【コメント】
備考　学年末の２回のレポート（各 50％）のみで評価します。ただ、毎回の授業に関し定められた形式で M-Port を通じて課題を提出することを義務とし、その提出が 11 回以上の者のみが成績評価の対象となります。

【留意事項】
『実務経験のある教員による授業（元弁護士が、専門分野における実務経験で涵養された知見をも活用して講義する）』